



ピアノは私だ  
3-A

裕イサオ

## ピアノは私だ3

---

2014.11.10 Mon

本日は、まだ、11月5日2014年なのだけれど、11月9日までの記事は・・・、あっ、そうか、この記事がアップされる時は、すべて公開されているわけか？ 予約投稿をやっていると、記事内容に脈略がなくなってくる。それでなくてもないのに。

と、今年の5月21日から11月9日。これで、私のブログは、一旦、完結としたのである。今、電子書籍に移し変えをしている。今やらないと、あとは、まあ、時間がなくなるから放置状態になっちゃうので、まだ、マヒナ(暇)中に、やってしまうのだ。

うな、文豪じゃあるまいし、とりたてて感慨に浸るなんちゅうことはないけれど、なんか、整理しないと気が済まない性質。

と、電子書籍化と同時に、完結後のブログをどうしようか考えている。止めはしないけれど、開店しているのか休業しているのか、ちと、怪しい感じになるはず。で、ブログのタイトルをどうしようかしら？ FC2は、ひとつのIDではひとつのブログしか作成できないから、今あるIDのままにする。ふたつ作るのめどう。あと、テンプレートも、セミプロの写真家が新しいトリオの写真撮ってくれているし、第一、超格好いいというか、格好よく私をでっちあげてくれたポートレートもあるし、追々、こちらに入れ替えちゃおおおおおと。

で、タイトル候補なんだけれど、「101114」。これ2014年11月10日ちゅう意味だ。そう、私の第二だか三だか、何番目かは分からないけれど、まっ、人生後半戦の再スタート日ということになるから、まっ、多少、意味深。うで、「ピアノも私だ」。どうかしら、二束の草鞋男になるから、「も」にしちゃう。でも、なんか、ぱしっとしねえー。「ピアノは私だ3」「ピアノは私だ2-2」。まっ、これでもいいといえればいいんだけど・・・。「ピアノは私だった」「ピアノだった私」、過去形じゃなあー、「あのピアノは今？」、悲し過ぎ。

私の今までのイメージもあるしなあー、「余迷い日記」「昆布茶と盆栽」「初老日記」・・・。そこまで年じゃねーしなあー。

うだうだしてねえーで、「ピアノは私だ3」にすんべってっ！

おっ、おっ、おっ、この記事がアップされる時、裕センセはランドセル背負って学校に行っただよおーん。なんか、ちょっと、愛らしいねえー。

「11月9日の追記」

昨日の記事で、「ピアノは私だ2」は完結致しました。けれど、素早くも、11月15日までは、すでに、予約投稿。「ピアノは私だ3」なのです。っても、予約投稿した15日までは、アホ毎日更新は続くのですが、ブログリングタイムゼロ次元へ突入致しますので、まだ続くのに、変なんだけれど、長期、本当に長期に渡り、お付き合い頂いた方々へ、本当に、メルシー僕です。皆さん、お元気でね。まあ、ホームドラマも刑事コロンボも、永久には続かないから、私の愚ブログだって完結はする。でも、生きている時間は続く、取り敢えずは。なんだかねえー、社会復帰するっていったんのに、ジャズの仕事がどぼどぼ。シュビドゥビどぼどぼ。嬉しいけれど、シビレエイ。まあ、仕方がない。二束の草鞋は二足歩行の人間だから、できるはず、という訳の分からない論理で、ロンリーマン。相変わらず、意味不明の裕センス、でしたあー。パチパチパチー。

## フレンチウーマン

---

2014.11.11 Tue

いや、俺は、オリビアのことは良く知らない。単に、俺のトリオのベース奏者なのである。私生活は知らん。別に、音付き合いだから、諸々を知る必要は、あまりないのである。スコット・ラファロの奏法を次代に引き継ぐであろう、非常に繊細で、クリアーな音を出すベース奏者。

物静かだし、でしゃばらない人だ。

でも、よくよく考えると、彼女は百戦錬磨の三人のオジサンと対峙している。

うん、凄いよなあー、まだ、若いのになあー。

ベース弾きは、芯は物凄く強い人が多いのだ。習得が、すげえー難しいし、持ち運びできる最大の楽器だから、続けるのは至難だ。

ブラボーっ！ オリビアっ！

creen>

2014.11.12 Wed

あれ、11月9日の記事で、ブログは一旦完結してんじゃなかったの？ 毎日更新も黄色信号じゃなかったの？ この記事って「ピアノは私だ3」ということなの？ はっはっはっ、今日は、まだ、11月6日なのだよ、明智君。全速力で、最後のマヒナ(暇)を搾り出しておるのじゃ、お若いの。今までのように愚脳垂れ流しができなくなると思うと、横座りになり胸をはだけてしくしく泣いておるのじゃ。でもねえー、せっかくね、「3」にしたんだったら、もう少し詩心溢れる年輪を感じさせる年相応の文学臭溢れる芳醇高尚ブログに・・・、とは思うのだけれど、脳が振れていて駄目だ。これを山下洋輔先輩はヨジレマイオスと名付けた。

元々、裕センセは非常に理論的な人だったのだ。つまり、マルセル・デュシャン、ジョン・ケージ、サミュエル・ベケット、こういう系譜だったのであるが、ジャズ菌に侵された結果、バン・ゴッホ、ジャクソン・ポロック、アルバート・アイラーとヨジレマイオス化してしまったのである。すべてはジャズ菌から始まったのだ。

ところで、ずっと、なんとなく書きたかったことがある。はい、「定年」です。ところで、私が、もし、普通の寿命だと人生の三分の二を消化(っていうのかな?)して、残りが三分の一である。仮にあと二十五年とすると、私の定年は六十二歳だから、「定年」状態が十九年ぐらいになる。この十九年をどうするのじゃ？ という問題(というの?)が現れる。そうね、この二年強の時間は、まっ、擬似定年だったわけだ。で、自分で自分を観察すると・・・。

ピアノの練習。コンサート。ブログ。小説も書きちゃった。美術の新作を作ろうかなっても思ったし、未完の作品、というか設計図だけの作品を三次元化しようかなと思ったり、料理して、庭仕事でしょ、日曜大工でしょ、カミサンとちまちま結構旅行したでしょ・・・。いやあー、なんか、究極の貧乏暇な詩だね、これって。

## しつこく閲覧数の謎

---

2014.11.13 Thu

しつこく記事の書溜めをしている。で、重厚な記事を、そもそも、書こうという意欲さえないので書き始めた。

以前、なんだか書いたことがある、この「閲覧数」なのだけれど、三つ、確認の仕方がある。一つはブログ記事内右「アクセスカウンター」、二つ目、「FC2アクセス解析」、三つ目、「グーグルアナリティクス」。なんとなく、三つ目が一番正確なような気はしているのだけれど……。同じ日の数字を列記すると……。

7 4 6 6 2 8(カウンター) 10 11 17 8 3 19(アクセス解析)  
6 3 8 6 / / (グーグル)(/=集計まだ)

じえんじえん違う。といいつつ、どれが本当でも、別に構わない。でも、閲覧地域、アクセス解析だと、米営利組織が二位。ということは、どうも、私のブログを無感情にこよなく愛してくれるロボット君たちのご活躍の気配が濃厚。ということは、さらにさらに突き詰めると、本当にご愛読して下さっている方は、3--5ぐらいという推定値となる。もう、深謝深謝のまたまた深謝。本当にありがたい。

うーん、とはいえねえー、インターネットだよねえー、これ？ 電話かファックスで済んじゃうよな、うん。そうそう、FC2ブログ、一つだけBloggerにあった機能がない。「記事ごとの閲覧数」。時々、まだ、開設したままの、そっちを見ると、記事によっては閲覧数50なんていうやつがあるわけね。だから、私のブログは、じえんじえん読まれていないわけでもないわけでもないわけ。とはいえ、グーグル検索エンジンにヒットし難いタイトルばっか付けてるのだ、私は。偏屈というか意固地というか媚がないというか、まあ、フリージャズ屋なのだ、心底。

そのおー、出したい音しか、わしゃ、出さんっ！ ということなのか、見方を変えると、裕センセのケースはテクがないから、そういうことにしておかないと格好が付かんのか？ もう、お客様のご判断にお任せえー。

2014.11.14 Fri

「フリーズジャズ」について書こうかなって思ったのだけれど、こっちにした。私の白痴識によれば、「シニア」は六十代以降を差すはずだ。55歳は「中年」のはず。でも、会社で「シニア」っていうのは、五十代。私も、そう呼ばれた。会社辞める時も、総務部長に、「あっあっあっ、やべ、シニア世代二十人いねえーと、会社のチャージ増えるの、やべっ」と言われた。因みに、総務部長はフランス人の大変な紳士だから、このような言い方はしなかった。よ。私と  
同年なのだ。

まったく、文責は持てないけれど、フランスの一部の公務員の定年は、55歳なのだ。私の白痴識によれば、TGVの運転手とか、学校の先生、警官、軍隊の人とかガスとか水関係の公社とか、  
だったはず。53で定年している人もいたなあー、そういや。と、結局、私の年齢で定年している人も多いわけね。ぶっちゃけ、一般論だから文責は持てないけれど、「フランス人の最大の人生の目的は」、「定年」なのだ。分からなくもない、物凄い税金を四十年ぐらい払うから、返金してね、という論理なのだ  
と理解している。まあ、ぶっちゃけ、私も少し、そう思っていなくもなくももももももももものスモモだ。

ちと、待ちいーー、裕センセっ！ 「ピアノは私だ3」の腰帯文。「定年を視野に入れた」愛と笑いのフランス日記ってしないと、拙くねっ？ いちいちうるさいねえー、君っ。だれなの？

ところで、ジャズの先輩たちは、ビートルズ、ローリングストーンズと同世代だから、七十代なのだ。

なんかよおー、算数が分かんないわけ。会社だとシニアでしょ。

でも、社会的には中年でしょ。ジャズ的には若僧。いや、若造の方がいいわね。あらあー、まつこさん、お元気いーー？ あたしは、とってお現金いーー。馬鹿垂れっての、このブログの作者っ！

「日本の私と同年のお父さん」

住宅ローン 子供の学費 会社でぼろくそ 粗大ゴミだの窓際だの腋臭が酷いだのパソコンが駄目だの満員電車遠距離通勤なにもお話ししないカミサン万年課長万年部次長・・・。

ねえー、同年のオジサンっ、ちょんちょん、ねえー、フリーズジャズバンド作ってもいいよって、俺。いいよ、楽器駄目でも、年輪は半端じゃねえーこと、教えたろってっ！

2014.11.15 Sat

わっはははははあ——、とうとう来ました、函館。じゃなくて、このタイトル。

うん、隙を見て続ける所存でございまするので、時々は覗いてやって下さいませ。

なんかねえ——、ぐぐっと来る記事のひとつもとも思っただのですけれど・・・、もう、止め処なく流れる巨人の星的涙に目が霞むどころか、裕センセ自体が、どっかに流れて行ってしまいました。あっ、そうそう、昔、自作ギャグでね、水洗トイレの紐を引っ張ったらトイレごと、どっかに流れちゃうというやつを身振り手振りで行っていた。そお——んな感じい——。

アホのような毎日更新。まあ、アホといわれてしまうと、そりゃそお——だ、なのだけれど、その無内容というご批判はさておき、その更新力ちゅうのは、まっ、生きるというか生きている原動力でもあるから、まっ、なに、それはそれ。うで、それができなくなっちゃうといえども、私およびお付き合い頂いている方々の人生は止まりはしないから、皆さん、ご自愛下さいね。

うん、ブログは私の中で、かなり重要な位置を占めるようになった。でも、私の生きている中枢はピアノであるからして、全力を尽くして、まず、私はピアノでなければならんから、ブログ力の衰えは致し方なし。いやあー、このブログの総タイトルを、付けた本人が一番噛み締めちゃっている。フリージャズを、次代に繋げなければならんのじゃ、わたくしは・・・、ちと、オーバーだな、こりゃ。正直、自分のためだわな、やっば。いや、そんなこともないなあー、やっば、そんなに長い歴史があるわけではない、このフリージャズ。風前の灯ではあることはあるけれど、私、仲間一同、手弁当だのどしゃぶりの薄ギャラにもめげずコントラバスだドラムセットを背負って続けておる。アホ集団といわれても、まあ、そうだけれど、とにかく続けておる。楽器取っちゃうとき、ただのアホになってしまうから、意地でも楽器は手放さないのであ——る。

## ピアノは私だ3 予告編

---

2014.11.19 Wed

総タイトルの変更は難しい。すべてが凝縮しているからである。でも、どうして「3」なのか？

ブログの継続が、非常に難しくなった。この記事が、そういう意味で、初めての記事になる。

学校とコンサートの狭間で引き裂かれている。物理的な時間がない。

でも、「書く時間」と「物理的な時間」、秒針の速度が違う。それは、知っている。

一つだけ確かな答えは、「本当のフランスを知って頂きたい、もし、知りたい方がいらしたら」という思いが強い。

だから、「3」とさせて頂いた。

## クラスメート

---

2014.11.20 Thu

某ライセンス取得の学校に通い出したのが、11月10日。あえて、詳細は書かない。

私のクラスというか全校生徒は12名。今回は、彼らの年齢、国籍、元々の出身国を列記する。

44 フランス セネガル  
38 フランス セネガル  
23 フランス  
28 フランス  
55 日本  
30 フランス アルジェリア  
39 フランス カンボジア  
29 フランス アルジェリア  
23 フランス レバノン  
29 フランス ポルトガル  
46 フランス チェニジア  
28 フランス セネガル

諸々の人生、過去、未来、文化、宗教が、交差する。

## 人生という模様

---

2014.11.21 Fri

学校に通いだして二週間が過ぎた。ジャズメンなのか、学生なのか、境目がヨジレマイオス。でも、ブログリングフィールが戻ってきているから、少しは心の余裕がでてきたのだろう。長書きはできないので、手短にクラスメートたちが、なぜ、学校にいるのか、昨日書いた順番に行く。左に年齢だけいれることにする。

44 不明

38 コンサルタント 解雇

23 ホテルマンの専門学校卒 職がない

28 車の整備士 転職予定

55 ジャズで食べていけない

30 勤めていた会社倒産

39 IT企業を自身で立ち上げ 倒産

29 パートの仕事しかない

23 元消防士 友人と起業予定

29 大工 腰を痛めて解雇

46 バーマン 勤務中に転倒し腰を痛める 代替えポストがなく解雇

28 映像作家 食べていけない

午前七時十五分、パリ郊外の小さな町の坂道をゆっくり歩いていく日本人の男。五十五歳だ。彼の後姿に似合うのは、裕イサオのバラードピアノソロ以外にはない。彼の背中が悲しげに見えるのか、見えないのか、それは、あなた次第である。うん、私には、じえんじえん悲しげには見えない。めらめらとしたパワーを感じる。そんな感じなのである。

2014.11.22 Sat

とても美味しいと評判の惣菜屋の前に、小さな戸車が落ちていた。大きな戸車自体がないので、余計な描写である。

その戸車は、ここは非常に作者の気合の入った一言、「錆びていなかった」。ちょっとチンケな描写ではあるが、赤ちゃんのすべすべお肌のような銀色だった。ここ重要なので、マークするように。

私は、拾おうか、約二秒ほど熟考した。で、拾った。家の四畳半に持ち帰る。

フランス史の勉強を始める。えー、アル中の乱暴者、ポーっとレール、そこにアルトナンあるとー、ざっくばらんにバルザック、びびっているのユゴー？ そんなこと、侮れないブルトン、あんたっ、ちょっと、フーコーで、頭がロランのバルト海のガストンでバシュラール・・・・・・・・。なんでも、日本語になるのだ。

なんか、立て付けの悪い窓の、ここ重要、「上下」が騒がしい。ヒソヒソ砒素・・・・。

私は、建て付けの悪い木製の窓を開けに立つ。なんの音もなく、それは開いた。

れれれえーのレッ！ で、机に戻ろうとしたら、げげげっの金太郎、わっわっわっ、拾ってきた戸車が、空母艦じゃん。じいーと、凝視する、二重描写である。うなっ、馬鹿なっ、煙もくもく。どわあーん、野球帽、セロテープ眼鏡、作業着、ちび柴犬を引き連れた「ダンディズムの極北オヤジ」が現れたあー！

「ハジメマシテノマドリッド、ちみだね、あたいのcodeworkをお解読したのはあ？」

「でね、イサオちゃん、ハムだびだの和あーぶ、ね」

「だあーら、あたいの戸車にのってみんなの空母だぜっての、ばあーたれ」

裕センセ、恐る恐る、その、なんか「巨大な戸車」に乗ってみた。いきなり、マッハ3で、地上はるかか綾瀬はるか。

「ふふふふふうー、俯瞰図とかよおー、巨視的ってな、おめえー、これだっ！」

追記

「あらあらあら、裕さんの奥さん」

「あらあらあら、久保はつじ先生の奥さん。いつも主人が、お世話になって・・・」

「いやあ——、奇遇ですねえー、こんな所で……。なんとかなりませんかねえー、こういう人たちねえ——」

## ジャメヴユ

---

2014.11.23 Sun

「デジャヴユ」、既視感、ご存知の方の方が多いと思う。じゃ、逆はとなると、未視感だから、「ジャメヴユ」になる。

今日は、土曜日だから、学校はない。で、久しぶりに、ピアノを弾いた。

ここで、「ジュメヴユ」現象が起きる。私には、結構頻繁なのだ、これ。しばしば、「なんで俺、フランス語しゃべれんの？」。

これはですねえー、私の中で「脳ワープ」しているからなのである。福島炭鉱、小学校、お玉杓子、二宮金次郎のコンクリート像、校庭の銀杏の木、長靴の魚屋のお姉さん、10円の熱々コロッケ、チクロ入りシャーベット・・・、と、こういうものが、あの、ちんけ描写の極北、「走馬灯のように」に脳内を駆け巡っている内に、このような現象が起きる。

で、さっき、ピアノを弾いたとき、「えっえっえっ、僕、今、バイエルの勉強をしているのに、なんで、ジャズなのおーー、五十年早いぞって、チビ助っ」と弾きながら、走馬灯が頓馬に脳内回転していたんだわいっての。ほっといてくれって！

2014.11.24 Mon

今日は、11月23日2014年日曜日である。昨日、久保の兄貴の素晴らしい短編「戸車」に触発されて記事を書いて、その勢いで、もう一つ書いた。もう、ちょっとでアップされる。と、この記事は、明日のアップなのね。で、またまた、当分、更新でけんのである。学校、これはいいのだけれど、火曜日に新トリオにブリュッセルからゲストが来る。これも、本業だから、もちろん、構いはしない。で、翌日、学校、午前中はサボる予定でいた。うな、馬鹿なっ！ その翌日は、なんとっ、「緊急時の医療対応の日」だって。これサボると、単位が取れんのである。

わっちゃー——、コンサート、打ち上げ、二日酔いで緊急医療っ！ まっ、人形だからいいけれど、本物の人だったら、私のはあはあで、当然にして酒臭いから、生き返るのであるけれど、アルコール駄目な人だったら、やばい。

で、なるべく飲まないようにして、パリの息子のアパートで寝ることにしたわけ。一時間ぐらい睡眠が増える。

睡眠愚プール。

じゃ、また、来週末に更新するね。

2014.11.27 Thu

学校で、フランス史の勉強をして、ブックオフで買ってきた東大名誉教授のフランス史の本を、通学列車の中で読み……。と、裕センセはエンジンが掛かると、クラーク・ケント化するのである。

でね、私の古脳がフル回転すると、搾り出されたかつての知能の栄光が、蘇るってなわけではなくて、相変わらず、古回転。第一、知能の栄光なあーんてもんが、大体、あんのかって？ 2mmぐらいはあった、よ。

うで、フランスの歴史、本当に簡単に言うと、ぐちゃぐちゃで、元もとの「フランス人」ってものの自体がない。ケルト、ゲルマン、ローマン、イスラム、アジア……。民族的に、ぐっちゃぐちゃのフリージャズなのだ。

でね、我が母国、日本は島国である。多少のぐちゃぐちゃはあった。

でもね、ヨーロッパのぐちゃぐちゃ弱肉強食グローバリゼーションは、もう、紀元前から始まっていたわけ。大体、「フランス」というテリトリーが、なんとなく確立してきたのは、どんぶりで、1,000年前ぐらいな感じなわけである。

日本人の礼儀正しさ、尊敬、謙遜、こういう美德は、日本城という立地から来ていることがよく分かる。

うん、これは素晴らしい。ヨーロッパはグローバリゼーション第三期に入ったと東大の先生が書かれている。日本国は、第一期に入ったのかどうか分からない。グローバリゼーションは、外圧から始まる。うで、「心の準備」が間に合わない。おっおっおっ、裕センセは、「最初から」渦中へ、知らなかった。フリージャズメンの嗅覚なの？

私の中で、歴史の勉強は、別の段階に入った。そっ、勉強ではなくなった。

2014.11.28 Fri

なんか、よく理解できないでいる。イメージがぱしっとしない。

たとえば、ローマ人=現在のイタリア人。ゲルマン人=現在のドイツ人。もちろん、こんなに単純ではないのだけれど、「簡単な図式」という感じだと、こうするとピンと来る。じゃ、フランス人ってなんなの？ これが分からんのである。ちょっと、雑に整理すると、いい加減に昔昔とするけれど、現在の「フランス領土に近い辺り」は「ガリア」と呼ばれていた。正直、ヨーロッパの一等地だろう。気候が温暖、肥沃な土地。ここに、インド・ヨーロッパ語圏のケルト人が中部ヨーロッパから移住してくる。で、この人たちは、統一国家を作らずに部族ごとに暮らしていた。

ここにローマ人が侵入してくるわけね。カエサルちゅうのが隊長。うで、このローマ帝国が支配下に置く。つまり、今のフランス、スペイン、ポルトガルから、更にイスタンブール辺りまでがローマ帝国だった。まあ、イタリアだったと言った方が分かりやすい。これだけでかいと統治が当時から、オジギャク、難しかった。でね、バルト海辺りのゲルマン人が南下、西へ。この頃は地球は温暖化していなかったから、寒い寒いのだよ、あの辺りは。で、ローマ帝国に・・・。げっ、予告編じゃなくなっちゃうから、後、簡単に・・・。

だぁーーら、ガリアの土地の先住民はケルト人、ここにローマ人が入る。うで、ゲルマン人が入ってくる。

で、ローマ帝国と呼ばれる広大な地域の一等地にガリアはあった。うで、ぐちゃぐちして、東ローマと西ローマになって、真ん中になんちゃらかんちゃらと、今のイタリアがあって、うんちゃらかんちゃらしているうちに、ゲルマンのゴート族が入ってきて、ローマ帝国が滅亡して・・・。はあはあはあ、俺、疲れてんだけど、ねえー。

結論、フランス人とは、ケルトとローマとゲルマンの混血なのだ。分かりやすくすると、ケルトとドイツとイタリアの混血。

なんかさあー、アメリカ合衆国の先駆者なのだね。諸々の民族のフリーズだったのだ、この国は。

「おフランス野郎」は、こういうことを認識しないといかんぞ。現在のフランスの、移民が問題視されているって？ ばぁーたれっ、もともとが移民の国なのだ。結構いるのだ、いけしゃーしゃーと、「裕さん、あの辺り、あたしはいかないわ、移民が多いから」。なんぞという在住日本人が。第一、フランス自体が移民の集合体。うで、大体、俺たち自体(フランス在住の日本人)

が移民なのだったの！

追記 続くかもしれんけれど、疲れてっから禁則文字の推敲は、しましえーん。お辞儀。

## ガリアと呼ばれた土地

---

2014.11.29 Sat

紀元前600年頃 古代ギリシャ人 植民都市マッサリア(マルセイユ)建設 ローヌ川沿いに北に拡大

紀元前5世紀 ケルト人(中部ヨーロッパに住むインド・ヨーロッパ語系言語集団のひとつ)が本格的に移動

紀元前58年 ローマ人カエサル、ガリア武力征服開始 ケルト文明とローマ文明の融合が始まる(ガロ・ローマ時代)

395年 ローマ帝国(現在のポルトガル、スペイン、イタリア、フランス、ドイツ、イスタンブールまでの領域) 東と西に二分

西ローマ帝国へゲルマン人が移動 更にゲルマン人東ゴート族が移動開始

476年 西ローマ帝国滅亡 この頃、既に融合が始まっていたケルト・ローマ人(ガロ・ローマ人)とゲルマン・ゴート族、ゲルマン・ブルグント族、およびゲルマン・フランク族との融合が始まる

ケルト人、ローマ人、ゲルマン・フランク族、この融合体がフランク王国の起源である。更に、ゲルマン・ブルグント族、西ゴート王国のゴート族、これが加わる。

853年 以前のローマ帝国領に、ほぼ、近いフランク王国が三分される

詳しいことは割愛させて頂くけれど、この辺りで、フランス、イタリア、ドイツの原型が始まっている。西フランク王国を仮に現在のフランスとすると、当然、東のそれがドイツである。そして、西フランク王国にゲルマン・ヴァイキングがノルマンディーへ侵入してくる。

非常に大雑把な表記なのだけれど、私は史家ではないから、お許し願いたい。私が興味を持っていることは、ひとつなのだ。「フランス人の起源」、以上なのである。昨日、書いた、ローマ人＝イタリア、ゲルマン人＝ドイツ、フランスは、こういう風にはいかないのが、長年の疑問だった。どうして、フランスがラテンと呼ばれるのかもピンとこなかった。

フランス人とは、ケルト、ローマ、ゲルマンの混血なのである。しかし、教育学問上はローマ帝国のそれを下敷きとしている。「ローマ化されたケルト・ゲルマン人」という結論なのだ。二十

一世紀の現在は、これにアフリカ大陸とアラブ諸国が加わった。フランスという国の繁栄は、この移民の混合体がベースにある。アメリカの台頭がフランスを安易な世界ランキングから引き摺り下ろしてしまったのだけれど、移民の集合体の先駆的な国、その歴史のノウハウは、絶対にアメリカを凌駕しているはずである。自国の批判をしつつ世界一だと誇る、このフランスという国、正直、心底、見直している。パリ市の標語「たゆたえど沈まず」。非常に身に染みる。この国は、すでに、グローバリゼーションを歴史の中に内包している。なんの危惧もないのだ。絶対に、沈まない、このフランスという国は。そんな柔な国ではなかった。我が母国の対応能力は、私には分からない、残念ながら。

2014.11.30 Sun

フランス史の勉強をしていると、よく分かる。領土拡大、殺戮。延々と、私たちは、こういうことをしてきたのである。皆さん、ご存知の通り、同族を殺す、こういうアホなことをするのは我々だけである。富岡多恵子さんは、人間を「ヒト」と書く。どうしてなのか、私はよく知っている。

第二次世界大戦の終戦から、たかだか七十年弱しか経っていない。

七十年前まで、延々と愚拳を繰り返してきたのだ、我々は。我々？ 日本もフランスも止めたけれど、終わってはいない。世界の各地で、まだまだ愚拳は続く。愚かさに気が付くまで……。ほとんど、日常が幻覚になってくる。馬鹿なことだ。

領土拡大、殺戮、たぶん、この原型は、私の独断では、性欲と打算と男と女、この図式にあるはずだ。男も女も、もう少し、その原型から抜け出した方がいいと思う。ホモとかレズ、それはそれで構いはしないけれど、そういう意味ではなくて、思考回路がフリーである限り、脳内の渋滞は起こらない。愚拳の彼方に、我々は芸術というものを発明した。芸術、私には理知と同義なのである。だから、芸術家の嫉妬だ諸々の戦闘体制、もし、そうならば、名乗らない方が賢明と申し上げる。自称ほど、性質の悪いものはない。



2014.12.03 Wed

和風スパゲッティを作ろうと思いながら、突然の寒波の中、リュック背負って坂道を上り帰宅した。朝、学校に向かう時は気温一度で日中は四度。寒いのだ。で、帰宅したら、すでにカミサンが夕飯を作っていたから、突然、ブロ愚りタイムができた。うっししし。明日は、学校の後、コンサート。当然、うっししし、その翌日の午前中はさぼることにしちゃった。校長先生、事情を知っているから、ノープロブレムだって。と、忙しいことこの上ないのだけれど、うまあー、四半世紀、超絶多忙状態をしていたから、難のこれ式で解決してしまう。でね、結構、こういう感じ、いいのである。やはり、オヤジジャズメンの背中は、寂しげじゃあー、イカさない。ちょっと、笑っているような感じで、めらめらとジャズの炎が立ち込めているような背中がいいわけなのよおー。ジャズは本質的に暗い音楽だから、背中には笑っていないといけないというアルキヘンデスメンデルスゾーン法則なのである。聞いたことない？ ところで、わたくしは英語がクラスで三番目に上手い。アメリカの大学を出ているやつには、当然かなわないし、二年間ニューヨークをふらついていたやつにもかなわないけれど、最年長生徒としては立派立派のリンパ腺。でもねえー、つついジャズメン英語になるのがタマにキズ。へえーいめえーん、やあー、ですべてが伝わるからヤバイわけ。「イサオ、あなた、英語上手いけれど、どこで覚えたの、そういう英語？」という目をアメリカ人の素敵なシンシア先生はしているのである。「はい、次は、シャルを使って文章を作りましょうね」。わたくしとニューヨークふらつき二人、急にゲラゲラと笑ってしまい先生困惑。ニューヨークふらつきが笑いながら、「先生、俺、ニューヨークのハーレムに行ってたんだけど、シャルなんて使ったら殴られてたと思うよ」ゲラゲラゲラ。もう一人の変な日本人生徒、「先生、シャルウイダンスウイズアス？」。先生、ゲラゲラゲラ。なんか仲良しになってしまったのだ。シンシア先生、元デザイナーで二年半前から臨時英語教師。俺より四つ年長の素敵な先生である。「オールデストの意味は？」「はい、俺です」「イサオ、あたしです」ゲラゲラゲラ。

追記 上の写真、やっと、取り替えて、ついでにプロフィール写真の色調も変えちゃった。後者を気が付いた方がいらっしたら、凄過ぎ嬉や。左から、伊沙子こと俺、オリビア・セママ、真子ちゃんこと真師匠、ポール・シュヴィゲンシュローグル。会場にいらしたプロが撮ってくれたらしい。分かんのです。深謝致します。真師匠が、ほっと送ってくれたので。めどうなので、禁則文字のチェックは、止めちゃった。ごめんちゃい。

お寒うございます

---

2014.12.06 Sat

本日は、はるばる来たぜ土曜日。学校とコンサートと、まったくもって五十半ばのオヤジがやるような生活ではない。でも、懲りずにしている。いつになったら盆栽と戯れる日が来るのだろうか？ ねえーだろうなあー、ジャズメンにはなあー。全然関係ないけれど、俺の周りでゴルフしている奴は皆無。ゴルフ、すげえー楽しそうなんだけれど、まっ、ねーだろうなあー。ピアノさえ、一丁前じゃないから、他の練習をする余裕はねえーだろうなあー。と、書き出してはいるのだけれど、脳内プログラミングシステムが崩壊しているから、特に、これを書くぞっちゅうのがないわけ。だから、だらだら・・・。

おっ、考えてみたら俺の行っている学校の生徒の半分は、俺の子供たちの世代。どう考えてもその父親の年代の生徒がいるのは、相当にして変ではある。一緒に英語の勉強なんてしているから、へんてこりんな構図だ。まあ、うちの娘にいわせると、「うちのパパは、その精神病ではないけれど、ちょっと、キチガイ的」って、先日、友だちにいっておったなあー。変なオヤジではない。キチガイ的オヤジ。なんだか分からん？ しかし、寒いのだ。外も、懐も。

2014.12.07 Sun

先日のコンサートの打ち上げで、「俺よおー、二月半ばぐらいからよおー、社会復帰すっからよおー、音楽活動とは、ちと、疎遠になるかもしんない」といったら、仲間から串刺しになった。意気地なし、裏切り者、堅気には戻らせん……。 「えっ、あっ、いや、ちょっと、当初だけ様子見で自制するっていう意味なのよおー」。 「ならいいけど、まっ、様子見ちゅうても一ヶ月ぐれえーで十分やろ」だって。一度、「邪頭」の刺青を入れちゃうとねえー、こうなっちゃうわけね。でも、仲間たちのいっていることは、その通りなのである。ジャズ屋を続けるために社会復帰するから、止めてしまつては本末転倒。とはいえ、二束の草鞋のシビアさはよおー——く知っておるのだ、私は。世間様はそんな甘くはない。今までは、今より若かったからなんとか体力が続いた。けれど、今後の人生気象情報は、この体力気力の衰えと共に荒波を渡ることになるから、テイクイットイージー、メェ——ンシステムにおすがり付くしかないであろう。しかし、ジャズも世間様も手抜きをすると狸と呼ばれるから、それはでけん。うもおー——、やっぱ、ジェームズ・ボンドの世界かよおー——。しゃーないわな。

ところで、最新コンサート映像をお送り致すのである。ベースがオリビアに代わって四回目のコンサート。ポールがゲスト、これは二回目。すでに、強靱なユニットの予兆が現れている。我々の音読みの素早さは、やはり、職業病。ポールと私は同い年。真師匠が一回り上でオリビアが二回り下。この年齢年輪無視の無法地帯に生きる我々の勇姿っ！ 「今出している音以外は評価の対象にならない」という厳しいジャズの掟があるのである。チャンジー(ジーさん)になると、つつい、掟に背いちゃおうかなあーもじもじとなりがち。「いやあ——、僕がね、若い頃はね、凄い音を出していたんだよ、だからさあー、いいじゃないの(コピーライト、日本エレキテル連合)、なっ、お若いの」。で、仲間から串刺しにされる。「紀元前か、おめえー、ばあーろ——」って。

また、来週末、あっ、来週末もコンサートだよ、うひょ、次の更新まで、細切れに聴いててね。お付き合い頂いている方々へは、もう、巨人の星的涙涙で九十度のお辞儀です。

2014.12.08 Mon

へたばっているから、布団に入り、目を閉じようとしたのだけれど、書き欲がなぜか込み上げて来る。どうしてなのか？ もちろん、私は良く知っている。日毎の社会復帰準備の風景が、私の中で堆積しているからだ。元々、私は「詩」を書いていた。視覚の印画紙に焼き付いたものを忘れることは、容易いことではない。「肌の色」「宗教」、このふたつについて書かなければならない。フランスに限れば、アフリカ移民、つまり、黒人アラブ人が非常に多い。それからアジア移民、ベトナム、カンボジア、ラオス・・・、過去の歴史の流れの中で、こちらも多い。ポルトガル、スペイン、イタリア移民も多い。

黒人、アラブ人、黄色人種、白人。黒、茶色、黄色、白のカクテルである。回教徒、カトリック、プロテスタント、仏教と、これまたカクテルである。

私は、肌の色、まったく関知しない。それから、私は無宗教であるから、こちらに関知しない。

そう、私は、それぞれが個々人で信じているものがあればいいと思っている。信仰という言葉は、むしろ、好きなのだ。それが、私にとっては、ジャズという音楽かも知れないし、仲間たちかも知れないし、うん、そうだな、でも、自然が最も好きだし、怖いし、諸々の我々の摩擦は飲み込まれてしまう、などということは、生まれた時から知っていた。

## 差別

---

2014.12.09 Tue

ブログを更新する時間がない。なのに、更新している。疲れていると、頭が冴えてくることは、皆さん、ご存知の通り。時間がないから、書き欲が凝縮する。

諸々の差別があるけれど、一番、分かりやすいのは人種差別だろう。私が、通っている学校の全校生徒数は12である。以前、その出身地を書いた。国籍がフランスでない生徒は、私だけだ。私以外の11名のうち、出身地がフランス国の生徒は、2名のみ。日本の方には、分かり難い、こういう感覚は。つまり、単純に書いてしまうと、「白人は2人」なのである。黒人、アラブ人、東洋人となる。

私は、フランスに上陸した時から、今まで、「排他的なジェスト」は、本当にわずかである。まあ、一万回ぐらいだろう。私の仲間たちの「それ」は、推定するところに八十万回と思う。こういう状況下で生きてくると、性格が歪む。

どうして、私だけ「移民」ではないのか？ 単純に国籍が日本だからである。もっと、はっきり書いてしまうと、「貧困から抜け出すために選択肢がなくフランスに来た」のではない。もっと、金持ちの国から、私は「自分の意思で」、フランスに来た。ここから、そもそもの構造が違う。

彼らと、毎日、ケバブ屋で食事をしながら話をしていると、浮かび上がってくるのである「本当のフランス」が。

「差別」、そう、自分の能力外で「それ」をしようとする、一番、簡単なのは……。カースト制度のようなものができてしまう。

白人が黒人とアラブ人と東洋人を「下に見る」、白人ではないから、という単純な数式。で、こういう見方をするフランス人は、ご安心なされ、多数派ではない。だって、こちらが差別してしまう、馬鹿な奴だと。能力無を露呈し過ぎ。

そして、人間の世界の拙いところは、差別される側が、逆差別のベクトルを描くのである。「白人に、ジャズは分からない」なんていう、黒人の馬鹿助が現れる。

こういうことは、即刻止めるべきであるし、日本の方々の本当の意味のグローバリゼーションは、申し訳ないけれど、これからだと私は思っている。大国の存続は、移民なしには歴史上はなかったから、日本の存続は、二つに一つ、子作りか移民。そして、前者は、日本国が世界最低レベ

ルなのだから、後者になる。お若い方々の方が、ピンと来ている様な気もしている。

なんか、申し訳ない。イサオ節から、少しずつ、本物フランスへとブログが移行し始めている。じゃ・・・。

ピアノ練習中 裕センセ

「お父さん、米びずが空ですけれど・・・。ひえしかございません」

「ひええー、おい、玉枝、どうして？」玉枝、もじもじ。

「あわはないの？ あわあわあわのバブルうー、きょ。りゃ、俺がバブルなの？」玉枝、頷く。

「おい、玉枝、つまり、ピアノの稼ぎと出るお金のアルキヘンデスなの？」玉枝、頷く。

「おい、玉枝、しかし、そうならそうと言って頂戴、ロンドンのMに電話すっぺ、そうなら」

「もしもし、Mちゃん、コードネームIY007のイッチャんだよおー、あらららあー、Qちゃん？ お久しぶりねえー、うで、仕事、ある？ あるあるある？ げっ、あり過ぎは駄目駄目よおー(コピーライト、日本エレキテル連合)、うで、あるわけね？」

「おおー、玉枝、苦労掛けたねえー、悪いんだけど、畑の奥のアストン・マーチンの鍵とさあー、ありゃ、ワルサーPPK、どこの筆筒に入れたっけね？」

## 日本に行ったことのあるフランス人

---

2014.12.10 Wed

私の周りに、結構いる。日本に行ったことのあるフランス人。彼らの意見は共通している。

礼儀正しい。身なりが綺麗。人が多いのにイライラ感がない。すべてが、丁寧できちんとして  
いる。町が綺麗(注、町並みではありません)。町全体に漂う「暴力臭」がない。治安が途轍もなく  
良い。食事が美味しい。交通費以外の物価は安い。

と、皆、絶賛する。私も同感である。私の返事は、「うん、僕も日本というか日本人たち、大  
好きなわけ、でね、外国人として行きたいのね、でも、僕、日本人だから、そうはいかんわけ、  
分かるかしら?」。皆、分からんという。で続ける。「日本ちゅうところはね、会社依存症の国  
なわけ、僕は駄目なの、そういうの、分かる?」というと、全員、ウイウイウイ。

たとえば、パリとかニューヨークとかロンドンで、うたた寝なんぞでけん。いつも身の危険感、  
つまり、第六感が機能しているから緊張している。盗難、暴力と合法的ではないことが、いつ起  
きてもおかしくないからである。ちょっと、動物の感覚。もちろん、我々も動物なのだけれど、  
幸いにそっち方面は退化した。でも、こちらでは、なんか研ぎ澄まされてくる。

当然にして、こんな能力を使わずに生きていたい。今まで、私のブログにお付き合い頂いてい  
る方々は、この「暴力臭」の原因がどこにあるのか、お分かり頂けると思う。多民族、多宗教、  
貧富。これから発してくる。いや、違うな。それが悪臭の根源ではないな。その摩擦と衝突だな  
。だから、摩擦と衝突がなくなれば、悪臭もなくなるという数式になるけれど、残念ながら、人  
間様と呼ばれる退化した動物は、あんま、頭が良くないのである。違うな、脳力は途轍もなく発  
達したけれど、どうも、あんまり英知がないのだ。折角ねえー、芸術という素晴らしいものを先  
人が発明してくれたのにねえー。芸術、この社会的に無意味なもの、唯一、個々人の心の中に入  
り込めるもの。あっ、俺って、やっぱ芸術至上主義者なんだろう。

## 二日酔い

---

2014.12.14 Sun

昨夜は、北駅の近くの短編映画製作会社でのコンサート。映画機材満載のホールに、ドイツの素晴らしいアップライトピアノ、バーンシュタイン。もう、そこいら辺のグランドピアノを凌駕している。

本来なら、ベースのオリビアがいるはずなのに、彼女は別のコンサート。真師匠とトランペットのポールと私のトリオになった。ベースレスのトリオなので、どうしても、ピアノが饒舌になる。ぎんぎらぎんに弾き捲くって、美味しいワイン、イベリコ豚のハムだサラミだ、山盛りチーズだと食べて飲み捲くった。結果、脳が赤ワインの中に浮かんでいる。

そういや、詩人の田村隆一さんの朝食はビールだったなあー。私は、飲み助ではあるけれど、さすがに、朝から酒は飲まんあー。



## 私はKY？

---

2014.12.17 Wed

「KY」が「空気が読めない人」の略と聞いた時、その日本語センスのどん臭さに辟易したことを覚えている。「あんなあー、それこそ、日本語KYじゃん」と言ったのだ、私は。当時の部下に。

ところで、営業マンとして、約三千人のお客様に十四年の間に接した。クレームが来た回数が二回である。その理由は、私がKYだからである。超絶的な低打率であることは知っている。けれど、そのお客様に関しては、KYなのだ。

しかし、友人関係。たぶん、七人に一人ぐらいの割合でクレーム。

私は、酔うと「有吉化」するのであるが、私の方は、「親近感を込めてのジョーク」と解釈している。これが、外れる。私の親近感ほど、あちらは、私に親近感を持っていない、から、「嫌な奴」になる。

某日系企業の辣腕営業マンであった私の友人関係のクレームの高打率。どうして？ 当然、後者が私の本当の姿だからである。

## TuとVous

---

2014.12.18 Thu

フランス語を齧ったことのある方は、ご存知の通り。英語のYouに当たる言葉が二つある。日本語は、大変に複雑。

あなた あんた お前 おめえー てめえー 君 おいっ . . .

英語は一つなのに、フランス語は二つである。この使い分けに微妙なフランス人心理が現れる。細かい説明は、へばってっからしない。

たとえば、ミュージシャン。初対面から、問答無用でTu。先輩後輩年功はゼロ。うん、そう、「仲間」ちゅうのは年功ゼロになるから、想像はできるはず。「仲間意識の強い職業」は、いきなり、Tu。でも、私の息子と娘の友人が私の家で夕食なんちゅう時は、私はTuと言うのに、向こうはVousだ。年功感覚が、最近の若いフランス人の方が強い。ちゅうことは、「仲間」ちゅう感触がなくなってきている、と、いうことになる。私は、どちらでも構いはしない。うん、オヤジだし、ミュージシャンだから、私自身は「仲間」を大切にしたいと思っているけれどね。大切だと思うんだけど . . . 。ウザイ？

でもね、私は緊急対応士一級なのだ。心臓発作で倒れている人の初期対応ができる。私がある場にいると、存命率が四十パーセントぐらいになる。いないと、五パーセント。人間自体が、もし、「仲間」と解釈すれば、私は、絶対にその人に駆け寄る。明日は我が身だけれど、我が身の周りが、あまりに他人ではいけないと思うちゅうか、私が存命率を十倍ぐらいにできるんだから、介入する。当然である。生きている人が残されないように助ける。だから、倒れさせんのだ。人生は本人のものではないからである。他人のために生きている、生かされている、意欲をもらっている、なんでもいいけれど . . . 。

## 花金

---

2014.12.19 Fri

ミュージシャンに、花の金曜日なんちゅうものはない。演奏がある日とない日となるから、曜日はじえんじえんない。でも、オヤジ学生としてはある。で、花金なので、赤ワインをちびちびやりながら、これを書いている。ついでに、先日の演奏も聴きながら。相当に、マニア向けになっちゃう。

で、学校の試験に「エシエル通りから、北駅まで、大通りを通らずに最短時間で行けるルートを書きなさい。および、道筋の歴史建造物、観光スポットも書きなさい」だって。第一、大半の人はエシエル通りがどこどこ？ となる。幸い、私の最初のオフィスの近くなので知っているのだ。結局、そこから北駅までの裏道を書けちゅうことなんだけれど、私のオフィスは、エシエル通りの次の通りだから、これまた知っている。学校最年長の年の功である。やはり、積み重ねて来たものの質量が圧倒的に多い。若いもんには負けんっ！ なぁーんてことはない。負けたいのに、勝っちゃう。嬉しくないってのっ！ で、私が試験の度に一番である。「ずけえーすげえー」と若造たちが騒ぐ。嬉しくない。五十五年も生きてるし、同じ会社の旅行部門に十年。別部門の営業マン十四年。当たり前だ。嬉しくない。

で、私はにこにこしながら「なるおーん、あのジジーん」と、彼らがライバル心剥き出しでかかってくることを大いに期待しているのに、皆日本語で、「センパイ、センセイ」だよ。ちとなぁー、お前ら優し過ぎっ！ 俺なんて、引き摺り下ろしてくれっての！

一度よおー、ジャズメン、やってみいー。「その時」「生きている、その一瞬」しかないのだ。だから、現在形が一番なのである。病身じゃないよ、秒針との勝負なのだ。と、まっ、そんなに気張らなくてもいいけんちょも、毎回、俺が一番で、おめえーらが、拍手なんかすんじゃねっての！ このままだと、学校のビートたけしだぜっての！ おめえーんらの時代だよっての！

2014.12.20 Sat

「Comme tu veux」 裕イサオ日本語訳「ツブラのように」。

その前にSakuraiさんの「cocode note」の「手紙を書いた」を拝読。毎々と同じく、ふー——む、と仰げ反る。「天性のエッセスト」とは、sakuraiさんのことを指すのだ。この優しい目線、だけではない、鳥瞰目線、でも、鳥瞰目線は、普通はキツイ文体になる。でも、sakuraiさんはならない。この均衡、拮抗は脱帽なのである。難しい、本当に。私にはできない。追って書こうサクライ「君」のことは。

でね、久保(はつじ)の兄貴の愛犬の名は、この記事のタイトルである。兄貴は、ランボーに精通しているから、こんな洒落た命名をなされた。しかも、である。「ツブラ」と複数形なのだ。ここに、前人未踏のブログワールドを構築している兄貴の本領が現れておる。以下、わたくしなりのkubohatsucodeの読解を試みしてみる。

「つぶ揃い」兄貴の分身の術。ツブラが、ぎょわ——ん、百ぐらいになった状態。

「つぶらな瞳」これは、そのままである。ツブラの瞳。

「ぶつぶつ」これは、兄貴が、裕ちゃんの影響下の元に、ツブラにお話をしているミュージシャン用語。

「小粒」これは、ツブラが小さいからだ。

「ツブラのように」この解釈は難しい。嗅覚だぜっ。目線を地上に・・・、諸々の解釈ができる。しかし、兄貴のことだから、たぶん、自由に生きろっ！ かちら？

ところで、兄貴はランボーに精通していると書いた。ランボー系、私の知る範囲では、アル中るが大変に多い。これを、オジギャグとするのは、早計である。たとえば、ボードレール系は、麻薬が多い。シュールレアリズム系も、そうである。で、アルバート・アイラー系は、ぎょ、両方である。

幸いにして、わたくしは、麻薬はやらない。第一、アル中る、愛煙家。これに、麻薬まで加わると・・・。

「親不孝の極北、ミュージシャン、裕イサオが覚醒剤不法所持にて、成田空港にて逮捕されましたっ！ おっ、両手にお縄、ジャンパーを被っております。あの、自己顕示欲の塊の裕ちゃんが、頭からジャンパーあ——、世も末だっ。福島のご両親の面倒も一切せず、海外プータローの裕ちゃん。家業も継がずのプータロー、そのそのその園まり子の本国への帰国が、なんとお——、この様ですう——、あいつは、人間なのか？ 全国閲覧数百七十万を誇る久

保はつじ氏へ、ご教示頂くしかないのでしょうか？ あの姿あ——、鬼畜う——」って、な  
っちまったら、いくらなんでも・・・。

## 小説「ピアノは私だ」

---

2014.12.21 Sun

という小説が、私のパソコンの中にある。ひとつの文学新人賞に応募。没。そのあと、もうひとつに。没。どのレベルで没になっているのか、私は応募している文芸書を定期購読していないから分からない。先方から、なんらの連絡もないから、当然にして没である。たぶん、いつものように下読み段階ではねられているはずだ。うーん、その理由を知りたい気も少しするのだけれど、うん、自分でも大体分析はできる。そう、たとえば、私がジャズピアノのコンクールに参加したとする。絶対に予選ではねられる。あまりに自己流とか、めちゃめちゃじゃんとか、基礎がなっとなんとか、せいぜい、大変に面白いが、コンクールの主旨に合わない。某文学賞の次席になったとき、芥川賞作家であるおふたりの審査員から、まったく、同じ主旨のお手紙をそれぞれから頂いた。「とても良く書けているが、賞の主旨とは合わないため、見送らせて頂いた。次回作に期待する」と。で、拗ねるのかというとじえんじえんなのである。なんかね、よっ、それでこそ裕ちゃんっ！ と自分でも思っちゃったりする。永遠のアンダーグラウンド。うん、それはそれで粋な感じ、ね。

ところで、小説「ピアノは私だ」を電子書籍化するか考えている。でも、公開してしまうと、出版社からの出版の方向はなくなってしまう。「未公開作品」でなければならないから。でも、出版社が顧みてくれる可能性は、ほぼゼロだ。そうなると、永遠に私のパソコン内。これも、ちと、もったいない。まあ、とにかくくだらない小説なんだけれど、これは、故意にノンサンスの世界に肉薄しようとして書いたから、そうなった。読み終わると、なんらかの恒常的な至福感と悟りの境地感が漂うはずなのだ。私自身は、大変に気に入っている。どうしようかなあー？

来年、考えっぺ。

2014.12.22 Mon

ほんじゃらな しとどの かすがい ためなもう

訳が分からんから 空回り

えー 毎度毎度のゴムバンド お元気でしてはまりますか？

今日は日曜日 だから 明日は 月曜日って 俺たちが 決めた そうじゃなくたって かめへん 日月日日でも

でね、私の敬愛する田村隆一さんの詩の一節に・・・

「鳥は鳥の中で飛ぶ」というのがある。

この意味を、分からん人は、うん、無粋だな。

えっ、じゃ、おめえーは知ってんのか？ はい、知らん、でも、あまりに美しい。

DNAなんちゅう言葉まで浮かんじゃう。

おっ、「人は人の中で生きる」。ぎょ、やばいよねえー、こういうフレーズ、ね。

詩を甘く見ると、やばいんだよ、な。訳分からないことを理解する能力。これは、大切なことだ、お若いの。

「スマホ」、おスマに、ほの字。これぐれえー、覚えろニャンっ！

## 六週目の学校

---

2014.12.23 Tue

なんか知らぬ間に、更新していた。今日は、12月22日月曜日。更新しようと開いたら、すでに更新されていた。だれが書いたの？ 俺だっ。予約投稿をセットしたこと自体を忘れておるのじゃ。

とうとう、学校も六週目。だんだん、校長のしゃべり方に棘。

「リッツホテルからムーリスホテルまでの車移動のルートを地図を見ないでいいなさい」。12名の生徒の内、9名ぐらいが地図をちらちら。「俺は、50回ぐらい説明している。六週目だぞっ。週末に行ってみろっ、そんなに覚えられないならっ。はい、だれか？」。

「はいっ!」、いつも俺だ。「バンドーム広場からカステグリヨン通りに向かって走り、左折し、モンタボー通りへ。その後、右折してアルジェ通り、再度、右折してリボリ通り」、「はい、イサオ、完璧です。ムーリスホテルの手前のホテルは?」「はいっ、サンジェームズアルバニー」「その次の有名なカフェは?」「はいっ、アンジェリーナ」「で、ムーリスの目印は?」「四枚の旗です」。

「おい、お前ら、やるきあんのか？ 六週目だぞっ、50回リピートして頭に入らない？ どうやって、社会人するつもりなんだっ。難しいなら、行って来いっ！ いい加減にしてくれっ、俺は、虚空に向かって教えてんのかっ、自覚しろっ!」

ひそひそ、なんかよおー、校長機嫌悪いよなあー

四十過ぎた親父に、なんだ、あの校長の言い方は、ふざけているっ

俺「まあー、俺はよ、色々とキャリアあつからよ、知ってるけどな……。もじもじ、でもよおー、そんなもんなくともよ、普通は二回ぐらい聞いたら覚えるけどな。だってよ、そうじゃないと、仕事にならんだろって。色々とよ、各自の自己弁護はあるだろうけれどな……」。

## 受けない

---

2014.12.26 Fri

年長の方々は、ご存知の通り「坊主の花簪」という、あれ？ 諺だっけ？ がある。だぁーーら、坊主頭に簪は刺せないから、無用の長物という意味なんだけれど、お若い方々に「かんざし」なんちゅうの分かるのか分からない。髪の毛に刺すアクセサリーの櫛みてえーなもんだ。その先端にお花が付いてる。あっ、そうか、日本のねーちゃんは着物きる時付けるから知ってるわな。突然、久保の兄貴の「犬のうんち駄目張り紙」の記事に仰け反ってしまった。笑い泣きという微妙な心情が、これほど、見事に活写されているブログなんぞ、そうそうはない。無料で読めちゃう。感無料。やはり、師匠には勝てんのだ。人間、人生、兄貴はキュビズムしてしまう凄い人だ。シュールだったりフォーブだったり、脳内万華鏡である。

ところで、沖師匠は七十三歳。真師匠、六十八歳。俺、五十五歳。会社だと、名誉会長、会長、部長みてえーな感じだわな。オリビアが三十七歳だから、課長代理にすんべえー。

でね、俺のブログ、それから音楽、どう分析しても「受けてはいない」のである。若い連中は、息子娘軍団以外は来ない。そうすつと、オリビアが多少、観衆の平均年齢を下げてくれているけれど、一般的には、俺より年長の方々の方が多い。で、どうも、俺より下の年齢層、および同世代、および年長、どの層にも「受けている気配」がない。

若い世代 なんだぁー、あれっ！

同世代 まだ、やってんだっ、いい年こいて

年長組 もう、わたしはいい、あぁいう音楽は、静かに暮らしたい

どの世代ともクロスしない。見事である。しかし、「我々は絶対に止めないし、媚たりしない」。

どうして？

アルチュール・ランボーが詩を書かなくなったのは二十歳の時だ。そこから、すべては始まった。彼の詩の終焉から我々は生き始めたから、いまさら、止めない。ということなのね。これを、反骨とか気骨とか骨のある奴と呼ぶ。

烏賊にだって骨あんだから、なめんじゃねえーぞって！ えっ、蛸？ うん、ないねえー。

だぁーーら、俺は骨のある蛸じゃって！

## 息子と娘のプレゼント

---

2014.12.27 Sat

クリスマスのプレゼントに、息子がサンテ・ミリオンのグラン・クリュ、今、息子と一緒に飲んでいる。娘が、洒落たシャツ、白とスカイブルー、マチエールがとても綺麗である。いつも、俺は、スーパーマンでしか衣類を買わなのである。だって、お洒落したってねえー、なんも変わらないのだ。会う人が、毎日変わるのであれば、同じ格好をしていていいのである。なんなら、一年ぐらい、同じもの着てても、俺は、あんま、気にならるのである。

私とカミサン、実年齢より十歳近く若く見える。いわゆる「若(馬鹿)作り」なのであるけれど、パリからたまに来るラグビーマンのような息子と、親馬鹿の小亀にいーーー、別嬪の娘が家の中をうろついていると、「老夫婦」という日本語が、脳内走馬灯。

うっううううーーー、立派になったのおーーー、お前ら、なあーーー、父ちゃんは、ハッピーハッピー法被だぜって！

おっ、親父が「しがないピアノ弾き」、りょ、反面教師の相対性理論の具現化が我が家なのだっ！ 裏自慢だぜって！ と書いたから表自慢に変質したのだ。

2014.12.28 Sun

師走。クリスマスイブ、クリスマス、コンサート、その他の飲み会、学校。忙しいことこの上ないわりには、結構、ブログは更新されている。そんな無理してやる必要もないのに、なんか、ちゃらちゃらと書いてしまう。毎日のラジオ体操みたいになっているのかも・・・。

学校も後二週間。ぜえぜええ・・・。へたばってきている。もう一息。卒業証明と緊急対応士初級証明書と健康診断書を持って県庁に行く。一ヶ月ぐらいで、プロライセンス取得となり、その後は、超多忙生活が待っている。うへっ、二束の草鞋だっ、またまた。でもね、ここで私がへたばってしまうとね、おっ、六年後の定年、その後・・・。ここで、私がピアノの前から立ち去ってしまうと、まず、私の仲間たちの職業妨害に自動的になる。いくじなしっ！ 串刺し。六年後に、また、よろちくね。ばあーーたれっ、戯け者おーー、見放される。でだ、そうになると、定年後は、一人寂しくソロピアノとなる。相当、悲しい、これは。仲間との丁々発止がインプロビゼーションの醍醐味だから、ソロしかないとなると、老け込むなあー。ということは、へろへろになりつつも続けるのである。ぎょ、なあーーんていって居るが、一月から五月まで、すでに複数のコンサートが設定されているから、ゲルにできないわけ、ね。体力もつかなあーー？

ところで、通学列車の中で「移民と現代フランス ミュリエル・ジョリヴェ著 集英社新書」を読んでいる。先日、パリのブックオフでたまたま見付けた。2€。非常に助かる、こういう値段は。先日も書いた通り、私の通う学校の生徒内容は、外国人一名、これは私である。フランス国籍移民二世九名。フランス人二名。移民二世の出身国、アルジェリア、チェニジア、セネガル、レバノン、ポルトガル、カンボジア。

本書によると、フランス人の三分の一が祖先の中に外国人がいる混合国家。フランス国籍の移民の推定数約五百万人。フランス国籍を取得していない人口は不明。イルドフランス県は三人に一人が移民。と具体的な数字とその実情が延々と出てくる。移民一世の生活、意識と二世との溝の大きさに、予測はしていたけれど、改めて驚いた。ここで、あまり詳しいことは書かないけれど、私と共通している意識がある。

母国でもフランスでも異邦人、エトランジェなのだ。

私は、幸いにして、自分の意思でそれを選んだ。そうではない彼らの心の奥の暗闇を理解することは、とても難しい。著者が何度も書いている。「フランスは元々が移民の混合国家である。排他的な国ではない。それなのにフランスから阻害されているという異常な被害者心理からは何も始まらない。民主国家であり、実力さえあれば、どんなポストにも付ける。むしろ、恵まれた国

にいるのだ。意識改革と努力、それだけで道は開ける。ゲッターの中に逃げ込むのは得策ではない。ゲッター内の若者の失業率五十パーセント。これはおかしい」。もちろん、著者は諸々の現実を十二分に掌握して、このように書いている。非常に熱い方だ。

先日も書いたけれど、「おっ、またまた、イサオが一番かよお——、すげえ—すげえ—、ぱちぱちぱち……」、こんな定年が近付いている外国人のおっちゃんが一番じゃ、お話にならんっ！ やっぱ、社会人になりゃ——、嫌でも分かる。それまで待つか、このノ—天気たち。でもよ、俺は異邦人だ、だからよ、倍の努力がねえ—と同じにはならん。第一、日本人のおっちゃんが、フランス語と英語で授業受けてんだぞっての！ 俺以外は、フランス語が母国語。おっちゃんの頭、カチ割れそうなんだよって！ ぜえぜえ。いつもいわれる。「イサオさんみたいにピアノ弾ければなあ—」。はい、練習あるのみ、なのだ。りゃ、ちと、オヤジブログになっちゃったあ—！ おめえ——ら、応援してるぜって、愛の鞭、愛の説教な・の・よ。

2014.12.29 Mon

俺ぐらいの年になると、誕生日とか、年の変わり目なんちゅうものは、どうでもえー。っても、若い時分から、そうだった。俺は、他力の必要がない。誕生日とか年の変わり目とか、俺の意識の外の社会的なピリオッド。もちろん、それはそれで、いい感じ。でも、俺は、日毎、脳内変革に勤しんで居るから、別に、いらんのだ、うなもん。

と、別に水を差すブログじゃないよお、そっ、俺は、夏祭りとか、年中行事は好きな方だ。人間が一体感を持つことは、大変にいいことでもあるし、大変に怖いことでもある。ベクトルの問題だ。ジャズ隊は、いいのだった、なんの制約もない。自分を磨くだけなのである。うん、磨いて磨いて、海辺の小石化するわけね。アイデンティティーなんぞ、いらん。小石で十分。すっきりするどおー。

ぎょ、などと、偉そうに書いて居るが、2015年は、すでにプロジェクトがぎっしりむっちり。

うーむ。まあ、どうせよっ、生きてんだったら楽しく行きたいわけ。二十歳でよ、詩書くの止めたフランスの兄貴もいればよ、日本の金子さんみたいによ、七十で大衆食堂でカレー食べて、息子にはステーキ。幸いにして、その後、エロ爺としてメディアで有名になって、後になって、えっえっえっ、すげえ一詩を書く爺さんって、皆で驚いた。

テレビもインターネットも、モノホンの検索はでけんと断言してしまう。情報？ 文化でも文学でもない。

2015

---

2015.01.01 Thu

明けましておめでとうございます。

本年も、ブロガーさん、ブロガーさんご家族にとりまして、良い御年になりますことを！  
心からお祈り申し上げます。

こちらフランス、イルドフランス地方は超快晴。とっても寒いですが、私の展望台サロンはサンルームと化して居ります。

長期に渡り、私の愚ブログにお付き合い頂いている皆々様。改めて厚く熱く御礼申し上げます。

今年は、私にとっては新しい出発年。ちょっと違うかしら？ どうやって「絶滅寸前県指定希少音楽フリージャズの風前の灯火」的、灯火を私自身が守れるのかっ！ という、ちょっと悲壮感さえ、まったく漂ってはいない年になるのですねえー。テイクイットイージーシステムおよび難のこれ式理論およびピアノ禁断症状と諸々の要素がクンズホグレッツするのでしょうかねえー。で、「うん、ピアノ、いやあー、僕はきっぱり止めましたよおー、意思が強いんだっ、僕う」、としてみる。絶対に、両手が震え出し、目が鍵盤目になってくる。と、やっぱりブログの総タイトルこそ、私なのよねえーと振り出しに戻る。

## とても静かに始まった2015

---

2015.01.02 Fri

昨年の大晦日は、一日学校に行っていたから帰宅後、ややへろへろ。とても、友人宅へ行き午前四時まで馬鹿騒ぎをする気にはなれず、カミサンと近所の美味しいと評判の寿司屋に行った。先週末に散歩がてら寿司屋まで寒波の中歩いていった。店内、お洒落、並んでいるお寿司のサイズおよびお魚の色合いもいい感じ。「三十一日、開いてますか?」「はい、通常通りです」「でも、値段が特別なんですよ?」「いいえ、通常通りです」「えっえっえっ、そうなんだ。でも、予約しないと入れない?」「いいえ、大晦日はとても静かですので、予約の必要はありません」。カミサンと、いいねえー、静かにねえー、お客さん五人ぐらいの寿司屋で大晦日、粹じゃん、それも・・・と、深酒なしの年越しという私には超珍しい状態が現れた。

ところで、パリもパリの近郊も地方都市も寿司屋だらけになってしまった。以前の中華料理店が皆、寿司屋になってしまったので。もちろん、パリの日本人街の板前さんたちは日本人。それ以外は、ベトナム人、ラオス人、カンボジア人・・・のはず。きちんとお寿司の勉強をした板前さんもたまに在るけれど、お酢の入っていない、つまり、日本米モドキの白米の上にお魚。向こうが透けて見えるような・・・。これを、焼き鳥のタレに付けて食べる、なあーんていう寿司屋が一杯出現。

良くフランス人に「日本人の板前がいる店の見分け方」を聞かれる。「はっはっはっ、店名で分かるよ。日本人経営じゃないところの店名・・・、東京、新東京、京都、大阪、いただきます、おいしいね・・・、だろ。で、そうじゃないとこ、たとえば、桃太郎、松田、やすべえ、たから、ビゼン、遊・・・、という感じね、簡単でしょ」。

とはいえ、ルマンとナンシーの寿司屋は出張のたびに行った。どちらもカンボジア人の板前さんだったけれど、非常に研究していて、美味しかった。その旨、板前さんに伝えたら、猛烈に喜んでいた。ただし、何回目かに、「あのね、ちょっとだけ苦言なんだけれど、凄く美味しいわけ。お米もゆめにしきでしょ? 俺には分かるよ。普通、モドキの日の出だからね。でね。お宅のお寿司、でか過ぎなの。二口じゃないと食べれない。おにぎりとお寿司の間。うん、フランス人の食欲には小さ過ぎる? じゃ、お寿司の数増やしてさ、同じ量にしてみたら・・・」。

ところで、近所の寿司屋のお寿司。日本人ではない板前さんとすれば、なかなか美味しかった。元々、フランスはお魚は美味しいところだから、美味しいお寿司を作る。そんなに難しいはずはない。技術さえきちんとしていればだけれど。

静かな寿司屋の大晦日。我々到着、午後七時五十分。店内のお客様、約十名。あっはあーん、午後九時には満席! 推定のお客様の数百二十名っ! 築地市場の朝市の中で夕飯取っているよ

うな感じになっちゃって、それはそれで、いい感じ。

## 久しぶりのピアノ

---

2015.01.03 Sat

っても、一週間ぶりぐらいだから、ピアノ弾きではない方々の久しぶりとは、大分、違うはず。

普段、相当、ピアノ筋を酷使しているから、ピアノ筋さんたちには、当然にしてバカンスになる。たぶん、一週間、南仏の海岸の長椅子に寝そべりシャンパン飲んでえーという感じなのだろう。で、久しぶりにピアノを弾き出すと、やはり、ピアノ筋さんたちも、バカンスの後だから澆刺と飛び跳ねてくれる。一週間ぶりに犬小屋から大草原に解き放たれたワンちゃんみたいな感じ。もう、私の指さんたちは、私とは関わりのない方々なの？ まああー、早い早い。首輪？ を引いても、わちゃーと駆けて行ってしまふ。飼い主？ の私はぜいぜいいいながらお付き合い。しまいには、草原を引き吊り回されている。

おっおっおっ、俺ってよ、こんなピアノ上手かったっけ？ という他人事のような感慨が訪れる。

今年は、イサオ、オリビア、マコト師匠とのアコースティックトリオの強化、および、同じメンバーでエレクトリックトリオもやっちまおうという計画もある。オリビアは、以前、ロックバンドでエレクトリックベースを弾いていたのだ。それと、オリビアと、ピアノ、ベースでアコースティック

デュオのビデオを作ろうという計画もある。どっかの城跡とか工場跡とかで……。ベルリンのトランペッター、ポールとの共演、リールのギターの名手クリスチャンとの共演、私のリール時代のユニットのメンバー、ギターのミモザとの共演……。すでに、諸々のプロジェクトが動き出している。

めげていても、疲れていても、多忙でも、私には仲間たちがいる。音楽は、一緒に、その瞬間、それぞれの人生という時間を共有できる素晴らしいもののひとつなのだ。私の一貫した態度は、絶対に、我々のユニットにバンドマスターはいらないということ。全員対等だし、なんの指示もない。一緒にぶち飛ぶっ、以上なわけね。私は、ややユートピック脳の持ち主であるから、せめて音楽の世界だけでもね、こうありたいのであるのだよおん。いい年こいてとか、馬鹿かあーとかいわれても……。きよわあーん。

## A業力

---

2015.01.04 Sun

毎々の手前味噌。ご容赦を。おっ、今ね、「裕イサオ シンセサイザー集」を聴きながら書き始めた。我ながら、凄いオヤジだと思っちゃったりする今日この頃のごろごろ。謙虚は美德なの？

うまあー、フランスでは駄目、ね。

でね、私は会社勤めの時は、「営業統括」という恐ろしいタイトル保持者であった。しかも、日本の大企業のフランスでの株式会社の。従業員が二百名だから、サービス業の中では、一番、でかいはずである。部下が三十人ぐらいた。日本人、フランス人、そして、下請けさん。日本からの日本人、こちら在住の日本人、フランス人、フランス国籍の移民二世たちと、諸々の人々の統括をせんければならなかった。うで、競合他社からは、凄腕営業マンとして恐れられていた。わけ。これは本当のお話だから、本名でブログは書けないし、ピアノも弾けないのね。パリの日本人社会は小さいから、いい評判も、逆も、すぐに蔓延する。でも、営業マンとして、私を悪くいう人は、競合他社を除いては、それほど多くはないはずである。うん、私は、やな奴では基本的にないからねえー。

でだ、こういう凄腕系の営業マンが「自分のこと」つまり「ピアニストとしての営業」、これが、じえんじえん駄目なの。

わっわっわっ、そういうもんなのね、人間ってな、その、つまり、良識ある芸術系は・・・。

そういう時代は終わっている。芸術家は、まず、なにより国際レベルの営業マンでなければならぬ。たぶん、先駆者がアンディー・ウォホールだと思う。でも、私は、駄目なのだ。相変わらず、デュシャンのまま・・・。でもね、作品のクオリティーは、後者が圧倒している。極北営業と無営業。アイロニカルな世界でしか、芸術系は生きてはいけないし、ジャフ君とか村上君みたいな億万長者の出現は、私は、素晴らしいと思っている。芸術＝貧乏の図式は崩壊してもらった方が楽しい。でも、俺は自分の営業は嫌いなのだ。どうしてなのか分からない。自己顕示の仕方が複雑なの？

## 39km地点

---

2015.01.05 Mon

今日は1月4日2015年日曜日。でも、この記事がアップされるのは明日、月曜日。私は学校に行っている。月曜日から水曜日まで、フランスの歴史、地理、英語と続き、木曜日は実技。あはあー、これで卒業なのだ。マラソンの39km地点みたいな感じで、国立競技場の歓声がなんとなく聞こえてくるような……。えっ？ うなわけない？

いったいなんの学校に行っているのか、現時点ではあえて書いていない。

生徒数12名のうち、就職先が決まっているのは、一番年長の私だけなのである。でも、大丈夫。私の同級生たち、彼らは明るいスタフだし、プロのライセンスをこれから取得する。大丈夫。これから、人生という長い航海、ちょっとチンケな比喻だ、出発する兄貴たち。二十代後半で、一回、挫折した兄貴たち。諸々の事情、解雇、自主退職、会社倒産……。で失業してしまった中年のオヤジたち、新天地を求めて男性陣に一人だけの女性。

皆、同じ仕事に就くから、すっかり仲良しになってしまった。同級生から同業者へ。この仲間意識は途轍もなく強い。私はミュージシャンだから、この感じは良く分かる。徒党を組むのは嫌いだけれど、一匹狼同士の仲間意識はいかしている。

パリの近郊で、諸々の人生が交差している。

## 寒波

---

2015.01.06 Tue

昨年のイルドフランス地方、寒い日があった記憶がほとんどないのに、今年は、寒波寒波。寒い。

体感温度って、皮膚の表面ですよ？ 分からない。皮下脂肪が多い人の方が寒くないのかしら。熊なんて温かそうだ。それか、膨れたお財布も防寒になるの？ どっちもないから、ひたすら寒い。さっき、学校から帰ってきて、ふむ、ちと、ピアノでも、なあ———んて思ったのだけれど、手がぱきぱき。諦めた。こういう状態で、私のいつもの奏法をやると、指骨折する。マジで。新年コンサートが近付いているから、ちと、練習をしたい。しかも、考えたらオリビア加入後のトリオが、トリオでやるのは初めてなのである。オリビアの繊細なベースを十二分に引き出すには、珍しくスロー、バラード系で迫るつもりでいる。真師匠は、なんでもござれの超プロだから、バラードでもハードでも、「好きにしてっ！」以上なのである。

そういや、私のイメージもあるんだけど、あんまり、スロー、バラード系は公の場ではやらない。まず、難しいのだ。それと、感情移入の仕方が、これまた難しいから、イモになり易い。やっぱねえー、ビル・エバンスの凄さは、逆にピアノ弾きの方が、良く分かるのかも知れない。難しいのだよ、あんな色っぽい弾き方。で、すぐに捻り鉢巻でハードハードハードで煙に巻くというベクトルを描く。まあ、明るくていいといえはいいんだけど……。ビルの弾き方やっつと、病気になる。体育会系ピアノ、寒いからねえー、体温めないとねえー、と、結局、こうなっちゃう。で、下手上手ピアノが出現するのである。まっ、いいか？

2015.01.07 Wed

黒いジャージの上下に頬被り、ラバーソール(なんのことはないゴム底)の靴。キョロキョロ。だれもいない。そおーと「日本ブログ村」サイトへ。キョロキョロ。

「Inの順位？ ぎゃ、やっやばいいー、11位っ！」

ランキングバナーのない師匠のブログは？ ふっふっふっ、俺は過去記事のバナーを押ししたり裏工作に奔走しておる人呼んで、裏・工作と申すもの。さあーて、ぎょ、やっやばあっ、32位っ！

「いやいや、師匠のブログの推定アクセスは170万人、ダントツOutだっ！ ぎょ、俺、14位、師匠、ぎょ、やっやばあ、俺が漬物石、15位」

なんのなんの、注目度は師匠が上だっ！ 注目記事注目記事いー。

「ぎょ、あららあー、俺の記事14位いー、やばあ」

「よっし、受けない音楽、裕イサオユーチューブチャンネルだっ！

ぎょ、総再生回数8857回いいいいいい、登録者数19名ええええええええええ、やべっ！」

たあーりりりん、たーりりりいいいいいいんっ！ あっ！ 小さな柴犬を連れた男と、なぜか目が合った。けれど、私は、ベーゴマの物真似をしながら、バレリーナ挨拶をして、こっそりとその場を去った。

## 兄貴の考察

---

2015.01.08 Thu

久保の兄貴が、私の愚ブログを記事の中で、複数回に渡り取り上げて下さった。ありがとうございます。しかも、スルドイ、ズバリの考察までして下さいました。深々とお辞儀です。兄貴、「その通り」です。

私、「も」、あえて「も」にします、駄目なのです、水戸黄門。

「定型」、これが体質上できないのです。それで、「ジャズ」は、私にはできなくて「フリージャズ」になってしまいます。

我々は、リハーサルを一切しない。コンサートの打ち合わせも一切しない。反省もしない。

その時、その時、一瞬に賭けている。という不逞の輩。同じ曲を同じように三十万回弾くピアニストもいる。こっちの方が受ける。なんどもなんども聴きに來る。裕イサオ、同じ曲をまず弾かないし、弾いたとしても、毎回、全然違う。「パン屋」なのに、なにが置いてあるか分からん、そこそこ、そこが楽しいのよお——という常連さんしか來ないのです。「ウヌ・バゲット・シルブプレ」「へっ、きゅうり」を出す。「ぎゃあ——はははははあ——」と乗る方しか來ないのです。というわけで、私はCDを作らないのです。ライブこそ私の音楽の根源なのです。

「定型」の極北に、伝統芸能があります。これはこれで素晴らしい。でも、私は駄目なのです。「型」、これを受け付けません。すぐに喚く。離せっ離せっ、にやろ——って！

「受けないまま」、自己満足の世界へ……。そして、嘔き零れるナルシスとプライドと気骨と恍惚と満腹を、皆様方へ日毎、お届け致したい所存であります。げっ！

「脳内ハレーション」なのだっ！ 私は、「もっと重症の男と出合った」。えっえっえっ、だれ？ codenameKである。お辞儀です。えっ、私の方が重症？ うな、馬鹿なのコカバァーナっ！

2015.01.09 Fri

「マナカ」？ ミュージシャン用語にしたわけは、私は徒党は組まないからである。私は、それが一番嫌いなのだ。個々人でばらばらの人間たちの密かな「マナカ」、これは、超絶的に愛している。長期に渡り、私の愚ブログにお付き合い頂いている方々は、ご存知の通り……。あっ、「ミツヒのアッコちゃん」。おいおいっ、なんのこっちゃか分からんっ！

1月9日2015年 パリは「戦争が始まる」雰囲気にも包まれている

これ以上は、書きたくない。私は、そういう雰囲気が一番嫌いなのだ。

そういう雰囲気の中で、五十五歳の日本人のオヤジは、学校を卒業した。今朝、プロライセンスの申請に行った。一悶着があった。フランス人なら、市役所に出向く、以上という書類が私にはない。当たり前である。実家からほど遠い市役所に、「私自身ないし代理人」が行かなければ入手できない。法定翻訳がいる。これを持って行く。物理的に無理である。

同行してくれた近所の同級生が、上手く立ち回ってくれた。代替え書類でオーケーとなる。

現在、「戦時中としての武器」を持った警官隊に囲まれて、諸々の作業をしている。卒業の喜び自体がどこかに行ってしまいそうである。私は、諸々のものに参加はしない、けれど、心の中で密かに黙禱した。

「定型」を、私が忌み嫌う理由は、「狂信」に近づくからである。「自由」、脳内だけでも、せめて、そうありたい。

## 複雑な気持ち

---

2015.01.10 Sat

「グローバリゼーション」、これがなんなのか私には良く分からない。簡単に言ってしまうと「西洋化」みたいにも聞こえる。もっと直裁に「白人化」かも知れない。アメリカとかフランスとかドイツみたいにならなければいけない。というようにも聞こえる。

私の母国は、超絶的な優等生である。ただし、だれも疑問葛藤なしにそうなった、「稀な国」。これが素晴らしいのか、これまた私には分からない。少なくとも、現在のパリの状態、ピリピリ感を理解不能と判断する。

これに反対する人々が当然にしている。ただし、狂信的なのは、ほんの一部の人々。じっと、考えてみると、芸術家、フリージャズメン、超少数派である。相当な狂気がないと続けられない。私は、その範疇に属している。

うーん、非常に重たい内容になってしまう。「切羽詰まった暴挙を誘発しているのは、なんとなく、こちらなのではないのか」という大きな疑問が沸いてくるのである。これを、ジャズメンとして解釈すると、「ジャズメンの暴挙の根源は、そちら」である。という恐ろしい結論になってしまう。

でね、私の理論上は、一つしかないのである。「なにも信じないことを信じている」。脳が自由域を出ない限り、暴挙は起こらないし、最終、ユーモア感がすべてを飲み込む。真理はないという真理を多大なるユーモアと共に、真理として理解すれば、すべては・・・。

やはり、デュシャン師匠に出てもらおう。「解決などない。そもそも、問題がないからである」。

2015.01.11 Sun

私は、元物書きの端くれだから、「書かない」ことのスタンスは明確にある。炎上が嫌だとかそういうことではなくて、私には本質的な問題とは思えないからである。私の中の「書かない」リストは、時事、政治、宗教、民族、個々の国の文化伝統・・・、となる。どうしてなのか？ それは、個々人の問題だからである。私が物言いを付ける筋合いはどこにもない。唯一、こちらに圧力が掛けられた時、これには明確にお答えする。以上なのである。

そして、とうとう、私は私なりの私の中の禁を破らざるを得ない。でも、非常に簡潔に・・・。

私の思いは記事「複雑な思い」の中に、活写されている。これ以上の言及は不要と判断している。でも、一つだけ日本の方々に分かって頂きたい事がある。以前、「エッフェル塔爆破計画グループ」がフランス国家警察の執拗な追跡の上に発覚し、逮捕、膨大な爆発物の押収という事件があった。

そして、今回の事件・・・。フランスという国、フランス人の神経中枢に触れた。フランスは市民革命の先駆者である。「言論の自由」という人権を多大なる流血の歴史と共に築き上げてきた国である。そして、今回の流血は、彼らの中枢に抵触した。絶対に許さない。そういう国民だし、絶対に屈しない。そういう国だ。

でも、非常に難しい・・・、私は、なんの擁護も弁解もしない。でも、加害者のバックグラウンドが気になってしょうがない。とりわけ、その両親の現在という恐ろしいイメージ・・・。低賃金でゴミ回収、地下鉄工事をしてきた移民一世の人たちの万巻の思いと悲しみが、なんか伝わってくる。世代の断絶感は分かるけれど、その断絶の距離と現状は、私のような「高級移民」に分かるはずもない。本当に、誤解しないで頂きたい。私は、テロも暴力も容認しない。理不尽な殺戮。理不尽に人生が切断される。そして、である、亡くなった方の後ろに、生きている家族がいる。個人の人生の破壊、その上に、である、この生きている方々の人生を破壊したからである。そして、射殺された加害者の後ろにも、生きている家族がいる。彼らは、それも破壊した。こちらにいる苦しみを彼らには理解できない。唯一、「生き地獄」こそ、彼らには相応しいと考える。死が最後通牒、馬鹿にするな、生きている人々を。

## 秒読み

---

2015.01.12 Mon

うーーん、いつまでブログが続くのか？ 秒読み段階に入ってきた。その、続けりゃいいというわけではないのだけれど、でも、続くことは、やはり、結構、人生時間上は、小さな問題ではない気がしている。盆栽老人が、盆栽をいきなり触らなくなる。これは、やはり、相当にして、なんらかの問題発生と理解できる。

で、私の場合は、別に重大なる問題発生ではなくて、人生時間の再構成というだけ。その構成上からブログが漏れてしまうという疑惑。うーーん、段々、そうなっちゃうだろうなあーー、なんか、悲しい。

以前にも何度か書いた通り、「ピアニスト裕イサオを守る会」の会長なのによって、俺。プリアリティーはピアノにある。あっ、痛っっっっっ、すっすいませんっ、カミサンの次にね。老夫婦はねえー、楽しくないとねえー。さっ、ピアノピアノ、えっ、料理？ ここで素早い裕センセ。ジェームズ・ボンドの拳動で、えび天うどんを作っちゃったあー、舐めんなよって、世間様。世間ってさあー、だれだれえ？ ローラ。

2015.01.14 Wed

今日も、ブログはパスしようと思っていた。昨日のコンサート映像をムービーメーカーにレジスターし、さあ、編集と画面を開いたら雑音。あれっ、まずいなあーとオリジナルフィルムを見たら、雑音がない。再レジスターとなり、時間配分に空きができた。昨日のコンサートは、オリビア加入後のトリオがなぜかトリオで初めてやったのである。三人、超仲良しだし気心が知れている。ハード系、バラード、スタンダードと私は弾きまくったのだ。気持ちえがったあー。三人、へろへろ目のまま、マッサージ室から出て来たような至福の垂れ目で抱き合った。もう、止められんのだ、こういう人生。

パリの不穏な雰囲気と、私の社会復帰が刻々と近付いている中でのコンサート。なんか、音の世界で合体ロボ化。至福の境地を三人で彷徨っていたのである。

なんか、珍しくインターネットで見たというお客さんが多かった。日本に行ったことのあるフランス人のお客さんで、ネットで日本人のグループ？ あっ、珍しいという感じでいらしたらしい。プロのジャズシンガーも、ずっと聴いてくれた。ありがたいことに、皆、仰け反っていた。ジャズ狂ファンのお一人が、私が珍しく「サマータイム」をイサオ節で弾いたので、半泣きしながら喜んでくれた。「なっ、なつかしいiiiiiiiiiiiねえー、裕さあーん」って。ついでに、「マイフーリッシュハート」「タイムアフタータイム」も弾いちゃった。後者は、アンコールの、またまたアンコールでオリビアとデュオ。真師匠が客席でじっと聴いてくださった。「おわあ、聴いてる方が楽しいiiiiiiiiいん」と変な風に喜んでいらした。

とうとう、イサオ、オリビア、真師匠に沖師匠、この四人で、エレクトリックバンドをやることに

なった。私、シンセサイザー、オリビア、エレクトリックベース。私「うにやややややや、嬉しいけど、社会復帰の状況しだいねえー、再就職、いきなりお暇ちゅうわけにもねえー」。皆に「弱虫、意気地なし、なんのために社会復帰するのじゃ、おおー、ジャズのためやんか、本末てんとう虫iiiiiiiiい」と小突き回された。羽毛おー、すでに五月末までコンサート予定が入っているちゅうに、+エレクトリックバンドの立ち上げえー！ 三回ぐらいやろうぜえ、だって！ おっおっおっ、折れねえーぜっ！ シンセサイザーで、世間を見返したるうー。ところで、世間ってだれなの？ 具体的なお名前を挙げてみろっ！ えーとえーとエートマン。

## 久保の兄貴は「ただの人」？

---

2015.01.15 Thu

久保はつじ兄貴の記事を読む度に、私の神経中枢に迫ってくるものがある。どうしてなのか？私も詩人こそ、天職だと信じていたし、「私は特別な人間」だと思っていた。「特別な人間」？本当に、心底、そう思っていた。55歳と9ヶ月の現在、「今でも、そう、思っているの」？

私は、今でも、「同じことの繰り返し」が、どうしてもできない。二十四年間、私が蔑んだ「サラリーマン」の生活をしてきた。でも、毎日毎日、変えた。「仕事」は「遊び」と同義化しようとしてきた。そうでないと、私は、エトルタの断崖に吸い込まれてしまうという体質なのである。折れるわけにはいかない。私は、言ったことは訂正はしない。二十歳の糞生意気な私が言ったこと、これは現在でも時効ではないと考えている。それは、若い時分の自分への敬意なのである。唯一、「あの糞生意気な二十歳の裕イサオ」に対峙できるもの、ぎょ、年輪を重ねた「更にパワーアップした俺」しかいない。なめんじえねえー、若造っ！

と、脳内独り言を日毎繰り返している。この葛藤、この心の老いとの葛藤、葛藤していることが現役の証明。この葛藤がない人は、そもそも、ブログは書かないだろう。

「久保はつじはただの人？」、とんでもはっぶん、詩人であり芸術家である。金子光春が「僕はね、詩に愛想をつかしたから、今後、一切、書きません」って「言ってからの詩が金子光晴詩集の四分の三を占める」。久保の兄貴は、このレベルに到達している稀な方である。たぶん、詩人に本当になっちゃったからだぜって、兄貴っ！

2015.01.16 Fri

社会復帰の日取りが大体決まってきた。ということは、10日間ぐらいは、仮出所みたいな感じ。うで、暇なのかというと……。もう一度、パリの歴史の概略の復習でしょ、新しいエレクトリックバンドの曲作りでしょ、新しく買った携帯に職業用の諸々のインストールでしょ、うで、家の諸々が老朽化しているから、諸々の修理でしょ……。と、暇にならん。あっ、そっ、エレクトリックバンドの名前、一瞬で決まった。仲間の承諾ゼロなんだけれど……。、「IOM ELECTRIC」、なんとなくスペルが違う気もするけれど、トリオの頭文字をとるとこうなるわけ。もう、音作りを始めた。おっ、菩提樹の枝切りはどうすんべえー、息子に押し付けかしら？

でね、結局、ブログを書いている時間は、今後、なくなる。と思うと、色々書きたいことが脳内炸裂する。で、今回、「スマホ」について書くことにした。予告編だと、「年齢によって似ている人が変わった俺」「脳シンセサイザー」「私のお気に入りブロガーさんたち」ちゅう感じ。10日間でなんとかすんべえー。後は、へめらもである。ブログの閉鎖はしない。おっ、最後に、前回のコンサートビデオ添付しちゃいます。私なりには、ずげえー——いい感じいいいい。今、BGMで聴いている訳。

はい、私の実家の小山の上に、「オスマ様」と、皆が呼んでいる神社があった。凄い長い階段があったんだけど、なんとなく、親父とお袋が「いっちゃ駄目」ちゅう目付きをしていた。から、仲間と行った。階段脇の雑木林とか境内の隅に、パンティーとかブラジャーが一杯落ちていた。小学生の性欲に多大なる隠微な甘美なトラウマを授けてくださった。でね、「スマホ」という日本語を聞くと、この神社を思い出す。

うで、ソニーの一番安いそれを買った。99euro、超絶的に安い。フランスは、アイホンマニアを除くと、ほとんど、皆、サムスン。サムスンにするべえーと思ったんだけど、おっ、日本語はどうなるのだ？ ここで、胆略な裕センス、ソニーなら入っているべ、となって購入。基本的には入っていた。正解だった。でもでもでも、PoBox5.1が入ってねえ——、ケチっ！ ほんで半日掛けてインストールトライ、挫折。グーグル日本語入力でよしとした。大体、私は、電話、とりわけ携帯が大嫌いなのである。その、「仕事で使う」、これは分かるし現代社会では、マストだ。でもさあー、ボタンとトイレ。ズボン下げる。大ちゃん。「あっ、う——ん、えっ？ ちょ、ちょ、待ちい、う——ん、こ」とやっている人を、お小水をしながら扉越しに聞いた時は、正直、これ、病気じゃん、と思った。では、盛沢山なんだけれど、ビデオの前によ、ノンセンスを一発、はい。

ハレー彗星はいつ見えますか？ はい、晴れの日です

ハレーションとカーネーションの関係は？ はい、晴れた日に金が入るとそうなります

裕さんは二枚目ですか？ はい、そう「でした」

## だれかに似ている

---

2015.01.17 Sat

二年前ぐらいに、同じような記事を書いたのだけれど……。たとえば、年代ごとに「私が似ている俳優」が、少しずつ変わって来ている。

二十代 松田優作 ただし、松田さんを小さくした松田さん。で、女友達が、「イサオもさあー、後五センチだわね」「あっ、身長ね」「うーーん、足が後五センチ長ければねえー」=俳優になれた。じゃかあーーーしいーーー。

三十代 田村正和 最年少課長の後光もあったかも、よく似ていると言われた。えっ？ いい意味じゃないの？ 分からん。

四十代 役所公司 を、女っぽくした感じ、だって。よく分からん。まあ、確かに似てはいるけれど、役所さんの方が、ずっと、体格がいいし、男臭い、つまり、ずっとセクシーである。

五十代前半 ジャッキー・チェン ただし、体と財布の貧弱な……。だって。じゃかあーーーしいーーー。

で、現在。母方の伯父さんに超似ていると言われる。伯父さんは、今年で九十歳。絵描きなんだけれど、一家五人は養えないから、定年まで県庁に勤めていた。非常に真面目な勤め人であり、狂気の絵を描く凄い人である。二束の草鞋をずっとやってきた人である。定年後は、もちろん、絵、旅行、遍路さんと動き回っている。今でも、電車バスに乗らずに、町中は徒歩である。

伯父さんは、とても、お洒落である。絵描きだから、着ているもののセンスは抜群。伯父さんと私が二人でサングラスして、妹を中華飯店の前で腕組みして待っていた。妹到着。「げっ、親子だあーーー。うちの父親より伯父ちゃんにそっくりいーーー」だって。

妹の分析では……。二束の草鞋、真面目と狂気、酒飲み、ベースケ、根が優しい、非常に似ているそうである。

伯父さんには、日本へ帰るたびに必ず会う。必ず、私のコンサートを聴きに来てくれる。「いやあーーー、イサオ君の音楽は、俺にはよく分かるんだよ、体全体で弾いている姿がいなあーーー、あなたは、ピアノのバン・ゴッホだよ」。

伯父さん、絵の色々な賞を取っているし、なんかの週刊誌の表紙絵も描いていたから、もしかすると、目に留めている方もいらっしゃるかも……。でも、伯父さん、絵、気に入った人にあげ

てしまうから、画商は仰け反り。家に一枚も絵がない。

## エッフェル塔

---

2015.01.20 Tue

またまた、フランス史のおさらいを始めた。覚えるのも早いんだけど、忘れるのも超絶的に早い。頭というのか記憶力がいいのか悪いのか自分でも分からない。ベルサイユ宮殿の建設年、もう、すっかり忘れてる。うーん、十七世紀だよーん、これしか覚えていない。第一、覚え難いのだ。前身であるルイ十三世の狩猟の館の建設年が1624年。ルイ十四世が増築を開始したのが1661年。ル・ヴォーが担当した二度の増築が1698年まで続く。その後、マンサールが礼拝堂とオペラ劇場を建設。1770年に工事が完了しているから、百年以上、工事をしてきたことになる。フランス革命前夜みたいな時期まで、延々と続いていたわけである。うーん、ベルサイユ宮殿の建設自体が、フランス革命の引き金なわけだ。いや、1661年から1770年って覚えちゃう。

でね、観光でフランスにいらっしゃる方々。別に、そんなややこしい年代などご興味がない。これは経験上知っているのだけれど、聞かれた時に、えーとえーとエートマンではかっちょ悪い。だから覚える。でも、実際に面白がってくれるのはエピソードの方ね。たとえば、「エッフェル塔」・・・。

高さ324m。でもね、一番上の放送用アンテナは後で設置されたから設計段階では312.3mだった。で、1930年ニューヨークのクライスラービル319mができるまで、世界一高かったのだ。じゃ、東京タワーは？ 332.6mなのである。じゃ、東京タワーの正式名称は？

「日本電波塔」。いやあー、私は、ずっとエッフェル塔のコピーだと思っていたら、設計者の談話では「理想的な塔を数値で表したら、この形になりました」。つまり、エッフェル塔とは関係がないということでした。これは、最近まで知らなかった。まあ、ちょっと、エピソードちゅう感じ。で、エッフェル塔は1887年から2年2ヵ月で完成(しかも、無事故)。パリ万国博覧会1889年。つまり、フランス革命百周年記念です。おっと、じゃ、二百周年記念の建造物は？ オペラバステューユとルーブルのガラスのピラミッド。で、エッフェル塔の設計担当はエッフェル社。ここの社長がギュスターブ・エッフェルだったわけ。でも、実際の設計は二人の社員が行ったよう。で、鉄製ではなくて、正確には錬鉄製。炭素の少ない鉄です。と、こんな説明を早口でやられたら寝ちゃう。

ご存知の方も多いと思う。やっぱ、エッフェル塔のエピソードで一番面白いのは・・・。  
ギ・ド・モーパッサン。

エッフェル塔建設(他に二案があったけれど)が決まる。当時の文化人、芸術家たちが建設反対の陳情書。その反対派の一人にモーパッサンがいた。ははは、実際にエッフェル塔が完成すると、彼はエッフェル塔のレストランに通い出したのである。そして、あの有名な台詞・・・。

「ここがパリの中で、いまましいエッフェル塔を見なくてすむ唯一の場所だから」

さすが文学者。やることということがいかしている。

注 歴史の勉強にやや辟易。ブログ書きで「勉強したことに」しちゃったあ！

2015.01.21 Wed

社会復帰まで、後5日。ちゅうても、第一、復帰していないこと自体が変だよなー。もちろん、私はジャズメンとして社会参加はしているけれど、あんま、必要がないわけ。だから、マネーも入らない、から、食えない、から、もう少し、食えるところへ移動する。じゃ、復帰じゃなくて、参加の仕方の変更ちゅうことかしらね。そうね、お金の湖に向かってえーちゅう感じかしら？ でね、私はマネーはいらん。けれど、餓死はできんから、最小限度というスタンスである。おっ、このユートピア的発想は、社会では通用しないのだ。私は売れっ子系体質だから、仕事を始めるとばしばし。真面目にばしばしやっちゃうから、がばがばとなる。少しでいいって！ っているのに。なんか、この芸能体質ちゅうのは、意外と社会では必要とされているわけね。営業とかサービス業とか・・・。人と人の接触の最先端にいる仕事だから、非常に適任者が限られるの？ まあ、空気読みとか、しゃべり過ぎないように、結構しゃべっているよ、本音は言わないとか。まあ、狡猾なわけだ。でも、私は、こういう営業接客ノウハウが嫌いなのだ。嘘八百で脳が反転してしまう、から、ピアノでバランスを取っていた。私の営業脳は相当優秀らしく、正直、本人が一番苦しんでいたのだよ。女性を口説いたりする時には、いいんだけどな、こういう才は。

ほほほ、明日は、「ルーブル美術館の歴史」を書くから、覚悟するようにつ！

2015.01.22 Thu

ルーブル城という要塞が建てられたのは1200年頃。フィリップ二世。この城が当時のパリの西の端になっていたから、パリも小さかった。なんで要塞？ そう、セーヌ川を下ってバイキングが攻めて来るからである。フランス語でバイキングをノルマン人と呼ぶ。なんか現在のパリのイメージからするとピンとこない。十四世紀にシャルル五世が要塞を城館へ改築。結局、フランソワ一世の時代、正確には1546年にルネサンス様式に改築。ルーブル宮殿となる。カトリヌ・ド・メディシスの時代まで続く。ぜえぜえ……。で、ルイ十四世が1665年に更なる改築を始めるのだけれど、ルイ十四世、幼少期にパリで暗殺され掛けたトラウマで、どうもパリがお好きではなく、結局、宮殿をベルサイユに移転してしまった。1682年である。

結局、ルーブルが宮殿ではなくなったのである。この頃から美術館化が始まっている。正式な発足は1793年。この時の展示品の数が537点。ナポレオンの時代に収蔵品が増え始め、一時期「ナポレオン美術館」という名称になっていた。

ありゃー、疲れちゃったよ。でね、世界最大の美術館のひとつ。ご存知の通りです。年間の入場者数800万人。美術館としては世界一位。一日1万5千人なわけ。で、現在の展示品の数は35,000点。収蔵品は380,000点。

面白いエピソード？ ふーむ、あっ、そうだ。どうして「モナ・リザ」がルーブルにあるの？ はい、フランソワ一世、ダ・ヴィンチを宮廷に招いて擁護していた人。フランソワ一世が購入したのである。この「購入」というのが、どうもピンとこない。二、三度、私は見ているのだけれど、日本人女性が「あら、画集とそっくりねえー」とおっしゃって居られた。そういや、日本からいらした知人が真顔で、「裕さん、外人が多いのねえー」。

「えっ？ おっ、ぎゃーははは、オバサンっ、ここフランスだよって」。

## One day is one day

---

2015.01.23 Fri

という台詞が出てくるCMがあった。この音感に仰け反った。ソニーのなんかのCMだった気がする。

娘を空港に送りに行く。帰路、買い物。鄙びたタバコ屋でベンソンを買おうとしたら「ない」というので、フォーチュナにする。なんとなくもち米が食べたくなり作る。社会復帰の準備。庭の菩提樹の枝切りの続きをする。ぜえぜえ。息子が来るので、カレーの仕込みをする。ピアノの練習。「赤とんぼ」を、裕節で「赤ボンド」に編曲する。ぜえぜえ。その後、これを書いている。

作者注 「鄙びたタバコ屋」 同じ町の外れ。初めて行った。なんとなく、すべてが鄙びているのに、ハーレーダビッドソンが、右の方に置いてある。カフェ兼用のタバコ屋なんだけれど、若いカップルがだべり。ママさんが出てくる。たぶん、私と同じ年ぐらいだろう。すげえ——、綺麗なママさんである。げっ。また、買いに行こううううううううううう。

「赤ボンド」 とんぼをジェームズ・ボンド系にするという意味である。

2015.01.24 Sat

なんか、訳の分からないタイトルが浮かんだ。

私の展望台サロンの景色は、ハリセンボン化した菩提樹のぶっとい枝で遮られていた。ちびちびと切り始め、本日午後、息子が残りを切ってくれた。どばっと、洗濯物を持って一ヶ月ぶりに、昨晚、パリから帰って来たのである。高々、三十五キロしか離れていないけれど、私はお邪魔しない方針である。カミサンは、ちょこちょこ「お邪魔虫」。

親父であるわたくし。ぎこぎこ、十五分後、ぜえぜえ。これを繰り返している。二年間、放置していたから、太い枝は直系五センチを超えている。梯子の上、足場が悪い状態で、ハリセンボン切るのは、至難の技であるし、私は、高所恐怖症。やばいのである。筋肉隆々ラグビーマンのような息子。菩提樹のど真ん中まで上り、どかっと座る。「あー、パパ、久しぶりに田舎来ると、空気の匂いがいいねえー」なんていいながら、ぎこぎこ。「おい、お前、無理すんな、疲れたら、下りて来い」「大丈夫、空気がいいなあー」と二時間ぐらい休みなしで、ぎこぎこ。

なんなんだっ、この体力。菩提樹の上で、お隣の奥さんと雑談までしている。私は、「ぼっ、ぼんじゅー」ぜいぜい。が精一杯なのだ。まあ、私より子供一人分体重が重いし、心脈がビヨン・ボルグなみだから、適わん。もしかすると、スーパーマンなのかつ、こいつ？ 親父は隠しているのに？ 俺の息子なのに、怒っている姿を見たことがない。いつも、泰然としている。本当に、俺の子なの？ ばしっ、痛いっ！ カミサンは、一日中、洗濯して居った。

ははは、なんかねえー、親父って、息子や娘が大人になると、大人しくなる。この字の通りね。「大人」になる。でね、俺は生んでねえーから、自分の子の実感はない。医学的なデータでは、確かにそうなんだけれど……。俺は、もう直ぐ五十六歳で、息子が二十六で娘が二十四。親父の実感？ 全然ない。

俺は、ジャズメンだぜっ、あんたら、だれっ？ という傾向が、ちょっと、ある。いや、チビの頃は、「親父責任感」、あり過ぎたけど、今はないという意味ね。こいつら食わせんと、と、親父はしゃかりきだったんだぜっての。

大丈夫だよ、お前＝カミサン、お前の旦那＝俺、より、あいつらの方が、ずっと、立派だよ。大丈夫。昨晚、テレビで「IQテスト」の番組。俺は、「マツコの知らない世界」をチューブ。翌日、カミサン、なんだか嬉しそうに、「あなたっ、あたし平均値だったっ、そんなに馬鹿じゃなかったのっ」だって？

作者注 この不思議な喜び方が、内のカミサンである。えっ、俺？ あっ、二年前ぐらいに、「この件」については書いたよおーん。えっ、自慢？ そんなお下品なあーん。ピアノはアインシュタインとだけ、申し添える。えっ？

## ピアノ

---

2015.01.25 Sun

こういう核心的なタイトルを付けると、「あとがきシフト」が脳内を過る。で、書きそうになる。やはり、物事には始まりと終わりがあるから、終わりが始まりにもなる。でも、人の人生は残念ながらというのか幸運にもメビュース現象はないから、終わりが来る。この循環が保てるのは、生物学的に生きていないと駄目なわけだ。

本日は、2015年1月25日、日曜日。なんか、「日曜日のあるべき姿のような日曜日」を過ごした。素敵である。風呂、髭剃り、鼻毛切り、料理、ブログ、インターネット、スマホの諸々のインプットと操作の把握。ピアノの練習。間もなく、この曜日感覚ゼロの世界が来るから、逆に、愛おしい感じがしたんだろう。

この愛おしい感覚の延長線上に、スマホにゲームのインプットをするかブログを書くか、少し、迷った。で、結局、ブログを書くことにした。スマホは、今後、私のパートナーになるから、後日とする。

ところで、以前、書いた。私がピアノ教室に通い始めたのは、五歳の時である。福島県いわき市の常磐炭田の最盛期の頃である。たぶん、日本中から諸々の人々が飯を食うために来ていたはずである。ピアノ教室は、炭住長屋と呼ばれる一角の向こう側にあった。私の両親の家からだ、その一角を横切る。私は、この一角を愛していたし、学友も、皆、そこの住人だった。あれ、なんで私は違うのか？ 大した話ではなくて、親父の職種が違っていたから、そう、なった。どうも、バイエルの教科書がハレーションしていた。でも、ピアノ教室の先生が綺麗だったから、ちゃんと通った。綺麗な先生に褒められると、老人性欲の反対の幼児性欲みたいなものが刺激されたから、当然にして、優秀な生徒になった。で、十二歳で止めた。このハレーションの違和感が酷くなったためである。

ピアノとの再会というのか再開は、三十五歳。プロ登録したのがシジューの時。私は、二十三年間の月日をワープしたのである。ピアノが、単なる道具、私のための道具という分かり易いものに変質したからだ。

2015.01.27 Tue

本日から企業内研修の予定が、先方も忙しく延期になってしまった。仕方がないのでスマートホーンの最適化をすることにした。ある意味、こんなのん気な一日を過ごせるのも、嵐の前の静けさ的休暇みたいなものなので、今の内に、精一杯エンジョイしちゃおっと。スマホを十二分に使いこなさないと、仕事にならないので、今の内に、ばしっと掌握しなければ・・・。

ところで、「一番安い電化製品しか買わない主義」かも知れない。テレビ、冷蔵庫、パソコン、電動芝刈り機、そして、スマホ。すべて自慢じゃないけれど、一番安い機種。でもでも、299ユーロの東芝のパソコンは、私の能力にはぴったりだし、99ユーロのソニーXperia E1。会社勤めの時に使っていたiphone4とブラックベリーと比べても、私の能力使用範囲にはぴったり。上級機種なんてじえんじえん必要がない。しかも、フランスは、「はい、もしも・・・」で、ひったくられたりするから安物の方が気が楽である。インターネット、電話、メール、そしてバブルゲームにしか私は使わないから十分なのだ。ビデオとか音楽鑑賞もしない。脳内に音が鳴り響いているから、音楽、聴かないのです。

といいながら、掃除機はボッシュのサイレント掃除機だし、ガスオーブンと食洗機もやや高級。内のカミサンがその形サイズ色合いに煩いからである。四角張っているのは嫌だ。丸いのも嫌だ。真っ白も嫌だ。派手なのも嫌だ。成金系も嫌だ。さり気なく、なんとはなしにやや象牙色っぽい白で、デザインがシンプルなもの、なあーんちゅうことになるから、結局、中の上ぐらいのやつになる。幸い冷蔵庫が一番安いものが、たまたま、一番素敵だったのだ。セーフ。私はまったくもって無趣味人間だから、一番安いもの、必要なものだけ、以上みたいな感じなので、たぶん、一人で住んでいたらあーん。なんの装飾もないということになる。実際、一人暮らしの時はそうだった。っても、美術作品、その材料に埋まっていたけれどね。と、私の家の全体の雰囲気装飾諸々の選択は、すべて、カミサン。なんの異論もない。お洒落過ぎないところが、お洒落なんで、私は気に入っている。まあ、家が築115年だから、この家の元もとの雰囲気と上手くバランスを取るといことなんだろう。大理石の暖炉の脇に、銀色のハロゲンランプちゅう感じ、悪くないわけね。

あれ？ あーん、楽器ね。楽器は、当然にしていい方がいいのだ。とりわけ、私のような2.7流ピアニストなんかには、せめて楽器だけでも1流をっ！

2015.01.28 Wed

1月25日の記事でブログは一区切りのはずだった。不定期更新へ。でも、今週の予定が延期状態。この状態、バカンスでもないし、同じことだけれどお休みとも違うし、コンサート活動は自粛しているし……。ミュージックとかブログ脳は停止しているのに、変な風な暇タイムが現出。すでに脳も体もジェームズ・ボンド・シフトに移行しているのに、出動待機状態。宙吊りだね、これは。

などといつつ、スマホは準備完了。長年手こずっていた「赤とんぼ」のアレンジも完成した。あとは、指に覚えこませのみ。来週の金曜日に、随分前から決まっていた我々には大きなコンサートが待っている。この時に初演かしら？ 「赤とんぼ」、管楽器系にはやり易い曲なのだけれど、ピアノにはミスマッチ。あのゆったり感と懐かしい感、これだけでは裕節にならないから、この上に熱い迸りを被せる。ピアノという楽器は、元々、あまり、歌わない楽器。メカニックだから叫びみたいのが出難いわね、でも、それがないと裕節にならんから手こずっていた。

ふむ、暇だから「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン」、これもアレンジしちゃおうかしら？

## ジャズメン宴会芸

---

2015.01.29 Thu

考えたら、あまりハチャメチャ記事を書かなくなった。年？ 山下洋輔トリオが開発したジャズメン宴会芸のひとつに「日本語を初めて聞いた外国人に聞こえる日本語」というのがある。テナーサクソ中村誠一、タモリ、アルトサクソ坂田明と引継がれ磨かれた。一部、パクりつつ、裕イサオ版を以下・・・。これは、へこへことお辞儀をしながらいわないといけなかったはずである。

「いやあー、あれこれはれましたあー。めかさで、こけはまりますかあ？ えっ、はたはた。くなどんなのくんずほぐれつのひょうたん、くんなまし。へらまこいて、あとはへめらもでえー！ あさしゆめみしまぶたのははは、とうきょうとつきよきよかきよく。めけせてが、じくうをこえて、よじれまいおす。きゅーぴーきゅーぴーまよまよ」

タモリのフランス語版。

「セラゴン、スダラマダヤン。アザヴウジューバン、肉襦袢。網戸すめて、シモブクレ」とアラン・ドロンのダーバンの宣伝を真似てやる。それと、以前書いた「白鍵だけのチック・コリア」。これ、なんとなく裕センセのピアノに似ている。ぎょ！ タモリさん、当然、ピアノを弾けない。物真似として適当にやっている、のに、似ているのである。なんか問題？ えっ、「裕イサオのピアノ演奏品質保証書」を見せろ？ 「セ・パ・ポッシーブルっ！」裕センセ、両腕を広げ肩を窄めたあ、見事なぐらいフランス人であった。ははは、最近、覚えた印象派オジギヤグ、これは私の発明じゃないけれど、見事なのでご紹介致す。

「スーラスーラとシスレーしまあーす」

裕センセ作

「ひとのモネはやめろっ」「ちょっと、マチスっ」(マチスはフォーブ=野獣派です)

「あっ、それ、どんピサロっ」、じゃ、シスレーしまあーす。

## プライドマン

---

2015.01.30 Fri

またまた、なんのことも分からないタイトル。うん、私が求職のために会社面接に行く姿をシュミレートしてみた。面接担当と私の会話、〔〕内は私の同時進行の本心である。会話は面接担当から始まる。

「えー、お名前は？ おいくつですか？ えー、裕？ さん？ サービス業が長いようですが、客商売は、そんなに甘くはないですよ」

「はい、存じて居ります(馬鹿垂れっての、俺の履歴、ちゃんと読んでから言えっての)」

「お客様の空気を読むことが大切です」

「はい(あのねえー、俺は泣く子も黙る凄腕営業マンだった。なめんじえねえー、おめー、シジューぐれいだろがっ)」

「諸々のお客様が居りますから、臨機応変にご対応差し上げることが大切です」

「はい、今まで、諸々のお客様のご対応をさせて頂きましたので、多少は、掌握しているつもりでございます(おめー、釈迦に説法だぜっての)」

「えー、当社は、ご存知の通り、美術文学音楽関係の知識が必要となって参ります。まっ、ここで詳しい説明は必要ないとは思いますが、ピカソとブラックの違い、村上龍と春樹の違い、カラヤンがだれなのか、ぐらいは、最低知識として、掌握して頂かないとなりません、ご存じないとは思いますが・・・」

「ピカソの名前は存じて居りますが・・・、その違い？・・・、厳しい職場であることは重々承知して居るつもりでございます(おろ、俺よおー、詳細書かんけどよおー、俺のブログのご愛読者様は、すべて知って居られるのだけ、おい、シジュー)」

「ところで、ご趣味はピアノ？ いいご趣味ですな。いや、私はね、早稲田のジャズ研出身でしてね、まっ、ピアノは、まっ、プロなんですよ、いや、いいご趣味ですね。気に入りました。いや、まっ、あなたのレベルとは、ちょっとね、早稲田のジャズ研ですからねえー、いやあー、ご趣味として、続けて下さい」

「あっ、ありがとうございます。いやあー、とんでもないレベルですなえー、素晴らしっ！ (おい、あんちゃん、俺よおー、こう見えてもよ、パリの沖組の和歌(若)頭らあー、さして、もらってんだぜ。なんめんじえねえー、こらあー)」

と、内心がこうなる。わっ、年功序列社会人のような芸術家のようなプライドマンっ！  
当然っ、不採用お——————だっ！

## プライドマン2

---

2015.01.31 Sat

私が通っていた学校の校長が、卒業の三日前ぐらいに、「そう、五十五歳の男性がお二人、学校に来たことがあるんだけどね、お一人は、一流銀行の部長クラスだった方で、リストラで解雇。パリの十六区の高級アパート、社用車、おまけに奥さんにまで逃げられてしまったそう、学校にさ、申し込みに来た時、急に泣き出してしまって、対応、どうしていいか分からなかったんだよ。もう一人の方も、大手保険会社の部長だった。リストラで解雇。同じく十六区の高級アパート、社用車、高額な年収。でね、学校初日にさ、みんなにもやった、あのどの程度の知識があるかのテストというか、こっちが把握するためのやつね、その用紙を配ったわけ。そしたらさ、その方、テスト用紙を投げ返してきて、いきなり椅子を蹴り、ふざけるなっ、俺をだれだと思っとるう、って怒って教室出て行ったんだよ、うーん、気持ちは分かるけれどなあー」と、その時、校長が私の顔を見た。

「あっ、イサオと同じ年だ。ここに来た経緯も少し似ているけれど、イサオはなんだか楽しそうに毎日学校来とるよねえー。彼らと全然違うよな」

「校長先生、僕はしががない課長だった。そのお二人とは全然レベルが違うし、僕は自主退職。自分で選んだわけ」

「まあ、そうだけど、なんか嬉しそうだよな」

「あっははは、僕はジャズメンですよおーん、新しい仕事の方がずっと合っている。でかい会社の営業課長とジャズメン、無理があるし、粹じゃねえーわけ。うん、僕は嬉しいよ、本当」

「同じ年でも、いろいろな方がいるんだねえー、やっぱ、イサオは根っからのジャズメンなんだねえー」

「うん、そういうことね」

2015.02.01 Sun

じいーと、赤ワインを飲みながら、自分で付けた記事タイトルの事を考えている。

「プライド」、これ英語。フランス語だと「フィアーテ」。じゃ、日本語は？ 「自信」「自意識」「自尊心」・・・、もう、ここから分からない。「自信」ということに仮にする。だから、この記事のタイトルは「自信男」となる。

それで、私は自分では「そう」は思っていない。けれど、諸々の疑惑が込み上げて来る。でね、その前に、ヘンリ・ミラーの一言をまず書かせて頂く。「私は、一個の人間？ 否、私は世界史であり人類史なのだ」と、これを超自信過剰、つまり、メガロと解釈されると話が途切れる。たぶん、ミラーがこれを書いた時、ウエスタンユニオンの電報の配達員をしていたはずである。彼自身が「世界で最低の職務」と書いている。でもね、ミラーの凄いというか偉いというか、「実際にやっている人間が書いている」ということです。ここが、どうも、私、我々がプライドマンなのかのポイントである。

うーん、確かに私は、自分にあまり興味がないけれど、相手が上から目線で来ると、急にターミネーター。私は、嫌いだからだ。なんか分からんなあー、私はいい人なのか悪い人なのか？ 自分でも分からん。うーん、私は絶対に「人に責任を擦り付けたり」しない。本人が惨め過ぎるし、男たるものの最低と本当に思う。おりゃ、戦中派？ うーん、そうじゃないけれど、熱血漢とか、やっぱ、そういう系列なんだろうなあー。あっ、「鈴蘭高校」って言って頂戴。なんかさあー、情けない男ってさあー、いやじゃん？ 組織のヒエラルキーの中でよっ、ぺこぺこ。俺の上は、自慢じゃねえーけど、カミサンだけだっ！

あれっ？ 自分でも分からない。たぶん、裕さん？

いい人 三十パーセント

比較的いい人 二十パーセント

うーん、分かんない 二十パーセント

なんか、なんか鼻に付く 二十パーセント

あの野郎、メガロじゃ、やな奴 十パーセント

番外編

うーん、優しくて素敵なんだけどもー、でも、ジャズメンでしょ、お金、なさそー  
ー 八十パーセント

おいっ、だれっ？ 追記すんなっちゅうのっ！

あっ、今、たった今、気が付いた。そう、私は「自分で体験してきた人の話しか聞かない」。なるほどなあー、理解したぜっ、自分の事をよっ。そっ、ジャズメンじゃねえー奴の、ジャズの話は聞かんのだっ！ 偏屈うーーー、やな奴よねえーーー、裕イサオって、だから、売れないのよ。ヤバくない、この親父、ねえ、マミ。わっ、マミちゃん、オヒサあーーー。

## 凱旋門

---

2015.02.02 Mon

すいません、ちょっと当たり前のことを知ったかぶりに書いてしまいます。またまた、歴史の勉強なのです。で、「凱旋門」、ご存知の通り固有名詞ではなく、「戦勝記念碑としてのアーチ(門)」。でも、「凱旋門」というと=パリのシャルル・ド・ゴール広場のそれを指すことが多い。正式名称は「エトワールの凱旋門」。建設を命じたのはナポレオン。1806年から完成まで三十年を要している。

そして、パリにいらしてご覧になった方も多いと思う「カルーゼル凱旋門」、これもナポレオンの命。ルーブル美術館の入り口の反対側にある小振りの凱旋門です。こちらの方が、綺麗でお洒落。で、ルーブル美術館からラ・デファンスの「新凱旋門(俗称)」までの一直線八キロを「パリの歴史軸」と呼ぶ。

と、うなことはいいのだけれど、ラ・デファンスにある日本ではなぜか「新凱旋門」と訳されてしまった巨大な門の正式名称は、戦勝記念碑ではないから「友愛の大アーチ」。なんとなくインパクトが弱いせいか、こちらでは単に「大アーチ」と呼んでいる。単純に大きさを比べると、大アーチがエトワールの倍。エトワールがカルーゼルの倍強となる。

でね、私の興味は、必ず脇道方面に行っちゃう。長年の疑問。「なぜにラ・デファンスの大アーチが曲がって建っているのか?」。その一直線上に並んでいるのに、ちょっと横を向いている理由が分からなかった。なんとなく、ちょっと、お洒落な訳かしら? 6.33度ずれている。急に推理小説になる。なァー——んてことではなくて……。

十二本の柱が地中三十メートルのところまで埋め込まれていて、三十万トンの重量に耐えられるようになっているそうなのだけれど、ラ・デファンス地区の地下には高速道路、郊外への快速列車の線路、パーキング、各高層ビルへの配送品のためのアクセス、ショッピングセンター等々が建設前からありました。

はい、十二本の杭を好き勝手打てなかった、のでした。知らなかったっ！

なんかねえー、歴史の勉強といっても、私はすぐにエピソード方面に興味が湧いてしまう。結構、真面目にエトワール凱旋門の歴史を調べていたら、なんか、突然、「あっ、そういえば……、あれ、なんで曲がってんだ?」となった。よし、ついでにもうひとつ。

エトワール凱旋門の建設が始まった頃の現在のシャルル・ド・ゴール広場には大通りが五本だったそう。現在は十二本。そして、この建設は遅々として進まずナポレオンの二番目の妃マリア・

ルイーズがオーストリアから嫁いで来た時、凱旋門の高さが五十センチで、ナポレオン、やっやばあーって威厳を保つために張りぼてで誤魔化したそうです。うーん、偉い人の気持ちは分らんねえー。高さ五十センチの凱旋門、なんか可愛い。私だったら、日本エレキテル連合のワンマンショウとかやってもらうんだけど・・・。

## マドレーヌ寺院

---

2015.02.03 Tue

「マドレーヌ寺院」、観光でいらっしゃる方の長蛇の列を見たことがない。知名度が低いということはないし、パリの一等地にある。マドレーヌ広場は車で幾度となく通ったけれど、「マドレーヌ寺院」の内部に入ろうと一度も考えなかった。もう、随分前になるけれど、マドレーヌ広場の近くでアポイントがあった。昼食後、一時間ぐらいその時間まで空いてしまった。本当に突然、マドレーヌ広場の喧騒が嫌になり、「マドレーヌ寺院」の中へ。パリのど真ん中の静寂。私も含めて三人しか内部にいなかった。このコントラストは今でも忘れない。私は教会建築に興味があるから、どこの町でも必ず中に入る。ロマネスク様式の教会には、ゴシックの大聖堂とは違う趣がある。でも、「マドレーヌ寺院」を訪ねるといふ気持ちが湧いてこなかったのが不思議である。考えたら「サン・トギュスタン教会」も一度も入ったことがない。外観に圧倒されてしまうせいかも知れない。

「マドレーヌ寺院」と呼ばれているけれど、正式名称は「マドレーヌ教会」である。ギリシャ神殿を模した外観から「寺院」と呼ばれるようになったと推測する。新古典主義様式。ブルボン朝の末期に建造が開始となっているけれど、正確な年代が分からない。長い間、放置されていたようである。完成年は1842年。ということは、建造開始、フランス革命に突入。建築家が次々と変わる。結局、ナポレオンがフランス軍戦没将兵顕彰施設として再度の建造の命を出す。ナポレオンの好みで現在の形になった。ナポレオン失脚後に完成、本来の建造目的であった教会に戻された。外観との乖離はこうして生まれた訳である。守護神がマドレーヌ＝マグダラのマリア、ギリシャ神殿風の外観、鐘楼がない。たぶん、これだけ辻褃が合わない建造物も稀だと思う。その教会を取り囲むようにフォション、エディアール等々のお洒落高級食料品店、これもなんかギリシャ神殿風の建物とアンバランス。

結局、私が訪ねてみようと思わなかった原因が判明する。どうもナポレオンのメガロマニア趣味を私は受け付けないようである。エトワールの凱旋門もあまり私の好みではない。でも、「マドレーヌ教会」の内部、その静寂、私はなんか別のレベルの無時間世界というのか超時空というのか、本当に感動したのである。見た目判断しちゃいかんという当たり前のことに気付いたりもしたのである。

長くなってしまふ。うーん、ゴッホの代表作である「オーベエーニュ教会」。田舎の鄙びたロマネスク様式の小さな教会。ゴッホの壮大な夢想と共に超時空の世界へワープさせられた。メガロマンにも色々な種類がある。私は、どうしてもゴッホに軍配を上げるのだ。でも、「オーベエーニュ教会」は今でもそのままなのである。

## サン・トギュスタン教会

---

2015.02.04 Wed

「サン・オーギュスタン」「サント・オーギュスタン」、結局、このタイトルの表記が一番フランス語の原音に近い。私は、中に一度も入ったことはない。詳しい歴史も知らない。今、初めて調べた。1860年から1871年に掛けて建造と出て来た。さすがに、「おっ、オスマンのパリ改造の時じゃん」と反応するようになった。ヴィクトール・バルタール設計。折衷主義。ロマネスク、ビザンティン、ゴシック。ドームの高さ100m。このドームがイタリア風に見える。パリ市内の教会としては、珍しい外観である。と、これぐらいのことしか頭に入らなかったけれど、機会があれば訪ねてみたい。観光で訪れる方も皆無のようなので、なんとなく、逆に行ってみたくもなる。同時期の教会に「トリニテ教会」(設計テオドール・バリユ)、それと、バルタール設計、今はないレ・アールの中央市場だそうです。

どうして「サン・トギュスタン教会」が気になるのか？

パリ市内を縦横無尽に走るプロドライバーのルート。環状線から市内に入る時、日本語表記で、ポルト・ド・アニエールから入る。マルゼルブ大通りに出る。この大通り、マドレーヌ広場まで一直線。どうしてなのか渋滞がない。閑静な住宅街を抜けているせいなのか、地元の人しか通らないのか、ナビゲーションシステムに現れないのか・・・、たぶん、すべてなのだろう。マドレーヌ広場に到着する前に、「サン・トギュスタン広場」に出る(遠くから教会のドームが見える。目印である)。そして、この交差点がパリの東西南に最短で行ける分岐点なのだ。オスマン、パヴィニエール、ボエシー、マルゼルブ通りが交差している。

慢性的な渋滞のパリ市内。なぜか、まったくそれが無い場所がいくつかある。アンバリッド周辺、エッフェル塔の裏辺り、セーヌの辺を走る高速レーン。それと、大統領官邸、大使館の周り、首相官邸・・・、警官隊の厳重警備＝不法駐車不可＝ちんたら走行不可・・・。

あれ？ なんの話なの？ 私は営業マン時代にパリ市内を走り回っている。ははは、左折する時は、一番右側から大きく回る。右折の時は逆。出来る限り、道の真ん中にいる。つまり、右折左折の車の塊の後ろにいかない。無闇にアクセルを踏まない。当然にして、ブレーキも無闇に踏まなくなる。赤信号以外で、ほとんど止まらないから、制限速度を守っているのに断然早いのである。先日、たまたまプロ歴十年のドライバーの運転する車の後席に乗せてもらった。ばかでかいベンツのSクラス。コンピュータ制御による自動運転なの？ というぐらいスムーズな運転。無法地帯のパリ市内を、雑談しながらすいすい。私は「素人としては比較的運転が上手い方」と思っていた。じえんじえんのじえんじえん、見事の一言。脱帽です。おまけに、ややこしいパリの道、すべて知っている。車窓から見える建物、質問するとすらすらと概略を答える。わっ！

あれあれ？ あっ、そう、この教会のドームはプロドライバーの目印ということでした。

2015.02.05 Thu

「Paul SCHWINGENSCHLOGLカルテット」です。ポールの名前の読み方、スイスの系たんさんにご教示頂きました。系たんさん談ですと、ドイツ語は素直な読み方。フランス語の方が、なんなんだあーというご回答でした。言い回しは、違うけれど。改めて深謝です。私はドイツ語、まあ—————たく、分からない。すべて、ビールの名前に聞こえるのです。

ぎょ！ あっ、スイスの子供たちはいつ勉強しているの？ わっ、フランスも同じです。ついでに、フランス人は、いつ仕事しているの？ あっ、やばいかなあー？ ジャズメンが、こ・ん・な、発言・・・。

はい、でね、明日はポールが企画してくれた我々には大切なコンサートなわけね。「ackenbush」で。「ポール・シュヴィンゲンシュローグル・カルテット・アット・アッケンブッシュ」(早口言葉みたいね)。ポールは、私より微妙に年上っても同い年だ。お互いにチャンジーだ。ベルリン在住のオーストリアのトランペッターである。グーグルすると、諸々諸々の諸々が出てくる。つまり、「脳フリーのミュージッチャンであり、無調性無機質な音よりメロディーラインを残したフリーをやりたい」、私とビンゴなのである。このカルテットで、ベルリンのジャズフェスティバルに出演の話もちらちらあるのだ。わっ？ ただし、東京大学と東京「の」大学は違うので、この辺りは、要チャックね。学歴なんぞ、ジャズの世界ではゼロ。音楽IQのみのジャングルだぜっ！

「ackenbush」、建築家Benoit SPINGAとアンヌさんがアソシエーションとして、私利私欲ゼロで運営して下さっている。我々、つまり、フリージャズ屋、即興屋、舞踏屋、美術屋等々の活動の登竜門のような存在です。改めて、うるうる、する。今回、オリビアは初登場だから、相当、緊張る、かな？ てなことはない、彼女もプロだ。

ackebush 3 rue Raymond Fassin 92110 Malakoff  
09 79 55 61 90 M° Malakoff - Plateau de Vanves

Vendredi 6 février 20h00

Entrée 10euros



Isao Yu, piano

Paul Schwingenschoegl, trompette

Olivie Scemama, contrebasse

Makoto Sato, batterie

## へろへろもヘジー

---

2015.02.07 Sat

昨晚のコンサートは痺れた。へろへろもヘジーと化している。

オリビアの小さな車に、真師匠のドラムセットとコントラバス。コントラバスのアンプを積むスペースがなくなった。結果、アコースティック。結果、ピアノとのバランスを考え、ピアノの蓋は開けないことにする。アッケンブッシュのピアノは「ガボー」というメーカーの素晴らしいピアノなんだけれど、ショパン向き。ボリュームはそれほど出ないのである。こうなるとドラムスの音量は絶大になる。真師匠の繊細なドラミングでも、圧倒的。結果、私とオリビアが相互に音を聴き取れない事態と相成った。っても、始まっちゃったから、後は、へめらも。私とオリビアは演奏が良かったのか自分で分からないというへんてこな事態。

しかし、客席側から聴くと、物凄く音のバランスが良かったらしい。今、ビデオの編集をしている。

一時間で上がる予定。お客様、まったく立ち上がる気配なし。アンコールの拍手さえないのだけれど、次の曲を待っている気配がひしひし。当然、続ける。ノンストップで一時間半。それとなく皆でエンディングへ持って行く。お客様、まったく立ち上がる気配ゼロ。次の曲を待っている気配がひしひし。おわあー、無理矢理、挨拶をして強制終了しちゃった。

不思議なんだけれど、お客様啞然、拍手をするのも忘れる忘我の境地。最後にミュージシャンの紹介をした時に、我に返りましたあーという感じ。

うーん、分からない。普通は、相当いいできの演奏だったはずなんだけれど、私とオリビアだけ、あっそおーなの？ と人事のような感じ。早く、ビデオ見てみよっと。おっ、次は、エレクトリックバンドの立ち上げだよおん。

2015.02.09 Mon

私の住む人口三万人の町の外れに、国立芸術センターがある。シアターの席数五百五十。西側の畑に人工都市が出来るまでの県庁所在地だったから、こういうものがあるのだろう。ここで、年一回、イル・ド・フランス地方では屈指の「国際ピアノコンクール」が開かれる。何年か振りに決勝コンサートを聴きに行った。

世界中のクラシックピアニストの卵が応募してくる。今回の応募者数八十名とのこと。最終選考に残った数十二名。まず、この十二名の内訳に興味を持った。アジア系が四名いる。日本人、韓国人二名、アメリカ生まれの台湾人。それ以外の国々、フランス、ドイツ、イギリス、東欧、北欧。後者は、クラシック音楽の発祥国であるから当然。私の感想は「西洋化の分布」がこういう形で見えること。もちろん、良くも悪くもない。けれど、私は天邪鬼であるから手放しに素晴らしいとも思わない。そもそも、私はジャズピアニストであるからルーツはアフリカ。そうなる私のベクトルとは確実に違う。「ルーツがアフリカにある日本生まれのフランス在住のジャズピアニスト」というとんでもないアイデンティティーの持ち主となる。と諸々のことを考えたので、何回かに分けてブログ記事にしてみようと思う。因みに前回の優勝者は中国人、その前は日本人と、ほぼ毎回アジア人が優勝していることも書き添えておく。

ピアノ、西洋文明の英知の結晶。音楽マシーンである。これを日本人が弾くという根源的な問いが生まれる。今に始まったテーマではない。日本、東洋と西洋、自国の文化のアイデンティティーとか、当然にしてプロとして公の場に立つ連中には避けられない問いが生まれてくる。しかも、私のように「これ」でジャズ、しかもフリージャズをやる。この最初の姿勢は当然にして問われる。なんでなんで？ って。これが、分からない。因みに、日本国は世界で一番クラシックとジャズのCDが売れている国なのだ。この買い手が重複しているのか分からない。多少は重複しているとは思うけれど、やや、二分化していると推測する。私はクラシック音楽は、ほとんど聴かない。いや、ちょっと違うな。ジャズメンの和音構造の元になっている作曲家のものしか聴かない。リスト、ラフマニノフ、ストラビンスキー、ドゥビッシュー、ラベル、サティ、それから現代音楽の始祖、あれ？ そこそこ聴いてんじゃん。そうか、宮廷音楽系が駄目ということか？ アルペジオとトリルでゲンナリしてしまう。あのね、ヨーロッパの宮廷での格好、皆さん、ご存知でしょ。あの格好をしている俺をどうしても考える。みっともないのだ。なんか悲しいし怒りさえ込み上げて来る。えっ、考え過ぎ？ お笑いならいいんだけど……。ベートーベンの和音構造の中にも痺れるものが多いなあ。と、あれ？ 現代ジャズはアフリカ、アメリカを経由してクラシック音楽の和音構造を取り入れ、さらにボーイングと呼ぶジャズ特有の和声を完成させたわけである。それに、各民族の持つこぶしとかリズム感が重なってそれぞれのジャズが出来る。わっ、そうなる私には「アフリカ、アメリカ、西洋、日本をルーツに持つフランス在住のジャズピアニスト」。自分でも分かんないなああああああああいつ！ アイデエ

ンティターなんてあるんかいな？

2015.02.11 Wed

やはり、ピアノの話になると長くなる。記事を分ける。決勝コンクールの後、先日の自分の演奏まで聴いてしまったから、頭の中が考える人と化した。

決勝に残ったメンバー。全員二十三歳。各音大のマスタークラスの生徒たち。フランス人女性パリ音大。アメリカ生まれ台湾人男性シカゴ音大。グルジア人男性モスクワ音大。

一部は自分の一番得意な曲。フランス、バッハ。アメリカ、ラフマニノフ。グルジア、リスト。

フランス、バッハ。抑揚がない。同じことだけれど平板な演奏。家にグレン・グールドのバッハ全集があるから、どうしてもこれと比較してしまう。申し訳ないけれど、学生さんの演奏、以上。

アメリカ、ラフマニノフ。前半三分の二のスロー部分。見事の一言。東洋人の指先のしなやかさと繊細さ。リズム感が独特というか日本人の私には良く分かる。沈黙パートを無音の音として十二分に引き出している。私もたまにやる両手をクロスさせての演奏。フランスバッハのアルペジオとトリルに辟易していたので、すかぁーとする。

グルジア、リスト。彼の超絶技巧が前面に……。でも、音が金属的でいらつく。でも、技術は確かな人だ。

三人の演奏を「見て」、今更ながらに当たり前のことに気付く。左手が右手のように良く動く、逆に言うと、両手共にのべつ幕なし動いている。やっぱ、左手アルペジオが基本になっているわけだ。ジャズではやらない。ビル・エバンスが発明したコンパクトなルートレスボイスイングを多用するから、左手はそれほど動いているように見えないのだ。あれ？ どうしてルートレスなの？ はい、ベースがやっているのです。そうすると、左手ルートレスフォーノーツボイスイング、右手そのテンションとなる。これは、私も多用する。

と考えていたら、コンクールの二部がなっなんと！ 現代作曲家の曲。同じ曲をそれぞれが弾くのだ。しっしかもおー！ そのタイトルが、なっなんと「To be Bil not to be Bil」だっ  
てえー！ びっくりしたあ。ビルとはビル・エバンスのことなのだ。クラシックのコンクールで超意地悪な曲。その主旨が、ずばり、意地悪で作曲者が、「えー、ビル・エバンスは我々クラシックのピアニストとは違い、左手は二音ないし三音で全域をカバーするボイスイングというシステムを作ったジャズピアニストですが、これは、我々には出来ない。あっははは、で、彼らに普段やらないことを、しかも、初めてバックにオーケストラを付けてやってもらうことにし

たわけね、ははは、で、最後に皆出来ないから、怒りが爆発するという曲なわけ、ははは」だって。

フランス、ビル。一つ凄いのは、やったことない曲、すべて暗譜していた。これは凄い。けれど、平板。とりわけ、ビル・エバンスの名曲が時々挟まれているのだけれど、そのパートは、ごめんなあーイモ。

アメリカ、ビル。私は期待していたのだけれど、柔らか過ぎ。ビル・エバンスの曲の部分も今一ジャズしていない。でも、彼のドウビッシー、サティは是非是非聴いてみたい。彼は、映画音楽とか、そういう方面で開花すると思う。兎に角、指がしなやかで繊細なのだ。これは素晴らしい個性である。それと東洋人らしい、ちょっと亡羊としたリズム感。私はファンになったよ。

グルジア、ビル。金属リストでいらついていたので期待度ゼロ。ぎょ、上手いっ。しかも、最後の辺りでビル・エバンスのソロパートをさり気なくアドリブでちらっと入れた。お洒落だし、その演奏の見事なこと。ぶるっとなった。こいつは只者ではないと感じた。

ヤマハフランスがスポンサーのひとつだから、当然、ピアノはヤマハのコンサートマスターGFXである。F1カーには私には見えるのだ。飛び付きそうになるのである。しかしねえー、同じ曲を同じピアノで弾いて音色がまったく違う。まあ、弾き手が違うから当然？ それにしても「まったく違う」ところが人間様のいいところかもねえー。余談だけど。俺にも弾かせろっ！

2015.02.12 Thu

「To be Bil not to be Bil」、この曲、最後に更なる意地悪が待っている。結局弾けないので、ニャロメーって鍵盤をぶったたきピアノの蓋をばしいーと閉めて退場するという演出。ちょっと、やり過ぎなんじゃないの？ ナンテール大学の音楽教授さん。面白いけれど……。ははは、ヤマハGFXの蓋は、ご存知の通り、ばしいーんとは閉まらないのだ。セキュリティシステムでゆっくりと閉まる。余談だけれど。

はい、最終ラウンドは三人、オーケストラ付きでベートーベン交響曲第四番第五章。

フランス、相変わらず平板。アメリカ、彼にはミスマッチ。そして、グルジア……。

彼だけである。ずっと、オーケストラの方へ顔を向けて、頭で指揮をしていた。ピアノの入り方抜け方完璧。演奏完璧。彼自身がベートーベンと化していた。見事の一言。

グルジアの彼の演奏を聴いてしみじみと思った。彼は「地元の音楽をやっている！」。京都の人が琴の演奏しているのと一緒に、リストもベートーベンも「日常の音楽＝伝統芸能」。このレベルには適わない。伝統をすべて背負って立って彼がいる。クラシック音楽の王道なのだ。新しい解釈とかそういうことじゃなくて、地の底から這い上がってくる東欧の文化を背負っている気迫が違う。脱帽である。当然、彼が優勝した。なぜなのか二位がフランス。選考委員の方々、おっおっ、パリ音大の方々が多いのですよねえー？ アメリカ、三位。うーん、私は納得出来ないよって！ でも、彼は、別の分野で行ける奴だ、大丈夫、マイフレンド。

うおっと、帰宅して食事して自分の演奏を聴いた。まあ、右手のスピードは、もしかすると彼らを超えているかも知れない。うなことが問題じゃなくて、やはり、あたしゃー、ジャズ屋だよおんという気迫が漲っている。そして、チャンジーの揺ぎ無い、まあ、良く言えば、自信と確固たる自分のスタイルに満ち溢れている。悪く言えば、天邪鬼偏屈梃子でも動かんわしはあー一感が充満している。この訳の分からない存在感？ そして、ここ二年間の専業ピアニストの蓄積の集大成であった。2.7から2.1流へ自ら認定したのである。自己満足？

まっ、鼻真目なりの客観目線ね。なっ、なんなの、それ？

2015.02.13 Fri

またまた、馬鹿動画を作ってしまった。久しぶりに本人登場。お初にお目に掛かる方々へは、アンシャンテです。といっても実際の私は、こんな強面ではない。ビデオ冒頭の「えっ、もう、始まってんの?」、ここだけが本来の私である。どうでもいい? うまぁー、自己顕示欲とも、ちょっと違うようなそのもののような・・・、うまぁー、そういう仕事だからなぁー。

ところで、私のアホぶりはいいとして、この曲は、大変に気に入っている。私の新しいエレクトリックユニットのために、諸々作っているわけ。全部で五つ。そのうちのひとつです。「エレクトロ1 かもめ」、こっちもアップした。実際のコンサートでは、こんな感じにはならないけれど(もっと長くてハード)、仲間用のマケット、見本の意味で作った。はい。公共の場を勝手に仲間との打ち合わせスペースにしてしまうのである。ポール(シュヴィンゲンシュローグル)なんてベルリンに住んでいるから、そうそうは会えんからねえー。

2015.02.14 Sat

本記事のタイトルは、sakuraiさんcocode note 1月15日2015年付けの記事タイトルである。この記事の中に「こちら側の窓から向こう側の窓の向こうの空が見える」という一行が現れる。

ジャズの帝王「マイルス・デイビス」の一言に、「俺は八小節だけ決める」というのがある。他の音がどうでもいいという意味ではなく、その渾身の八小節への助走。その八小節へ辿り着くための布石、たぶん、そういう意味のはずだ。

たとえば、私、山下洋輔さん、坂田明さん、無駄な音の堆積の中から全エモーションが立ち込めてくるという奏法である。がしゃがしゃどしゃどしゃの狭間に、訳の分からないエネルギーが垣間見えるというスタイル。饒舌体なのである。

マイルス・デイビス、そして、彼の初期ユニットのピアニスト、ビル・エバンス。彼らの演奏は寡黙で無駄音がない。そして、ソロパートの八小節にすべてが凝縮される。キラッ、ギラッ、我々が、わあ——と仰け反るような決め音が出てくる。マイルスの「タイムアフタータイム」のソロとか、ビルの「カインド・オブ・ブルー」のソロとか、私は何度聴いても仰け反る。これ以上の音の組み合わせはできないし、まったく、はったり音のような無駄音がないのだ。これは究極のテクニックである。

たぶん、山下さん、坂田さんは意図的にやらないと推測するが、私は「できない」「そんな究極のテクニックがない」のだ。

冒頭のsakuraiさんの一行。何度読んでも、ビル・エバンスのソロが脳内を駆け巡る。上手く言えない。優しい詩目線のカメラアイ。矛盾しているけれど、カメラには真似ができないのだ。見事の一言です。

2015.02.15 Sun

うーん、どうなのかな、こういうテーマ？ まず、カテゴリー？ 私の記事としては「人生」とした。

なんか、時間はないのだけれど、私は書ける時にいきなり原稿用紙三十枚とか書いてしまうから、下書きが溜まっている。「sakuraiさんcocode note」へのオマージュ記事も下書きのままである(15日の追記 アップしました。久保の兄貴のチョロも帰って来た。物体でさえ失うのが怖い。ましてや生きているもの……。本当に幸いにして家の菩提樹は、どんと庭の真ん中にいます。私は幼少期に、ずっと犬と一緒にいた。どでかい秋田犬の「富士」と。彼は、私の身代わりに自動車に飛び込んだ。私の代わりにです。彼がいなければ、私はいなかった。あいつの方が、俺より優秀だったのに。咄嗟に俺の動きをあいつは読んだのだ)。

本日、2月9日の系たんさんの記事を読んで、またまた、書き始めてしまった。

「海外にいる日本人」、一般論として、つるまない傾向が強い。もちろん、友人知人ではなく、たとえば、「日本人がパリの通りで倒れている」、まず、「日本人は立ち止まらない」という「傾向」がある。どうして？ 私の推測……。

日本人、日本でもそうなのだ。

海外にいるということが、なんとなくステータス、だから、同族に声を掛けない。

日本人は本音建前族だから、外国に来てまで同族に関わりたくない。

そして、我々のようなフランス在住者。「現地採用」というレッテルが付く。そして、そうではない人からのいじめ、そうである人同士のいじめ。海外の日本企業は日本企業だから日本式を押し通す。上司は日本から来る。しかし、ここはフランスだ。日本式では「すべてが通らない」。摩擦。現地人＝フランス人、しかも、多国籍、多民族、多宗教の、である。日本からいきなり「転勤させられた」、こういう方々も気の毒だし、「こういう方々」の「下で仕事をする」、これも、やばい。

「現地採用同士の陰湿ないじめ」、これは、上司として私は排除した、けれど、「無理矢理転勤海外」、こっちまで助ける余裕は私にはなかった。

## 成金趣味

---

2015.02.16 Mon

「成金趣味」の定義はないと思う。ただ、私がフランスの歴史記事みたいなものを書いた時、私の神経に同じ感触。そう、ナポレオンの趣味が、私には「そう」感じられる。「ダサイ」。

金、権力、名声、威厳、メガロ。女性のメガロは、ちょっと分からない。けれど、たぶん、同じと推測する。誤解を受けそうだけれど、「それに寄り添う」という選択肢も女性側にはあるかも知れない。性差別である、こう言動は。私は、女性の方が優秀だと信じて疑わない。フェミニストなのだ。どうして？ 男は消耗品と村上龍も言っている。以上なのだ。

「オスの意識」は、繁殖繁栄、自分の遺伝子の、となる。これを遂行するには「メス」がいる。この「メスの誘致」に上記のものがいる。という公式だから、馬鹿なのだ。おかまのマツコさんのインテリジェンスは素晴らしい。両性具有の見地からものを見るから、脱帽なのだ。

そうなのよおー、あたいもね、おかま、でも、いいのよ。ありゃ？  
ちやうちやう、そうじゃねえー。

はははあー、繁殖繁栄を込み入った形でやるインテリジェントDNAは、「芸術家」。断言できる。だって、もてる。えっ、裕さんって、芸術家なの？ ぎくっ。う、違うよ、ピアノ弾き、三流の……。おっ、もてんだなあー、これがっ！ 謙虚？

結局、裕の野郎も馬鹿なのだっ。

2015.02.17 Tue

これは、法律で禁止されていない。やれやれ。私の記事の四分の三ぐらいが「そう」なのだ。とはいえ、飲酒の狭間の良識が、結構、多量の「未発表記事」を生み出している。とはいえ、私は「炎上の元になるような記事」は、絶対に書かない主義である。だから、私のブログはつまらないのかも知れん。

いいもお——ん、それでっ。

でもね、「飲酒が、ちと、行き過ぎ」、こっちの方が断然面白い。自分でも。でもでも、すべて「未発表」である。考えてみたら、私のほとんどのコンサートが飲酒コンサートである。素面コンサートはほとんどない。でもね、音の炸裂で事故はない。言葉の炸裂は、やばい、のだ。

はい、結論はね、私は「カカワリ」が嫌いなのだ。「リーブミーアローンシステム」と呼んでいる。あれっ？ ちょっと、違う、かかわりたくないひととはかかわりたくないさいしょうげん。でも自分でかかわりたい人と、無理矢理かかわる、まあ—お客様とかは別。「アイルドゥーマイベストシステム」へ。これも、飲酒ブログだった。

## 秋田犬「富士」

---

2015.02.18 Wed

「富士」は、ツキノワグマにそっくりだった。首の下、四肢の先端だけ白い。分からない体重は85キロぐらいだったのだと思う。父が、そんなことを言っていた記憶がある。幼少期の私には、とても大きく見えた。たぶん、今見ても、相当に大きな犬のはずである。これまた記憶が曖昧である。私は十歳ぐらいだった。富士を連れて散歩に行った。正確には、私の腕力ではどうしようもなかったから、富士に引き摺られて後ろを歩いていたはずである。幼稚園の方へ行き、小さな川の辺を歩いて木造の家々が立ち並ぶ界隈を抜けた。その界隈と、私の家へ向かう坂道の間、県道なのかな？ その辺りでは比較的大きな通りが通っていた。私と富士がその通りに出た時、母が心配になったのだろう道の向こう側で待っていた。

母の姿を見て、私はその通りを咄嗟に渡ろうとした。左右をまったく確認せずに。その時、富士が私を押し退けるように通りに飛び出した。どんという音。富士と衝突した車が止まる。車の前に蹲る富士。私は、一瞬の出来事でなにが起きたのか分からなかった。母の顔が青ざめていた。車を運転していたおじさんも動転していた。暫くすると富士がむくっと起き上がった。少しびっこを引きながら家の方へ歩き出した。私と母も、その後を付いていった。おじさんがしきりに頭を下げていた。

富士は、その日からなにも食べなくなった。三日後、納屋の中で横たわる富士の様子がいつもと違っていた。お腹が上下に動いていない。飛んで行って父に知らせた。

分からない、私になにが起きたのか、私自身が理解するのに何年も要したような気がしている。父と母が地元のお寺に富士の立派なお墓を建てた。

## 遅延の遅延

---

2015.02.19 Thu

フランスの人気歌手に「エッチエン・ダオー」というハンサムなオジサンがいる。と、私は社会復帰「エッ遅延・ダヨー」なのだ。これは、私の労働意欲の問題ではなく、フランスの雇用法が超ややこしいから、契約書が簡単に作れないという事情による。日本語化している「フリーランス」。これがフランスの雇用法の中に、基本的でない。これで話がややこしくなる。

以前にも書いたけれど、フランス人は企業に帰属している意識はゼロ。企業は、従業員のことを守ってはくれない。フランス国家およびフランスの法律が守っているから、帰属しているのは国なのだ。これは長所でもあるけれど、雇う側からすると、安易に従業員を増やせないとなる。基本的に解雇は、ほぼ、できないからである。経営側には大変にシビアである。

それから、企業側は従業員の額面年収とほぼ同額を国に納めないといけないから、一見低収入の従業員でも、企業の負担はかなりの金額となる。では、お店を開く？ 商業権をまず買い取らないといけない。ここで何千万円という支出。これを回収するのは至難である。

と、フランス経済は絶対に活性化しない。アメリカ、日本とはまったくシステムが違うのだろう。私の日本の知人が、あっという間にヨーロッパの小物を扱うお店を開いて繁盛していた。日本帰国の際に訪ねていった。「わっ、物凄く高いだろう商業権」って聞いたら「えっ、なにそれ？ お店の家賃だけよ」「えっ？」という変な外人会話となった。

まあ、浪人生の気分ってこんな感じなんだろうなあーと思っているけれど、間もなく五十六歳になるおっちゃん。しかも異国である。仕事および雇用先があるだけ、相当にハッピーチャンジであろう。現実的には、私のケースは再就職は、ほぼ、ない。ましてや、元管理職。こんなオヤジをどこも雇ってはくれないし、そもそも、その本人のプライドだなんだかんだで、その本人の脳内も微妙なお年頃化している。あっは、これは、幸いにして私にはない。売れないジャズメン、以上なのである。

2015.02.19 Thu

なんか、「富士」のことが突然の閃光のように脳内を過り、当然にして、愛犬を通り越した存在であるから……。諸々の過去の風景がぐわっと込み上げて来た。でも、ブログ記事としては書かないだろう。すでに二十年前に書いた散文詩のような小説の中に「それら」は凝縮されている。結局、小説の方は一発屋みたいになってしまった。唯一の単行本である。

私は岩手県で生まれて、仙台へ。幼稚園から高校卒業まで福島県のいわき市で育った。

常磐炭田。炭住長屋。共同便所。生協。魚屋。銭湯。吊り橋。高台の木造の巨大な病院。大きな櫨の木のある小学校。木造である。刺青をしたオヤジが多かった。炭鉱の閉山。残ったのは、病院と小学校と床屋さんと……。結局、ゴールドラッシュのような小さな町で多感な時期を過ごしたわけだ。

「俺はよおー、こんな紋々(刺青)背負ってるからよおー、息子にすまねえー、あんたみたいな堅気の息子がよっ、俺んちの息子と付き合ってくれる。ありがてえーこった。ありがとな、あんちゃん」

一升瓶からそのまま酒をカッ喰らうオヤジが泣きながら小学生の俺に話してくれた。

それを小説に書きたい気持ちもなくはない。でも、書きたくない。売名行為というか神聖な他人の人生を上から目線で書くことはできない。それを書くのが文学である、という見解もある。私は、嫌いである。私的なことは、そのままでいいと思う。小説なんていう形で、それを書く。そういうしたり顔が嫌いである。だから、私はジャズメンになったのだと思っている。

この感触は、分かって頂ける方には、凄く良く分かるはずである。「それでも書く」のであれば、富岡多恵子のような超人的な気概が必要だろう。だから、私は書かないし、ましてや、ブログ記事としては書かない。そして、私が育った町は、もうひとつのゴールドラッシュを迎えているのである。震災、復興という。諸々の男たちがやってくる。昔に戻ったのである。しかし、心の被災はゴールドにはならない。

2015.02.20 Fri

私には珍しくずばっとしたタイトル。イサオ節だと「福that's」と書きたいのだけれど、そういう気持ちにならない。社会復帰「エッ遅延・ダヨー」状態もある。それによってコンサートの日程も入れられない。新しいエレクトリックバンド用の新曲もできている。つまり、いざ鎌倉状態なのに浪人。というこの宙吊り感が今一つなのだ。

ブログは、日々の心の動きが結構如実に出る。そこが面白いのだけれど……。この宙吊り感のせいなのか、ぶっちゃけ、うもおー、文学したるうー、なんちゅう感じが込み上げて来る。暇なのだ。ターゲットのないターミネーターみたいな感じかしらねえ。「アスタラビス タッ、ベイビーっ」と言っているのに次のページに行かないから間抜けだ。

こういう状態、私は大嫌い。もによもによ……。はっきりせいでっ！ となる。この暇感がどうも働き者体質にはシンドイ。

わっ、急に話が変わるけれど、日本の旦那ども、確かに「おいっ、お茶っ！」なんてやっていた。私の同世代も言い方は柔らかいけれど基本ポリシーは同じである。どうして？ 日本男 児ってこういうことだったっけ？ イギリスも含めるとヨーロッパに暮らして三十四年が経つ。私個人は覚えていないのだ、この感覚。同じことをフランスでやると……。

「おいっ、お茶っ！」

「あなたっ、名前を呼びなさいっ、人にもものを頼むのであれば……」

「すみません、カトリーヌっ、お茶っ！」

「その命令口調はなんなのですかっ！ フランスは男女平等民主国家のデモクラシーですっ。頼むのであれば、きちんと礼節を保って下さいっ」

「申し訳ございません、カトリーヌ、お茶を入れてくれないかしら、もし、ご不都合等がなければ、何卒、よろしくお願い致す所存の次第の幸甚でございます」

「あっ、丁度、入れようとしていたところよ、いいわ、ついでに……」

「あっ、ありがとうございます」

「あら、あなたっ、お茶っ葉どこ？」

「あっ、すみません、今すぐ、お持ち致します」

となる。いわゆる「草食系男子」の話ではないことは、これからフランスに来る日本男子諸君は肝に銘じてね。余談になるが、裕センセ、リヨンのドラマー徹、料理は、裕センセ、簡単料理のプロ。徹、プロ。真師匠に至っては、料理の本を何冊か出している。ジャズメンでさえこれだけって。

## ジャニーズ系の顔

---

2015.02.22 Sun

ゲストの組み合わせのせいなのだろう、ジャニーズ系の番組をユーチューブってしまった。スマップ、嵐、カットウンと。

四十代、三十代、二十代の「日本のイケメン」らしいけれど、私は、あまり、こういう系列の顔が好きではない。なんで？ はい、手前味噌も糞も糠味噌も含めて、私の顔がこの系列なのだ。「日本だとイケメン、でも、ヨーロッパに来ると、やや、堀の深い東洋人」、以上なのである。じえんじえん格好良くない。そこいら辺のフランスのあんちゃんに、ちょっと近い東洋人、それだけ。

でね、なんで見たのか？ ゲストが「西田俊之」「志村けん」「ビートたけし」、西田さんは同郷だ。福島顔。志村さん「も」ハンサムではない。たけしの御大。いやあー、格好いい。存在感が違う。男の顔はこうじゃないと・・・。

あは、独断で、四十代ジャニーズ、みんな良い顔になった。でも、一番、好きな顔は中居君だな。三十代、大野君の顔、いい感じである。二十代、亀梨君。小栗旬と同じで、ハンサムじゃないけど、セクシーな感じ、つまり、俺流という気概を感じる顔である。

いやあー、俺は「緒方拳の顔」が一番好きなのだけれど、幸いにして、うちの息子が良く似ている。

2015.02.23 Mon

シンセサイザーで、諸々の曲を作っていると、諸々の事を考え、諸々の事が分かってきた。  
うーん、ここから音楽論のような人生論のような……。結局、「どうして私の音楽がヒットしないのか」という根源的な問題？ じゃないのだけれど、私という自我の塊化け物がなんなのか、つまり、私はあなたであるから、その人間の本質が見えてくる。

列記する。最初が私で二行目がシンセです。

私 テクを見せ付けたい

シンセ うーん、いらんとは言わないけれど、これ見よがしのテクはいらん

ピアノピアノピアノ

リズムリズム 音

俺の音楽を聴けっ

あんた、だれなの？ みなで乗り乗り

私は、日々の努力の積み重ねの賜物

いらねえー、うなもんっ

君、ピアノを舐めてるのかっ

そういうレベルなの？ たかが音楽で

シンセ「あんなあー、おっさん、あんたのピアノのテクなんて、いらん。みなで乗り乗り。固有名詞、つまりね、裕イサオのピアノなんてもんは、いらん。リズムリズムリズム、踊り捲くってお仕舞いちゅうことね。俺はDJ、諸々の自我の塊の連中の音楽を匿名でミキシングしていることになっちょるけれど、だからよっ、俺は有名。おっさん、このパラパラ、まだ、分かんのか？ 個性なんていらん。固有名詞もいらん。そういうメソメソ、自我自我との戯れ、ねっ、うなもんいらん」

私、泣きながら「シンセ様っ、どうして、そのような偉大なる高遠なる真髓の根本の本質の究極にお辿り致したのですかぁー、驚き桃の木サンショウウオの魚っっっっ！」

シンセ「裕ちゃん、金、金だよ、真理は」

## 追記

「おいっ、アーノルド、準備はいいかね。あいつを消せっ！」「裕センセ、あいつの言い分、一理あり。機械的な音楽から、音自体を機械が出せるようになった。あなたは知らない。個性が氾濫しているから、我々は、無機的な音が欲しい。そういうことだ、アスタラビスタッ！」「魚っ、アーノルドっ！ 機械に説教かよお——、いい機会なの？」

2015.02.25 Wed

「きれぎれブログ」という記事はお蔵入りにしたつもりだった。でも、同じタイトルを付けようとしたらパソコンの方が覚えていた。表向き毎日毎日更新しているのだけれど、もう、十日ぐらい記事を書いていない。すでに書いた記事郡が勝手に予約投稿システムでアップされているだけである。ここまでして更新する意味があるのか疑問。

書きながら諸々のことを考えて、脳内整理をすることが本来のブログの醍醐味のはずだから、更新は結果でいい。段々と逆になってきている。私は、ピアノを弾きながらも色々と考えるから、結局、考えてばかりになってしまう。言葉と音。もう、脳がどっちかにして頂戴と言っている。やはり、音思考に集約したくなってくる。

段々と記事内容が「老いの繰言システム」の方に向かっている気もする。内容の重複がやや始まっている。こうなると書く意味はなくなる。わっわっ、そうなるともっと内奥のそのまた内奥の暗い暗い重い重い思いを書きそうになってくる。けれど、それは、私が偏屈なのか、どうもブログという媒体ではやりたくないのだ。

りゃ？ ちょっと考えるふりをする。

なんか訳の分からん記事ですねえー、裕センス。

2015.03.01 Sun

土曜日、日曜日と息子が不在のパリのアパートに夫婦で行ってきた。親友とシェアしている小さなアパートである。

呼び鈴のところに、当然なのだけれど、私の本当の苗字が書いてある。一瞬、芸名「裕イサオ」との微妙な脳内のズレが起きる。おっ、カミサンと息子と娘は〇〇という苗字なのかあー？ と、脳馬鹿。私の芸名は十六年前から、当たり前なのだけれど公の名前だから、本当の苗字を見ると、一瞬、脳ワープするのである。と、変な違和感と共に、大きくなったなあー、あいつも・・・という親父の感慨が込み上げて来る。その分、私がジーちゃんになった。自然の摂理である。

でね、なんで行っていたのか？ 私＝緊急大工屋、カミサン＝緊急掃除人。若い兄貴二人のアパートとしては、汚くはないけれど、二人とも大工仕事駄目派、その友人連も駄目派。そうなる。と諸々の破損をだれが直すのか？ たわしじゃない私しかいない。風呂場のシャワーの支え棒、台所の水漏れ、クローゼットの扉・・・。クローゼットの扉の修理は知恵の輪みたいで、面白かった。

ところで、少しずつ、スマートフォンでブログを拝読することが増えてきた。まず、自分のブログを見てみた。もちろん、記事は出てくる。レイアウトと文字が小さかったので変えた。お気に入りブロガーさんたちを見てみた。パソコン画面と違いブログ村のバナーが出てこない。あっ、そういうことおーーと、とりあえず、自分のブログで実験。諸々のやり方を試してみたけれど、私のブログには出てこない。結局、新しい記事案内の下に、バナーではないようなバナー「日本ブログ村エッセイ・随筆部門」という一文が入った。で、これを、押して下さいませという意味ではなくて、「私がお気に入りブロガーさんのバナーを押せない」、これが問題なのである。久保の兄貴は、もともとない。そんなバナーな、と言われてもない。ほほほ、過去記事からクリックするのだっ！ スローさんは本文下にバナーが出てくるから押せた。sakuraiさん、系たんさんはバナーが出てこない。わっわっわっ、押せないのです。なんか本文テンプレートの、なんだっけ？ html？ のどこかに挿入すると出てくるのですけれど、私の実験は、すべて失敗でした。お時間のある時に、ご改良のほどを・・・。おりゃ、スマホからのブログアップもやってみないと・・・。あーー、しんど。なあーんちゃってるのですが、待ち時間の多い仕事だから、逆にブログタイムは、どばあー、かしら？

2015.03.02 Mon

いやあー、あたしはね、自分の事おーを落伍家と呼んでる。うまあー、高校受験までは、田舎のエリートコースではあった。明るい未来を疑う者はおらんかった。見合い話まであったのだぞ。しかしである「詩」に染まった。落伍家への大いなる大一步。それから大学受験が決定打となったの邪。それからそれから商業主義真逆フランス男「マルセル・デュシャン」を心の師と仰いだのが、決定打の後の場外ホームランとなったの邪。それからそれから、フランスの「現代文学」にどぼっと浸かり、自分でも小説を書いた。言語実験前衛小説を……。お金様たちから、決定的に見放された。出版社もそっぽを向いた。筋金入りの落伍家へ驀進、その更なる原動力が「フリー邪頭」という世界で最も聴かれない音楽に嵌った。こうして、完璧なる落伍家が完成したの邪。邪あー、また。

注 「落伍家」とは、母国および社会全般からドロップアウトした者を指す言葉。自らの意思で、それを選ぶ者も稀にはいるが、一般的には、その能力不足に寄るところが大きい。しかし、落伍家も人の子、自己正当化として能動的にそれを選択したがごとき言動をしばしば行う傾向がある。具体例 世間が己の才を認めない＝才能がないという公式を理解しようとはせず、世間こそ無能であると自己本位からの視点を崩さないのである。「好事宴 サオイ・ウーユ編より」

コメント 裕イサオ

あなた(だれなの?)は、そうおっしゃるが、私の解釈では「落伍家」とは脳フリーのことを指す言葉ではないのですか？ 社会のしがらみからの解放はありえない。けれど、脳内だけは自分の領域であるからにして、ここがフリーであることは、非常に大切なことなのである。そう、結果、落伍家にならざるを得なかった、私のケースは……。おいおいおい(泣き)。

コメント返信 サオイ・ウーユ

裕さんへ、コメント、ありがとうございます。裕さんは、大学受験の失敗、日本社会への不適合とこの辺りから落伍家の道を歩まれたわけですね。詩、デュシャン、小説、フリージャズと遍歴なされて自己正当化に勤めていらしてきた。落伍家の典型的なベクトルですね。しかし、多芸は無芸、器用貧乏、それから元々の才がないと自己正当化にアップアップなされているようにお見受け致しますが？ 自己正当化は、もう、いらぬ、開き直り、です、一番は。堂々と落伍家を名乗ればよろしいかと……。

コメント 裕イサオ

どきいいいいいいいいいいいい。あとは、独り言……。ぶつぶつ……。そうかあー、女装の道しか……。

2015.03.03 Tue

「詩」「美術」「音楽」の前に「現代」が付く諸々の諸々。「現代詩」「現代美術」「現代音楽」。なぜなのか、「難解」というレッテルが必ず付く。どうしてそうなのか、私個人は理解不能。大体、同時代の人間のやることに「難解」などということはない。

あっはあー、「そう思うという脳機能が、不自由という洗脳を受けている」、受けている責任は脳の持ち主。

あっはあー、それがいかんのではなくて、私は、大した分際でもないし、上から目線でもない。

単に、それじゃー、つまらないよなあーって思うだけなわけね。でね、もう、宇宙規模で、なんでも言われている定理。

バン・ゴッホが生存中は、今で言うところの「現代美術」より、たぶん、もっと、超絶的なキチガイだと思われていた。私が、仮に当時生きていたならば、絶対に、彼を擁護した。これは、確実に、そう、言えるのである。百年以上経ってから、追いついても、つまらないのだ。一回しか生きてないから、先端を理解すると、おもしろいどおー。久保の兄貴の散歩、「人間の作ったものをすべて消して歩いてみる」。現代の詩なのだ。

## System D

---

2015.03.05 Thu

「System D」、ちょっと英語みたいだけれど、これはフランス語。直訳すると「なんとかする」という意味。Débrouille「上手くやって行く」という単語から来ている筈である。たとえば、「ポービン(貧乏)だけど、心は錦い——」なんちゅう意味合いでも使える。私が好きな言葉だし、私が多用するD(レ)ドリアン音階とも語呂がいい。

ところで、二年間の切磋琢磨君のお陰で、ブロックコードというテクニックが血肉化した。ちゃら弾きをせずに、和音和音で決めるやり方なのだけれど、猛スピードでコードチェンジするのが、やはり、相当に難しい。練習あるのみ。ふむ、自己分析してみて、やはり、かなり習得の域に達している。ということは、そろそろ「次のステップ」へ、となる。これがパッと浮かんでこない。沖至師匠には「イサオ、ブロックコードだけで、お前、食って行けるよ」なあ——んて言われてしまった。ふむ、「次のステップ」ってなんだ？

「次のステップ1」とりあえず、ピアノは置いておく。シンセサイザーで、ちょっと違う音作りを試してみる。あまり、テクニックを敢えて使わない。私の息子娘世代が、何気に聴ける。踊れる。こんな曲を作ってみる。と、作ってみた。娘に聴かせたら、いい感じい——って言ったから、まあ、当たり。それと、私は元々ディスコ音楽が大好きなのである。結局、自分が踊りたい曲を作りましたあ——、と単純なのだ。

「ステップ2」逆噴射療法。つまり、ジャズのスタンダードを譜面通り弾いてみる。直ぐに飽きてしまう。そもそも、ジャズに譜面はいらんというルーツがあるから、飽きてしまうし、直ぐ自己流に変えてしまう。まあ、譜面は、単なる演奏の目安という感じなので、その通り弾く練習というのはジャズの場合は、末本倒転。

「ステップ3」わっ、ここからが本題なのである。家にあった息子と娘が使っていたバイエルを引っ張り出してきた。フランスのそれはピンク色なので、バイエルではなくてピンクメソッドと呼ばれている。勘違いする方も出てきそうな名称である。これを譜面台に乗せ弾いてみた。たぶん、五歳の時には・・・、うおっ！ 五十年前だっ！ そこそこ普通に弾けたはずなのであるが、五十五歳のジャズメンがやるとギクシャク。まともな四拍子感ゼロ、および、左手のアルペジオがスムーズに行かない。いや、左手だけだとなんてことないのだけれど、右手を加えると、左手はリズム、つまりシンクペーションしようとするから、とんでもなく変な感じ。わっわっわっ、ジャズ菌の威力に改めてクビキリテンギョウ(びっくり仰天)っ！ 俺は進化したのか退化したのか？ 分かんないあ——い。

あれ？ 結局、「次のステップ」がなんなのか分からんのだ。現代音楽の和音分析とかか

なあー？ たぶん、もう、指さんたちが把握していると思われる。えっ？ ヒット曲？  
魚っ！ じゃ、下に「裕イサオ世界戦略曲(爆笑)」添付すっからよ。大音響で聴いてくれ玉枝さん  
。

2015.03.06 Fri

なんかね、書きたいことが二つ浮かんだ。ひとつは「五歳の俺」という詩のようなもの。もう一つは「タモリさんとサダンジさん」。

### 「五歳の俺」

「ぶんぶんぶんはちがとぶ」、これが普通に弾けていたはずなのであるが、半世紀経った今の俺は弾けない。ピアニストなのに、である。半世紀に渡って積もり積もった酒煙草人間関係……。人生は初期化せんのであることぞ。sakuraiさんのひっそりコメントの中に、幼稚園の頃の我が子というコメント返信が出て来た。そうかあー、俺の両親もうるうるしていたわけだ。そして、親父の俺も我が子のその時代、うるうるしていた。羽毛おー、チャンジーになっちゃったのね、俺。諸々の毒素の堆積が、「ぶんぶんぶん」出来なくなった。でね、ほほほ、決め台詞。五歳の私と五十五歳の私の間には、何もない。意味？ まあ、毒素の秋じゃねえーけど、毒をもって毒を制すじゃねえーけど、今更、ぶんぶんぶんしている方がおかしいだろっての。皆、邪頭なのだよ。あっ、意味？ まだまだ、折れねえー、ということ。俺は、若い頃に戻りたいなんてゼロだ。今の方がベターチャンジー。

### 「タモリさんとサダンジさん」

すいません、サダンジさんの漢字が出てこない。歌舞伎のサダンジさんです。なんかね、お笑い芸人って、「喧しければいい」と勘違いしている。いろんな番組を見ていると、煩いし、声は大きいし、画面前面に出ようという感じが充満し過ぎ。まあ、さんまさんの影響なのかしらねえー、さんまさんは好きだけど。でね、「静かなお笑い」という事を考えると、タモリさん、ダウンタウン松本さん、なんか、喧しくない。でね、でも、べらべらがちゃがちゃしないとお笑いにならんのか？ 日本エレキテルは、かなりいい感じである。特に中野さん、人見知り、出不精、一日ホリゾンタル。で、たまたまバラエティーを見ていたら、七十四歳のサダンジさんが出て来た。ゆうーーーくりとお話する。

「レンタル ビデオ 借りに 行った レジの前を 通り過ぎても なにも声を掛けられない  
そのまま アダルトビデオのところに行った レジに出したら サダンジさん 次の公演楽しみに  
しています と 言われた ははは 変なビデオ 出してから 言わないで欲しいな 顔 ばれて  
るなら 入ったときに いって欲しいな」

「はい SM好きです でもね 警官みたいに 帽子かぶって SとかMって紋章つけてもらわ  
ないと どちらか 分からないな」

いやあー、伝統芸能という定型の中で突出する人というのは、とんでもなくおもしろい。

フリージャズメンの対極のような方だけれど、ここにもメビウス現象が起きていると申し上げる。

俺たちだって、おもしろいぞー。

## 白昼の正夢

---

2015.03.09 Mon

昨日、3月8日2015年、日曜日。快晴、最高気温約20℃。カミサンと自転車。

私の住む小さな町から、隣村のゴッホ晩年の地まで、5kmから場所によるけれど7kmである。川沿いの県道、町と村を横切る村道。上の麦畑の農道と川沿いに三本のルートがある。我々は真ん中の村道。ぎこぎここと自転車。

印象派の画家たちがキャンバスを立てた場所に、描いた絵の立て看板がある。一杯あるのだ。印象派の前身となった画家ドゥビニーも含まれる。

襟巻きを外し、ジャンパーを脱ぐ。アップダウンの道が続くから、自転車には結構キツイというより、我々には……。鍛えている人たちが、どんどん追い越していく。我々、ぜいぜい。坂道は歩き。ぜいぜいとやっていると、画家たちの「キャンバス跡」が、一杯出てくる。ぜいぜい名利である。

ピサロ、セザンヌ、ドゥビニー、ゴッホ。ゴーギャンは滞在していたけれど、ゴッホとごたついていたのだろう、絵を描いていない。おっ、ゴーギャン。ジャズしてるなあー、彼は……。ゴッホもだけれど……。ありゃー、フリージャズだ。

快晴、ぜいぜい、自転車の左のペダルが調子悪い。カミサンがどんどん行ってしまふ。

内のカミサン、フランス人だ。ピサロ、セザンヌ、ドゥビニー、ゴッホ。そのフランス人の私のカミサンである女の後姿と、この絵の巨人たち。そして、その絵の中に出てくる風景の中を走っている私。福島県いわき市の常磐炭田のある町で育った私。突然の脳ワープ。えっえっえっ、俺って、フランスにいるの？

たまに起きる。デジャブの反対現象。

## 印象派

---

2015.03.10 Tue

「印象派」、皆さんご存知の通り・・・、と書きたいのだけれど、なんか観光資源みたいになっているから「その本質」が、どのように理解されているのか、私には分からない。と、なんか偉そうではあるけれど、私の右側のプロフィール写真、実物の三倍ぐらい格好いいやつを見ても、どう見たって、元美術家には見えないけれど、美術は専門だったのである。

「印象派」、十九世紀後半のフランスで生まれた「前衛芸術」。「印象派」という名称は蔑称である。「前衛」だって観光資源になるのだ、百年ぐらいすると。

「光の動きを正確に活写しよう」とした。まあ、きちがい沙汰だ。このコンセプトに一番忠実なのは「モネ」と「ピサロ」だと思う。本来的な真の印象派はこの二人。ちょっと独断？ これを科学目線で分析したのが「スーラ」である。マルセル・デュシャンが大変に評価しているのは頷ける。

「セザンヌ」、現代美術の原基。有名な少年の絵の腕が異様に長い。つまり、絵画を初めて平面と理解し、画面構成という概念を発明した恐ろしい人である。遠近法からの解放は、フォービズム、抽象絵画へと繋がっていく。さらには、絵画から額縁という概念を取り払うジャクソン・ポロック、マーク・ロスコへと・・・。セザンヌは別格。印象派の先を行っていた。マチスもモンドリアンも彼がいなければ、どうだったのだろうか？ そして、究極の頭脳、デュシャンへ。

「ゴーギャン」、もうこの人は絵描きというより、人生の達人であろう。そのバックボーンに絵画があった。でも、彼の作品は人生、彼の人生そのものである。脱サラして蕎麦屋、脱サラしてジャズメン(えっ、だれ?)、こういう系譜の先駆者だ。

「ゴッホ」、彼はエモーションを絵画の上で解き放った。フリージャズメンの先駆者でもあると理解してしまう。ゴッホの凄まじいエネルギーは、ヘンリ・ミラー、ジャクソン・ポロック、ジミ・ヘンドリックスと連綿と繋がっていく。

と、ちょっと、独断ほいのかな？ でもね、絵画鑑賞なんぞは、私はしない。美しいとかばっちいとか心が和む、なあーんていうこととは、制作している側は真逆マジきちがいなのである。この辺りを理解して美術を見てみると、いや、違うな、理解しないで見ても意味がない、ということだし、私は美術館には滅多に行かない。ある意味、画集で十分。

あっは、などと言いつつ、モンドリアンの実物、感銘を受けたし、デュシャンの絵描きの頃の作

品もぞくぞくした。筆息が伝わってくるからねえー。おっ、やっぱ、真逆の結論。音楽はライブ、これと一緒にかな？ うーん、制作している側の前衛脳を理解してから見ないと、じえんじえん、面白くないし、見に行く意味もない。芸術の歴史は人間の先端をいていた人たちが作ってきた。ということは先端脳がない人は、まあ、凡人の堆積の一角で蠢いているしかないのだ、うん、私のように。凡人じゃねーと思ってたんだけどな、若い頃は……。まあ、いいやって。もう、先端は無理だったの。おっ、ゴーギャンコードが残ってるぜっ、まだっ！

2015.03.12 Thu

お笑い不条理コントの先駆者は「さまーず」なのだと思う。正確には大竹ワールド。さまーずの漫才きのお取りの中に・・・。

三村さん「きのお取ってたんだよ」

大竹さん「なんで？」

三村さん「食うからあーーーーー」その後、あまりの自分の大声に痛たたたたあーと脇腹を押さえる。これは本当に痛いから。

彼らの次世代「アンジャッシュ」。仲の良いコンビというコント。

お笑いマガジンインタビューアー「仲の良いコンビは大成しないと言われてますが・・・」

アンジャッシュ「そうですねえー、我々、仲、良くはないですねえー」

お笑いマガジン「仲良さそうですが・・・」

アンジャッシュ「いや、良くないですよ」、渡部さん「児嶋、こいつ馬鹿なんすよ、交換日記、全部、平仮名ばっか。馬鹿じゃねえーの」

その後、渡部さんと児嶋さんがいかに仲が悪いかと言い争い。「もう、お前の缶詰開けてやらないからなあー」「ふん、今年の冬はマフラー編んであげねえーからな」「土曜の夜、もう、カレー作ってやらないからなあー」、取っ組み合い。お互いのシャツを破るとお揃いのニコニコマークのTシャツ。実に良く出来ている。彼らの次世代は「ロッチ」かな？

いやあー、嵌り出すと止まらなくなる。こういう世界。

2015.03.13 Fri

ちょっと、今日の記事は専門的になってしまう。私自身の覚書。

「ピアノ超絶技巧ドラゴンへの道」と自分で名付けた分厚いファイルがある。私は天邪鬼だから、ピアノメソッドも自分で作った。既製品は受け付けないし、習得すると皆と同じになってしまう。から、下手だからこそ、イサオ節にならんと意味がないので、こういうことになった。やはり、二年強の切磋琢磨、習得のレベルに達している。そうなると、ちょっと前に書いた「次のステップ」を模索することになる。うーん、さすがにブログのタイトルを変えるようにはいかないで、やや、悶々とする。ピアノは私であるから、このピントが合わないと、脳内ギクシャクが始まってしまう。やや、焦る。

昨日、模索君の頭の中に、ピーーーンと閃いた。この閃きも、延々と北島三郎の歌い方で「模索うーん、もおさくうーん」とやっていないとやってこないから辛いのである。ふむ、イサオ節をキープしつつ更なるステップアップ……。 「ドラゴンへの道2」の、ほぼ、原型が脳内で蠢きだした。

「その一」ブロックコードでメロディーを弾く。私の場合は、重複音を含めて左手四音。右手三音。これでメロディーを弾く。つまり、テンションコード4、6、9音を付加する。非常に分厚い四度和音で弾くから、むむむうーんと格好いいし、耳に実に心地良い。ベートーベンの喜びの歌は、すでに完成しているのである。合間に、ちゃら弾きでスピードスイング。

「その二」ブロックコードを左手のみで行い、右手はマッハ3でソロをする。やや、脳破壊されそうだけれど、これは出来るはずなのだ。すでにやってみた。超絶肩凝りとの闘いの幕が開いたのである。

「その三」通常、左手でやるルートレスフォーボイス(根音のないテンション四和音)を右手でやる。超押さえ難い。左手はルート音。これは、オーソドックスなジャズのスタイルなのだけれど、右手の和音が複雑なので、泥臭くない知的モダンな音になる。とはいえ、右手の動きがしんどいしんどい。超絶肩凝りの悪化は免れないけれど、難のこれ式で乗り越える。

と、まあ、一、二年の切磋琢磨が推測される。ピアノの正式名称をここで発表する。すでに存在しているインサイダー名称に、私がいくつかの単語を追加したものである。

ジャズフェスティバルの司会者案内。

「裕イサオ on . . . . .」

「高齢化社会用白黒鍵盤指関節増幅指先刺激ボケ防止器」

魚っつ！ 魚っつ はぶん めえーん！

## 無理な動き

---

2015.03.16 Mon

先日書いた「ピアノ覚書」という記事の中の「次のステップ3」。簡単に再度書くと、左手ルート音、右手四和音。セブンスコードとか $-5 = 5$ 音目が半音下がる、こうなると、中指と薬指が股裂き状態になり、更に、小指も股裂き。こういう動きを猛スピードでやろうとすると、体の具合まで悪くなってくる。

注意！ ピアノをこれからはさろうという方、および、すでになさっている方。「指に少しでも痛み、違和感を覚えたなら、その動きは即刻中止することおーーー！」。体調不良、怪我、最悪はピアニスト生命を縮める。スポーツ選手と同じである。と、私も即刻中止。正確には、四和音を三和音に端折ったのだ。うはははははあ、音数を単純化した方がお洒落になる時も多々あるのじゃ。でねもえー、頭良さそうに見られたいから一杯入れたくなるのも人情なんだけれど……。しかし、ピアニスト生命には代えられない。それと、やっぱ、指の動きに無理があるとね、スイングしなくなる。イモになる。これはヤバイ。

はい、オジサンらしいまとめ。やっぱね、人生もピアノも無理な動きはやらん方がいい。わっ、本当にオジサンらしい結論だねえー！

余計な追伸。ジャズピアノの創成期のコードワークなんて、左手は、たったの二音なわけ。1と3とか1と5音。これだけだったわけね。でも、皆、頭良さそうに(実際に良いということではない)見られたいから複雑化した。このはったり競争が今日のジャズサウンドを作り上げた。うーーん、考え方によると我々は馬鹿なのかも知れない。これを成音趣味と言う。嘘。

## スイング

---

2015.03.17 Tue

といっても野球の話ではないよ。ジャズのスイングね。おっと、その前に、なんとなくうんちくを垂れたいのだ。年相応に。といっても、私のうんちくは「自分向け」。私以外の方へのうんちくはゼロだ。それぞれでいいから・・・、まっ、人のことはどうでもえーのである。第一、親父なのに、息子と娘へのうんちく、なあーんもない。法に触れなければいいし、まっ、触れちゃうということも百パーなくはないかもしれんけれど、親父であることには変わりはない。

「うんちくその一」ドミナントコードって、音楽を齧った方はご存知の通り。やや不安定な音階の五度上にできるセブンスコード。で、人間は主和音、トニックコードに気持ちに戻ろうとする。心理学的な説明はわからん。サブドミナントは彩りを添える。わっ、トニック主和音=安定した人生。サブドミは、その彩り。ドミナント、やや不安定。結局、ドミナント状態がトニックに戻らないと破局を迎えるのだ。でね、我々、フリージャズ屋は、全部、無視。主和音がねえーから・・・。永遠のドミナントなのだろう。おっ、音楽で人工的な破局を日頃やっているわけだ。

はっはははははあーん、そう、音楽すること自体がドミナントで、平穏なトニックライフに翌日帰る。お客様方もそうなのだ。まっ、ホラー映画見たよおおおおおおんという感じかしらね。

「うんちくその二」スイングしないジャズはイモである。即刻、止めた方がいいのだ。じゃ、スイングってなに？ そうねえー、私よりもスイングしていると思う連中は、ジョン・肩コルト

レーンのユニットと、キース・ジャレットのトリオ。前者のリズムセクションは、ご存知の通り、地味いー・ギャルソンのベースとマッコイのピアノとエルビンのドラムス。このバックは強烈である。エルビンのドラムスのせいかしら？ 後者は、もう、ピアノ馬鹿、キースの超絶スピードスイング。こんだけ、ピアノは私だしているミュージシャンは稀である。もう、どちらがどちらを弾いているのか、境界線が消滅している。キースは鼻高神経質のちとやな奴とコンサートのオルガナイザーから聞いたけれど、凄い音楽をする人が、別に良い人である必要はゼロ。と、スピード、ノリ、俺が俺がのリズム感の合体ロボがスイングなのである。まあ、生きている証と生甲斐剥き出しパワーがないとでけん。でね、ジャズをやりたい方は、リズムは相手の後ではなくて、相手の前に行くぐらいの勢いがないとイモになるのだ。自己顕示君にならねばならん。

と、ジャズからも色々と、学ぼうとすれば学べるのであるけれど、別に、学ばなくてもいいのである。好きにして。

## ピアノのある風景

---

2015.03.18 Wed

何気にタイトルを付けてみた。なんとなく格好良い。わっ、記事自体が格好良いわけじゃないのに・・・。

私の脳内中央にグランドピアノがどおーーんと置いてある。こういう脳内風景になったのはそれほど昔ではないのである。会社、中間管理職、出張、部下の管理、社内の諸々の思惑、住宅ローン、子育て・・・の台風の非難小屋みたいなところに小さな電子ピアノが置いてあったのだ、長い間。もちろん、脳内風景という意味でね。

それが、今じゃ、ほれっ、ご覧の通り。えっ、きよろきよろ。

間もなく五十六歳になろうとしているオヤジの脳内がこれでいいの？ という大きな疑問も沸いてこなくはないけれど、脳内がこのようにすでになっちょるからどうにもでけん。知人のひとりが「裕さん、そのアホな熱情が、いずれ花開くときが来るよ」だって。おっ、ということはわたしは、まだ、蕾ちゃんなの？ いや、花はとっくに開いていて枯れ始めているの？ 結局、どっちなのかわからんけれど、どーでもいいわよねえーと、志村けんさんと柄本明さんの芸者コントの口調で呟く。

しかし、十四歳のときに中学校の先生に何気に言った、あの、あの、あの一言。「裕君は、将来、何になりたいの？」、私、きっぱり「先生、ジャズピアニストです」。有言実行するとは、当時の私には遥か彼方の蜃気楼。

## 寓話「大きな時計」

---

2015.03.19 Thu

「立花君、大きな時計と、すごくちっちゃい時計があります。どちらが早いですか？」

「先生、そのような愚問は止めて頂けますか？ 東京(の)大学に入れなくなります」

「じゃ、寓話君はどうか？」

「はい、先生。小さい時計の方が早いです」

「どうしてかな？」

「はい、五分間隔の幅が大きい時計の方が長いからです」

「うんうん、そうだねえー、続けて」

「はい、その幅が長い分、つまり、距離が長い分、遅いのです」

「うん、正解っ。じゃ、地球で一番大きな時計は？」

「はい、地球です」

「ぱちぱちぱちっ！ それより大きな時計は？」

「はい、宇宙ですが、我々の認識では太陽系とか銀河系ですかね」

「一日二十四時間となっているけれど、だれが決めたの？」

「人間です、けれど、宇宙の運行時間から算出されていると推測致しますので、理に合っているとは思われます」

「じゃ、最初の質問に戻るよ。大きな時計とちっちゃい時計、どちらが早いのかな？」

「はい、小さい時計です」

「正解っ！」

追記 本記事、書いている途中でパソコンがダウン。今、ブログ村のマイページを開いたら、なぜか新着記事となっていた。クリックしてもなにも出てこない記事。なんか、それ自体が寓話になっちゃったような……。すいません、なんだか思わせ振りの感じになってしまいました。大した内容じゃないのに……。おっ、地球の自転に酔っちゃった男の話なあーんてことが頭に浮かんだ。考えたら、我々、なんもしないで自動的に毎日、世界一周してるのだなあー！ 変な感じいーん。

## 過去ピアノ

---

2015.03.22 Sun

加古隆さんは、私の師匠、沖至ユニットのピアニストだった。一時期、フランス、しかも、私の住む町の隣村に滞在。色々な意味で、私の大先輩である。

その「加古」ではなくて「過去」の方ね。

幼少期にピアノを齧った日本人女性は大変に多い。豊かな国なのだ。ピアノ自体が高い。でね、高校三年ぐらいで、ほぼ、全員が止めてしまう。大学、嫁入り準備？

でも、嫁に行って二十年ぐらい経つとする。もっとでもいいよ。急に、「ピアノを弾けたこと」を思い出す。

むむ、じゃ、弾きなさいよ、あんたっ！　なんで、折れるの？　「弾けるのなら弾きなさい」ね。

たとえば、チック・コリアの「スペイン」。

## 別に

---

2015.03.23 Mon

昨日、赤ワインをちびちびやっていたら……。俺、昔の日比谷公園に師匠である沖至ユニットを聴きに行く。公衆トイレに入る。ぎょ！ 立ちション。俺の横にマツコ・デラックス。本当にびっくりしたし……。俺は、その姿で軽く彼女に会釈した。「どっ、どうも」って。なんなんだ、このイメージっ！

いや、うなことはどうでもえー。その、つまり、ピアノ、別になくてもいいし、弾けなくてもいい。人生に大した影響はない。私のようにド嵌り君は放置しておけばよろしいのだ。でね、ずっと以前に書いたのだけれど、五歳から十二歳までピアノの先生についていた。その後、野球に嵌り、止めちゃった。で、三十五歳の時に再会、再開。この布石になっているのは、二十二歳ぐらいの時にロンドンのバービカンセンターでキース・ジャレットのソロコンサートを聴いた。痺れた。「俺もよおー、ピアノ、あんな風に弾けたらモテモテだろうなあー」、これが布石。うん、ピアノ弾くと実際にもてるのだけれど、でも、チャンジーに今はなっちゃったから、どうでもいいわよねえーと志村柄本芸者の口調になる。そうになると、自分のために弾いているとか、自分の内面を見詰めるために弾いているとか、その動機が、やや、孤高ラインを描き始めるわけだ。

うーん、私も立派になった。嘘。

## ジャズの良いところ

---

2015.03.25 Wed

今、ピアノの練習をしていた。その後、これを書く。ピアノ、絶好調なのである。

むふ、でね、ジャズって

素敵い-----  
一と吹きながら弾いていたから、その「素敵」について書く。

はい、楽譜がない＝ユニフォームがない。禁治産者になりやすい＝不定形。喜怒哀楽好き勝手に弾ける＝アル中になりやすい。

でね、何度か書いたのだけれど、ジャズのルーツ。辛い人生、でも、笑って歌おう。この黒人奴隷の重い暗い歴史と、彼らは元々、明るい。この系譜によって生まれた音楽だから、元自閉症の私には、ずっと、脳に侵入した。

ネアカが暗い暗い世間様と接触するとジャズになるという真理が生まれる。

だから、久保の兄貴、友だちが少ない、道理なのだ。私も、「数は少ない方」です。「質友だちしかいらん」のです。いなくても、ピアノがある。げっ、

暗いい-----

? だあーら、私はネアカなんでね、暗い世間とかかわりたくねえー。早死に? むしろ、算数上は長生き、の、はず。医学的には? 知るかっつの! まあ、北野武が健在だから大丈夫だろう。

2015.03.26 Thu

私が芸能人なのか分からない。ジャズメンだから、たぶん、そうなのだろう。OOO、「一般人」と結婚、なあって書いてある。いつも、えっ？　と思う。なんなのだ、「一般人」って？

ところで、芸能人になりたい人々の何パーセントが「成功」するのだろうか？　仮に百人に一人とする。絶対にもっと凄い数値のはずだけれど。とすると、九十九人がどうなっているのか？　となる。

成功した人、たとえば、有吉さんとか阿部寛さんとかいるけれど、彼らは、一時期、いわゆる冷や飯を食っていた。日本エレキテルもそうだ。でも、華々しく売れている。それは素晴らしい。でも、百人に一人組みである。

残りは・・・、売れないまま、結婚、子供、結局、別の仕事へ。

それから、一発屋。一曲だけヒット。一ギャグだけヒット。突然、干される。二番目のケースより、相当にしんどい。一度、当たった祭りの後の悲しい風景。「あの人は今」というやつだ。シビアだろうなあー。

でね、俺なんだけれど、どれにも該当していない。なんとなく、二番目が近いのだけれど、売れないまま消えて行く。俺の場合は、売れないまま消えない。なんなんだろうね？

まっ、フリージャズが「当たる」ことはないのだ。竹とんぼ、竹馬を世界に広めるのだっ！　に限りなく近い。

「はい、本日は、お忙しい中、会場一杯のご来場っ！　本日は、世界フリージャズ大賞の一夜でございます。では、今を時めく女優、高科レナさんより、ベストグループ賞を発表っ、して、頂きまあーす」

「ベストグループ賞、は、ドキドキしますねえー、あっ、裕イサオユニットでえーす」

「裕さん、佐藤真さん、オリビア・セママさん、ステージへっ」

もそもそ。

「はい、賞金、三千円、および、恵比寿様の縫いぐるみですっ！　裕さん、一言っ！」

「えーす、いや、なに、今日は、へめらもでめかさでっ！　メルシッ、僕っ」

「では、フリージャズのノーベル賞と呼ばれるナンデ・ヤネン賞っ」

「あっ、裕イサオおーす」

「では、ベストジャズメン賞っ」

「あっ、裕イサオおーす」

結局、俺は三冠に輝いた。のだ。賞金九千円と恵比寿様の縫いぐるみが三つ。やったぜって、のっ！ 因みに、会場の席数は二十でした。

## チーズ

---

2015.03.27 Fri

昨晚、ユーチューブで「マツコの知らない世界」をいくつか見た。「チーズ」が出て来た。私はチーズ大国に長年住んでいるのに、まったく食べない。人の家にお呼ばれすると、かならず最後にチーズの盛り合わせが出てくるので、この時だけ、食べるような振りだけする。好きでも嫌いでもなく、私の食生活の中に必要がないもののひとつなのだろう。チーズを見ると、水戸納豆を食いたいよおー、イカの塩辛の中に飛び込みたいっ！ という感慨が湧いてくるから、ある意味、迷惑でもある。たまに、日本に帰国すると、確実に太って帰ってくる。四六時中、なんかを食べている感じがする。食べたいものが多過ぎるので、このようになるけれど、フランスでは、昼と夜の二食。以上なのだ。まあ、考えたら、カミサンも娘も、おやつのようにチーズを良く食べる。息子もそうだ。健康には良いんだろうなあー。やはり、私だけ日本人なのだろう。味覚だけね。

ところで、マツコさん、ほとんどのチーズを試食というより、全部、食べてしまう。ついでに、「ビール、飲みたいわあー」。ジョッキに入ったビールをコップの水。五秒ぐらいで空。お代わり、五秒。この食いっぷりっ！ 素敵だわっ！ わっ、あたしまで、マカオ。いや、そうではなくて、急に思い出した。日本だと、チーズはビールのおつまみだった。忘れてた。チーズ=赤ワインというフランス脳になっているから、あれ、あれ、あれ？ と哀川翔の口調になってしまう。今度、やってみっぺ、ビールでオランダの固いチーズなんか良い感じだね。おっ、よおーーく考えたら、私は、つまみも食べないのだ。酒のみ。太らんわけだ。

2015.03.30 Mon

私が、現代美術家として最後の展覧会を開いたのが三十八歳の時だったから、今から、早十八年経つ。バン・ゴッホの晩年の地で開催した。これが、現代美術家裕イサオにとっても晩年の地になったわけである。

その作品の一部であるマネキン人形とトルソをインターネットで売りに出したら、アッと言う暇もなく売れてしまった。まあ、マネキン人形、確かドウゴール空港の近くの工場で、太股に穴の開いてしまったマネキンを三万円ぐらいで購入。太股の穴をグラスファイバーで埋め、高価なアクリル絵の具リキテックスで何度も丁寧に塗装した。とても綺麗なピンク色なのである。これを三千円で売りに出したから、問い合わせが直ぐに来た。トルソの方も、一体八千円ぐらいしたはず。こちらもリキテックスで丁寧に塗装。やや、象牙色に近い白である。四体で四千二百円としたのである。

娘が「パパ、大切な作品、寂しくないの?」。「えっ、あっ、マネキン人形は劇団の方が舞台装置として購入してくれた。うん、もうひとつのクリエーションの中に彼女は移行したわけだ。いいんじゃない、それで」と答える。

夕方、いつものようにビールを飲みながらピアノを弾いた。弾きながら脳内で・・・。

うんうん、物体は壊れるし消滅する。けれど、俺のピアノの技術は不滅だ。場所も取らないし壊れもしない。あれあれあれ? おっ、俺が活着ている限りは・・・。わあ、俺が壊れて消滅したら同じことだなあ。じゃ、何が違うのだ? れれれ、何も違わないじゃん。活着ている人間の生きて記憶が活着ているけれど・・・、わっわっわっ、活着ているものしか活着ていないということか? なあ———るほどお——と。

その時のピアノ演奏は、なぜか練習を通り越した凄いいものになった。

2015.03.31 Tue

今年の北フランスの冬は寒かった。昨日から、春一番が吹き荒れている。小さな小さな木々の葉が芽吹き始める。

毎年？ なんだか「やや鬱」である。これに効く薬はなくて、私の場合は・・・。

ピアノを弾く。絶好調である。ブログを書く。お気に入りブロガーさんの記事を拝読する。ミュージシャン仲間に連絡する。次のコンサートの予定を組む。夜、「クローズゼロ」を見る。「さすが鈴蘭だな、折れねえー」なんていう台詞が染みる。

わっわっわっ、すべての思考回路がネガティブになってくる。そういう時、エトルタの断崖が脳内を過り始める。やっ、やばいっ。このネガティブエレクトリックのパワーは半端ではないのだけれど、結局、その元になっているものがなんなのか分からん。五十代の鬱病、ここまで行くと、これは恐ろしい。相当に切羽詰まった精神状態になってしまう。

でね、その根源がなんなの？ そう、マルセル・デュシャンの晩年のインタビュー。「人は、ただ、存在しているだけで疲れているのです」だって！ ほたら、我泣き濡れて鬱と撓むる。以上なのだ。しかし、こういう時のピアノ、我ながら凄い演奏をする。おいっ、裕ちゃん、身が持たんぜって！ スマイル、スマイル、スマイルス・デイビス。この野郎っ、豆まいたるうー——、あっち行けってのっ！ 鬱君っ！ あら、久しぶりじゃね？ 鬱君の登場。君、僕はね、慢性鬱だから議論の余地はないよ。もう、四十年ぐらいだよん。主治医によ、「俺、鬱病で

すってよ、自分で言ったらよ、いつからっていつから十七歳ぐらいからって答えたら、くすくす笑いやがった。まともに暮らしてんじゃん、あんたっ。くすくすくすだってよ」。

2015.04.01 Wed

私は物を集める趣味が皆無である。もちろん、コレクターの気持ちも理解できる。それはそれで、とても楽しいはずである。

とはいえ、執着のある物、思い出の詰まった物とかは少ないながらある。売りに出したマネキン人形、トルソもその内の一つ。でも、整理することにした。考えてみたら、ある意味「物持ちのいい人」という部類に入る。妙におセンチでもある。たとえば、私が初めて購入したトヨタカローラDX1985年型。これは友人が今でも乗っている。妙に嬉しい。廃車はなんか嫌なのである。ずっと走っていて欲しい。私と一緒に随分旅をした車だから……。結局、現在はホンダシビック1997年型に乗っているのである。ほとんど刑事コロomboのプジョーみたいではあるけれど、元気に走っていて欲しいのだ。最初のエレピも友人のミュージシャンが大切にしてくれている。あれ、車もピアノも電子ピアノも、すべて二代目、二台目。楽器は致し方ない、私のレベルアップに楽器の機能が付いていけなくなってしまったから交換となった。初代の韓国製サミックは楽器店に下取りしてもらったから、どこかのお家でバイエルを奏でているはずである。

2015.04.02 Thu

確か日本のヤマハが世界一のピアノ生産業者のはずである。それからカワイの生産量も相当なはず。それから韓国のメーカーが複数ある。ヤン・チャン、サミック、ダイウー……。中国製のピアノは楽器店で内部を見た。随分前なので、相当変わってはいると思うけれど、私の見たそれは、木工細工。ピアノの内部として見ると大きな？

日本、韓国、中国のピアノも含めて、ひとつ共通しているのは「音が明るい」、良く言えば。悪く言うと「金属的」。どうしてなのかたまに考える。私の推論は「東洋人の音感から来る」。確信も確証もない。比較的、カワイのものが金属的な感じが少ないように聴こえる。カワイ派のジャズメンが多いのも理解できる。

私は、やはり、幼少期にヤマハのピアノで基礎だの音感教育を受けたから、今でも、ヤマハのピアノの音が一番分かりやすい。小さい頃の脳内インストールは凄いのだ。一音一音の音のエッジがクリアだから分かりやすい。いや、分かりやすいから、そのように聴こえるのかしら？

ヤマハの電子ピアノの音源は、ヤマハGFX。素晴らしい音である。ローランドはベエゼンドルファーのはず。重い重い音。スタンウェイが真ん中ぐらいかしら？ ヨーロッパのベヒシュタイン、バーンシュタイン、プレイヤル、ペトロフ、ガボー……。どれも独特の音色。

やはり、手作りの楽器という感じが本当にする。たとえば、ヤマハのピアノは製品。工業製品という感じ。高品質の製品。逆に、ここが気に入っている。味わいは弾き手が出すのだ。とはいえ、GFXは手作り。日産のGTRを思い出す。なんか似ているのである。このふたつ。

追記 今、思い付いた。日本の実家にあるヤマハのピアノ。こちらで聴く音と違う。湿度のせいでフェルトがしけている。もしかすると、多少、金属的な音の方が、日本の風土には適しているのかも……。音が丁度よくなる。乾燥したこちらで弾くから、金属的に聴こえるのかも。うーん、GFXもGTRも、味わいを排除した究極の製品という感じがどうしてもする。日本の物作りの頂点のひとつなんだろうなあー。どちらも日本のクラフトマンの心意気の結晶だけでも、人間味というより究極の製品。この没個性が逆に日本の心なのかしら？ クラフトマンたちの物作りの真剣さが彼らの個性自体まで凌駕している。これは脱帽なのだ。わっ、それを超個性で弾こうとしている私はなんなの？ おっおっおっ、ジュスイフロンセー！ ぎょ。

2015.04.03 Fri

「マツコの知らない世界」を見ていたら、「漫談」というのが出て来た。で、見た。「綾小路きみまる」「中高年のアイドル」・・・。

えっ、「漫談」って、まだ、存在していたの？ お玉杓子、竹馬、竹とんぼの世界だと思っていた。いわゆる「昭和」というやつである。小学生の頃、小川の辺で「黄金バット」の紙芝居を見ていた。わくわくしたし、ソースの付いた薄いせんべいが超美味かった。私は野球狂+ピアノ教室+炭住長屋という「引き裂き時代」の真っ只中であつた。紙芝居、素敵だった。別の世界を垣間見た。「ヒーロー」という。うるうる。

あれっ？ で、「きみまるさん」の漫談を見た。げらげらげら。小川の辺の紙芝居を思い出した。「潤んだ瞳、輝く目脂」の状態にて大笑いした。凄い人である。

まず、ブレイクしたのが五十一歳。マックス・エルンストの初めての個展と一緒に。今時、ずけえー。そのプロモートの仕方が「中高年の団体旅行の大型バスが止まるパーキングで」「「カセット」」を配っていた。このアナクロニズムは凄い。しかし、理由を聞いて、更に凄いと思った。彼のお笑い=ビジネスでもある、のターゲットは中高年。六十代以降。おっ、私は、その予備軍。まあ、二軍のベテランで一軍昇格が間もなく、という位置ね。シーデーを知らない。聴く機材がない。操作が分からない。う————む。

マツコ「ねえ、きみまるさん、あんなこと言って大丈夫なの？」

きみまる「全然え————ん、誰も自分のことだと思ってないから」

私は仰け反ったっ！ 私は、「すべて自分の事に」聞こえた。まったく、腹は立たない。げらげらげら。あっ、そうそう。以上なのだ。可笑しいなって、ジャズメンの俺がそう聞こえた。ちょっと、若者に近い位置にいる俺が・・・。わっ、もし、そうであれば図太いし、ずうずうしい。お辞儀です。

ところで、「私のマーケティングの選択肢のひとつ」として、「フリージャズ、懐かしの」、この路線があつた。熱狂的なフリージャズファンは、現在、七十代前半。ふむ、まあ、選択肢の一つではあるけれど、きみまるさんには失礼だけれど、この人たちは、そんじょそこらで笑わない。偏屈の塊なのだ。ここに私が入り込む。体はぼろぼろになる。堅気じゃねえんだな、この人たち。やばいのだ。

きみまるさんのネタのベースが駄洒落。これは、お笑いとして、とうに、廃れている。しかし、

きみまるさんは堂々とこれをベースにしている。素晴らしいの一言です。ここまで、オジギャグを突き詰めた人も稀であるし、テーマ自体の暗さは凄まじいのになんか笑ってしまう。この「丸い毒舌」「毒のない毒舌」、これは、ビートたけしも有吉さんもでけん芸である。

安住アナ「きみまるさん、お墓を見に行きましょう」

きみまる「うん、ぼちぼち、行こうっ」

こういう駄洒落、凄いなあー。私の同僚のベストのひとつ、「思い出のサラダって知ってる？

海藻サラダ」。

## 鬱君、ごめん

---

2015.04.04 Sat

鬱君(うっくん)、ごめんなぁー、久しぶりに登場したのに台詞はないし、一回だけ。ごめんなぁー、出番がなくてな。俺には、日本エレキテルじゃねぇーけど、いろんなキャラがあるんだぜ。ジャズ菌さん、評論家の石頭さんとかよぉー、ごめんな、出番が少なくてよ。大体よっ、裕イサオ自体が芸名だから、キャラのひとつなのだよ。きゃらっ！

鬱君、君もね、僕の分身ではあるけどね、きみまるさんに言わせると「先がない」から、ごめんなぁー、あんまり登場の機会はないねぇー。ジジイは忙しいのね。鬱君、そんなにしょんぼりするなよ、まっ、大丈夫、来春には、また、登場できるから早まらないでね、馬鹿なこと、お笑いじゃない方はしないで頂戴ね、俺の分身なんだから、考えて頂戴っ、でも、君がいなくなると、寂しいのだよっ！

漫談社編集部 裕センセ特有のレトリックスう—————。

## 人形の嫁入り

---

2015.04.05 Sun

さっき、私のマネキン人形が嫁入りした。嫁入り先は、私と同じぐらいの年齢のアーティストの家である。むふむふむふ、異存はない。八月にビィラソー城で彼の作品の一部として、再会できるのだ。むふむふむふ、異存はない。良かったよお—————嫁入り先がアーティストのお家。異存はない。

りゃ？ マネキン人形で、この状態、ということは、本物のうちの娘の嫁入りの時はどうなるのだ？

ところで、嫁入りした先の彼は、なっななななななななんと、元ドラマーなんだって！

おりゃ————っ！ 彼の展覧会を私が見に行く約束と、次のコンサートは彼が聴きに来てくれるのである。

おりゃ————っ！ マネキン人形でこの状態。本物の、わっわっわっ、別嬪の、りやややややややや、娘が、わっ！

自分が怖い。

2015.04.07 Tue

「国木田先生、フランスに送り込んだネタミネーターIY33が返送されて来ました」

「まあ、故障が多いんだなも、こいつ。で、今回は？」

「肩筋肉、軽い鬱、頭がぼーー」

「まあ、こいつ古いかんなあー、肩筋いかれてんだろ。大体、ピアノロボだかんなあー、消耗もしょうもない、きみまるさんじゃん」

「軽い鬱？」

「こいつよ、ロボットのくせによ、不良品だっ、だから、そうなる。ロボットにも不良、ぎゃはっははははあ、きみまるさんだ」

「頭の不良は？」

「わっ、こいつねえー、超絶IQ脳を入れちゃったんだけど、本体、安普請なのね、脳負けだ」

「国木田先生、こういう台詞、作者のお自慢にしか聞こえないのですが？」

「わっ、下田っ、気が付いたのね。やあーーーらしいわ、あなた」

「マツコ化は手術中に・・・」

翌日の裕イサオ。

たあーーーりらりん、なんか、肩軽いいー。二日間よ、超絶肩凝りでよ、具合が悪かったのだ。ベートーベン弾いたっ！

2015.04.09 Thu

本来なら、今年の2月1日から「社会復帰」のはずだった。それが「契約書」の作成が難航し遅延。結局、「契約書」、できたのだけれど、相互了解には至らなかった。すべてが初期化したのである。五十五歳の親父にはシビアな状況となった。とはいえ、フランスは契約書がすべてであるから、迂闊にはサインできないのである。雇用する側もされる側も……。致し方ない。

あまり詳しい事情は書けないけれど、一言で言ってしまえば、私のキャリアが逆噴射したのである。つまり、多くを知り過ぎている。これはスパイと一緒に、雇う側もヤバイのである。と、こんな感じい——。まあ、しゃ——ない。雇用される側が、会社の経理だの総務だの雇用契約だの、フランスの雇用法だの、こういうことに、あまりに精通している。やり難いことはなはだしいのだ。なんぼ、私の物腰が柔らかくても、元現役スパイ(スパイではなかったけれど)の臭いのようなものが出ちゃう。くくくう——。しゃ——ない。

で、がくっとなるのか？

私の場合はならないのだ。なんのなんのお——、折れねえ——。馬鹿なのかな？ 物事の初期化は、始まりなのだ。むむむう——、なんのなんのお——。もう、フリーズ界のきみまるさん化も、やや、具体化しそうな感じい——。



2015.04.11 Sat

やや、脳内低気圧である。こういう時は・・・。まあ、実際の生活が切羽詰まると、一番最初にカットは、そう、時代の贅肉である芸術芸能である。おっ、しかしである、私の場合は、つまり、その贅肉そのもの。おっ、「生活に切羽詰まった贅肉」は、どうなるのだ？ と、赤ワインの勢いで書き始めたら、自分でもヤバイ結論が突然導き出されてしまったのだ。

やつれる めそめそする 鬱になる 空を見上げる 溜息を付く しょぼーん  
セ・ショボンっ ショボン玉ホリでエー

とは、私の場合はない。ピアノを弾くのだ。この脳内低気圧の低気圧の圧力はジャズの根源であるからにして、普通なら「家ピアノ」は練習であるが、こういう低気圧の圧力があるとジャズだから、凄まじい演奏になるけれど、聴いているのは俺、つまり、演奏者のみなのだし、おまけにサイレントピアノだからヘッドホーンだろ？ 籠りのオジちゃま状態で、凄まじい演奏をするのである。

いやあー、裕ちゃんのピアノの凄いことっ！ これは客観的に、ずげえーのだ。もう、自意識を通り越して・・・、えっ？ 納得出来ない？ うじゃ、その俺の指さんたち、まあ、俺の管理下ではあるけれど、その指さんたちのパワーは、もう、凄まじい。もしかすると、弾いてるの、俺じゃないのでは？ はいはい、指さんたちです。お辞儀である。

と、いじめる気はないのに、超絶サディストである「世間」という実態のないもの。この野郎に対抗するために、私にはピアノがある。いや、それぞれが、それぞれの「武器」があるはずだ。あれ？ ちょっと、知りたいな、皆さんの「武器」ね。

本当、「世間」ってよ、顔のない化け物だよねえー。あれあれあれ、宮崎さんの映画の中に「顔なし」ちゅうのいたよな。そっくりだねえー。はい、今日の逸話、神話、寓話、はい、「世間」とは我々の鏡像なのだ。わっ、たまには元詩人させて頂戴っ！

2015.04.12 Sun

これは、突然、こない。良心的なのだ。社会復帰の契約が初期化してしまったから、次の修復に向けて、当然、諸々を……。初めて、パソコンで履歴書を作った。カミサンに写真を撮ってもらった。

わっ！ 一応、軽い軽い笑顔ではある。けれど、「春の鬱」が目力に如実。「鬱顔」である。この顔に、「励ましの言葉」は効かない。それを良くご存知の凄いブロガーさんがいらっしゃるのだ。「爺」間違えた「自慰」あれ？ なんだっけ？ 「自癒」だな。これしかない。深謝です。「4月は残酷な月」(T・H・エリオット)。

ところで、その凄いブロガーさんの「尻」についての記事を読んだせいなのだろう。私の顔。「鬱顔」はマイナスする。

1. 輪郭が曖昧
2. 肌ぱさぱさ
3. 白髪

スーツにネクタイ。弱弱しい目力+これだのコレラ。唯一の救いは、ほんの2mmぐらい、ピース・ブロスナンに似ている。ダニエルの前のジェームズね。

わっ、ここまでが、前書きなのだぞおー。

うん、その契約初期化も、詳しくは書けないけれど、単純に私の偏屈からくる。どうしても迎合ができない。納得できないことはやらん。こうして範囲が狭まる。間もなく五十六のオヤジがこうだから收拾が付かない。しかし、米櫃が空になる恐怖が過る。しかし、治らん。この偏屈の根源が芸術からきていることは、私は良く知っている。出所はクリアーなのだ。でも、治らん。

うーん、あまり書きたくはない台詞がある。けれど、やはり、書こう。

私は、絶対に戦争には行かない。それだけなのだ。たとえ、死刑であっても。

と、ここまで格好を付けなくてもいいのだけれど、ポリシーは変わらない。そういうもののない男は大嫌いである。ジャズ魂なんだろうなあー、こういうの。

## 夢見る財布

---

2015.04.13 Mon

ワールドオーダーのデビュー曲「ワールドオーダー」。私は彼らの大ファンである。日本エレクトリック連合と同じでブレイク前からの大ファン。確か、息子がユーチューブ検索をしていたら引っ掛かった。あれ、まだ、息子が家にいたということは、三年以上前。「パパ、なんか凄い日本のサラリーマンのビデオ見たよ」「どれどれ。わっわっわっ、凄げえー、何者だ?」と色々調べたら、須藤さんのとんでもなくオリジナルな経歴。即大ファン。踊りも凄いけれど、音楽、歌詞も私は大好きである。で、「ワールドオーダー」を昨晚、久しぶりに聴いた。曲の中に、何度聴いても「夢見る財布うーうー美しきダンス」という歌詞が出てくる。さすが須藤さん、粋な歌詞を書くものだと思っていた。しかし、一瞬、うな馬鹿な? 須藤さんは裕イサオのような愚脳派の方ではない。お笑いも良く理解なさっている方ではあるけれど……。今調べた。ほれっ! 案の定だっ! 「夢見るサイクル」でしたあーうーうー!

ついでに、初めて須藤さんの引退試合を見た。アメリカの小柄なファイター。総合格闘技全米チャンピオン。もう、見るからに暴力の塊という感じ。試合直後、いきなり寝技。須藤さんが下。一年間、首の負傷で試合に出れなかった須藤さんが、下で必至に防衛している。頻りに飛んでくるパンチ。辛うじてかわす。負傷していた首が痛そう痛そう、須藤さんの顔が歪む。私は慢性首両肩の神経痛であるから、とても人の首とは思えない。私の首まで痛くなってくる。とはいえ、もし、私が須藤さんの位置にいたら、骨折(腕とか……。首はやバ過ぎ)、気絶ないし相手の戦意喪失。必至の須藤さんが、下から「三角」という技。決まらない。足が相手の首から外れてしまった。その瞬間、上から凄いパンチ。辛うじてかわす。また、寝技体勢。須藤さん、苦しそう。わっわっわっ、突然、再度の「三角」。相手の首に絡み付く。腕と足。一瞬にして相手ギブアップ。須藤さんの勝利。

須藤さんの凄いところは、その試合の入場も物凄いのだけれど、試合後、勝っても負けてもすぐ相手のところに行く。相手への挨拶、労い。そして「我々はひとつの横断幕」を掲げる。この日は、突然、リングの上で引退発表。ほんの一瞬、声が詰まるけれど、最後まで笑顔。凄い人だ。格闘技で体も心も鍛え上げられている。ジャズメンが真似できるか? 無理だ。

### 余計な追記

ついでにジャニーズ事務所のなんとかというグループがワールドオーダーの踊りをやるという番組。須藤さん、素晴らしい百点満点とおっしゃっていたけれど……。私の目にはイモ。いかに

ワールドオーダーのテクニックが難しいのか逆に鮮明になった。個人自己表現の塊のこっちの連中が見ると、彼らの踊りは逆恐怖なんじゃないのかな。あの一体感は……。そういや、山下洋輔トリオ(山下さん、坂田明、小山彰太)がドイツデビューの時も、なんなんだっ、あの一体

感っ！ びっくりいー、 という感想だった。ドイツ人の司会の案内が「ヨースケ・ジャマシー、アキータラ・サクラ、ショー・タコヤマ」だったのだ。

2015.04.14 Tue

わっ、なんだかパソコンの調子が悪い。かなり大事なメールを書き始めようとしたらパソコンダウンで勝手に空送信されちゃったし、今、ブログを書こうとしてタイトル入れたら「おフランス」とタイトル検索されパソコンダウン、勝手に公開。失礼致しました。考えたら、諸々の不調。就活、ホンダシビック、自転車、半地下と風呂場の電気、パソコン……。おまけに首肩の神経痛。満身創痍？ 本日のフランスは快晴、二十四度だというのに一番上の階のホールに籠って就職活動。無粋である。

ここで、大変に大きな？ 私だけではないのだけれど、絵描きとか舞台俳優とかジャズメンとか……。その趣味でやっているわけではないのに、食えない連中がほとんどなのだ。結局、世間様からすると「自称芸術家芸能家」と見なされる。つまり、失業者と見なされるのだ。で、たとえば、私自身がなんのなんのぉー、世間の冷たい風、うなもん、ピアノで吹き飛ばしたるうー——というマインドベクトルであればいいのであるが、そうじゃないと冷たい風が染みるわけだ。これは、己の問題なわけね。自分自身で、むむ、オレハシツギョウシャなのか？ こう思い始めると、ちと、ヤバイ。当然にして、この微妙な心のバランスから春野鬱男君が出現する。

わっ、答えは一つなのだ。二束の草鞋。算数上はこれしかないのだ。社会人と禁治産者の両方を同時進行するのである。しんどいけれど、しゃー——ない。

と、やれやれ、今、やっと就職先が決まったのだ。正直、ほっとしました。このまま行くと、ピアノまでおかしくなってくるはずだからねえー、とはいえ、こっちは絶好調なわけ。たぶん、俺自身が必死でレゾンデートルを知らぬ間にまさぐっているのだろう。やはり、このブログの総タイトルは恐ろしい真実なのだねえー。わっ、もし、ピアノがなかったら？ 考えるだに恐ろしいけれど、でも、逆か？ なかったら会社辞めたりしねえーだろってな。やれやれ。まあ、俺みたいなタイプの男とは、一緒にならん方がいいよお——、ねえ、お若い方々。

ありがとうございます

---

2015.04.15 Wed

私の愚ブログ。一年前ぐらいに3位になったことがある。短期間だけね。普通は、十番半ば前後をうろうろ。いやあー、これだけでも大した順位である。なっなんと、本日現在、5位ですって！ すっ、すいませえーん、お気使いなく……。もちろん、嬉しくないなんてことはありません。順位というより、そのお付き合い頂いている方々の心意気、マイケル・応援シフト、こちらが、本当に嬉しいです。しかも、やや、春野鬱男君になっていると、染みる。

いやあー、なんか文識しかない人間関係、粹だな。なんかイグねえー？  
こういう感じ、ねえー。

さてと、就職も決まったしよ、あとはミュージックミュージックっ！

深々とお辞儀です。見えねえーか？ メルシー・僕。アンフィニモン。アビアントのボンコラァー  
ージュのボンジョーネです。

2015.04.17 Fri

昨日は、契約書にサイン。簡単な新人研修。

起きる。朝風呂。スーツ。この姿で台所。娘が入ってくる。「あっ、どちらさまですか？」  
「えっ、パパだけど・・・」 「わっ、だれかと思ったよ。スーツ着ると結構、格好いいよ」。  
まあ、虫眼鏡で見ると、ピース・ブロスナンに2mmぐらい似ているところが、たぶん、32cm  
ぐらいになっていたはずである。あくまで、「客観的に」だよおん。

絶対に、私だけではない。私は、百戦錬磨の元営業マン。「けっ、緊張？ するわけねえーだろ  
って」とはならない、緊張するのだ、いくつになっても。これは、絶対にいいことである。何百  
回とコンサートをしているけれど、やはり、当日は「ジャズメンなりに」緊張している。うん、  
やはり、私は世間を舐めたりはしていないのである。真面目なのだ、ということが分かった。

なんかね、自分が、少し可愛いと思った。繰り返しになるけれど、こういう方は、相当数いら  
っしゃる。特に日本人は、基本的に真面目な民族だから、その数はフランスの比ではないはずだ  
。でも、私は、自主的に会社を辞めたから「再」就職となっているけれど、これが、リストラと  
いう外圧から派生していたら・・・、いやあー、私の年齢で、だよ。これは痺れるし、奥さ  
んも含めて、メンタルコントロールは難儀だ。まあ、はっきり、書く。

人間の作った会社の作るもの。正直、なくてもいいものばかりである。これで皆食べている。も  
ちろん、構わない。だからこそ、もし「優良企業」という概念を作るのであれば、どうせ、どう  
でもいいものしか作っていないから、社員の幸せを第一にするべきである。刹那の裏返し。企業  
とは、金儲けマシンであってはいけない。どうでもいいものを作って売って、どうでもよくな  
い人の人生を豊かに、少なくとも社員の人生だけでも。それが、私にとっての「会社」。あれ？  
これってよ、ミュージシャン用語だよな？

2015.04.18 Sat

「裕センセ、いつも笑顔の秘訣は？」

「えっえっえっ、私は笑って居らんが？」

「マタマタのタマタマあー、ご謙遜を・・・」

「あっ、なるほど、顔の筋肉がすべて垂れちよるから、そう見える、ということなんじゃないの、だから、秘訣って言われても秘尻だ」

「裕センセ、人生とは？」

「えっ、ジンセイ？ あっ、セイジンのことね、(一般人の)言葉で言うから、わしには分からんのじゃ。そうねえー、生まれた時は皺くちゃでよ、寝たきりじゃん、うで、一周して元に戻る。でも、カーちゃんの腹じゃなくてよ、土によ。まあ、人間はいなくても地球は泣かない。植物かちらね、やっぱ、うで、腐葉土に不要な人間に戻るわけじゃないのかちら？ 人間を擁護したって介護と用語の問題しか残らんから、ようござんしょ、ね」

「マタマタのタマタマあー、裕センセお得意のペシミズムのみみずじゃないですか？」

「えっ？ ぶっちゃけよおー、死んで土に戻る。そんなに大きな問題なの？ 馬鹿でも偉人でもジャズメンでも、同じこっちゃ。あんたねえー、その知らんけど、人間ちゅうもの過大評価し過ぎよ」

「わっ、ヨーロッパに長年住まれていらっしゃる裕センセから、そのようなお言葉？」

「あんた、絡むじゃない？ その指輪、何かラム？」

「えっ？」

若い頃は、「死」がひとつの甘美な幻影であった。たぶん、生きることに夢中だったし、その真っ只中にいたからである。

体も顔も、筋肉に満ち溢れていた。メスを捕まえ繁殖する。そうは思っていなくても、性器が言うことを聞かない。

年を取ると、真逆の意味で性器は言うことを聞いてくれない。

筋肉に満ち溢れた脳と性器に引き裂かれる。理知と性欲の狭間で、理性的な人間に、言葉本来の意味の「人間」というものになろうとしていたはずである。

そして、なりそこなった。

なりそこなったから、今度は、「死」が怖い。

勝手なものである。人間という動物は。

「編集部のひそひそ」

裕センセってよ、お笑いなの、どっちなの、マジなの。どこの出版社に書いてるの？ こういう、訳の分からん分裂文体。漫談社なの、思潮社なの、ユリイカなの、サキイカなの？  
ぎくっうー、裕だけんちょも、わたすは、あさすすんぶんか、スイングじゃあーなるか、現代詩手帳にしか果敢にも、書かんっ！ あとは、日本ブログ村っ！

## 自分へのプレゼント

---

2015.04.19 Sun

二十一年前に、初めて作ったピアノ曲「プロローグ」。これを自分の誕生日プレゼントのために、自分で再演してみた。

五十六歳の見事な親父に衰退したのだ私は。明日は、カミサン、息子、娘と一家で食べ放題の寿司屋に行くのだ。もちろん、板前さんは日本人じゃないけれど、私が、ふむ、これなら許せると太鼓判を押したお店。雰囲気もいいわけね。板前さん、かなり日本食の勉強をしていることが分かる。こういう寿司屋は、私は嫌いではない。しめ鯖なんかもあるから、いい感じである。食べ放題っても、私は少食だから、相撲取りのように食べられない。でも、なんか、ふむ、たまには大食？ というボービンの食欲が湧いてくるところがいいのである。結局、少食だけれど。あ、私の少食の差額は、ラグビーマンのような息子が、すべてチャラにするはずだから、元は取れる。せこお————。こういう感覚ねえー。

まあ、毎回、私の誕生日のプレゼントに私以外の一家は頭を抱える。欲しいものが一切ないのだ。

「パパ、なんかさ、必要なものある？」

「特にはないけど、そうだな、ヤマハのGFXかな？」

「それ、グランドピアノでしょ？ いくらぐらいするの？」

「中古で、たぶん、八百万円ぐらいだと思うけど・・・」

「他には？」

「う————ん、安酒と煙草と、あっあっあっ、福島県いわき市の「魚え」さんのうな重」

「他には？」

「う————ん、しいてあげれば、ビックの百円ライターを入れる鉄の入れ物オリジナル、なあ————んて素敵だねえー。でも、やっぱ、ヤマハのC3の方がいいなあー」

と、禅問答。物欲のない人へのプレゼント選びは難儀である。高級な酒も駄目。いつも吸っている煙草しか吸わんし。

と、うんじゃ、私自身のプレゼントは？ というわけで、「プロローグ」を弾いた。

羽毛お————、技術の差は歴然っ！ これで、十分なのだよ、俺は。生きて来た軌跡は、すべて無形ではあるけれど、ピアノの技術として凝縮している。技術っても、諸々の諸々の諸々の蓄積が、すべて「音」に凝縮しているということ。

ハあッピっ ジィジィー トゥー 裕

ハあッピっ ジィジィィィ トゥ 裕

ハッピい————爺い———— クソジジィい——

法被ッ 爺い————い トゥー 裕

おいっ、だれだっのっ！ 歌ってんのっ？ えっ、ジャズ菌さんハーモニックバースデュー？  
もしかして、うなわけないけど、「バカリズム」、俺の A響受けている気配？ ちょっと、する  
、けど……。凄いつ、彼は。昨晚、初めて見た。見事である。裕センセの百万倍凄いつ！ 同  
系列だな、彼は。

## 芸名と本名

---

2015.04.20 Mon

さっき、ラグビーマンのような息子が自分のアパートへ帰って行った。台所の納戸の外した重い扉を、半地下室まで、軽々と運んでくれた。私の息子なのに、まったくイライラしない。そして、この筋力。衰退の一途を辿る私には頼もしい限りである。

ところで、芸名「裕イサオ」。この野郎は、昨日で十七歳になった。そして、明日から、また、本名が復活するのだ。どちらも、私なのだ。どちらも実在しているし公の名前。「裕イサオ」の野郎は、ピアノ弾きであり、小説なんかを書く。元々は美術家という究極の道楽野郎である。本名の方は、非常に真面目な勤め人なのだ。明日から、そっちの方、えっ、俺？ も、復活なさる。と、いよいよ、ブログの更新はシビアになる。と言っても、九時から五時という仕事ではないから、多忙と暇が交互に来るはずである。まあ、ホストクラブみてえな感じである。人気商売だから、なるべく、人気が出ないようにするしかない。私のブログのように・・・、リヤ？

暇、隙を見て更新はしようと思ってます。ふむ、とはいえ難しいから、お気に入りブロガーさんの記事を携帯で拝読する、こんな感じかしら？

ところで、芸名「裕イサオ」、この野郎を生かすも殺すも私の一存なのである。しかも、犯罪にさえならん。だからこそ、くくくくくくくくくう————、大切にせんといかんのじゃ。昨日で、五十六歳になった芸術芸能馬鹿助を……。でね、どっちが本当の私なのか？ おりゃ————、芸名の方である。

今まで、お付き合い頂いたブロガーさん方へ、深謝です。と言っても、更新はするぜって！ だれだっ、泣いているのは？ おっ、あんまり暇で、結構、更新してたりして……。分かんのです。人気商売だから。あれ、そうじゃなくて、「5位」なんていうプレゼントも頂いたし、健筆健筆、よろしくお願ひ致します。拝読はするのだぞおー。

と、「あとがき」風なんだけれど、「人気が出ないと」「毎日更新となる」。裕の野郎は、後者を望んでいるのだっ！ バァーローと本名の方が怒る。バランスだねえー、やっば。ぶらぶらと世渡り、こういうのがいいけれど、私は真面目人間、できないのです。フィフティーフィフティー、これがいつまで経ってもできない。やることは100パーじゃないと気がすまん。馬鹿である。

2015.04.23 Thu

なんか素敵なラブストーリーのようなタイトル。なんのことはない「めりはり」のこと。昨日は朝五時に起床、帰宅が夜十一時。新人なのにいきなり大役。前日は緊張のあまり熟睡できなかった。そして、その大役はぎくしゃくと今一になるような予感が脳内を通り、さらに緊張。で、そうなったのか？　これが自分でも恐ろしい。二十四年間のハードワークの感触が、あつという間に蘇り、新人の気配などゼロである。この現役の感触の戻りの早さに自分でびっくりしてしまった。すっきり爽やかスーツ姿のわたくしが、あつという間に出現していたのである。

いやあー、気に入った、新しい仕事。とりわけ、昨日のハードワークの翌日、つまり、今日はオフ日である。このめりはりがコンサートみたいでいい感じー。考えたら、二十四年間、毎日毎日ハードワークの連続。昨日のような日を延々と毎日やっていたのだ。ジェームズ・ボンドだって、仕事とオフがあるのに……。いいねえー、こういうの。とりわけ、ミュージシャンには。

今、パソコンでお気に入りブロガーさんたちの記事を拝読。携帯で読むの、字が小さくてしんどい。系たんさんの写真の綺麗なことっ！　さすが一眼レフですねえー。もちろん、その腕前も、です。携帯だと、村のバナーが押せないのですよ。あれ、私信なの記事なの？

ところで、昨晚、へとへとに疲れてベッドに入ったらおかまのターミネーターという物語が浮かんで来て、眠れなくなってしまった。その内に書こうかしら。あらすじなんだけれど、シュワちゃんが全裸で未来から飛んで来るのだけれど、おかまなわけ。「あら、いやあーん」といって、手ブラと下を隠して新宿二丁目のバー「かまた」に駆け込む。ママのかまたがシュワちゃんに恋をしてしまう。おかま名「アナドンナ・シュワルツ」。同じ時刻に、やはり、ハンサム男が未来から。粉田サラをターミネーターから守るため。でね、ターミネーターのそのミッションがね、粉田サラの抹殺じゃなくて、粉田ジョンが生まれないようにすること。つまり、サラとハンサム男がねんごろになることを阻止するために送り込まれたおかまロボットなのだ。ハンサム男のおかま化が使命なのだねえー、皆さん。いいと思いませんか？　じえんじえん、暴力ゼロのターミネーター。つまり、オーカマターなのだよ。げらげらげら。

「今日の一更新、明日の活力」。あらあーん、これ、だれかのパクリじゃないのおーん、裕センセ。

2015.04.25 Sat

昔々、フランクと呼ばれる国に、お爺さんとお婆さんがいました。お爺さんの名前は、一茶夫でした。昨晚というよりは、正確には今日の早朝、午前一時半に起床し、狩りに出かけました。帰宅したのは、午前八時でした。三時間しか寝ていなかったのもう一度、三時間寝ました。睡眠不足と、大好きな酒不足で、よれよれでしたが、村の瓦版を書き始めました。

お話を戻します。お爺さんは、二度の三時間睡眠のあと、昼食をお婆さんと取りました。一杯だけ、赤ぶどう酒を飲みました。それから、半分眠っている目の状態で、お婆さんが踏ん付けて壊してしまった色眼鏡を買いに行きました。その日の狩りの獲物は、すべて色眼鏡に変わりました。

昼食の時、お婆さんは、肘の故障をお爺さんへ訴えました。つまり、家事ができないということでした。掃除洗濯料理を含め、布団敷きもできないそうです。おまけに、髪も洗えないと……。しかし、お婆さんは、お爺さんの睡眠不足に気づき、故障した右手を使わずに左手だけでやりとげました。

「爺さんや、おりゃー、髪も洗えねえーだ」

「すかたねえー、眠いけど、おれがやるべ」

「すまんなあー、あんた、三時間しか寝てねえーな。わりいーから自分でする」

「わりいーなあー、おれも肩の神経痛がひどくてよおー、手がしびれとるんだ、濯ぎぐれえーはでけるから、遠慮すんな」

「すかすよおー、おれがよおー、右手動かん、で、あんたが肩しびれとる」

「大丈夫だあー、歌って踊って、なんとかなるべさ、すんばい、すんな」

「すかすよ、やべえーでねえーか」

「やべえー、ときゃー、娘の鶴子をよ、嫁さいかせんで看護婦になってもらって、家にいてもらうべ、そう、すっぺ、そんな時はよ」

というフランク語の会話があった。お爺さんとお婆さんは、お互いに「仲間」と呼び合い、なんかルンルンしていた。

お話を戻す。

お爺さんは、村の瓦版を書き始める前に、大好きな豎琴を弾いた。なんと、弾きながらお爺さんは眠っていた。のに、お爺さんの指さんたち、物凄い勢いで豎琴を奏でていたのである。眠り狂四郎とのちに名付けられた。ところで、お婆さんの右肘に、運動用品の「さぼた」というものを

巻いたら、少し、改善した模様であると記されている。

NG

午後四時。「今日のお昼は、なに食べようかな?」「えっ? あなた、大丈夫?」「えっ、今日って日曜日でしょ」「えっ、土曜日の午後よ」「えっ、さっき、寝て起きてコーヒー飲んでたばこ吸ったけど・・・」。裕センスの疲労したヒーロー脳内で、一日が四十八時間化していた。

作者注

仕事=狩り この公式は、久保はつじ氏の過去記事より脳内インスパイヤーされたものです。

## 雨の日曜日

---

2015.04.26 Sun

今日は4月26日2015年日曜日。久しぶりに雨。ずっと快晴日が続いていた。サロンの植木を庭に出したから、今、シャワーを浴びている。カミサンの右肘の具合が悪いし、娘は車で出掛けてしまったし、ホンダシビックは修理工場。どこにも行けないから、風呂に入り、これを書いている。うん、こういう日曜日もいいもんだ。シェルブールの雨傘のメロディーなんか思い出してしまう。

社会復帰第一週を無事にこなしたから、とりわけ、いい感じー。火曜日、午後仕事。水曜日、朝から夜。木曜日、オフ。金曜日、午後から夕刻。土曜日、深夜から早朝。考えたら、結構ハードなのだけれど、管理職じゃないし、家に帰って仕事のレポートを会社にメールしておしまい。その日暮らしなのだ。いいねえー、家に帰ったら脳が簡単にオフになる。課長時代に脳オフは不可能だったから、新しい仕事はミュージシャンにはいい感じー。ピアノの調子も実にいいしね。こういう気分の時の雨の日曜日。うん、恵みの雨だな。ふむ、記事ひとつ書き溜めしたから、ブログの更新も、毎日とはいかないけれど、まあ、できる目処も付いた。

あっ、そうそう、新しい仕事の最大のメリットはね、「断ることもできる」こともあるけれど、私は断らない主義。その代り、「事前にコンサート日を伝えておけばオフ日にしてくれる」こと。コンサート日程は、少なくとも一ヶ月前には分かっているから、会社にも迷惑が掛からんのだ。5月から本職の方も、再始動なのだよ。人生設計の設計図が具体化してきたんだねえー。むふふふうー。

2015.04.27 Mon

よくよく考えたら、俺はミュージシャンである。なんで宣伝をせんのだ？ ブログで？ そのためダツタン人？ どうでもよくないけど、どうでもいいわよねえ——、と、なんでなるのだろう。おいおい、老いじゃね？ 芸術は性欲の爆発だったはず。いやあ——、わしは、もう、いいでげす、しょーべんするだけで……。これは、拙いのだよ。まあ、物欲がない。それぞれ、裕センセっ！ その清貧志向が駄目なのですよ、君っ！ 音楽も製品なのだ。と、たまに宣伝してみる。あっ、それとね、「閲覧数を増やすための実験ブログ記事」ちゅうのやってみんべ。そっ、ご夫人ものだよ……。わっ、裕センセのご夫人もの？

あれ？ 再生リストの添付の仕方、分からん。とにかくよっ、俺のよっ、ユーチューブチャンネルに行くとも、再生リストが出てくる。好きなの聴いてみっての！ ピアノソロがいいのかしら？ 結構、リリックなんだね、俺ってよ。

俺の 音楽 たまには 聴けっ ての

あらららあ——、強気の裕センセで  
した……………。

東北大震災から一年半。やっと、この曲を、再度、弾けるようになった頃の動画です。「海」を連想する曲が、一切、弾けなくなっていたので。

追記 久保はつじ兄貴の4月27日2015年付け「気」という記事を拝読した。おっ、私は兄貴の心の松葉杖に少しなっちゃったかも？ 光栄の一言です。兄貴のブログこそ、私にとっての松葉杖、およびインスピレーションの宝庫なのです。こちらこそ、感謝。ところで、この記事の中に「循環質タイプ」という私の知らない言葉が出てくる。兄貴の説明文をそのまま写してみる。「人あたりが良く社交的、親切でユーモアに富み温かみのある人柄」。ブログの総タイトルを「循環質タイプは私だ」に変えようかしら？ まるで、私だ、なのだ。だから、私は慢性鬱。躁鬱ではなく、鬱々。そういうことだったのか！ 鬱？ そうだなあー、恒常的な至福感という意味合いも含んでいるかも知れません。悟りの境地？ 四十五年前ぐらいから始まっているようにも思えるのです。

## カテゴリーの微変更

---

2015.04.30 Thu

「日本ブログ村」のカテゴリーを、少し、変更。二年半、お世話になっている「エッセイ・随筆」。これは、私のホームである。ここでの出会いは、大変に貴重だし、今もって、心の松葉杖である。しかし、である。私は、ジャズメンなのだ。どうして、エッセイ・随筆なの？ これが自分でも良く分からない。まあ、「元文学青年の名残」かもしれん。で、三十パーセントだけなのだけれど、カテゴリーを「ジャズ」に変更した。以下、「ジャズカテゴリー」へのご挨拶文です。参加人数が、私のホームと、ほぼ、同じ。しかも、閲覧数が、私のホームよりさらに少ない。気に入りました。閲覧数は、二桁でいいのだ、私は。つまり、九十九までね。なんかね、グーグルアナリティクスを三ヶ月振りに見てみたら、なんとおーー、南東おーー、一日、五十七なんていう数字の日があった(一日だけです)。うーーん、ありがたいけれど、私のコンサートで「一番多かった観客数」は、たぶん、二百人だったはず。いやあー、二桁でいいのだ。

### 「ジャズのご挨拶」

えーと、AとBがごさいます。この度、ちびっとだけ、そちらのカテに参加させて頂きましたの頂きます。わたくし、二年半に渡り、エッセイ・随筆部門にて、お世話になって参りました。文章のプロの方々とまっこう勝負のマッコイ・タイナーのまっこう鯨。そして、敗れ去り、路頭の石と化した？ ちびっとはあるけんちょも、うでね、俺はミュージックちゃんである。やはり、生活の糧はジャズカテだろうがあーと自問自答、自答販売機と化し、このようなケツ断を下したわけで、ついでに、腹まで下した。

### 「裕イサオ超絶略歴」

ヤノピ 五歳から十二歳 三十五の時 再開 俺は美術家だったから 山下(洋輔)さんに 俺の作品の中で ヤノピをくんなまし してもらおう予定であった けれど 山下さんは いそがしい 若造の展覧会にお付き合いする時間は ねえー で 自分で弾いたら 美術作品よりうけた それから 尻に火が付キヤノピを弾き捲くる そのうちに 沖至 師匠である

との出会い 飴鞭で鍛えられた いつしか ズージャのヤノピストとなりはて 沖師匠 および 俺の もう一人の師匠 佐藤真を含めた俺のヤノピトリオ はい 俺 ヤノピ 真師匠 ドラむっつり オリビア ベースにて活動しております と おパリ周辺で やっちょる 股に 日本へ行くこともある そんなときは ソロヤノピが多い 以上である

### 「追記」

ジャズファンあつての、というか、「フリージャズファン」の熱気は恐ろしい。鈴蘭高校である

。しかし、私の生活の糧が、それであるから、カテを変えた、ちょっとね。よろくし、です。

2015.05.02 Sat

このタイトルを付けようとしたら、「詩も寝た」と出て来た。閲覧数量産ブログの試みという、どうでもいいアイデアが浮かび、「ご夫人もの」を書こうとした。なにひとつ、出てこない。こっちも、チャンジーだから、チャンバーの生態、まったくもって興味が湧かない。どうでもいいわよねえ——、と「けんやっこ」(志村けんの芸者コント)になる。

うん、私は「おばさん」大嫌いである。年齢じゃないの。若おばさんも凄く多い。女は女のままでいる努力がある。それは、男も一緒に、両性具有などという高尚なものではない、性別のない人々、おじさんとおばさん。これは、嫌いだ。ふむ、相当に、その量は、お互いに減ってはいるけれど、やはり、一抹の色気は、おじさんもおばさんも欲しいところであろう。

などと、偉そうに書いて居るが、私も色気はない。うな、馬鹿なっ！ それなしで、ステージに立つ。ありえないっ！ 須藤元氣の名言のひとつ、「はい、もう少し、もてたいと思って始めました(ワールドオーダーのことね)」。

でね、今、「かくれんぼ」のアレンジをしている。「もおおおおおいいかあ————い、まあだあだあよお————」、弾きながら、どうしても、日本エレキテル連合の細貝さんと朱美ちゃんが脳内を過る。けっ、私なりにシュミレートしてしまおう。

-----

高科はパリの一等地にオフィスを構えるIT企業の営業部長である。認知した子供たちだけで8人もいるモテモテ男である。深夜のホテル「メリィディアン・エトワール」。高科は、激務を終えて、ビールを飲んでいた。スイートルームの奥のバスルームでシャワーを浴びるマミがなかなか出てこない。高科は、珍しく、ほんの少し、イラつく。

濡れた髪、ナイスボディーにクリーム色のバスタオル。描写が面倒なので、グラビアアイドルのよう、と簡略化する。

「マミ、随分、長いじゃないか」

「あら、ごめんなさい。じらしちゃった？」

「うん、俺も忙しいからね」

「そういう言い方が好き。欲しいのね？」

「早く、1局、済ませたいな」

「その古風な言い方が素敵」

「さっ、1局っ」

二人は、碁を指し始めた。げっ。

## かごめ

---

2015.05.03 Sun

「かごめ」、トマトジュースのことではなくて、童謡の「かごめ かごめ」のこと。

この曲の歌詞の一部、「籠の中の鳥はいついつでやる」。この歌詞とメロディーが会社を辞める時、ずっと頭の中で木霊していて、その頃、映画「デッド オア アライブ1」を延々と見た。この曲とこの映画にインスパイアされて作った曲が「ラストシーン」。

そうなんだよなあー、「ジャズ」のカテゴリーにも登録したから、ちょっと、スタンス変えんとね。

あっ、そうそう、俺は、そうだな、でようとして籠の蓋に片方の羽を挟まれた、ちゅう感じだね。折れねえーぜっての。でも、羽は大切に。えっ、なくなっちゃったの？ そんなカバなっ！

## クレームゼロ

---

2015.05.04 Mon

「クレーム1」裕28歳。旅行会社新人アシスタント。OO交通社大阪OO呉服店様ご一行。先輩方がなぜか目配せ。だれも担当しようとしなない。「おい、それよ、裕に行かせろよ」。裕が担当することになった。ドゥゴール空港へ迎えに行く。バゲージルームに上る透明なエスカレーターチューブの出口で待つ。40人の男性が出てくる。全員、パンチパーマ、サングラス、エナメル靴。バスへご案内。別途スーツケースを積み込む。「お早うございます、皆様方の担当をさせて頂く裕と申します。よろしく願い致します。パリまでの道すがら、お疲れとは存じますが、滞在中の注意事項等を簡単にご案内させて・・・」。その時、アシスタント席の背の裏側に蹴り。「おいっ、あんちゃん、うるせえんだよっ、寝かせろよ」。

「クレーム2」裕38歳。旅行会社手配課長。「課長、お客様が凄い剣幕なんですけど・・・」「うん、俺に代わって」。「もしもし、お電話代わりました。裕と申します」「おめーか、責任者は?」「はい、手配を担当させて頂いて居ります」「うめえー、飯屋、教えろよ」「お泊りのホテル内に星付きのレストランがございます」「昨日、食べてよ、不味いからおめえーに電話してんだろうが、馬鹿野郎っ。美味いうどん屋、教えろ」「はい、畏まりました・・・」。翌日、「俺、明日帰るからよ、フライト変更しろ、5分以内に返事寄越せ」。エールフランスに電話。なかなかコンファームが取れない。10分後、「馬鹿野郎っ、いつまで待たせんだ、なめとんのか、おりゃー」。裕の中でなにかが切れた。「お客様、現在、エールフランスの回答を当方も待って居ります。当社の飛行機ではございませんこと、ご理解頂けませんか? それと、わたくしお客様から馬鹿呼ばわりされる筋はございません。なめる、馬鹿野郎、てめえー、止めて頂けませんか? 普通にお話しできませんか? わたくしにも限界がございます。ご了解願います」「おっ、あんちゃん、悪かったな。もう、ちっと待つよ」。出発当日、お客様より「裕つうー、あんちゃん出してくれ。おい、俺だ俺だ、なんかよ、いろいろ無理言って悪かったな。また来るからよ、よろしく頼むわ」。

「クレーム3」裕50歳。日系企業営業統括。「ねえ、裕さん。この絵、近所の額縁屋に持って行ってよ」「はい、トラックの手配を致します」「馬鹿ねえー、あんたが持って行ってよ」「よろしいですか、わたしが個人で徒歩で持って行く。ひったくられた。どうなると思います?」「大丈夫よ、近所だから・・・」「その絵の作者、右下に入ってますよね。わたしの査定で2千万円以上と見えますが・・・」「あなた詳しいわね、その通りよ」「わたし個人の責任ではお引き受けできません。手配の一環として当社にてのお引き受けとなります」「水臭いわねえー、あなたっ、いいわよっ、自分で持って行くからっ!」

登場人物を仮に「裕」とさせて頂いた。全人類の中の一人の男としての仮名である。この男は、一見、優男の草食系に見えるのであるが、実は「鈴蘭高校出身」(嘘)なのである。理不尽な物言い

の前では、目が赤く光る時がある。いわゆるターミネーター目になるのである。その目付きの時は、小栗旬に少し似ていることもなくもない。

## 遅いパソコン

---

2015.05.05 Tue

ここ、数週間、パソコンが凄まじく遅い。相当、容量をとっているだろうユーチューブ動画のストックを娘のハードディスクに移したり、諸々をデータ(D)に移したり、溜まっていたメールを空にしたり……。まったく改善しないところを見ると、Freeの回線の問題なのだろう。そういえば、私の住む地区にOrange社が高速ケーブル？を設置した。どういうシステムなのか、まったく分からないけれど、セールスの方が、なんとか勧誘にきた。「とにかくパソコンの起動が早い」とのこと。どうも、その頃から、パソコンが凄まじく遅くなったから、なんか関係があるのかしら？

今日は、午後から仕事。フランスの歴史のおさらいをしないといけないから、早起きして始めた。「凄まじく遅いパソコン」＋「私は、あまり、歴史に興味がない＝凄まじく遅い脳」。脳がパンク。結局、ブログっているのだ。

歴史に興味がないわけではないのだけれど、その「勉強」とか「暗記」。こうなると、まるっきり私の脳は動かなくなる。しかし、やや、週刊誌ネタみたいな疑問が湧くと、そこばかり調べる。たとえば、ジャンヌ・ダルクの生誕日と火刑になった時の年齢は？とか、これは以前にも書いたけれど、モンサンミッシェルがイギリスにもあること。それからマイケル(ミッシェル)の石と呼ばれる小島がアイルランドにあること。この三つがケルト人の聖地、つまり、聖ミカエルを守護神としていること。そしてそして、この三つがヨーロッパ地図を引っ張り出して定規を当てると一直線になっている。こういうお話は、脳ワープを誘発するから嬉々として調べ捲くる。それから、これも以前書いた。ベルサイユ宮殿に水を供給するための巨大ポンプ。「マルリーの機械」。もう、ベルサイユ宮殿の歴史は、まるっきり脳インストールできないのに、こっちは夢中になって調べたし、その跡にも行ったし、復元模型まで見に行った。

うーん、楽譜通りピアノを弾こうとすると、寝てしまう。おっし、ここをいじってシンコペーションして、ここは端折ってとイサオ節にしてしまうと、アホのように弾き捲くる。まったく、これも同じことだ。すべては、ジャズ脳の断面図なのだろう。

2015.05.07 Thu

「聖ミカエル」のフランス語読みが「ミッシェル」、英語読みが「マイケル」、スペイン語だと、そのまま「ミカエル」。ご存知の方も多いと思う。マイケル・ジャクソンはフランスでは「ミカエル・ジャクソン」と呼ばれている。この名前、世界中で多い。「聖ミカエル」=大天使、空へ大きく飛び立つイメージが強いから、大変に人気がある。

昨日は、一日、仕事。家を出たのが午前八時で帰宅が夜の十時半。本日は、マリリン朦朧である。ハードだったあー。と、それはさておき、わっはははあー、モンサンミッシェルに行って居ったのじゃ。

巨大駐車場とモンサンミッシェルを繋ぐ橋が完成したのが今年の夏。それ以降、初めて訪れた。修道院へのアクセスが、凄く遠くなったけれど、もちろん、モンサンミッシェルは以前のままである。ここに大きな謎。私は、以前、一度か二度、訪れたことがあると公言しているのだけれど、いつ、だれと？ そして、実際に訪れて、どこかで見た風景であることは分かるのだけれど、どうにも「私が以前、そこに実際にいた実感、記憶がない」のである。私自身、内部で大きな疑惑。もしかしたらユーチューブの見過ぎで、訪れたように思い込んでいる可能性も大。いや、どきっ、聖ミカエルの悪戯？ あっははははは、そう思い込んでいると三回目には頭に大きな穴が開くのだぞ！ この逸話、ご存知の方も多いと思うので、わざと書かない。はい、それは708年だった。

ところで、あまり悪口は書きたくないけれど、「プルールおばさん社？」。モンサンミッシェルの独占企業と化している感じ。オムレツ、お土産屋、サンマロ湾の見えるレストラン・・・、良く見ると、すべて「プルール名」。もちろん、構いはしないけれど、オムレツ、39ユーロ、長蛇の列。これには、仰け反った。私は、参道の小さいフレンチフライドポテト屋。おばさんが一人、せっせとポテトを揚げています。これにフランクフルトソーセージ。ケチャップとマスタード。モンサンミッシェルの城塞の海の見えるところに座って食べた。かもめが二羽、私をじいーと見ていた。美味かった。5.80ユーロ。フライドポテトを頬張りながら振り返ると、私の後ろに巨大な修道院。今年で、1307歳。まあ、おい、そこの若造と呼ばれても異論はない。

2015.05.11 Mon

本記事のタイトルは、昨日(5月10日2015年日曜日)の私の労働時間である。通勤時間は含まれていないから、実際は、起床午前4時30分、帰宅、翌日の午前2時30分。私の新しい仕事の内容は、諸々の障害も出るかも知れないので詳しくは書けないけれど、グレーのベンツEクラスの脇に、スーツ姿に薄いサングラスを掛けた哀川翔みたいな私がノルマンディーの海岸にいた。そう、私は英国諜報部員なのだ。嘘。

本日は、当然にしてオフ。マリリン朦朧である。明日は、コンサート。その後は、また、仕事。来週には、リールでクリスチャン・バッサールとのデュオコンサート。忙しいぞおー。

でも、久しぶりの二束の草鞋も、結構、楽しくやっているのだ。あるブロガーさんから以前メッセージを頂いた。「裕さん、両手両足、全部で四束までいけますよねえー、ブログ止めないで」と。

「おー、俺は、元気だぜっ！ 折れねえーよって！」

さあーて、明日は、我々のトリオにベルリンからポールが来る。ぶち切れたるぞ、ピアノで。

2015.05.12 Tue

「酒」、ミュージシャン用語だと「ケーサ」。毎々、自分のお話で恐縮である。あれ、自分のブログだからいいのか？ あのね、私は、その、もじもじ、「自己顕示の化け物」ではない。もちろん、ミュージシャンだから、強いのもかもしれないようで、あんま、ないのだ。私とか自分とか、大したお話ではないからである。というか、私が、大した野郎ではないということのよ  
うな、いやあー、ジャズピアニストだから、多少、大しているような気もするよ  
うな、しないよ  
うな、もじもじ・・・、おめえー、フレーズ、なげえー。

ところで、初めて酒を飲んだのは、私は真面目人間だから二十歳である。ビールをコップ半杯。倒れて、トイレで、げげげの喜太郎であった。たぶん、親父もお袋も、酒を飲まないから、酒に弱い体質なのだと思う。うん、「酒に弱い体質」と呪文を唱えているうちに・・・。

「裕さん、お酒は？」

「いやあー、僕は酒に弱い体質でねえー、一本までだな」

「なにをですか？」

「えっ、あっ、ワインを一本」

「ああー、週に？」

「えっ？ 一日だけど」

「えっえっえっ、アル中じゃん」

と、このようになった。どうしてか？ はい、私がおかしいおじさんです。ではなくて・・・、

まあ、八十年前後に東京の美術予備校。周りは、皆、阿部薫のような飲み助ばかり。一種の集団自殺だねえー、あの頃は。しかも、新宿に住んでいた。風呂のないアパートだよ。と、別に、私はノスタルジーゼロ人間無粋君だから、昔の歯ナシは、どうでもいいのだ。こういう状況下にいたから、なんか、鍛えられてしまったのである。

当時の俺の会話を再現しよう。

「生きている証って、いつも、死を内包していることなんだと思う。だから、私は酒を飲む。微細な死の延長が酒なのだ。小刻みに毎日毎日、侵食してくるそれと対峙しているのか？ 否、融和と言うべきであろう。だから、酒は、仮の死なのだ」

と、二十歳の裕センセはのたもうていたのたのまたたびでだらくした。かも、ふんっ！

「はい、墮落は駱駝」。

## 作者追記

この記事も「酔った勢いで」である。久保はつじ兄貴の「酒嫌い」という記事からインスパイアされていることは、書き終わって、明白だと感じたのである。

## 売れっ子

---

2015.05.13 Wed

もう、既に「売れっ子」の兆候。やばいのだ。どうしてなのか、もちろん、自分で分かっている。ハンサムだから？ まあ、2mmぐらいは……。物腰が穏やか？ まあ、諸々の要素はあるけれど、私は、こう見えても(見えねえー)、元営業マン、つまり客商売、サービス業の、たぶん、「超」が付くプロなのだ。

ピアノは、じえんじえん売れないのに、社会復帰すると、すぐに、こうなってしまう。これが、私にはやばいのだ。

うえー————ん、私は、根っからのサービス業なの？ うん、ちょっと、そういうところはある。

ふふふ、私は以前にも書いたけれど、「サディスト系」なわけ。「暴力系」も少しある。「破壊系」、これも、ある。と、ちょっと、一步、間違えると、小指がなくてもおかしくない方向にも行きそうな気配なのだ。でも、ピアノが弾けなくなるから、堅気だよって。と、こんなに物騒ではないけれど、そういうベクトルは、かなり、ある。「暴力力」と私は呼んでいるけれど、男の子は、これぐらいのパワーは必要だ。毎日、狩りに行くんだから……。 (あら、また、師匠が出て来たぞ)。

でね、まあ、チャンジーだから、当然にして丸くはなった。その前に、第一、私の見てくれが優男の典型である。いわきのおばあちゃん占い師によると、この暴力と女々しいところが同時進行しているから、彼は大成するとのこと。四十の時に……。おっ、おばあちゃん、まだ、なんだけれど……。

でね、それと、この客商売なんだけれど、擬似マゾごっこみたいで、私には新鮮なのである。マルキ・ド・サドがザッヘル・マゾッホの役をやる。なんかね、妙にいい感じなのである。ただし、お客様が限度を超えると、当然にして、サド侯爵になる。

まっ、算数上は、そういうことになる。

えっ？ やばい？ 人格が？ うなことはないよ。切れたりしないもん、僕。サディストだからねえー、紳士なわけ。分かってくれ玉枝、このパラドックス。

2015.05.15 Fri

今、記事のタイトルを付けたけれど、全然、関係ないことを書く。パソコンの調子が超絶的に悪い。来週のミッションの下調べをしないといけないし、先日のコンサートの動画編集もしないといけないし・・・、とブログを書いている場合ではないのであるが、超絶的に遅いパソコン。画面変えるごとに煙草が吸えてしまうという、このスピードでは仕事にならん。と、やや、いらついていたら、とうとうパソコンの方からご案内。「機能がおかしくなっています。インスペクションしますか?」「はい」「ひとつ怪しいやつを発見しました。削除しますか?」「はい」とやったら、スピードが戻ったけれど、全部、再ログインしないといけなくなった。羽毛おーーと、ブログを書き始めてしまった。第一、編集しないといけない動画、今朝からダウンロード? 自分の動画なのに、なんでこうなるのだ? ムービーメーカーのレジスターした動画を開くのに三時間も掛かっている。

で、「ミッション」なんだけれど、格好いいでしょ? 私の新しい仕事は、ミッションごとに完結するからいいのだよおー。このその日暮らし感が粹なのだ。本当に、コンサートみたいで気に入った。はいはい、裕センス、早く、その下調べ、準備して下さい。えっえっえっ、パソコンが遅くて・・・、嘘付きっ、もう、直っているんじゃないの。ルネッサンス様式について調べてたん  
じゃないの?

2015.05.16 Sat

股股、しばらく、ブログを書けなくなる。ロシアタゴトシ(新しい仕事)とコンサート。

と、とりあえず、日本ブログ村ジャズカテゴリーにも登録しているから、我々の先日のコンサート動画をアップしておく。細切れでもいいから、聴いて頂戴。このカルテット、バンマス(バンドマスター)不在。なのに、皆仲よしだから、超絶的にバランスがいい。佐藤真師匠のドラムスを筆頭に、私、ポールと同年代、そこに三十代のオリビアのベース。ばらばら世代なのに、超仲よしなのだ。

今回のコンサートは、「裕センセ社会復帰記念コンサート」という意味合いも、私自身にはあった。そのですね、フリージャズの火を消さずに、それが出来るのかという正念場だったのだ。うで、出来る目処が付いた。から、私の燃え方は半端ではなかったのだぞって！ おっ、しかも、二十代の日本別嬪娘が二人来てくれた。アヤカとチハル。アヤカは、なんども足を運んでくれている。チハルは、ワーホリでパリへ。モッズヘアーで研修。仙台のねーちゃんだ。私も幼少期は仙台である。同郷のよしみで、チハルのために、勝手にアンコール曲を弾いたのだ。どうだっ、参ったかっ！

真師匠の談話 「今晚、絶対、このカルテットのベスト演奏、間違いないね」 その後、皆で飲み捲くったのだ。

## フランス人と定年

---

2015.05.21 Thu

ブログ更新が切れ切れになってきた。致し方ない。これから、コンサートのためにリールへ行くのだけれど、少し、時間ができた。記事を書くことにした。なんとなく、現実的なことを書くので、お若い方々には、たーりりらんだらう。

以前にもなにか書いたけれど、「一般的なフランス人」、金持ち、資産家とか高給取りとか、こういう人々のことは分からない。その一般的なフランス人の楽しみは、もちろん、子供の成長、家の購入、こういったことを除いてという意味で、極論するとバカンス、そして、永遠のバカンスである定年。

今朝、歯を磨いていて、なんとなく気が付いた。私の定年、後、5年と11ヶ月なのだ。そんな先ではない。

ふむ、私の現在の基本的な人生設計は、実に単純。「絶滅寸前の世界指定の野鳥のようなフリージャズの火を消さない」。私は、第一次世代からすれば、第三世代ぐらいに位置している。非常に少ない。その少ない人口のひとりである。こうなると、意地でも続けるのだ。これを遂行するために、定年という状態は、非常に助かる。まあ、餓死しない程度の保障はあるから助かるのだ。と、算数上は、私の新しい仕事を、後、5年と11ヶ月続ければ、フリージャズオンリーライフがやってくる。うん、これは嬉しい。とはいえ、新しい仕事は、そんな仰々しいものではないけれど、プロライセンスを所持していないとできない。つまり、このライセンスがある限り、逆に定年はないのだ。先輩方、七十歳で引退が多い。

ふむ、仕事とコンサートを交互にやっている。考えてみたら、「フリージャズの火を消さない」、この私の基本スタンスに、なんらの支障もでていない。私の職業選定は正解だった。支障がないのであれば、続けていても構わないということになる。まあ、六十二歳の誕生日に考えよう。

むふふふうー、職業選定が正解だったという確証が取れた現在、私は上機嫌なのである。ほほほ、明日の夜は、ギターの名手、クリスチャン・バツサールとのデュオで、この上機嫌が炸裂するのだろう。いい感じいーー！ また、ブログ更新は、ボサリ(さぼり)ノバのサンバのチャチャですのリオでじゃねえーろっ、リールだよおおおおん。フリージャズハッピーチャンジャーへ驀進中っ！

2015.05.24 Sun

今日は、5月24日2015年日曜日。昨晚、へろへろ状態でリールから帰宅した。へろへろ状態なのに早起きして、コンサートビデオの編集をしている。

クリスチャン・バッサール。私と同じ年。リールを本拠地に活躍するクラシックギタリスト。著名なミュージシャンなのだ。とはいえ、超オープンマインドの持ち主だから、私のような「訳の分からないピアノ弾き」とも共演してくれる。今回で、三度目の共演。毎回、私には難儀なのだけれど、これが、新しいことに挑戦しているぞっ！ という緊張と高揚と難のこれ式感が、私の体内で渦巻くから止められない。彼のベースはクラシック音楽、私はフリージャズ。異種格闘技。モハメド・アリとアントニオ猪木。とはいえ、我々は格闘している訳ではないから、お互いの接点を探す。しかも、お互いのいいところをお互いに引き出そうとする。こんな素晴らしい人間関係は、そうはない。

私は、フリージャズ屋だから、リハーサルはしないのだけれど、クリスチャンとは、そうはいかない。四時間ぐらいやった。どうも、なにかがしっくりしない。ふむふむと考える。このギターの名手を、私のドシャメシャピアノで押し退ける訳にはいかない。でも、遠慮すると裕イサオではなくなってしまう。このジレンマ。むむむ、夕飯のピザを買いに二人でスーパーへ行く。むむむ、おっし、俺は馬鹿だけれど、利巧だー(リコーダー)があったとなり、子供用のそれをスーパーで買った。とうとう、リコーダーデビューしてしまった。私のドシャメシャピアノの演奏時間を短縮する目的があったから、そういう意味では正解だった。下手ピアノに、ドが付く下手リコーダー。ふむ、なんか知らないけれど、バランスが取れたのだ。

コンサートの打ち上げで、クリスチャン。「なあ、イサオ、来年辺りさ、二人で日本ツアーやらない?」。私、「うん、いいよ」。

と返事をしたのだけれど、ほほほおー、私とのデュオもいいけれど、合間に、彼のソロギターのコンサート企画しちゃおうっと。この超オープンマインドのギターの名手に、私のピアノはいらないとも思うし、そのいらないものがあるのも面白いとも思うし・・・、「音楽とは自分が演奏することだけではない」という素晴らしい真理が脳内を過る。究極の人間関係が自然構築されるところが、音楽のパワーでもある。謙虚であることは悪いことではないねえー。

## トライ

---

2015.05.25 Mon

新しいことに挑戦する、トライしてみる。うひょ、私は、正直、それほど好きではない。そりゃー、そういう年齢なのだ。で、そういう年齢を無理矢理、そういう方向に持って行く。もちろん、自分の意思だから構いはしないけれど、しんどい。わっ、ミュージシャンとすれば、拙いかなあー。といいつつ、今回のコンサートは、挑戦とかトライに近かった。で、へろへろになった。で、へろへろになって帰ってきて、お肉をむしゃむしゃと食べたのかというと、わっ、うどんとシューマイという、いつもの粗食だ。大丈夫かいな、弱肉強食の西洋社会で、あたしは生きていけるのかしら？ たっはあー、これがね、折れねんだな、うどんのように。なん

ちゅう、比喩なんだろう？ 元、詩を書いてたんだよ、あたしは。まっ、「俺のこの挑戦を聴けっ」ということにしておこう。

## パリという名の欲望

---

2015.05.28 Thu

もちろん、このタイトルは映画「欲望という名の列車」のもじり。

さすがに、段々と忙しくなってきた、ブログを書く時間がなくなってきた。時間以上に、書きたい欲求が薄らいでいる。仕事人とミュージシャンに脳が集約し始めている。

本日は、仕事の一環なのだけれど、初めてパリの観光バスに乗ってきた。改めて二階席から見たパリは、やはり、「見事」。まあ、世界に名立たるパリ。構造体としての町として見ると、見事の一言。でも、私が見てきたパリは、王様貴族たちが作り上げた部分。ここに庶民の生活はない。重厚ではあるけれど、権威という名の書割にも見えてしまう。

私のホームであるジャズクラブ「バビロ」も、息子の住む二十区も観光バスは通らない。

生活、人の臭いのない歴史建造物の数々。現在は、巨大資本が牛耳っているのだろう。もし、私が今日見てきたものがパリであるなら、正直、なんの興味も湧かない。

見事に構築された町という器。そこに巨大な権力の残像を見ることはできる。その歴史はおもしろい。でも、町とは、その器の中で蠢く我々のことなのだ。そう、見事なピアノが素晴らしいのではなく、その生きている、弾いている、その人、その人の人生が素晴らしいということ。

## 人生の縮図

---

2015.05.29 Fri

私は、旅行会社に十年。営業マン十四年。そして、新しい仕事。

すべて、お客様に接する仕事である。当然にして、諸々のご不幸にも接してきた。

盗難、離婚から始まり、急死、事故死、ご病気、ご遺族、ご遺体を日本へ、遺品の数々・・・。

諸々のご不幸の中でも、私の神経に最も抵触してくるものがある。鬱病を含めた精神疾患である。

私自身が自閉症を患っていた時期があるから、身に染みる。他人事とは思えない。とりわけ、中高年の「それ」は、私自身が辛くなる。私の鬱は思春期とクロスしていたから、まだ、完治のベクトルは残されていた。しかし、中高年の「それ」、先がない。

なんとかお役に立ちたいと思う。しかし、ご本人の内的パワー以外には、道標はないことも、私は知っているから、尚更、複雑な思いが走る。本日は、午前四時に起床。個人情報に触れることは、当然にして書けないけれど、ほんの少しだけ、私の笑顔が今日はお役に立てたと確信している。私の笑顔の裏側が絶対に伝わった。無言の内に、と、確信している。

私の笑顔は客商売のそれでは、絶対になかったからである。

2015.05.30 Sat

この年齢が、中年なのか高年、初老なのか分からない。相対年齢という考え方もあるから、なんともいえないけれど、まあ、高年であろう。お若い方々にすれば、当然にしてチャンジーである。ところで、私は一種の流行語みたいな「ババァー」「ジジィー」、好きではない。sakuraiさんのブログ記事の中にも、ちらっと、私と同じ感触が出てくる。

相対年齢、つまり、年長者からすれば、私は若僧。精神年齢は？ でも、医学的な肉体年齢は、たぶん、初老。私は、なんらのスポーツもしていない。あえて揚げれば、スポーツピアノ歩く自転車思い出し水泳庭仕事大工仕事、以上である。内臓は、酒煙草で鍛えている。そのせいか、少食だから、コレステロールゼロ体質。なんか、裏返し健康体なの？

### 「元自閉症の五十六歳の人生論」

#### 1) 対人恐怖症

これは自意識過剰、承認欲求過剰から起きる。五十六歳になると、ほとんど、ない。ある意味、元自閉症の逆噴射で、皆無に近い。自分、他人からの目、どうでもよくなっている。感性全体がコスミックだな

#### 2) 鬱

これも、病的ではなく、普通のそれだ。若い頃は、フェラーリみたいに全力疾走をしようとしていた。随分長い間、私は、それをしてきた。生き急ぐということは、死への恐怖と表裏をなしていた。怖いから、生きる、でも、日毎、その怖いものが脳裏から離れない。しまいには、一切れのパンみたいに甘美な幻想にもなる。五十六歳になると、生き急ぐ感はない。どうして？ 肉体の消滅など、どうでもよくなっているからである。刹那？ そうじゃなくて、別に後悔は、まるっきりないから、いつ消滅しても構わない。で、消滅したいのか？ 全然なのだ。カミサンと子供たちと一緒にいられなくなるから、つまらんし、ピアノ、私のピアノ、だれも弾かない。と、超絶長生きでも、突然消滅でも、どっちでもいいから、心は安らぎの極致だろうな

#### 3) 余生

ふむ、もう、生まれた時から始まっているから、よせいやいって！

と、まあ、性欲から派生する男どもの諸々の欲望と葛藤から、私は、ほとんど解放されている。

うでね、まあ、どっちでもいいのだけれど、まあ、私の家系は長生きが多い。ほな、ちびちび一流ピアニストへにじり寄る日々で、いいじゃん。力尽きたら、それはそれで、いいんじゃない。

やっぱ、私は、随分前から、悟りの境地にいる。そっ、十二歳の時だ、同じ感触を持ったのは。早熟？ ちゃうちゃう、早くから老化が始まっていたのかも。

## 別件追記

久しぶりに「裕イサオ」とグーグル検索してみた。十件ぐらいの盗作ブログがばしばし出てくる。おまけに、久保はつじ兄貴の私に触れた記事まで出てくる。私の記事の閲覧数が75なんて日がある。一番の読者がアメリカ？ あのね、ロボット君の後ろにいる責任のないあんたら。あのね、私は、結構、まじでブログをしている。それとね、私はジャズのピアノ弾きだ。うん、非常に遺憾な結論。盗作は構わない。けれど、きちんとお金、ギャラを私に払って下さい。私は金銭亡者ではないし、そのためにブログを続けているわけではない。だからこそ、営利団体のあんたら、止めないのであれば、私にきちんと連絡、許可、およびギャラの支払いをするのが、せめてものピアノ弾きへの節度だろって！ 馬鹿にするなっ、私も含めた真摯なブロガーたちをっ！  
金銭亡者っどもっ！

2015.05.31 Sun

今日は、日曜日らしい？ 日曜日だった。来週から、忙しくなるから、余計にそう感じる。

お気に入りブロガーさんたちの記事は、携帯でいつも拝読している。今日は、パソコンで読ませて頂いた。むふふふ、やっぱ、凄いなあーと思う。私の「素晴らしいブロ愚」の第一発見者であるブロガーさんの記事。ブログを書く、続けることへの根源的な問いがいつもフラッシュバックのように流れていて、大変に興味深い。記事の更新が途切れると、ちょっと、あれれれ、となる。長期間続く、その原動力と自己分析が、その根源が、私に諸々の示唆を与えてくれる。

それとね、系たんさん、私は、いつも「薄いサングラス」をしているのですよ。今日の記事で、あっ、そうなんだあーと思いました。伊達眼鏡でも、もちろんないのですけれど、日光を見ていると涙が出て来るので、サングラスしてないと渋いのです。

格好付けている根暗の親父で、もしかすると、元その筋系にも見えるので、ちょっと、哀川翔みたいになるけれど、目に腹は代えられない。と、よおーく読むと、書き手の真意は「俺はハンサムだろっ！」だ。

ところで、とうとう、私の愛車「ホンダシビック1997」が力尽きた。まあ、二十一万キロ弱走っている。中古車で購入したから、私の走行距離は十五万キロぐらい。十二年弱、私、カミサン、私たちの家族と共にしてくれた。さびしいなあー、機械にだって愛着は湧く。ターミネーター2だって、そうだった。アスタラビスタっ！ だぜって。でね、廃車は嫌だからとインターネットに広告出したら、一回、レストランへ家族で行くぐらいの値段で、あっという間に売れてしまった。アフリカのどこかの国へ行くみたい。この諸々の手続きの問題点は、暇をみて「フランス生活情報」として書こうかな。一步、手続きを間違えると、ヤバイことも起きるから、在住者のために書いておこうとも思っている。

すいません、書ける時に書くという状態になったから、一記事が長くなる。

で、その「自動ロボットブログ」。このメリットが良く分からない。まあ、算数上は、広告掲載のための自動ブログなのかしら？ でね、なんで裕イサオのブログが「自動選択」されているのか分からないけれど、本体の閲覧数は一桁台。私のコピー側も同じである。なんのためなの？

うーん、前にも書いたけれど、そんなせこいことするなら、私のブログに堂々と、広告出していいから。なんか、左下の方に、競馬の広告なんか自動的に入っている、今でも。別に、いいよって、それで。でもな、私もプロピアニストの端くれ。はい、盗用しましたあー、ごっつあんでえーす。これは、拙いぞ。やっぱ、そういうスタンスの方々には、私はご請求書

をお送りします。本意ではないけれど、我々、個々人への、「営利なきブロガー団」への冒瀆と思う。ロボットの後ろにいる責任のない人たち、私に一報して欲しいと思う。と書いても、読んでんのかんたらじゃねえ——、から、書き手はどうしたらいいの？

## 物を書く

---

2015.06.08 Mon

ちょっと、タイトル、仰々しい？

すいません、頂いた拍手コメントへ返信していません。変心？ ではなく、忙殺されておりました。睡眠四時間の生活が続いていたのです。ごめんなさい。ありがとう、変な雅楽を聴いて頂いて・・・。

「物を書く」、うん、悪いことではないと思っている。脳内のモヤモヤが纏まるからである。ぺちゃぺちゃより、纏まりやすい。友達とのぺちゃぺちゃも、いい感じではあるけれど、脳の印画紙に焼き付けるのには、「文字」がいいと思う。

忙殺の一週間で見たもの。諸々の「書く素材」があるのだけれど、それをどのように書くのか？

仕事の詳細、個人情報等々は一切書けないし、書こうとも思わない。以下、私の「書きたいこと」のエッセンスのみを列記しようと思う。うん、ブログの限界？ うん、そうだと思う。文学の領域へブログが侵入する意味はないと思っている。

世界遺産の一部分であるパリのセーヌ河畔 ディズニーランドと同じレベル そこに、「人のいるパリ」はない だから、「本当のパリではない」のだ もし、旅が観光と=であるならば、そんな旅は、私個人はいらない

たとえば、である 私は、カミサンとリスボンへ行った なにを見たかったのか？ ひとつだけだ ペソアが徘徊していた、その足跡と人の臭いだけである

早朝、深夜のパリの、なんと、美しいこと 風景の中に、私も含めた「人」がいると・・・ 我々は、地球にいない、と、感じてしまう

いつも、車の中で「TSF JAZZ」のラジオチャンネルを聴いている

早朝深夜で聴くそれは、私のアイデンティティーへ侵入してくる

そして、私という個人の思惑の中へ、もっとも染み込んで来る音が分かった。

マイルス・デイビスとビル・エバンスである。

どうしてなのか、やっと、分かったのだ。彼らは、聴き手へ向けて音を出している。巨大な自己中の城であるパリで、それを聴くと、なおさら、それが、良く分かる。

音は、コミュニケーションの原初的なもの。

どうして、我々はいがみ合うのか、本当に分からない。ユートピストでなにが悪い？ と。

## 人のいないパリ

---

2015.06.10 Wed

早朝五時、人気のないパリの大通りを一台の黒いベンツが通り過ぎて行く。車内にはジャズ専用ラジオ局TSF JAZZからマイルス・デイビスのソーワットが流れている。マイルス、コルトレーンのソロのあと、超絶的に色っぽいビルのピアノソロが始まる。この車を運転する男もジャズピアニストの端くれなのだ。人のいないパリのなんと美しいことか！ と、男は毎々思うのである。自分のことは棚に上げているけれど、そう思うのだ。

ところで、この男が四十ぐらいのハンサムな中年であれば、その横顔、背中に、そこはかたない哀愁と憂いが漂うはずであるが、残念ながら腕以外はよれよれの五十六歳という高年である。哀愁も憂いも、果ては金に困っているというのに生活苦さえ一切漂っていないのだ、この男には。もし、強いて揚げれば、なんとなく恒常的な至福感と、なんとなくお笑いが漂うのみ。ぶっちゃけ、悟りの境地であるこの男には相応しい雰囲気と申し上げよう。哀愁も憂いも超越しているのだ。リャ！

---

ところで、昨晚、ユーチューブを弄っていたら、とうとう見付けた。ずっとずっと探していた二枚のレコード。

私が東京で一人暮らしを始めたのは、1978年だったはず。保谷駅近くの風呂のない安アパート。武蔵野美術大学の学生たちが住んでいた。ここで、新譜として聴いた二枚のレコード。ずっとずっと探していたのだ。この二枚はまるで違うのだけれど、一つのジャズの到達点であることは、今以て疑いの余地がないと思っている。本当に、擦り切れるほど聴いた。

Gary Peacock Tales of Another 1977

山下洋輔トリオ Montreux Afterglow 1976 モントルージャズフェスティバルライブ

前者は、ベーシスト、ゲイリー・ピーコックのリーダーアルバム。メンバーは、もう、不動のトリオである、ピアノ、キース・ジャレット、ドラムス、ジャック・ディジョネット。キース・ジャレット・トリオとして御馴染みである。しかし、このアルバムは違う。ピアノ馬鹿、ピアノ暴走族のキースをゲイリーとジャックが後ろから羽交い絞めにしている。乗り出すと止まらないカップエビセンのキース。例によってド音痴のハミングが全編に溢れかえっている。つまり、乗り捲くっているのだけれど、ゲイリーとジャックの羽交い絞めが、スレスレのところまで暴走に歯止めを掛けている。この緊張感の凄いこと！ 動のキースを二人の静が押さえ込んでいる。私は、ビル・エバンスの初期のピアノトリオ以降、現代ジャズピアノトリオの極北を示したのは彼らの

このアルバムだと信じているし、今以て、これ以上のものは出ていない、私にとっては。

後者は、これは一言で、日本フリージャズの到達点。このどしゃめしゃぶりは凄い一言である。しかも、私をもっとも気に入っているのは、明るいのだ彼らの音は。陰に籠った当時のインテリ風の暗い雰囲気はゼロ。これは、坂田明のキャラに負うところが大きいとも思う。途中、訳の分からない「歌」？が出てくるし、突然、「赤とんぼ」のメロディーが朗々と出てくる。超マジを通り越して、お笑いのレベルにまで到達している。見事である。当時、山下さんが、アメリカのプレイボーイに「ピアノを空手でぶち壊すやつ」として紹介されていたのだ。

添付はしないけれど、もし、ご興味のある方、ユーチューブ、ご参照下さいね。まるで違うけれど、見事なアルバムです。あとは、阿部薫のサクソソロ、これも世界レベルで、プロのミュージシャンが皆仰け反る。凄過ぎ。

2015.06.11 Thu

またまた、当分、ブログ記事を書けなくなる。今日は、6月10日2015年、先ほど、別の記事をアップした。うん、書き溜めシフトです。

なんとなく、最近の少ない記事を読み返してみると、「文体」が違っている。うん、ぶっちゃけ、「文学」の調性が出て来ている。まあ、疲れているから、「そう」なる。思考が凝縮して来るから、そうなる。疲労が溜まると、過労で、笑顔が強張る。で、文体も強張る。で、強張ると、良かれ悪しかれなんだけれど、書くものに「文学臭」が漂ってくる。別に、悪いことではないと言いたい。

でね、「ポルト・ド・サンクルーのパーキング」という所に、私の運転する車たちが止まっている。ブローニュの森の南の端。二階の部分は、広大。ベンツ、フェラーリ、ロールスロイスと諸々の高級車が、ずらっと並んでいる。入り口から見ると、右側、東側の窓は磨りガラス。パリのペリフェリックがあるから、潮騒のように車の音が聴こえて来るけれど、外の風景は見えない。

私は、このパーキングで、車の掃除をしたり、歯を磨いたり、サンドイッチを食べたりしているのだ。

映像的には、非常に「映画的」。で、さっきの記事にも書いたけれど、これが四十ぐらいの格好いい中年男だったら「絵になる」けれど、よれよれの五十六歳では、まったくもってハードボイルド的映像には、一切ならん。で、なんか、「悲しい感じ」になるのか？ これは、私の場合は、じえんじえんならない。なんか、お笑いコントの、前置きなんじゃね？ という感じになってしまう。どうして？ 以下・・・

俺は、ポルト・ド・サンクルーのパーキングにいた。激務の合間。俺は、この孤独な時間をこよなく愛しているのだ。広大なパーキング内に並ぶ車たちと共に、俺は、一人でモノプリのサンドイッチを食べた。俺の右側からペリフェリックの騒音が聞こえてくる。俺は、「ふふっ、都会の喧騒かい」と薄く笑う。俺にとって孤独は人間のいない唯一のオアシスなのだ。俺にはジャズある。十分だと思う。その時、俺の女、亜里抄から電話が来た。「愛してるわっ」「ふふっ、俺は任務で忙しい、女はあとだっ」と言って、叩き切る。それから、ゆっくりと、ワルサーPPKの手入れを始めた。

「実際には」

「わっわっわっ、超絶、肩凝りいー、右膝も痛いよおーーー、また、サンドイッチかよおーーー、家に帰りたいっ！ ビール、飲みたいっ！ いてててててえーーー」と言いながら、ジョージ・クルネーの顔真似をする。

## だからわたしはピアノだ

---

2015.06.12 Fri

この記事のタイトルは、sakuraiさんの記事タイトルから来ている。「だからわたしはピアノを弾く」から。私は、sakuraiさんの大ファンであるから、拝借しちゃう。

うん、sakuraiさんとピアノとの間の感触が良く分かる。私だって、うん、首根っこ捕まえて、「聴けえー、俺のおー、ピアノおー」ちゅう感じではないのだ。むしろ、己との対話みたいなのところがある。でも、こう見えても、見えないけれど、プロの端くれだ。

じゃ、なんで、わたしはピアノを弾くのだ？

うん、自分への挑戦状なのかしらねえー、今、下に添付する、ピアノ馬鹿きちがい天才、このどうしようもない野郎へ、どうしても迫りたいのだーミリでも・・・。

私の言いたいことは、このアルバムを聴いて頂ければ分かると思う。Tales of Anotherには、させんぞっ！ おっ、キースよっ！

でも、マジ、すげえー

注 あのね、キースは素晴らしいのだけれど、「それ」を引き出しているバックの二人。ゲイリーとジャックを、むしろ、聴いて欲しいのだな、私的には。とりわけ、ゲイリーは京都で禅の研究までしていたベーシスト。彼のベースは、「日本的控えの美学の凝縮形」なのだ。

2015.06.19 Fri

とうとう、ブログを書く物理的な時間がなくなってしまった。ピアノの練習さえしていないのだ。睡眠四時間シフトが続いていたから、トイレに行く、食事を取る、こういう時間さえないから、ブログ？ その前に、トイレに・・・、となる。わっ、こうして「人生の贅肉」、つまり、「芸術」が消えて行くのである。なんのなんのっ、私は、こういう障害には慣れっこだから、這ってでもブログる。

はい、ギターで躓いている？ その君。下に、クリスチャン・バッサールの動画を添付する。ギターのビル・エバンスなのだ、彼は。ふむ、来年、彼と日本公演の予定がある。糞忙しいのに、「どうしたら、彼とのベストウェイができるだろう」と、こればかり考えていた。そして、さっき、久しぶりにピアノを弾いて、二秒後に結論が出た。我々は、ピアノとギターのみ、あとは、彼の声、以上なのだ。ノントーナリティーの音楽。たぶん、日本ツアーは、これで、決定したと思っている。

それから、系たんさんの記事の中の「明日から戦争が始まる」。仰け反ったっ！ その詩と、それを紹介して下さった系たんさんに。村上龍の小説に「海の向こうで戦争が始まる」というのがある。系たんさんが紹介してくれた「それ」は、残念ながら「海の向こう」ではなかった。ちょっと、ずれるけれど、系たんさんも私も「海の向こうで」、ずっと、暮らして来たのだなあーと、しみじみと思った。

そして、「海の向こう」が、そこいら中にあることを、再認識した方が、楽しいよ、と思う。「死という概念」と良く似ているから・・・。

2015.06.20 Sat

クリスチャンについては何度も書いた。昨日は、彼の動画も添付した。私と同じ年。リールで活躍するギタリストである。そして、私の大親友でもある。マメなところ、いつもちょこまか家事だの、庭の芝刈りだのしているところも、愛妻家であるところも、よく似ている。彼に会ったのは、お互いに五十歳の時だった。こんな年齢でも、ミュージシャン名利？なんだろう、大親友が生まれてしまうのである。

と、諸々の共通点も多いのだけれど、実はもっとも「大きな違い」が、音楽のベースにあるから、共演すること自体がやややっこしいのだ。私は、まあ、独学の出鱈目ミュージシャン。クリスチャンは、きちんと基礎から積み上げてきたマルチプレイヤー。クラシック、フラメンコ、ラテンから古典音楽、果てはロックまで、なんでもござれた。プロというのは、本来、こうなのだろう。私の方がおかしいのだ。だから食えない。

クリスチャンは超プロのマルチだから、私がなにをやろうが臨機応変に対応する。私の方は、そうはいかない。そして、最初の疑問「私との共演の意味があるのか？」が沸いて来る。彼は、ソロギターの名手なのだ。ご興味ある方は、ユーチューブの彼のチャンネルを是非覗いて頂きたい。素晴らしいの一言。これに私の出鱈目ピアノの必要は、だれしも感じないはずなのだ。

私の中で、諸々の選択肢をシュミレートしてみると、シンセサイザーという手もある。ないしは、パーカッション等で彼のバックミュージックをやる手もある。しかし、である。そうになると、なんで裕イサオとなの？ となってしまう。

結局、いろいろと考えると、初心に帰るのがベストなのだ。そう、効果音は出さない。ピアノとギターの正当なる奏法にてデュオをやる。小細工はいらんという結論。やはり、物事はシンプルな方がいい場合が多いのだ。で、私のコードワーク、ハーモニーはジャズだ。彼の方は、クラシック音楽。そうになると、ピアノとギターを正当なる奏法にて、これは決まり。では、コードワークとハーモニーをどうするか？ 無調性、これ以外に選択肢はない。これで二人でスイングする方法。

来年、二人で日本ツアーをしようという話になっているから、究極の接点を今から探らないといけない。異種格闘技ではつまらないから、頭を悩ませている。カミサンのアドバイスが非常に参考になったのである。「クリスチャン、素晴らしいギタリスト、超プロだけれど、あなたのピアノの独特な個性がでないのであれば、共演の意味がないわよね」、その通りなのだ。ジャズの手法を使わずにイサオ節を構築する。分かりやすく言うと、スピードとスイングとシーツオブサウンドの無調性音楽。おっし、これだっ！

## ひとり愚痴

---

2015.06.21 Sun

明日から、またまた多忙の人。昨晚、父の日の前夜祭ということで、息子と娘に素敵なレストランへご招待。超絶的に美味しかった。

深夜、娘が運転する車で帰宅。私の家の前の通り、大規模な配管工事中。家の前に、1 m×2 mぐらいの鉄板。その前日、その鉄板を真っ直ぐにしようと、足で動かしたら簡単に移動。その意識があったから、車から降りて、同じ動作。びくもしない。両手で持ち上げようとした。びくもしない。

あっ、その時、撓った鉄板が反動でびよおーんと地面に向けて、つまり、元に戻ろうとした。戻った下に私の右手。中指と薬指を骨折したかと思うぐらい挟まれた。出血を押さえ氷で冷やす。自分への怒り、このどちよんぼへの怒りが収まらない。私の商売道具なのだ右手の指は・・・。

幸い、骨折は免れた。とはいえ、たぶん、一週間ぐらいはピアノを弾けない。中指、爪の下がばっくり。薬指、爪の中が充血。

まあ、どっちにしろ仕事で、日曜日までピアノは触れない。とほほほおー。悲しいなあー、ったく。馬鹿馬鹿馬鹿あー。

第一、本当は今晚、フランス全土のお祭り、音楽祭の一環としてコンサートの予定だったのだ。これを多忙を理由にお断りさせて頂いたのだ。やばかったよ、コンサート入っていたら・・・。ドタキャンしないといけなかった。元々、本日も仕事の日。父の日なので、オフにしてもらったのだ。うもおーっ！　なんか、ちょっと違うけれど、泣きっ面に蜂だねえー。泣きっ面に鉢？　8？

はい、顔面に墨で大きな8の字を書いてください。それから、頭から鉢を被り、蜂の巣を棒で突く。ああーあああああああああー。

## 自負の在り処

---

2015.06.24 Wed

おっ、なんか重々しいタイトル。しかも、カテゴリーが「文学」だぞっ！

今日は、6月24日2015年水曜日。ここ近々のあまりの多忙振りに、勤め先が気を使ってくれて仕事を外してくれた。とはいえ、明日からばしばし仕事が入っている。午前中、カミサンと買い物。平日の真昼間にバーベキューなんかやっちゃって、家の掃除をして風呂に入って爪を切って娘が買ってくれたワイシャツの諸々を取り外し、ハンガーに掛けブロぐり始めた。夕方、負傷した右手の回復振りをピアノでテスト。

ところで、私のお客様方は、地位、名誉、財力、このすべてをお持ちの方々。ぶっちゃけ、金銭感覚は、私のそれにゼロをひとつ足した感じ。千円が一万円なわけ。大企業の会長、社長、役員とか、起業して一旗上げた方とか・・・。

たとえば、アポイントの時間に、当然、私は行く。三時間待たされる。私はトイレにも行けないし、食事も取れない。待機ということでお金を頂いているから、そうはいかんだ。しかし、私とて自動販売機ではないから自然の摂理が来る。この時、脳内に「み・じ・め」という単語が過る。たとえば、メニューが三万円するレストランの前で、私だけ立ったままスーパーの三百五十円のサンドウィッチを食べている。この時も「み・じ・め」なのか俺？ と、ふと、思う。

プロライセンス取得のための学校の授業の中で、頻繁に、「自尊心を、プライドを、自負心を、自己顕示欲を、私生活を、すべて、捨てろ」と教わった。とりわけ、なんらかの理由で会社を解雇された元偉いさん系は要注意。過去を忘れろ。芸術家系も同じだ、と。

勤め先の社長からも、「裕さん、完璧なんだけれど、ひとつねえー心配なのは、あなた、元日系企業の偉いさんだったし、マルチアーティストだろ、そのプライドが出はしないかと・・・」。ちょっと手前味噌な台詞だけれど、これ本当に言われたわけね。ご容赦を。

そして、うなもんは私にはないと思っていたのだけれど、先日、芸術系サクセスストーリーそのままのお客様を担当した。正直に書く。「妬み」「嫉み」「嫉妬」「ニャロめえー」「今に見ていろっ」という感じのエモーションが脳内に満ち溢れた。で、最後の「今に見ていろっ、俺だってっ」、これは五十六歳のおっちゃんには絶対にはないのだ。そして、サンドウィッチを食べている時に、警官がよって来て、君、ここに車を止めてはいかん、至急移動しなさいっ！ 「み・じ・め」という単語が1千回ぐらい脳内をぐるぐる。

ターミネーターだって、自分の故障を修復するから、もちろん、私だってする。自負の在り処が

どこにあるのか探り始める。

元偉いさん？ アーティスト？ なんか変だ。大したレベルではない。もし、うなもんにしがみ付くのなら、もっと「み・じ・め」だぜって！ じゃ、俺の自負ってなに？ となる。でね、なんか唐突に思い付いた。

地位も名誉も財力もない。これからも絶対はない。その代り、私には上司もいなければ、なんのしがらみもない。しかも、自分で選んだ仕事をしている。その日暮らしの日雇いのなんの責任もないことをしている。ふむ、ほとんど、幻影とも言える概念、「自由」というものに私は、ちびっと近付いているのか？ と、さっき思っちゃったわけ。ついでに、りゃ、木枯らし紋次郎とか、座頭市みたいじゃんかよお——、と。こりゃ——、超格好ええ——。上司の顔色見て去勢された男たちなんぞにゃ、俺は絶対にならんから、今の俺がいるんだろ？ じゃ、いいじゃん、今のままで。

えっ、紋次郎も座頭市も剣の達人だよな？ ふふふふふっ、俺には剣の代わりにピアノがあんだぜっ！ 達人になるっきゃねえーな、そのの・・・。

2015.06.28 Sun

睡眠五時間ぐらいの生活が続いている。自負心、自尊心、自己顕示欲・・・、こういうものを、すべて捨て去ってである。

私は、見えないけれど、こう見えても、真面目人間。体の疲労は、やや限界値である。でも、ストレスという感じではなくて、スポーツ選手の疲労。この感触は、以前のハードワークとは、まったく違う。そう、以前は、体以上に心の疲労が酷かったのだ。

でね、久しぶりにピアノを弾いてみた。30分ぐらいなのだけれど、「自分でも凄げえーサウンドが、出て来た」。右手の負傷を抱えつつも・・・。

そして、ここに「ジャズの本質」、つまり、「黒人奴隷」という、もちろん、現在は存在していない、この状況を考える。

私は人種差別をするような偉い人間ではないから、肌の色、政治については、一切触れない。「黒人奴隷の状況」という状態に少し迫るから、ジャズ音が体中に充満する。そして、私の指先から、「それ」が放出される。私自身がびっくりするようなサウンドが現れる。

でね、なんか、そろそろ、本質的なこと、または、事実でもいい。たとえば、常磐炭田のこともいいし、うちの親父とお袋のこともいいし、私が、実際にやっている仕事のこともいいし・・・、こういうものを書いても、ブログとしてね、いいような気がしてきた。小説なんてかきこまる必要があるのか分からなくなってきた。うん、ちょっと考えるけれど・・・。

たとえばである。私は先日、「生卵をスーツおよび私の乗る車のインパネへ向けて投げ付けられた」、と、こういう理不尽なことについても書きたい気がしている。もちろん、閑散期にね。今は、寝たいだけ。まったく、休みがないのだよおー。でも、ブログっちゃたっ！ 寂しいのだよー、書けないと。でも、拝読はしとるよ。

2015.06.29 Mon

ひたすら忙しいし、四六時中、眠い。

もちろん、過労状態なのだけれど、それとね、やっぱ、新米だから、微妙なチョンボもいくつかやっている。真面目人間としては、少しめげるけれど、脳真空だから、なんか、心は錦。いいねえー、労働。ジャズってる。

なのに、あまりに眠いから、逆療法なのだ。ロゼワイン、がぶがぶ、料理、トイレと風呂の掃除・・・、とやっちゃった。明日は、朝の四時に起きないといけないから、へろへろになり、飯

食って、勝新太郎の「座頭市」をちびっと見て、爆睡。

でね、あまりに眠いから、ブログる。勝新太郎主演監督の「座頭市」を見た。北野武のこちらで大ヒットした「それ」は、何度も見た。凄いと思ったのだけれど、勝さんの「それ」を見たら・・・。

十倍ぐらい凄い。勝さんの存在感、妖艶な映像、笑いと涙。本当の映画のプロなのだ。武さんが、いかに映画の、心む、「B級」なのかばれた。でね、「B級」と言えば、俺もそうだから、やはり、武さんへの賛辞も惜しまないのである。

でも、勝さん、マイルスとかコルトレーンなんだなあーー、日本映画の。パチパチパチ。

# 灼熱

---

2015.07.01 Wed

今日から7月。6月は、早朝深夜のパリを見ながら駆け抜けた。とりわけ、早朝のパリは「廃墟」のようで素敵である。さすがに、勤め先が今日はオフにしてくれた。と言っても明日から、またまた、ハードライフ。近々のコンサートは、すべて延期になった。ピアノの練習さえしていない。「両立」？へ、当然にして赤信号だけれど、そういうものなのだ。世間は甘くはない。で、だからこそ、こっちも折れない。なんのなんの・・・、と言いつつ、眠い。大体、オフ日だから爆睡の予定が、爆酔したにも関わらず、朝5時に起きちゃったっ！体のリズムが、そうなっちゃっている。

ところで、今年のパリの暑いこと。猛暑である。ハードワーク＝睡眠5時間生活。私の住む家の通りは大規模な配管工事でテキサスと化している。そこに灼熱の太陽。体はナメクジ状態。

「灼熱」、格好いい日本語なんだけれど、これを聞いて三島由紀夫みたいにボディービルとはならん。ギリシャ彫刻ではなく、人体標本へ向けて驀進中っ！なのだ。

おっ、ところで、私のユーチューブチャンネルの再生回数が10092回。わっ、なんか一区切りっていう感じだね。おまけに、熱い熱い動画へのコメントまで頂いた。ありがとうございます。で、コメントを頂いた動画を自分で、久しぶりに見てみた。やはり、無駄音が散見(聴)されるにしても、やはり、熱い演奏で、ピアノを奪われた状態の私自身も熱くなった。

ハードライフと灼熱の合間に勝新太郎の「座頭市」をちびちび見て癒されている。諸々の不自由を抱えつつも、自由人である市つつあん。ちょっとね、自分の姿を重ねて見ているのだろうなあー。へへへ、パリのピアノの達人？は、伊つつあんちゅう野郎だっ？あとね、60年代の女優さんたちの綺麗なことっ！なんか今時とは全然違う感じが色っぽいねえー。

市の台詞 ばさっと切った後ね

「お侍さん、先に、刀あー抜いたのは、そちらですぜ」

伊つつあん

「お客さん、先にピアノの蓋あー開けたのは、そちらですぜ」

と、なりてえーもんだで。じゃ、サーディンと焼き豆腐を食べるぞっ！わっわっわっ、カミサンも娘も伊つつあんが早朝から、午前3時とかからごそごそするから、避難しちゃったのっ！

寂しいねえー、あたしゃ、会社を非難致しやす。むっ、むごいっ！ 家庭崩壊、なの。

2015.07.03 Fri

カテゴリーをSFとしたのだけれど、先日、私の身に起きた「生卵投げ付けられ事件」を時代劇化してみる。これは、現代フランスの時事でもあるけれど、生々しいルポみたいにはしたくないので……。私流にしてみる。

「おいおいおいっ、裕吉よ、いつからおめえ一車屋始めたんだいっ！ おめえ一みてえな売れねえ一豎琴弾きはよっ、場末の茶店で蠢いてろってんだっ！ 大体よっ、俺ら籠屋はよ、代官様に権利金二百五十万両払ってやってんだいっ、きさまら一文も払ってねえ一くせによ、綺麗なおべべ着てよ、なんでえ一、黒塗りの舶来のよっ、車引きやがってっ。メルヘンデス・ベンツ一なんて印籠かっ、ばあ一たれっ」

「旦那、豎琴で食えんから車引いちよるでげす。代官様よりご許可も貰っておりやす。もぐりじゃござんせん。あの、乳母あ一ポップコーンと一緒にせんでください。あたしも車屋証所持しておるんでげす。それと、わしらは事前にご証文なしではお客さん乗せられんでげす。流しじゃお客拾えん規約がござえ一やす」

「なにおお一、つべこべいっとなだっ！ それはしっとるがな、籠屋がてめえ一らのお陰でよっ、商売上がったりだっ」

「旦那、わしらは、代官様、お役人様、お侍様、商人様、庄屋様、歌舞伎俳優、こういう上方のお方しかお引き致しあせん」

「ばあ一たれっ、わしら籠屋はお代官が決めた均一籠賃なんだというのに、てめえ一らは上限がねえ一、一引き二両なんてえ一、法外な銭もらっとなだろがっ！」

「へっ、それを二両編成申します」

「くだらん駄洒落はよせっ」

ざざざっ一。籠屋組合三十人に囲まれる裕吉。

「おいっ、てめえ一、ここは通さんっ」

「そりゃ一、困りやす。そこの角の庄屋様をお迎えに……」

その時、「掃除しろっ！」。裕吉の上質の緋の腕の部分およびメルヘンデス・ベンツ一のインストルメンツパネルへ生卵が投げ付けられた。

現代語訳

車屋 リムジーン

籠屋 タクシー

その角 シャルル・ドゥ・ゴール空港ターミナル2C

紺 スーツ

インストルメンツパネル インパネ

車屋の中には、車のタイヤ四本へナイフ。フロントガラス破損。車ひっくり返される。車に放火・・・、と、生卵ではすまなかった仲間もいる。本人への危害もあった。裕吉の意見では、車も籠も同業者である。ただ、いずれも「もぐり」はやめて欲しい。以上である。まあ、同業の連中、男臭い連中、血走った連中、元悪系が多いことは多い。しかし、豎琴弾きだの琵琶法師を舐めると・・・。

おれたちや、仕込みもちよるから気を付けておくんなまし。なあ、籠屋の兄ちゃん。車屋協会、ターミネーターまで呼んでっからよ。暇になったら見に行くぞっ。こちとら、これから、仕事だぜえいっ。

## ショートショート「地獄」

---

2015.07.06 Mon

柿枝物産の社長、日向、六十三歳。専務の武山、五十九歳。社長室で腕組み。

「倒産だな」。頷く武山。

倒産後、日向、および武山、カミサンはどこかへ。妾もどこかへ。子供たちまで、どこかへ。すべては、膨らんだ財布で繋がっていたことを、二人は実感した。負債十二億円。蜂の子を散らすように、皆、どこかへ。世間は、まだ、いいだろう。しかし、家族まで……。

二人は行き詰る。日向は、大好きなエトルタへ。武山は田園調布の自宅へ。

日向、ドーバー海峡へ向けて飛翔した。同じ頃、武山は鴨井に首を……。

どんっ。日向と武山は、なんだか分からない賭場にいた。

「はいはいはいっ、パピペポのポっ！」

咄嗟に、「パ」に二人は賭けていた。外れた。

「はいはいはいっ、負けた方は地獄の入り口へお並び下さあ——い、ニャンっ！」

「おい、武山、失礼致しました。もう、社長じゃないのね、あたし。武山さん、我々、負けました」

「社長、勝った人、ゼロでしたよ」

「しゃ、社長、やめてよねえ——、恥ずかしいわ、倒産したから……」もじもじ。

「その、おねえ一言葉、なんすか？」

「あらっ？ 地が出たかしら？」

「ぎょ……、社長、地獄の方へ並びましょう」

どんっ。

「武山、我社も倒産だっ？ れれれ、さっきよ、俺たち、自殺しなかった？ なんで元に戻っているわけ？」

「社長、これが、そうか……、所謂、生き地獄というやつですよ」

「えっえっえっ？ 死んでも元に戻るわけ、算数的に？ やばぐねっ、それっ？」

「社長、と言うことは、楽しく地獄の生活を送りましょ、っ——、結論ですね」

「ふむ、即身仏ということなのか？」

「はい、社長。蛇頭というお薬をどうぞ」

## C'est la vie

---

2015.07.07 Tue

このフランス語、ご存知の方も多いと思う。直訳すると「これが人生だ」となるけれど・・・。

お金持ち「いやぁー、千三百万円のカバンをね、家内にね、買ってやろうと思ってね、それでね、作っているアトリエに行ったんだよ、そしたらね、四百万円で売ってくれたんだよ、凄く得した感じだね」(作者の意図を誤解されると困るので、追記するけれど、この方は大変な真摯だし、優しく、所謂、成金ではない。はったり会話としてではなく、ごく普通のお話としておっしゃられているのである)

ご友人「いやぁー、随分、お安く購入されましたね」

お金持ち「昔ね、フランス映画の中にセ・ラ・ビと成功者が叫ぶシーンがあったんだよ。これが人生さっ！ とね。でもね、こないだね、パリの乞食がね、ワインボトルから直接飲みながら、僕にね、セ・ラ・ビって言ったんだよ。ねえ、運転手さん、このフランス語の意味ってなんなの？」

運転手「あぁー、そうですね、おっしゃる方とシチュエーションでニュアンスが変わると思いますよ。たとえば、お客様がおっしゃると、やったねっ！ というニュアンスですね。でも、運転手の私が申すと哀愁が漂いますよ。こんなもんだな、とか、仕方ないね、みたいなニュアンスです」

同乗者「げらげらげら」

お金持ち「あぁー、そういう意味なんだ。ずっと前者だと思っていたんだよ」

運転手「一般的には、後者の意味で使いますね。なんか、そうですね、負けたとか試験に滑った時とかに・・・、でも、肯定的な意味合いも含んでいますよ。こんなもんだよね、人生は。でも、楽しくやろうよって。前者の使い方は、私の周りでは聞いたことがありません」

お金持ち「ラ・ビ・アン・ローズもそんな感じなの？」

運転手「そのままの意味でいいと思いますよ。バラ色の人生。私のはラ・ビ・アン・グリ、灰色の人生(冗談です)」

同乗者「げらげらげら」

同乗者「運転手さん、一緒に写真撮りましょう」

運転手「バラ色と灰色、混ざっちゃうからご遠慮しときますよ。セ・ラ・ビですね」

などと、この運転手は言うてるが、こやつもお金持ちに負けないぐらいラ・ビ・アン・ローズなのだ。もしかすると、こやつの方が、勝っているような気配まで感じる。以前書いた坂田明の名言を再度記しておこう。

「勝負とは勝ち負けではない」フリージャズメンの名言は奥が深いのである。

## 物欲

---

2015.07.08 Wed

私は、哄笑ではあるけれど、高尚な人間ではない。でもね、物欲が昔からない。そうなるお金欲もない。でね、チャンジーになったから食欲も、あんま、ない。でね、チャンジーになったから、お陰様で、性欲も、あんま、ない、から、征服欲もない。そっ、女に翻弄される、なあ——んていう、馬鹿オスではない。おっ、そういう意味では、そうとうに高尚だね、お若い。性欲性欲っ！ これから解放されないと、「自由」にはなれんのだっ！ ふふふっ。と、ぶっちゃけよ、悟りの境地なのだね。これ、本当だよ。はったりじゃねえー。

ところで、どうしてこうなったのか？ まあ、元々、そういう「体質」なんだろうけれど、それを増長する要素があった。

そう、何度か書いた。私は常磐炭田全盛期のいわき市で幼少期から高校までを過ごした。過ごした地区は、かなり貧しい地区である。正確には、貧しい地区の高台で育った。そう、貧しい地区の相対的な金持ちの息子だった。だから、バイエルなんかを持っていたのだし、ピアノを齧ったのである。そう、すでに、私は「勝ち組の子供として育った」のだろう。そして、だ。「勝ち」ってなんなの？ と、十二歳の頃からずっと思っていた。貧しい地区の、なんとも言えない、セ・ラ・ビ感に惹かれた。物凄くタフで人間的で悲しくて、でも、凄く優しくて・・・、ポジティブじゃないと生きて行けないのだ。私には羨ましい光景だった。ひ弱な神経質なぼんぼんには。

私が敬愛する人物に、どうしてなのか「金持ち」が一人もいない。良くて「普通」である。どちらかと言うと「やや、貧しい」「かなり、貧しい」、こちらの方が多い。たとえば・・・。

バン・ゴッホ　ヘンリ・ミラー　金子光晴　田村隆一　マルセル・デュシャン　深沢七郎　富岡多恵子　吉岡実

金子光晴が、息子にステーキを食わせて、自分は一番安いカレーライスを食べていた。そして、晩年は、「スケベ爺」としてブレイクした。そして、そんなテレビ的ブレイク・・・、「宇満子」と、女のあそこを、金子さんは書いた。そんな人にテレビ的ブレイクなんぞ、コーヒーブレイクに過ぎないことは、金子さんが亡くなった時に、世間は気付いた。

金があってもなくても構わない。我々は、本質を問われている。折角、理知的人間として生まれたのだから。

読者様へ感謝っ！

---

2015.07.10 Fri

ふーっーむ、ここ近々の裕センスの記事なんだけれど……。やっぱ、「過労状態」から来ているのだろう。振り絞りましたあーっー感がある。やっぱ、重くなっている。ピアノの音も重くなった。労働、世間は甘くないぞっ、ちゅーのがバックボーンにあるから、そうなる。そうなる、文学臭みたいのが漂い出す。別に悪いことではない。

ところで、「拍手」をクリックして下さる方、「ランキングバナー」をクリックして下さる方。それから新規のご訪問も、なんとなく増えている。

本当に、ありがとうございます。なんか、私は支えられている感じがしています。重労働の合間に携帯の中で、私は、それを見えています。本当にジーンと来ます。鼓舞されています。いい感じなのです。もう、一方的に「仲間」が応援してくれている。と、本当、一方的にジーンとしております。

おほっ、勝手に「仲間認定」しております。別に実害はありませんので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

あっ、新規ご訪問の方々、ありがとうございます。リピーターになられた方も散見されます。おっ、とうとう、高尚なブログ？ に巡り会われたと謙遜しております。あれっ？ がっはははあーっー、私のリンク先へお進み下さいね、ずっとハイレベルですよー。

「私信」

師匠へ

更新して下さいよあーっー、将棋してないでっ！ もちろん、師匠も大人だから、好きにして下さいって結構ではありまするが、更新して下さいっ！ 寂しいのです。はい、ここで一句。「将棋の沙汰もブログ次第」、お粗末でしたっ！

蝶姉さんへ

更新して下さいっ！ とはいえ、マイペースですね。でも、ブログは姉さんの鼓舞から始まった責任は取って頂く……。必要なし。やはり、更新がないと、ありゃ、となりますけれど……。寂しいですよ。

ココ君へ

いい感じいーっー、毎々の記事、癒されてます。メルヘンデス・ベンツーの中でね、携帯で読ん

でいるのだけれど、いい感じで素敵です。

系姉さん

スイスも暑いすねえー、本日の記事、げらげらげら……。暑中お見舞いをしょっちゅうお送り致します。「ユーモアに定年はない」、痺れましたっ！

注 リンクさせて頂いた順番にて表記致しました。つまり、順不同です。

「おいっ、はっつあん、毎日、暑いねえー」

「暑さ寒さも彼岸までの意味が突然ね、分からなくなった」

「ありゃ、俺もだよ……」

「彼岸てね、なんか期日があったけれど、あの世みたいな感じに聞こえちゃう」

「いいじゃん、それで」

「まああー、生きてないと、暑さ寒さも感じねえーから、それで、いいじゃん」

2015.07.11 Sat

昨日から、どうも暇になったよう。「どうも」というのは、びたっと勤め先から仕事のオーダーがストップしたから、こちらが勝手に推定しているということ。繁忙期を乗り切ったのだろう。助かったっ！ 正直、猛暑、ハードワーク、睡眠不足、いやあー、後一步で倒れるんじゃないかあーという気もしていた。

あっ、急に全然関係のないことを書く。あのね、閲覧数なんだけれど、fc2の方は、多い日で10とか、私が見慣れた数字が並んでいる。でも、グーグル解析の方は72なんていう日が結構ある。しかも、一番閲覧されている地域がアメリカ。もう、これは絶対にロボット君たちだねえー。もう、追跡している時間はないから放置するけれど、私の記事の転用ブログも一杯出てくる。仕方ないねえー、ったく。

ところで、猛暑、熱帯夜のパリの中で仕事をしていると、しばしば「脳内蜚気楼」。そう、私の中の「日本の夏」が脳内、体内を駆け巡る。坊主刈りで炎天下、野球の練習をしていた十五歳のキャプテンであった私の記憶が鮮やかに蘇る。縁側、花火、風鈴、団扇、キンチョウ蚊取り線香、蝉、カブトムシ……。母国にいた頃の夏が蘇る。もちろん、ちょっと懐かしい。日本の夏と少年だった私が……。と脳内蜚気楼現象を起こしているのに、私の前に見えるのはエッフェル塔、マドレーヌ寺院、コンコルド広場。しかも、白髪の五十六歳の親父の私。なあーんか変な感じいー。

それから、名誉地位財力という世界の一端で蠢いているジャズメンという不思議な構図。なんか、自分がどこにいるのか一瞬分からなくなる。うで、そういう時は、ピアノを弾くしかない。わっ、俺って、ジャズメンなのかあーなどと、再認識しちゃったりする。別に新しいテクが、ここ近々で身に付いたわけではないのに、私のピアノの音の重いことっ！ ジャズしてるなあー、本当。

少し前に「自負の在処」という記事を書いた。そうだなあー、やっぱ、なんかね、一芸にかなでるみたいなもんがないと、自負心のキープは難しいかも。本当に、段々と座頭市みたいになってきたぞっ！ あははは、くだらないけれど、「私の自負のバロメーター」を数値化してみんべ。10点満点ね。おっしっ！

ルックス 6.2 やや、ハンサム系なのだっ！ 異論あり？ ふんっ！

人柄 8.0 私は、比較的、人格者だしいい人。自分でいっているから間違いない

ピアノの技量 3.2 苦しいねえー、私より上手い人ごまんといふのだ

肝心のピアノのレベルがやばいな。ということは、私より下手な人たち「のみ」を見ることにすればいいわけだな。3.2以下の人々の上に君臨すればいいわけだな？　ぎゃ、なんか寂しいねえー、そういう自負も。ルックスだってよ、6.2じゃなあー。おっ、かなり10点に近いものがあるぞ。うん、脳の自由度、これは、9.2ぐらいはっていると推測する。

十分だろ？　ねえー。

## ピカソとデュシャン

---

2015.07.13 Mon

パブロ・ピカソ、1881年生まれ。マルセル・デュシャン、1887年生まれ。「ピカソ」の名前は、九十八パーセントぐらいの方がご存知だと推測する。デュシャンの方は、十二パーセントぐらいのような気がしている。もちろん、日本国での知名度の推定値。この、ほぼ同世代の二人の芸術家。前者は「二十世紀の天才」と呼ばれている。後者は「現代美術の原基」と呼ばれる。

アインシュタインのように世界感を変えた、根本から、という意味では、デュシャンの足跡は計り知れない。どうして、後者のデュシャンの知名度が異様に低いのか……。たとえば、私のような元現代美術家とすれば、後者の影響は避けて通れない。絶大なのである。

マルセル、印象派とかキュビズムと、当時の前衛を「模倣」というのか「分析」した。たぶん、彼は、その「コンセプト」を二十五歳で把握したはずである。「同じことを私は繰り返さない」、こういう規約を彼は立てた。＝、絶対に「商業主義」には陥らないと。この徹底振りは、今だかつて、誰一人、彼を超えたものはいない。

絵画を放棄したのが、私の記憶では二十五歳。代表作と呼ばれる通称「大ガラス」、この制作に八年を費やし、未完のまま放置。三十三歳だったはずだ。そして、通称「遺作」と呼ばれる秘密裏に制作されていた、もう一つの作品に二十年を要している。ということは、六十ぐらいの時に制作が開始されている。彼は、八十一で亡くなっているから。

三十三歳から六十まで、一体、彼は何をしていたのか？

図書館勤務、フランス語の先生、ニューヨークで。

そして、もう一つ。彼は、チェスのフランスのチャンピオンでもあった。晩年のインタビュー。

カバンヌ「あなたにとって、チェスは、理想的な芸術作品だったのでは？」

デュシャン「そうかも知れませんね」

「脳内、つまり、コンセプションが描く、あなたにとっては美しい作品だったのでは？」

「美しいのか、私には分かりませんが、そうかも知れません。ただし、美という概念には、少し神経質になります」

「ピカソは大スターになりましたが……。同時代のあなたにとってはいかがですか？」

「彼にとってはいいことですね。いつの世も、大衆はスターを欲しています。でも、真の評価は五十年ぐらい経たないと分かりません」

「今の、あなたのように？」

「そういう意味ではありません。アメリカの若い連中が、私を偶像視する。五十年も前に作った作品を……。でも、彼らのやり方と私のそれとの間には大きな隔たりがある。私は、芸術でお金を稼ぐ、注意深く、それを避けてきましたから……。私は、同じことを繰り返すことを自分に禁じて来ました。だって、退屈だし、同じような作品を馬車馬のように毎日作る。私は、九時に会社に行きたくないから、芸術を選んだのです」

この「見事な凡庸さ」。とんでもない人物だと思う。

## 再始動

---

2015.07.15 Wed

少し暇になった。昨日の夕方、ピアノの練習後、赤ワインを飲みながら「自由でありたい」というタイトルの記事を書いた。かなり長い記事だったのだけれど、途中でパソコンの調子が怪しくなり、日本語、英語、フランス語と次から次へと「このページを開いたままにしますか？」の表示。「はい」をクリックしていたら、今度は「このページをアクチャライズしますか？」「はい」とクリック。その長い記事は、銀河系の彼方へ。思い出しながら再筆する気力はないから、苦笑い。たまに、ちゃんと書こうとしたら、こうなる。しゃーーない。銀河系へ行っちゃったものは・・・。と、こういう事態は、皆さん方も何度か経験なさっているはず。

まああー、5月末から7月初頭まで忙しかったのなんのっ！ やっと、バカンスシフトになった。

こういう風に、繁忙期と閑散期があるのは、なかなか悪くない。比較的、二束の草鞋をやり易いはずである。以前の「延々と繁忙期」の生活と比べたら、メリハリがあるし、社会人とジャズメンと期間によって人格が入れ替わる。なんとなく愉快である。ここ近々のコンサートは、すべて延期になっていたから、むひょ、7月末から再始動なのだ。なんとなく、久しぶりに「無調性」の方をやってみたい。ブロック・コードというテクニックが身に付いてから、比較的、ジャズらしい演奏が続いていた。これを一旦忘れることにする。

「無調性」、フリージャズとかインプロビゼーションの基本形ではあるのだけれど、いくつかの弊害もある。なんか、皆、同じような演奏になること。そう、すべての曲が似ているという意味と、どのミュージシャンがやっても似ていることと、悪く言うと、現代音楽とか、日本の雅楽もどきのような演奏になる。

ふむ、私は「フリージャズ」という流派にいることは間違いない。そうすると・・・。パワーとスリルとスピードとエモーションとスイングと・・・、と、結局、ジャズの原点を再考しないとイケなくなる。そうしないと、私とか我々の演奏ではなくなってしまう。と、ピア脳が復活している。あっ、それとね、お笑いを入れたいのだ。なんかねえー、お芸術だぞおーーという感じじゃなくて、なんだかわけが分からん演奏だけれど、なんか愉快だねえー、みたいな。山下洋輔トリオのモントルーのライブなんか、そのものズバリ。超マジな演奏なんだけれど、赤とんぼのフレーズだのはなもげら語が飛び交うのである。楽しいのだ。それと、観客席が高校野球の応援団みたいな雰囲気。いい感じだし、超愉快。

## パリ午前4時

---

2015.07.17 Fri

昨日16日は、午前3時起床、帰宅が午後9時。夏の閑散期前の最後のハードワーク。

自宅から高速A15まで人気がない。車もほとんど走っていない。見たのは猫二匹と野生の兎一羽。車一台。

人のいない風景。なかなかいいのである。自分の事は棚上げ。黒いスズキスイフトDDISの車内には先日買ったマイルス・デイビスの「TUTU」が流れている。うちの弟もよく車中でマイルスを聴いている。この人気のない風景に、マイルスの悲しげなトランペットがよく似合う。

フランスの高速道路、なんか街灯を消した方が事故が少なくなるというデータがあるらしく、早朝のA15は真っ暗である。車線の白が妙に白く見える。法定速度110km/hを遵守する。真っ暗な高速を走っていると、なんとなく黄泉の国に向かっていているような錯覚。それから、過労が原因でガードレールに激突している自分の姿がふっと脳内を過る。「ほお———ら、いい年こいて、二束の草鞋だの格好いい人生設計なあ———んかをたてるからこの様だぜっ」などど、脳内独り言。あまりに悲しい風景なので、脳内からそのイメージを追払う。

パリが近付いてくると、こんな時間帯でも、少しずつ車が増えてくる。車種を見ながら推測する。トラック、タクシー、それから自家用車でガレージに向かうプロドライバー、こんな感じの連中が大半である。推測するに、ほとんど男性だと思う。「りゃ、孤独な野郎ども、とか、一匹狼系とか、こんな感じの連中なんだろう。羊の皮を被った狼？ 腹減らしたハイエナ？ わっ、俺は羊の皮を被った羊じゃんかよおー」などど、脳内独り言。「まっ、野郎どもよ、ボン・ジョーネ」。

それにしても、このマイルス後期の代表作。マーカス・ミラーのエレクトリックベースが超格好いい。ピアノのビル・エバンスと同姓同名のサクソ奏者が、またいかしている。マイルス自身は六十代だったよな。若い連中に囲まれて、リリカルなペットを吹いている。やはり、超絶的に格好いい、このジャズの帝王は。はったり音、無駄音が一切ない上に、唯一、トランペッターでトリルを彼はやらない。見事である。

パリの環状線ペリフェリックに入ると、もう結構な車が走っている。まあ、東京もそうなんだろうけれど、不夜城というやつだ。

「まあ、カミサンと爺さん婆さんになっても手を繋いで俺は歩くぞっ」と、まったく脈略のないことを私は考えていた。

訂正追記 7月19日2015年

今、調べてみたら、なんと、サックス奏者はマーカス・ミラーではないか！ マルチ過ぎっ！  
ピアノっ満足にできないのに、こっちは・・・。

## 夏休みブログ

---

2015.07.18 Sat

「ジャズクラブ、バビロ、感謝祭」7月28日2015年。

こういう主旨の一夜を行うのだけれど、「料理とジャズの夕べ」という感じです。料理 by Makoto SATO。ジャズ by Isao YU。現在、沖至師匠と私のユニットのベーシスト、オリビア・セママの空きの返事待ち。基本的に、このトリオで予定しております。お料理15ユーロ、コンサート5ユーロ、しめて20ユーロ。真師匠の料理は半端ではないぞっ！ もちろん、我々の演奏もっ！ 定員二十名ぐらいらしいので、ご興味ある方は、予約して頂いた方がベターだと思います。

「熱中症」

ご参考までに私の体験を書いておこうと思う。

私の父が七十歳ぐらいの時である。神奈川県の大雄山の最乗寺に事情があっていたのだけれど、父が寺の境内で倒れた。辛うじて、寺の縁側へ横になった。父が朦朧としながら、「トマトジュースを買ってきてくれ。三缶ぐらい」と言った。幸い、直ぐ近くに自販機があった。父はトマトジュースを二缶飲むと、三十分ぐらい安静にしていた。

「危なかった、熱中症で死ぬところだった。お前も覚えとけな。世間では水の補給を頻繁にと言っているが、詳しい説明はしないが、正確には塩分の補給ということだ。発汗し過ぎて、血液内の塩分欠乏状態が訪れる。限度を超えると死に至る。塩を舐める。梅干を食べる。トマトジュース、または、ポカリスエットでもいいだろう、至急摂取することだ。水を飲んでも助からないからな。先日、テレビで医者がゴルフ場で熱中症で亡くなったとやっていた。気の毒ではあるが、医者としてはみっともない死に方だな」

いやあー、フランスの2003年の猛暑の時、この時の教えが役に立ったのである。私は、営業で高速A1を運転していた。なんとなく意識が朦朧としてきた。幸いパーキングエリアの近く。パーキングエリアに入り、ポカリスエットに似たスポーツドリンクを二本ぐらい飲んだ。クーラーを掛けた車内で少し安静にしていた。あぶなかったなあー。

「小旅行」

来週、ドイツのアーヘンに行ってくる。夏休みの小旅行。どうも私もカミサンも、なぜか南方面ではなく、ベルギーとかオランダとかドイツ方面へ行ってしまう。なんとなく、体質的にこちら方面の方がしっくりするのだ。おっ、ははは、「フリージャズ」が盛んな国々なんだよな。不思議

議だね。ドイツは食事が拙いと皆さんおっしゃるのだけれど、私は、ソーセージが大好物、それにビールでしょ、それからとんかつみたいな揚げ物でしょ・・・、私はドイツの食べ物大好きなのだ。ただ、スパゲッティーボロネーズをビールを飲みながら食べている風景。これは、ちょっと、りゃ？ だけれど。肉屋さんの軒先で老婆ちゃんが色々なソーセージを焼いていて、これをビール飲みながら立ち食いする。うまいんだなあー、これが。うん、それとね、私は大聖堂訪問がやや趣味でもあるから、世界遺産のアーヘン大聖堂を訪れるのである。ヨーロッパで最も由緒ある大聖堂。ランスのそれに近い。歴代の国王の戴冠式が行われたところです。と、来週はブログも夏休み。では、皆さん、ご自愛下さいね。

2015.07.19 Sun

### 「たぶん」

この言葉は、マルセル・デュシャンの口癖だった。どういことなのか？ そう、物事を断定しないのである。「そうかも知れないし、そうではないかも知れない」という意味の「たぶん」。たとえば、男性用の便器を美術展に出品した彼への非難轟轟。今風に言うと「炎上」だな。この便器という「既製品」を美術展に持ち込んだ。炎上した。まあ、便器というのは、デュシャンも若かったんだらうな、挑発的な物を選んだわけだ。その炎上の理由が、ご想像できるはずである。「不謹慎」、そして、ここが大事なのであるが、「これは芸術ではない」という観点。八十歳の彼の回答は、「私は芸術だとは一切言っていない。そこに置いただけです。それは、一つの、芸術とは何？ という問いの切っ掛けになったのです」。やはり、悟りの境地に達した晩年の回答だから、「当時の温度」とは違うとは思いますが、彼は、やはり、「芸術の定義」は一切していない。その「問い掛け」のみなのだ。私は、この心境を「自由」と勝手に定義しちゃったのである。でね、お気付きの方もいらっしゃるかも……。久保はつじ兄貴のブログの中に頻繁に出てくる文体。「そうかもしれないようなないようなそうなのかもしれないようなないような」。本当のインテリとは、兄貴のような方々を指す。私にとっては。

### 「盗作ブログ」

昨晚、布団の中で「裕イサオ」とセルフ検索を久しぶりにしてみた。盗作ブログが10ぐらい出て来た。

うん、すべてに共通しているのは、中国語らしき表記が出てくる。以前のような時間はないから放置するけれど、もし、ご存知の方いらしたら、ご教示頂きたく。「こういうブログって、なんのためなの？」「元締めはだれなの？」。まあ、金絡みなんだらうけれど、私のような読者様一桁、ただし、素晴らしい読者の方々という、そっ、こういう高尚なブログの盗作の意味が商業ベースであるのかしら？ どうして、私のブログが引っ掛かるの？ あっ、動画のせいかな？

「裕イサオ」の検索回数、もしかすると結構な数字なのかもねえー。うん、そうなのかな？ まあ、芸能人の端くれではあるからねえー。

### 「著作権」

うん、やはり、完全コピーのブログを見ると、いい気持ちはしない。正直、そっちが金なら、こちらも、原稿料頂きますよってなる。そう、大袈裟になるにしても、私のブログは、私の人生の時間の一部である。やはり、止めて欲しい。私、それからリンクさせて頂いているブロガーさん

たち、つまり、「営利なきブロガー団」への屈辱、冒涇と超真面目人間の私は感じてしまう。あのね、ユーモアは大好きなんだけれど、理不尽なことに笑顔は浮かんでこない。真面目とはそういうことを意味している。「元締めの方々」がこの記事を読んだのであれば、一報、そっ、詫びを入れてくれっ！ 他人の人生を閲覧自動ロボットに委ねた罪状で、切るっ！ おっ、ケースによってはね。そういうシステムを構築した罪は、うーん、こういう時代なの？ 人がいないよね？ 悪人も罪人もいないんじゃ、市っちゃんの仕込みも空を切る。

## ジャズクラブ「バビロ パリ」

---

2015.07.20 Mon

この記事は予約投稿。アップ時には、私はアーヘンへ。

でね、ジャズブログでもあるから、ちょっと、パリのジャズ状況を書いておこう。ジャズクラブ「バビロ」。たぶん、パリのジャズクラブの老舗のはず。五十年以上続いている。元々はアルジェリア人の溜まり場カフェだったらしい。アルジェリアからの移民の憩いの場だったのだろう。現在のオーナーは、アルジェリア出身の映画監督。でも、実際の運営は、彼の息子二人。シィファルとイケン。この兄弟、フランス人とのハーフである。どちらも超イケメンの独身だぞっ！ 兄貴のシィファルはアラン・ドロンの系憂いの美男子。弟のイケンは、その名の通りイケメンだ。

「バビロ」の凄いところは、そう、パリで唯一「フリージャズ」を聴ける「ジャズクラブ」なのである。じえんじえんお金にならないのに、そう、昔気質のクラブなのだ。沖至師匠とか、アラン・シルバとかジャズジャイアントも出演する。しかも、とんでもない低料金で。うーーん、パリのフリージャズの灯火かも知れん。そう、昔のジャズクラブなのかしらね。でも、その代り、ここに出演するのは超難しい「らしい」。らしいというのは、私はパーマネントミュージシャンだから、よく分からん。でも、推測するに、気骨のある奴しか出さんというスタンスなんだろうな。まあ、皆、偏屈の極致なのだ。

ところで、7月28日2015年。沖組若頭佐藤真の料理。そして、組長とチンピラ束ね役兄貴裕イサオのデュオ。恐ろしいことになった。沖親分は、ご存知の通りジャズジャイアント。一切シモネタを言わないし、人の悪口を言わないダンディーな師匠なのだ。若頭と兄貴分はシモネタ大好き、人の悪口大好き、なのだ。まあ、自然体。とはいえ、若頭はドラムを叩くと、超絶的にお淑やかなのである。あれ？ あっ、今回は、組長とのデュオか。でね、一切、無駄な音を出さない組長に、チンピラ束ね役裕ちゃん。この束ね役は糞生意気で見栄っ張りで無駄音ばかりでおセンチでエモーショナルで・・・。

おっと、遠慮はいらねえー！ 蛇頭ちゅー、刺青入れてっからよーーー！

28 Juillet(Mar) 2015 Babilo

9 Rue du Baigneur 75018 PARIS  
Tel 01 42 23 99 19

Cuisine par Makoto SATO  
19h30

Improvisation  
par Isao YU(Piano)  
et Invité Spécial  
Itaru OKI(Trompette)  
21h30



Isao YU Makoto SATO Itaru OKI

Sukiyaki Salade aux crevettes et haricots verts Gohan 15euros Réservation nécessaire  
Concert 5euros

2015.07.25 Sat

「アーヘン」、人口二十四万人のとても静かな古都であった。ほぼ、想像していた通り。毎回、ドイツを訪れての印象は……。まず、ドイツ人が騒がしくないこと。車の運転も穏やかだし、大声で話をする人も少ないし、人を押し退けるような歩き方もしない。美女が通っても男達があからさまに振り返らない。赤信号で横断歩道を渡らないし、横断歩道以外の所も渡らない。

りゃ？ どこかの、私が良く良く知っている国の人々とまったく違うのである。なのに、フリージャズの熱狂的ファンが世界で一番多い。なんとなく、母国日本に似ているといえはいえる。この町自体の静かさは、パリの喧騒の塊の中からは行くと、新鮮だし、本当にほっとする。ジャングルから人間の世界へ、みたいな大袈裟な感じまでするのである。俺、ドイツに移住すっかなあーと毎々思う。

諸々のソーセージとポテトフライト、ポテトサラダと、諸々のビール。あっはっ！ フランスに戻り、すぐに和食を作った。それからイタリアン。赤ワインをがぶがぶ。逆噴射なのだ。

行く前のカミサンとの会話。

「エックス・ラ・シャペルに行きましょう」

「うん、いいけど……。アビニヨンとか、あっちの方だろ？」

「違うわよ、ドイツ。シャルルマーニュの王宮があったところよ」

「えっ、ちと待て、フランスの国王の王宮が、なんでドイツにあんだ？」

「八世紀ぐらいのこと」

「ちと、調べるよ」

グーグルする。エックス・ラ・シャペル＝アーヘン。シャルルマーニュ＝カール大帝。頭の中がグルグル。なんか、「あっ変」ちゅう感じだな。シャルルマーニュはフランク王国の国王である。フランク王国、つまり、現在のフランスである。そして、現在のドイツのその頃の名称が神聖ローマ帝国。もう少し、限定するとプロセイン王国と呼ばれた。

八世紀。ちょっと単純過ぎるのは承知しているけれど、「フランスの首都はアーヘンだった」ということになる。

アーヘン大聖堂を見ながら、遠い遠い昔のヨーロッパのことを思ったし、そこにいる日本人の私という、なんか時空を超えちゃったあー、みたいな不思議な感銘と感慨を感じてきた。そして、なんか定番的結論。いかに、個人が微細なものなのかと改めて認識しつつ、いいもあーあーん、歴史の破片でも星屑でも……。俺はあー、ピアノ弾きだっ！ と、開き直っちゃっ

た感も、同時にむらむらしてくるのである。まあ、歴史とか超時空とか遺伝子とか、個人で考えているとなんだか分からなくなっちゃうからね。

2015.07.26 Sun

ご存知の方も、いらっしゃるかも知れない。精神安定剤の消費量、フランスが世界一位なのだ。

先週は、ドイツのアーヘンに私はいた。当然にして、ドイツ人とフランス人。プロセイン王国とフランク王国の比較が脳内を過る。現在もそうだけれど、経済力、軍事力、果ては体格も含めて、フランク王国がプロセイン王国を凌駕したことはない。

「フランス」という国。戦勝国。ただし、どうしても「自力で勝った」とは思えない。温暖な気候。肥沃な領土。海あり山あり。観光資源の宝庫。先進国で、最も労働時間が少ない。当然、年間五週間の有給休暇。

系たんさんの「住みたい国ランキング」、意外とフランスが低い。なんとなく、私には分かる。

「個人主義」、これは「フランス」という国そのもの。「国風」といっていいのである。皆、私私俺俺の世界である。他人へのレスペクトゼロの世界だ。車の運転を見ていると良く分かる。ドイツ人の運転とまったく違う。赤信号で道を人々が渡らないし、横断歩道以外で渡らない。私の母国と同じである。このフランスでは、なんの規律もない。早い者勝ち、自己主張勝ち、弱肉強食である。だからこそ、皆、イライラしているのだ。自業自得と申し上げる。フランス人が一丸となることは絶対がない、から、世界で最も「戦争が似合わない」、そう、享乐的なのである。食事、セックス、バカンス……。しかし、このフランス人のイライラは、個人主義の食べ過ぎと申したい。自己主張の果ての贅沢なのだ。他人の批判、ネガティブシンキング……。享樂の果てと申し上げる。

ところで、このギャップの出そうな個人主義の成れの果ての打開を、二十世紀初頭の知識人たちは、探っていた。たぶん、私見ではカフカが先人を切ったと思う。そして、サミュエル・ベケットが文学の世界では続く。そして、なんども書く、マルセル・デュシャンが、たぶん、最も、「これ」から抜け出した「フランス人」なのだ。

「忘れてはいけませんよ、我々は、沢山の人々の中の一人であることを」

こんなことをいうフランス人は、ほぼ、皆無なのだ。ほとんど、東洋思想に近い。

## 己を消す

---

2015.07.27 Mon

なんかドイツに行って来たから、改めて「フランス、フランス人」のことを考えてしまう。まあ、フランス人だけではないけれど、西洋世界では人間が自然界も含めた頂点にいるという考え方が中心にある。ルイ十四世のベルサイユ宮殿へ水を運ぶ巨大ポンプ「マルリーの機械」が象徴するように、自然さえ手中に収めようとするのである。

日本人も含めて東洋人にはあまりないような気がする。「自然界の一部に我々がいる」という皮膚感覚みたいなものがあるから、諸々の刹那を感じたりもする。うん、なんかね、我々は「己を消す術」を知っているような気がするのである。

たとえば、私はジャズのピアノ弾きだけれど、自己顕示欲とか俺が世界で一番だっ！ ところいったもの、それほどない。もう、是非是非、俺の音楽を聴けっ！ これもあまりない。うーーん、年のせい？ 分からないねえー。なんか、どうしても最終、自分のために弾いているという感じもややある。自己鍛錬とか修練とか、結局、そういうものから解放されるためにやっているのかしら？ 空手家が暴力コントロールのために修練しているような感じ？ そうかも知れない。追記、そもそも、ピアノを再開した理由の一つに、内気、シャイ、照れ屋みたいな感じを払拭したかったから。自意識過剰なのだ、こういうのは。再開当時、初めてピアノを弾いたとき、手がぶるぶる震えて酷い演奏を一度だけやっちゃったの、僕。今考えると、初々しいねえー。

この自己中集団のフランス人も、こういう術を習得すれば精神安定剤の消費量も減る。とはいえ己を消しすぎると、己がなんだったのか分からなくなっちゃうから、やっぱ、ほどほどに・・・、だねえー。まあ、和洋折衷みたいな感じでいいんじゃないのおー、と、思う。己を消したり点けたり、電球みたいにやってた方が、精神衛生にはいいんじゃないの？ おっ、明日は、師匠との一騎打ちっ！ ばっちし、「裕イサオ」じゃねえーといかんのじゃ！ 自己顕示君っ！ 翌日はへろへろになって好々爺だぜって！

平和な人ねえー、裕ちゃんって・・・。えっ、なんか言った？

## ジャズの巨人たち

---

2015.07.28 Tue

ジャズジャイアント。こちらパリでは、沖至師匠、アラン・シルバ、ケント・カーターとか、私が面識のある範囲でも何人かいる。そう、ジャズの歴史に足跡を刻んだ人たち。これは半端ではない。

しかし、私のようなチンピラミュージシャンに沖師匠は付き合ってくれる。佐藤真師匠も同じである。ありがたいことだ。まあ、多少はいいところもある、ということなんだろう。とはいえ、チンピラはチンピラにすぎない。自分を過大評価なんか私はしないよ。

でも、だ。二人の師匠連に教わったことを列記してみる。

「自分のスタイルを持つ」「スピード、パワー、エモーション」「確実なテクニック、でも相対するようなはったり、挑発」「スイングする」「歌う」「センチメントと暴力」「音楽に対して真面目」と諸々があるけれど、りゃ、「確実なテクニック」を除くと、この裕センセは、その他をカバーしているような気もするような、しないような、でも、する。

裕センセのピアノのモットーはね。

「歌わねば、歌わしてやろう、ピピヤノ」なのだ。このコンピュータみたいな音楽マシーンで歌ったるう——っ！

あたし馬鹿よねえー、お馬鹿さんよねえ——？

2015.07.29 Wed

昨晚(28日)は、ディナー、コンサートともに満員御礼。ジャズクラブ「バビロ」は賑わった。実に楽しい一夜だった。(佐藤)真師匠の料理、素晴らしく美味しかった。さすがである。いらしたお客様方も、皆、大満足。ジャズクラブで日本料理、なかなか粋である。

そして、チンピラミュージシャンの裕ちゃんと師匠、沖至との久しぶりのデュオ。会場に、フランス唯一のフリージャズのプロデューサー、ジュリアンが来ていた。「イサオ、もしね、差し支えなければさ、日本の童謡をフリーにやって欲しいんだけど・・・。たとえば、さくらさくらとかうさぎとか・・・」。

当初の予定では「無調性」でぎんぎらぎんと考えていたけれど、折角の美味しい日本料理の後である。「おっ、和風で通しちゃえ」と独断で決めてしまう。ジュリアンへ「OKえー」返事。沖師匠は、私になにをやるのが涼しい顔だから、打ち合わせ等は一切しない。

結果、ふむ、ユーチューブの方(今、編集中)をご覧くださいね。私としては、近年のベスト演奏になった。やっぱね、社会復帰して思うように音楽が出来なくなったこの足枷手枷が、アルキヘンデスの反比例そのもので、更なる音楽パワーアップの原動力になっていることは間違いないのである。よっ、裕ちゃん、そうこなくっちゃ！ さっき、沖師匠から「ありがとう、楽しかった」とメールまで頂いてしまった。深謝です。

あっ、忘れた。この記事タイトルなんだけれど、昨晚ね、私はずっと目を瞑ったまま演奏したのである。そう、耳人間と化していたわけ。

2015.07.31 Fri

ふむ、先日の師匠とのデュオを聴き返してみた。正直に書く。「自分で自分のことを凄い」と思った。

ジャズジャイアントの沖至師匠にお目に掛かって、しばしば共演して頂いて十七年。正直に書く。師匠の飴と鞭が、ようやくチンピラ裕ちゃんのどこか心奥に染み込んで来ている感触が、実際の演奏中からあった。で、聴き返してみた。「自分で自分のことを凄い」と思ったのだ。なんかねえー、なんか違うレベルに来ている感じね。上手いとか下手とかいうことを、なんとなく超えた感じがしている。チンピラブルース、バラードもここまで来ると「行ける」とも思ったわけ。どうであれ、イサオ節が充満している。明らかに、「自分のスタイル」があるから、そうになると、好き嫌いという判断しか他人は出来ない。りゃ、これは、凄いことですよ、マジで……。だってさ、自分のことをね、自信を持って、「あっそおー、あたしが嫌いでござんすか？ 一理ありやすねえー」とか、「普通に言える」のだよおん。この境地は凄いつ！ 「あたしのピアノ、へボ？ そうかもおーしれやせん。ただし、ピアノの蓋あー、開けんでおくんなまし……」とかいう台詞まで出ちまうのだった！

うーーん、裕ちゃんも成長したねえー。

追記として。

この裕ちゃんの「さくらさくら」、これはねえー、ちょっとジャズ史に残っちゃっても吝かではないと思うのだけれど……。もじもじ……。

更なる追記。

この記事、昨日、30日に書いてアップするの忘れてました。ユーチューブのサムネイルも、たまに起きるんだけど「編集中」とかで出てこない。その内、忘れた頃に、サムネイルが現れます。

2015.08.01 Sat

わっ、裕センセが音楽について書くのって、あんま、ないような気がする。

今回の沖師匠とのデュオで、ここ三年間ぐらいのピアノ上達目標は達成したと判断。っても、大したお話ではないから「次のステップ」を模索。うん、とうとう来ましたっ、函館っ！ ではなくて、私なりに「和音の解体」ちゅう作業を始めるのである。ほとんど、段々と学問の世界かしら？ 算数とか数学の世界に突入するのだ、わたしは・・・。

ところで、マルセル・デュシャンは私の師匠の一人だ。でも、別に「彼の人生を模倣して」生きている、生きて来たわけではない。でもね、この師匠は、三十代前半から六十ぐらいまで、基本的に作品を作っていない。なにをしていたかと言え、以前も書いたとおり、図書館に勤めたり、フランス語の先生をしたり・・・、で、もっとも時間を割いていたのがチェスである。

わたくし、裕センセも美術家としての最後の作品は三十代半ばぐらいだった。未完のままである。おっ、なんか似ていると言え、物凄く似ている。その後、今日までなにをしているのか？ ピアノである。

師匠のチェスと裕センセのピアノが、たぶん、どこかで繋がっていることは明白な気がするし、たまたまのたまたまのような気がするし、なんとなく似たような気質、共通項が、元々、あったような気がするし・・・、わかんないあ——い。

おっ、もう一人の師匠。将棋だっ！

どこかで、なにかが、繋がっている気がする。うん、ピアノの演奏は、チェスとか将棋に酷似している。ただ、こっちは、音が出るけど・・・。

2015.08.02 Sun

ふーむ、どういう風にかいたらいのかしらね？ 「お自慢話」みたいなことじゃないわけ。私には、そういうのは駄目なのだ。本質的なこと以外に興味がないからである。まあ、いいか、「そういう風」に読んでしまう方は、読み手の問題ということにする。

「小学校」 生徒会長であり、学校で一番ないし二番であった。身長は学校で二番であった。福島県の陸上競技、100mと走り高飛びが二位であった。うちの親父は、毎朝、運転手付きの黒いグロリア(今はない、プリンスグロリア)が迎えに来ていた。いわき市の常磐炭田の長屋街の高台の「お偉いさん地区」に住んでいたのだ。

「中学校」 越境入学というのをさせられた。進学校である高校に入るためだ。町の中学。レベルが違う。私は、一番から三十番ぐらいになった。そして、なに糞おーーとはお坊ちゃんだから、まったく思わなかった。「セ・ラ・ビ」感が、すでにあった。

「高校」 なんとか、受験はパスしたけれど、一年生、百番。卒業時、どん尻。私の右隣でいつも寝ていた松本武則は東京大学経済学部の教授である。東大組、医科歯科組が計百人。当時は、田舎の麻布高校だった。やばかった。考えたら、山下洋輔もパリ在住の舞踏家財津暁平も麻布高校出身である。

と、つまり、である。一見、エリートコースを歩んできた。でもね、上記の順位を見てみなさいっ！

人生とは、こういうことなのである。でね、私は、一番から三十番へ降格した時に、「セ・ラ・ビ」としか思わなかった、十二歳だよ。

おっとおーー、まあ、それは、それ。でね、「パリの日本人フリージャズピアニスト第一位」は、私なのである。倍率？ けっけけ、俺しかいねえー。一倍じゃんっ！

それで、いいのだよっ、お若いの。

## 私の記事の盗作は即刻止めて下さい

---

2015.08.02 Sun

あまりに多い。止めて下さい。法的な対応まで考えている。私は、「自分の人生で忙しい」。その一部が私のブログである。人の人生を摘み食い。法的な処置、および、損害賠償をお願い致します。金？ 違うよ。不謹慎である、お前らはっ！ 人の心の損害は、半端ではないことを忘れないで欲しい。そう、きちんと、私のブログのコメント欄へお詫びを下さい。よろしくなっ。いい加減にしてくれな。それだけである。「営利なきブロガー団」と、なんども言っている。理解してくれっ、お前ら。

<http://kuangaos.e-iwate.com/e67235.html>

これは、ほんの一部である。私の生まれた岩手県のサイトだ。しかも、震災復興？ しかも、盗作を止めてくれという記事を盗作している。ふざけるなっ！ ブログの管理者よ、名乗り出ろっ！ 今回は、さすがの私も許せんっ！ 覚悟してくれな。私の神経はずたずたである。きちんとしてもらいますよ。

岩手県 震災復興 こういうものが左側に 右側に私の盗作記事

この辛い気持ちは 忘れないで 本当に 私の心は 逆撫で 吐き気がする

安易な 盗作は 本当に 止めて欲しい 涙が止まらないまま書いている 忘れないで

## 珍しくカーとなった

---

2015.08.03 Mon

沖至師匠から、先日のコンサート動画を六回見たよというメールを頂いた。これは非常に珍しい。沖師匠は、自分のCDさえ聴かないのだ。過去は振り返らない人である。あまりに珍しいので、私も再度ヘッドホーンで聴いてみようとしてパソコンを叩いた。そしたら、なんだか色々と私の記事の転用ブログが出てくる。その一つは、昨晚も書いたけれど「転用盗用は止めてくれ」という記事の転用。あきれた。しかも、左側のレイアウト……。カーとなっていきなり記事を書いた。ロボット自動ブログであることは承知しているけれど、その管理者は人間だ。今回は、きちんと釈明というかお詫びを頂きたい。岩手県は私の出生地である。そして被災地の一つ。私自身が一切それに触れないようにしているのに……。不機嫌である。神経を逆撫でされた。管理責任は問わせて頂く。「あっ、またまた、ロボットがあー、あららあー」じゃ、すまんぜよ。分かるけれど……。ロボットにちゃんと教えろっ！ 馬鹿垂れっ！ 私の記事だけではない。諸々のブロガーさんの記事が出てくるし、しばしば、「私が拝読した記事」も出てくる。ロボットがあー、では、困る。そして、いや、すべてのブログ、ブロガーさんの記事転用盗作は認めない。けれど、一つお断りしたいことは、まず、私は実名で書いている。顔もばれている。「売れない」とはいえ芸能人だ。公に実存している人間の書いたものの転用盗作。いや、仮に匿名記事の転用盗作も当然にして認めないけれど……。でも、私の立ち位置も理解願いたい。「ピアノの方の転用盗作」は、あれれれっ、ロボットが？ なあーんて返事されたら、ターミネーターを送り込むのは間違いない。「私はピアノだ」と自分で言っている馬鹿者の音楽をそういうことにされたら、馬鹿丸出しになるからご注意ね。しかも、転用盗作しているのに、一番下に著作権表示が出てくるから、私も笑っているのか怒っているのか泣いているのか自分でも分からなくなる。著作権表示するなっの！ あっ、また、怒りが……。ああー、気分悪いってっ！ そう、場合によっては、管理者の名前等、そう、きちんと対応頂けないのであれば、記事に明記する所存。だって、こっちはね、実名だよ。お互い様だぜって！ 全然、嬉しくない、こんな記事書いても……。

## 引用スパムブログ

---

2015.08.04 Tue

私はコンピュータに非常に疎い。いわゆる旧世代に年齢的に属しているのだろう。それから、なんども書くけれど、私は売れないとはいえ、公の場で演奏活動をしているジャズピアニストである。そういう人間は、当然にして著作権については非常に神経質である。と、こういった要素があるから私の記事の無断転載ブログを見ると感情的になるし、怒りが込み上げて来る。これはいかんともしがたい。

一年前ぐらいにIPアドレスを辿り、ブログの運営会社に九つのブログを閉鎖して頂いた。非常に丁寧で迅速な対応であった。私もそれ以上大事にすることは止めた。そして、そういったブログを「引用スパムブログ」と呼ぶらしい。

自動生成ツールによって作成される自動ブログ。もちろん、そこに私個人への悪意はどこにもない。人間がいない。

少し考えてみたら、実に素朴な疑問が湧いて来る。そのブログを運営しているのはポータルサイトシステム構築をする会社である。怪しげな会社ではない。私の疑問は、「引用スパムブログ」を運営していることは、当然にして、その会社も把握している。そして、「引用スパムブログ」にもコピーライト表示があるから、当然にして著作権法の存在も、その会社は理解している。

会社という組織が「それを理解した上で」運営している。これはどういうことなのだろう？ 理解に苦しむ。

たとえば、一年前のように「引用スパムブログ」の閉鎖のお願いもできる。一つ私にとって大きなポイントは「自分の記事」だけの削除。これは理不尽である。その他大勢の被害に合われているブロガーさんはどうなるのだ？ 要は「私の記事の無断転載」が問題なのではないということ。私でもあなたでも、どちらでも構わない。「無断転載」が不愉快なのである。

そして、以前のような閉鎖のお願いなのだけれど、なんか、先記の疑問が解けない。根本的な解決ではないという結論に達してしまう。

日本のブログの四割がスパムブログであるとインターネットに出てくる。そうになると、それを運営している側の意識が変わらない限り、一つ二つのブログの閉鎖ではなんの解決にもならない。

「スパム」であること、「著作権法の存在」、それを理解した上での運営。そもそも、ここが私には理解できないでいる。

まあ、世界がカフカの世界を追い越そうとしているから、こうなってくると、個人の感情とかはどうなってしまうのだろう。

売れないジャズピアニスト裕イサオなんぞ、世界の木っ端？ いや、私もあなたも・・・、皆、不条理な世界の星屑？

とは、私は思わない。スパムが自動生成であるにしても運営しているのは人間である。私は、その方とお話をさせて頂きたい。個人でも自動生成でも、どこかに文責があるはずである。後者は管理会社の管理責任が発生している。しかも、法に抵触していると私個人は判断しているから、きちんとお話をさせて頂きたい。

いつの間にか、我々自身が迷宮を作り出して、いつの間にか「個」という概念がなくなり出口が分からなくなる。カフカは彼個人の超絶的な想像力でその世界を描き出した。カフカの作り出した迷宮とは質が違うのである。どんな時代でも「個」が消滅に向かうベクトルは、私は容認できないのである。だからこそピアノ、下手糞なピアノを弾き続けているのだ。

## ブログ？

---

2015.08.05 Wed

「ブログ」って、皆さんにとってなんなのでしょうか？ 諸々の意見、見解があって当然である。なァー——んて偉そうなんだけれど、なんか分からなくなってしまった。でね、回答を下さいとか、そういうことではないのだけれど・・・、以下、「皆さん？」変な言い方だな。へ、質問を試みたいのです。神経に触れることも考えられるけれど、私の本意ではない。まあ、真面目人間とのお付き合いは鬱陶しい。そう、私は真面目人間なのだ。真面目に不謹慎だし、真面目にわいせつだし、真面目に不真面目・・・。やっかいなのである。

「質問1」 私にはハンドル名での執筆と匿名の堺が分からない

もちろん、私のように実名で書く必要はない。文責がどこにあるのか？ それだけです。たとえば、私のブログが炎上しても、文責はすべて私にある。逃げ道はない。という立ち位置との違いが分からなくなった。匿名の中傷コメント。たとえば、ですが、これはなんなのだろう。人を非難、中傷するという責任が「匿名」？ 私には理解不能である。物を書くということ、そんなに無責任なののでしょうか？

「質問2」 著作権という法律をブロガーさんたちはどのように考えていらっしゃいますか？

私のように実名でブログを書いている人間とすれば、「記事の無断転載」。あっはははははあ——、とはならない。私という存在そのものに抵触する。当然、カッとなる。「ふざけるなっ、人の人生をなんだと思っているのだっ！」となる。この反応って変なんではしょうか？ 私が「お」芸術家だからなの？ そんなことは絶対にない。個人は個人であるから、私の見解では、「私と同じ反応になる」はずである。そうならない人がいらっしゃるなら、あなたにとって「ブログ」とか「公の場に文章を書く」とはどういうことなのでしょう？

なんか重苦しい記事になってしまった。でも、私がピアノ弾きだから、ことさら、カッかしている。そういうことではないと思う。

著作権とはその個人の人權のことであるから、もし、えっ、あっそお——などと、今更気付いているようではねえー、ブログを書くという営為の本質を、まず、認識してから始めた方がいいと思う。実名でも、ハンドル名でも、匿名でも「他人へ向かって書く」、他人を舐めない方がいいですよ。物を書く本質を理解しないでブログなんぞ、本末転倒である。

追記

この記事のアップ、躊躇した。誤解を受ける感じがした。なんか「私」「私の立ち位置」が高尚なものであるといった風を読まれると苦しい。でも、アップすることにした。私の存じているブロガーさんたちには分かって頂けると判断したからである。うん、真面目人間ではあるのだけれど・・・、ちょっと違うな、私は結構ヒューマンだし熱いところがある。理不尽なことを飲み込めない愚鈍で不器用で馬鹿なのだ。へっ、こういうのを馬鹿力というのである。

## ショートショート「迅速な対応」

---

2015.08.06 Thu

「裕イサオ様、弊社へお問い合わせを頂きました記事無断転載ブログに関しまして調査を致しました。誠に申し訳ございません自動生成ブログシステムに裕様の複数の記事が検索され、結果、無断転載となってしまいました。検索キーワードは、愚、馬鹿、はらへりでございました。ロボットに他意はございませんが、弊社管理責任を問われても致し方ない所存でございます。改めてお詫び申し上げる次第です。しかも、裕様の心証を害してしまい、ここ近々の裕様のブログの内容文体が柄にもなく重々しくなって居られるご様子。はらへり馬鹿ブロ愚をお待ちかねのご愛読者様方へも、結果、ご迷惑をお掛け致して居ります。何卒、普段の内容文体へ早期のご復帰を勝手ながらお願い申し上げる次第でございます。これ以上、裕様のご執筆活動に支障を来たすわけにも参りませんので、弊社内にて協議を致し、スタッフ一同、徹夜にてご対応させて頂きました。結果、無断転載ブログの原本でございますところのピアノは私だ3、こちらの方を全面削除させて頂きました。今後は、弊社のブログのみとなり、結果、記事の無断転載という不合法的な営利は数学上なくなる計算となります。以上、貴ブログの益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、弊社のお詫びに代えさせて頂きたく存じます」

「ご担当者様へ。迅速なるご対応、切に御礼申し上げます。ありがとうございました。これで、すっきり致しました。深謝致します」裕イサオ

---

と、くだらないことを考えた。ところで、昨日の記事。やはり、先ほどまで、削除しようか考えていた。なんか、何様なの？ 偉そうにっ！ と読まれることを危惧していた。誤解の発端を恐れていた。それから、下書き記事「文豪裕伊佐夫」、こちらもアップを躊躇。結果、お笑いショートショートを書いてしまった。そして、自分の記事を開いて見た。ありがたいことに拍手を頂き、インポイントまで頂戴していた。正直、ほっとするとともに励まされた。やはり、分かってくださる方々がいらっしゃる。ありがたいことです。なんか、ひとりでいきり立っているような不安が脳内を数日過ぎていたから、本当に嬉しかったし、心より御礼申し上げます。

## 八月の静かな一日

---

2015.08.07 Fri

八月。こちらフランスはバカンスの真っ只中。私の住む人口三万人の小さな町もシーーーンとしている。それでなくても非常に静かなところなのだけれど、八月に入ると人気がなくなる。皆さん、諸々のところへお出掛けの模様。私の家族も蜂の子散らしたように、皆、旅行。出不精のおやじである私だけシーーーンとした町の中でポツンとしている。とはいえ来週はドルドーニュ地方の東の方に行くから、今週はぼーとしていたい。

早起きする。サロンのペンキ塗り。元美術家だから、超念入り。ジャズの専用ラジオ局を聴きながら。黙々と手は動いているのだけれど、頭の中は聴こえてくる曲の分析をしている。ゆっくりと昼食。赤ワインを一杯。子牛のレバー、パセリ風味を作る。それから試しにきゅうりのキムチ。こちらはまあまあである。

コーヒーを飲みながら、携帯で玉割りゲーム。なんどやっても三ツ星にならず嵌る。そりゃそうだ、レベル900とかとんでもなく難しいやつなのである。でも、一時間ぐらいで制覇した。煙草を買いに行く。ついでに冷凍食品店へ。いわしの開き。おっ、蒲焼みたいにするのだ。サーモン、握り寿司にする。鴨のコンフィ。今晚食べるのである。

それからブログを書いている。書き終わったらピアノの練習。夕飯の準備・・・、夜はユーチューブで浅野温子さんと三上博史さん主演のサスペンス「共犯者」を見る。平和だねえー、ったく。

新しい仕事は夏と冬が閑散期だからいい感じになる。嫌でも夏休みと冬休み。まあ、九月から十二月中旬ぐらいまでへろへろ状態になるから、今のうちに充電。

2015.08.08 Sat

サロンのペンキ塗りをしながら、ジャズ専用ラジオ局をずっと聴いていた。その時、何度も思い出した私の師匠、トランペッター沖至の言葉がある。お会いした頃であるから、今から十七年前。その頃、沖師匠は「世界的即興ユニット」であるリヨンの「アルフィー」と共演していた。並行して、私とも共演してくれていた。「アルフィー」のコンサートを聴きについてライブハウスでビールを飲みながら、師匠とお話。たぶん、私の渋い顔を察したはずである。「なァー、イサオ。なんかさ、上手過ぎて、完璧過ぎてうんざりしない？ 聴いてる方は？」とおっしゃった。ジャズジャイアントの一言としては？だった。でも、少しずつ分かってきた。沖至がジャズジャイアントであることを。たぶん、私への励まし？とも詮索してみた。十七年後の現在は、そうではなかったと思う。私を、だけではなくて、私のようなものを心底評価してくれていたのである。なにか別のレベルの評価である。

ジャズの専用局をずっと聴いていて、沖師匠の言葉が身に染みた。ジャズの本質はなんなのか？  
いや、ジャズじゃなくて、人間の本質なのであろう。音にすべてが出る。

不思議である。私が敬愛していたコルトレーン。なんか音が重苦しい。つまり、押し付けがましい。あまり、いいと感じない。そして、そんなには上手い人ではない。不器用だ。エリック・ドルフィーを聴くと、彼の天才振りがよく分かる。コルトレーンが鬱陶しい野郎と思っていたような気がする。でも、ドルフィーの音は、音楽馬鹿の音で押し付けがましい感じはゼロ。ある意味、阿部薫も、なぜかそういう音に聴こえる。とんでもない自己中なんだけれど、彼は、ほとんど三途の川の向こうに生きている頃から行っている音である。これは、驚異。

そして、ジャズの帝王であるマイルス・デイビス。それから、彼のユニットのピアノ、ビル・エバンス、ハービー・ハンコック。

いやァーァー、聴き手のために演奏している。この境地はプロの極致である。

まあ、裕イサオは絶対に駄目だろう、この境地は・・・。

コピーライト 裕イサオ 2015

わっ、本文に入れちゃったよ、コピーライトっ！

2015.08.10 Mon

明日から私は夏休み。ぴったり一週間、ロット県の方へ。旧交を温めに。私が、フランスに来た頃から知っている友人たちの一人のお家へ。皆、年取った。三十年以上の月日が流れているのだ。インターネットもブログも、すべてお休み。ロット県の自然の中で、飲んで食べて山登って・・・。

ところで、夏休み前になにを書こうか、さっき、ピアノを弾きながら考えていた。ビル・エバンスのことを書こうかしら？ と一瞬閃いた。

「俺にはオスカー(ピーターソン)のようなテクはないから・・・」という一言が脳内を木霊した。このジャズピアノの歴史を変えた人物の一言である。そういえば、私の師匠の沖至も「俺より上手い奴、ごまんという」となんどか言っていた。

じゃ、「上手い」ってなんなの？ となる。

音楽は人間論と同じであるから、「上手い人」「下手な人」ってなんなのだろう？ その人生という意味で・・・。

ビル・エバンス ジャズのコードワーク、および、具体的には「ピアノの鍵盤の押さえ方」を変えた人だ。

マイルス・デイビスのユニット時代、黒人から逆差別を受けた人だ。バンドマスターのマイルスの名言、「俺は、いい音を出す奴は何色でも構わん。緑色でも雇うよ」。しかし、ビルは耐え切れなかった。そう、彼は、泥臭いニューオリンズ音＝ジャズの公式を変えた。もっともっと洗練された音に変えた。クラシック音楽、つまり、白人の音との融和を図った。この功績は絶大である。

マイルスとビル、ジャズの巨人たちは、その根底から巨人、自由という名の。と決め台詞を言いたくなるけれど、確かに、彼らは上手いのかとなると、所謂、ハイテクではないローテクの方だ。これ見よがし、はったり、挑発、こういう音がまるっきりない。音楽家というべきなのかも知れない。最近になって、久しぶりにジャズを、というか、私は、本も読まないし、テレビも見ないし、音楽も聴かないのであるけれど、ジャズの良さを再認識している。えっ、ジャズのピアノ弾きなのに？ 不思議でしょ？

じゃ、アビアントっ！ 皆さん、ご自愛下さいねえー。拝読は、携帯でするから、ばんばん書い

てねえー。

2015.08.18 Tue

「ロカマドゥール」の名前をご存知の方、日本での知名度は私には分からない。インターネットで調べてみたら、フランスの最も訪問者の多い場所第五位となっていた。因みに、一位、モンサンミッシェル。二位、カルカソンヌ。三位、エッフェル塔。四位、ベルサイユ宮殿。奇観、巡礼地という意味では、モンサンミッシェルについて二位ということになる。年間の訪問者数がなんと百五十万人。物凄い数である。今では、第一級の「観光地」となっているけれど、奇観＝その難所での建設、巡礼地＝巡礼者へにとって大変に過酷な場所・・・、こういったバックグラウンドを考えると、その風景も心奥へ迫ってくる。私はエレベーターを使わずに徒歩で訪ねてきた。重い感慨が込み上げて来た。

ドルドーニュ地方、ロット地方、旧石器時代から我々の先祖が暮らして来た土地である。二百万年前だ。私の推測では、温暖な気候、川の幸、山の幸、それから無数の洞窟。こういった諸々が当時の暮らしには適していたのだろう。ロカマドゥールの巨石、洞窟も旧石器時代の人々の暮らしの後が残っている。

この地方へ出掛ける度に、私は遠い母国の風景を思い出す。水田と茶畑とみかんの木があれば、なんか、そのまま、日本の風景。私の本籍地の風景と重なる。なぜか、とても懐かしいのである。

ロカマドゥールの百五十メートルの岩山の中腹にサン・ソヴール教会。この中に「奇跡の聖母」と呼ばれる黒い聖母像が祭られている。いくつかの旅行ブログを拝読させて頂いたのだけれども、複数の方々が「広隆寺の弥勒菩薩を思い出した」と書かれている。私もまったく同感なのである。信仰、巡礼、ロカマドゥールへのそれは大変な苦行であったはずである。

巨大な岩山をゆっくりと登りながら、私は私の内奥の巡礼地、ジャズ、ピアノのことも同時に思っていた。エンドレスの苦行なのかな、とも、ほんの少しだけ考えた。

モンサンミッシェルは海上のピラミッドと呼ばれる。ロカマドゥールは秘境のピラミッドであろう。

2015.08.19 Wed

今回、私が一週間過ごしたロット県、ドルドーニュ県は、クロマニヨン人の人類化石が発掘された場所である。今から、四万年前ぐらいの「現代人の祖先」とされている。

もちろん、私は専門家ではないから、なんとなく、彼らの生活を幻想してみる。

たぶん、野生動物、山の幸、川の幸、住まいである洞窟。衣食住の基本があったのであろう。衣の方は、この辺りは、岩山が豊富にあるから、石槍、石のナイフの製造に難儀しなかったと思う。最終、獣の皮という素材があったはずだ。

私たちの感覚。彼らは、今から四百世紀前に生きていたわけだ。

うーーん、私たちは大変に進化したのは間違いない。そして、とてつもなく退化したんだろう。

ここで、物書きであれば、なんらかの決め台詞で文章を結ぶと思うけれど、私には進化したのか退化したのかどっちがいいのかなんなのか・・・

分かんないああああああああああああああああああああああああああああああああい、のである。ピアノはあったの？ 洞窟に？ えっ、裕センセ、お氣を確かに。えっ、なかったの？ とはいえ、絶対に絶対に確信できる。ラスコーの洞窟の絵からも分かる。絶対に、ミュージシャンはいた。と勝手に結論するのだ。

2015.08.20 Thu

八月二十三日、日曜日から仕事初め。同時に繁忙期に突入する。その前に、ピアノの練習メニューをどうするのか、少し頭を悩ませている。私自身が作ったかなり複雑なジャズピアノメソッドがあるのだけれど、ここ三年間の猛練習で、かなり消化した。その「次のステップ」を模索しているのである。

ところで、たぶん、皆さんの脳内に大きな？ 「どうして既成の教則本を使わないのだ」となる。以下、実話なのだけれど、その説明として書いてみる。

たまに、日本に帰国する。七つ下の弟の所へ遊びに行く。弟は兄貴の影響でジャズ狂である。たぶん、私以上に。自分でもトランペットを演奏する。二年前の帰国時に弟が行き付けのジャズクラブに兄貴が来るんだけれど、その辺り空いてない？ と問い合わせてくれた。予定が詰まっているということで、兄貴のピアノソロはお流れ。居酒屋で酒を飲んだ後、兄貴、その予定が詰まっているって言うているけれどさ、なにやってんのか覗きに行こうよ、となった。

二人で入る。クラブ内はかなり込んでいる。ステージの見えない入り口近くのカウンターに座る。ピアノソロの演奏。十分ぐらい聴いていた弟の眉間に皺。私は、音で演奏者は女性で楽譜を見ながら弾いていることはすぐに分かった。血の気の多い弟・・・。

「ねえ、マスターいる？ あのさぁー、予定が詰まっているってこれのことなの？ 俺の左側に本物のジャズメンが座っているのに、これなわけ？ ねえ、マスター呼んでくれる・・・」目が据わっている。ジャズファンは熱いのである。私は、当然にして弟の気質を知っているから、「おい、お前、絡むなよ。いいじゃないか、彼女なりに一生懸命弾いているよ。和音、綺麗だし・・・」「兄貴、そりゃ、譜面通りだから綺麗は綺麗だけれどさ、芋だ。金貰ってんだから、芋は困る。兄貴が弾けよっ！」「おい、同業者がそんなこと出来ないよ。彼女の立場も考えてやれよ」「兄貴よ、本物のジャズがなにか教えてやれよ、あいつにっ！」「おいっ、彼女のプライド、面子、丸潰れなんかに出来ないよって！ 同業者の仁義だよ」。

一部が終わる。拍手。私も、お義理拍手。やはり、演奏者の心理はこちらも痛いほど分かるから拍手。弟、超不機嫌。カウンターの奥に演奏者である女性が楽譜を抱えて戻ってくる。取り巻きの方々の賞賛。私の音判断はずばりであった。

「ありゃ、兄貴、綺麗な人だねえー、ピアニスト」

「うん、綺麗だね」

「綺麗だから許しちゃうかな」

「うん、そうしてやってくれ」

「二部は、兄貴がやれよ」

「止めとくよ、羨びたオヤジが出れねえーよ、ファンに囲まれてるんだよ、彼女な。

いいじゃん」

「うん、そうだね」

ジャズの基本は、メロディーのフェイク、スイング、シンコペーション、複雑なブルース音のさり気ない挿入、装飾音、はったり、スピードとなるのだけれど、そもそも、フリージャズには譜面がない。元のメロディーもない。そうなる、もう、ジャズのエッセンス剥き出しとなるわけだ。私は、比較的、フリージャズメンとするとスタンダードとか、日本の童謡を弾く方である。なんか、私の内奥から込み上げる曲がいくつかある。取り立てて、スタンダードを弾きたい気持ちはないのだけれど、このエモーションとメロディーが合体してしまう曲は、なんとなく弾いてしまう。最近「うさぎ うさぎ」「象さん」を良くコンサートで弾く。

あれ？ 説明になったのかしら？

追記 なんか私が凄いミュージシャンだと言いたいようにも読める。そうではなくて、ジャズにもいろんな種類があって構わない。日本のピアノバーとかラウンジでの演奏は、上記のような演奏が非常に多い。それはそれで、一つのスタイル。あっ、そうだな、私が言いたいのは、ジャズっぽい演奏と、ジャズは違うということなのかな？ うん、そうなんだろうけれど、どちらでも構わないし、聴き手からすれば前者の方が聴き易い。どちらも音楽。そうかあー、ジャズという看板を出してしまうと、熱いジャズファンたちが納得する音を出さんとまずいことになるわけだな。ジャジーピアノとかにすれば問題は起きないはずなんだけれど……。やはり、演歌とか民謡、楽譜を捲りながらやる人はいないわなあー、津軽三味線、元々、楽譜はない。わっ、なにを言いたいのか自分で分からなくなっちゃったよ。第一、ジャズに固執する必然もないんだからなあー。けれど、私の場合は、看板出しているからジャズじゃないとまずいわな。

2015.08.21 Fri

順番に行くと、詩を書いていた時期が十年ぐらい。重複する年月も入れると、そんな感じかな。

現代美術家であった時期が、どんぶりで十五年ぐらい。小説は、たぶん、十三年ぐらい。ピアノは再開の時期も入れると二十年を超えた。まあ、以前にも書いたけれど、十四歳の時に中学校の先生に「将来、なにになりたいの?」、この時の答えを、初志貫徹。立派だねえー? 結果的にはだけれど。どれも、パツとしなかった。いや、少しはしたけれど、大した話ではない。私自身、才能がなかったと、きっぱりと判断している。余計な分析はいらないし、パツとした人々を斜めから見たりはしない。パツとする要素がある人は、それだけで、大変な方だと思う。そう簡単ではないからである。

ところで、どうして「ジャズ」なのか? 私は、別にジャズに固執しているわけではない。ただ、看板にそう書いてあるから、しかも、入場料を頂く。みっともないことはできない。でも、そもそも、どうして、この音楽に惹かれたのか?

お断りするけれど、私は無宗教、政治色ゼロである。ジャズ狂でもない。

私が思春期の頃から、ずっと思っていたことは、世界がどんどん西洋化、言い換えると白人化、言い換えると欧米化して行く。そして、そうなった。そうになると、民族的なヒエラルキーができる。白人が頂点とか・・・、ヨーロッパの古典音楽が音楽であるとか・・・。私が幼少期の頃から、そういう風潮があったはずだ。だから、私はピアノ教室に通ってバイエルを覚えた。なんか違うと、ずっと思っていた。常磐炭田の炭住長屋を通り抜けて、バイエル抱えて、ピアノ教室? なんか「変」だと、ずっと思っていた。「足を洗った男たち」が家庭を持った、その町で、西洋の古典音楽。どうしても、この構図はおかしいと思った。私は、演歌、とりわけ、夏祭りの民謡にソウルを感じていた。音楽って、学問じゃないよなって、どうしても思ってしまう。いや、音楽という学問でも構わない。諸々の現代音楽を聴いた。私は、西洋の古典音楽より、むしろ「こちら」に惹かれた。西洋世界自体が行き詰っている感じが非常にしたし、武満徹の楽曲に大変な感銘を受けたし、ジョン・ケージの真剣さに打たれた。

たぶん、私の中に、どこかアンチ・西洋みたいなものがあるのだろう。第一、私は日本人である。演歌、民謡、津軽三味線に心奥が揺れる。たぶん、この接点がアフリカ、黒人、ヒエラルキーの下部に位置することになる人々のソウルから生まれたジャズに私が共鳴したのだと思う。

そして、そのスタンスは、チャンジーになった現在も変わらない。まあ、偏屈といえそうだけれど・・・。



2015.08.22 Sat

さっき、息子、娘、友達、彼氏、彼女、諸々ご一行が帰っていった。突然、カミサンとシーンとなる。

私は、今週、浅野温子さん主演「職員室」に嵌っている。温子さん、昔からファンだったし、私と同世代だとしても綺麗だし、初めて知ったけれど、全国の神社の境内で古事記の朗読をなさっている。すばらしい。共演したいとも思うけれど、大スターが、うな、売れないジャズピアニストとの共演？ 所属事務所が許さん。

どうして、私、私達の子供、こんなにすくすく育ったのかしら？ まあ、フランス人のカミサンが、フランスの教育をしてくれた。親父の私は、やばい時以外にはなにも言わない。以上なのだ。進路だどうのこうの、一切、無言。なのだ。お前らの人生、以上である。

息子も娘も、友達、彼氏、彼女を連れて、親父のコンサートに良く来てくれる。親父のピアノを聴きにちゅーーより、まあ、楽しいのだろう。でも、来てくれるのはありがたい。息子の友人連の一人は、私とコラボしたいとまで言っている。

で、彼らのご両親も、当然にして同世代だ。どうも、私、カミサンも含めて、他のご両親と、どうもトナーリティーが違うらしい。私は、ジャズメンだから、彼らになんちゃらかんちゃら言わない。お前らの人生。以上なのだ。

一緒に酒飲んで騒いで笑って以上おしまい、という、親父は、あんま、いないらしい。これが良しとは全然思わないけれど、まあ、芸能親父、現役のジャズメンだからねえー。ジャズメンほど、私生活がいい加減な人はいないのである。私は、相当に、これでも、まともな方だと「自分では」思っているわけね。

2015.08.23 Sun

今日は、8月22日2015年。この記事は、予約投稿で23日にアップの予定。アップされる頃、私は仕事。明日から、私の新しい仕事の繁忙期に入る。数ヶ月、相当、忙しくなる。すでに、二週間、スケジュールがびっしり。この合間を縫ってコンサートもやらねばならんからシビア。気持ち的にはではなく、体力的にかなりハード。

今年の夏は、昨年と比べると夏らしい夏。まだ、8月だけれど、すでに秋の気配が忍び寄っている。北ヨーロッパの夏は短いのである。しかし、6月7月と猛暑だったから、やはり、暑いねえ——という感じを満喫したせいか、ふむ、なかなか夏らしかったあー、となる。アーヘンにも行ったしロット県にも行ったし・・・、夏らしい夏の夏休みを満喫。繁忙期と閑散期があるって、なかなかいい感じだ。でもなあー、秋はジャズメンにとっても繁忙期だから、かち合っているから痺れる。

と、ブログの更新は切れ切れになってしまう。

ところで、昨日、ピアノの「次のステップ」を探っていたら、急に、私自身が作ったジャズピアノメソッドのすべてを習得したわけではないことに気が付いた。あまり専門的なことは書かないけれど、ハーモニーに色彩を与えるノン・ファンクショナル・コードとかパッシング・コード。この辺りが残っていた。この習得に、またまた、相当時間が掛かる。

色々なメソッドがあるけれど、私は独学自己流。時々、譜面通り弾いて見る。自分なりにアレンジしてしまう。左手ルートレス・フォーボイシングというビル・エバンスが開発したコンパクトな指使いでやってみる。右手でメロディーを被せる。私は「強力な左手のボイシング」に興味があるし、体の左右のバランスがいいから、ブロック・コードの早業にかなりの練習時間を割いている。と色々あるのだけれど、この「自己流」、いいのか悪いのか全然分からないのだけれど、でも、考えてみたらジャズのジャイアントたち、ある意味、皆、自己流だったとも言える。ビル・エバンスは自分でコードワークを作っちゃったし、マイルスはモード奏法を開発したし、阿部薫は、すべてのコード進行を破壊してしまったし・・・。もしかすると、私のやり方は裏返しに正統派のようにも思える。自分では良く分からないけれどね。

では、皆さん、お元気で。更新は切れ切れでも、拝読はしていますよ。

## 大きな丸い時計

---

2015.08.24 Mon

午前中、そう、これを書いているのは8月22日。私の夏休み最後の日なのだ。でね、午前中にブログ更新は切れ切れになりまあ——すっ、皆さん、お元気でえ——、と書いたのに、もう、書き始めている。結局、予約投稿で毎日更新なあ——んてなところが、裕センセの馬鹿筆力なのだ。四六時中、ピアノと料理となんか書くぞっと考えているから、アホのように書きたいことが出てくるし、アホのように料理好きだし、超度級アホでピアノから離れない。

その夏休み最後の日、土曜日なわけね。お天気もいいし、なんとなく、カミサンと車で三十分ぐらいのところにある小さな考古学博物館に行ってきた。なんとなく、ふらあーとここに行く。村自体が綺麗なせいもあるし、その博物館、いつ行っても私とカミサンしかいない。毎回、貸切。こういう感じでね、古代ってなんだったの？ と、しみじみとして帰ってくる。道すがら、カミサンがテレビで現代哲学者の討論会というのを昨晚見たらしく、この超絶難解な会話に仰け反ったことを延々と話していた。言葉の数学なのだ。哲学も数学も、ぼわあーんとした日常生活には必要ないっ！ と思いがちなものだけれど、サイエンスも哲学も数学も現代美術も現代音楽も・・・、こういう先端的な人々が我々の現在を作ってきたし、数学なしでコンビニで買い物できないし、サイエンスなしに携帯電話もないし、現代音楽なしにフリージャズも存在していない。と、知らぬ間に、我々の脳を侵食してくるから、「無用の長物」のような感じが一瞬するけれど、ド間違いなのだ。以前にも書いたけれど「遠近法」はダ・ビンチが発明した。「風景が我々にはそのように見えるようになった」のである。侵食されているわけね。

と、諸々のことを考えながら、小さな貸切状態の古代博物館。実に面白いのである。クロマニヨン人、我々の祖先が出現して四万年・・・。おっおっおっ、フリージャズにブログかよお——、わっ！ などと思う。

ところで、午前中にブログを書く前に、台所の丸時計を取り替えた。変な言い方でしょ？ 時計は、本来、丸いのである。しかし、デジタル化からいろんな形になった。私は、デジタル時計、駄目なのである。逆算ができなくなる。丸くないと時間感覚がおかしくなる。それで、直系二十センチのものから三十センチの銀色の時計に変えた。なんかね、一日が長くなった感じがするし、四万年前という感覚も、ほんの少し理解し易くなった気がするわけ。

## Abdelhai BENNANI

---

2015.08.28 Fri

「Abdelhai BENNANI」、彼の名前の正確な読み方が今以て分からない。モロッコ出身のフリージャズテナーサクソ奏者であり、バイオリジストでもある。

以前にも書いたけれど、パリのフリージャズシーンを背負ってきたジャズジャイアントの二人。アラン・シルバと我師匠沖至がいる。アブドゥーはアラン組の若頭。沖組のそれは、私のユニットに参加してくれているドラムス佐藤真。そして、私は、沖組のチンピラみたいな感じである。「組」と書くと誤解を受ける。我々は仲良しだしメンバーがクロスオーバーしている。

アブドゥーとは、「タンポン(判子)」というライブハウスがある頃、幾度か共演させて頂いた。私のコンサートへも彼は足を運んでくれた。私とほとんど、同時期にリヨンからパリに転居した沖師匠が私に紹介してくれた。ジャズのエッセンスを知っている数少ないサクソ奏者として。真師匠も、アラン・シルバを含めたアブドゥーとの素晴らしいセッションが幾つかCD化されている。

アブドゥーのサクソ。沖師匠が教えてくれた。倍音？ 増音？ なんか忘れてしまった。彼は、一切メロディーを吹かない。この徹底振りは半端ではなかった。フリージャズ以外はやらない。この徹底振りには頭が下がる。一切のコケットリーを排除した音しか出さないのである。人間論という意味で、これは凄まじい。私には真似ができない。しかし、気難しさも半端ではなかった。酒の飲み過ぎでステージで倒れる。ぺちゃぺちゃやっている客と喧嘩する。果ては、サクソを投げ付ける。難しい人であった。それぐらい音楽に真剣だったということだ。

8月26日2015年。享年六十五歳。彼はペラシェーズ墓地にて永眠した。

追悼のスピーチが続く。最後にアラン・シルバが英語で話始める。最後に泣き出してしまう。「アイ・ミス・ユー」と。アメリカ人のサクソと沖師匠が短い演奏。テナーサクソとトランペットのデュオがこれほど美しいものなのかと皆絶句したはずである。ミュージシャンとミュージシャンの間には「音」しかないのだ。こんな美しい演奏は聴いたことがない。

超絶的に美しい演奏をした沖師匠とペラシェーズのチャペルの前で煙草を吸ったけれど、我師匠は淡々としていた。

「まあ、少しずつ欠けて行くよな」。

2015.08.31 Mon

定期的に村長さんからアンケートが送られてくる。私は律儀だし、村にお世話になっていると思うから必ず回答する。

アンケートの回答を送信してから、あっ、ひとつだけ要望事項があったと思い、別枠でそれを送信した。要望事項と言っても村のシステムもあるし、膨大な数のブログ。まず、私の要望へのご回答、ご返信の必要はないことを明記して、もし、システム上、改善の余地があるのであればご一考お願い申し上げるという主旨だった。もちろん、私は返信が来るとは思っていなかった。

仕事の合間の待ち時間に携帯でメールを確認したら、村長さんから実に丁寧に真摯なご返信が届いていた。いやあー、驚いた。

膨大な数のブログ、ブロガーさんに場所を提供して下さっている。それだけでも十分だと私は思うのに、その個々の問い合わせへの丁寧なご対応。脱帽です。

私の記事の某転用ブログサイトの運営者へ二度メール。そのブログのコメント欄へも警告を入れたのに、まったくの無回答。そう、つまり、サイトの後ろに「人の気配」がまったく感じられない。システムとか自動送信とか、要はコンピュータシステム任せ。

まあ、膨大な情報処理をしているのだから、もちろん、理解できる。しかし、である。日本ブログ村村長さんのこのご対応。しかも、自動メールではない。私の要望事項へのご回答である。このサイトの後ろの「人の気配」。これは素晴らしいっ！

村長さん、改めて深謝です。スタッフの皆さん、ご無理のないように！ ご自愛下さいね。ブラボーの一言です。今後ともよろしくお願い致します。アンケートの答えと同じですが、私は貴サイトに大変満足して居ります。上記の某サイトも貴サイトを見習って欲しいですね。ロボット君、システムに丸投げ。なんの責任感も感じられない。そう、インターネットから人間が消えてし

まったら本末転倒。近未来SFになっちゃいますね。その内、ロボット君とロボット君が自動的に喧嘩始めたりして？ やだやだ、そんなの。あっ、馬鹿ネタを思い付いた。ロボット君任せより、もっと人間味のある感じにすると・・・。たとえばね、ブロガーさんがお互いの弁護士を通してコメントのやり取り？ 「今回頂いたコメントに対しては、私の弁護士を通してご回答申し上げます」なあーんて。こっちはこっちで、やだねえー。「今回の裕イサオ君のコンサートには多数の弁護士が同席して居ります。写真、録音等、十分にその辺りをご理解頂いた上にて正当なる手段、法的処置の下に行われますようお願い申し上げます次第でございます。尚、シンコペーシ

ヨンの模倣等、著作権法に抵触致す恐れが多分でございます。この辺りも十二分にご理解頂いた上で、裕イサオ君のピアノをお楽しみ頂けました幸甚でございます」。

興醒めえ————っ！ ジャズは人間のものだけいってっ！

## ジャズピアノレッスン

---

2015.09.01 Tue

新規に私のブログにご訪問頂いているブロガーさんの中に、ジャズピアノのレッスンをなさっている方がいらした。コメントを入れようとしたら、その欄がない。すいません、私は訪問履歴を残さないように設定しています。でも、拝読しましたよ。毎々、お付き合い頂いている方々、新規のご訪問、改めて深謝致します。じえんじえん拡散しない地味いなブログ？ なのにね。わっははあー、いや、自分でたまあーに読み返してみて、私のブログの高尚振りに一人ほくそ笑んで居る。世間の人気なんぞっ、な。

あれ？ そう、ジャズピアノの習得方法。ふむ、考えたら、私のところへも「イサオさあーん、ピアノ教えてえー」という娘どもが来る。大体が音大の学生で、クラシックじゃなくてジャズしたい、ちゅー感じなわけね。

でね、好々爺目の中に、ちらっと好色目、これは俺だってある。教師？ なんかエッチな感じ。あれ？

でね、私は自己流独学だから生徒さんとか弟子とかは取らない。自分流を教える？ めどうである。まああー、教えろと言われたら、もちろん、できなくはないけれど・・・。

でね、そういう方々への私の回答は、「脳がズレてんの俺、元々が脳ジャズしているの俺、シンコペ脳なの、だあーら、それをよおー、ヤノピで現すってよおー、技術いるじゃん、だから、邁進してんの、俺」。

こんなんでも先生できねえー。

## 逆9 to 5

---

2015.09.03 Thu

私の今日も含めた六日間の勤務時間。

07h30---11h00 19h15---22h45

つまり真昼間、通常の勤め人が家にいない時間に家にいてブログなんぞを嗜んでいる。ご近所の方々の脳内大きな？ 別にどう思われても構わないのだけれど・・・。ご近所の方は某日系企業の営業マンとずっと理解しているから、訳が分からないはずである。ジャズメンであることさえ、ほんとうに少数の隣人しか知らない。ピアノの練習もヘッドホーンだからピアノ狂も分からない。

この朝の時間帯から推測するに、八百屋さんとか魚屋さんなの？ なんでスーツ着ているのだ？

夜の方は、ジャズメンが仕事に行くと解釈すれば、まあ、自然だけれど、なんでスーツ着てんだ？ 朝、八百屋さんで夜ジャズメンということも考えられる。むははははあー、よお一分からん。一日七時間勤務と勤務時間は実にまっとうなのにねえー。

結局、真昼間、なにもできない。ピアノの練習はビール、赤ワインなしでは私はできないから朝の勤務が終わっても夜の部があるから日中酒を飲めない。帰宅が遅いのに起床が早朝だから、夜深酒もできないし夕飯が深夜だ。わっ、私は忙しいのか暇なのか分からないよおー。よかったあ、ブログの執筆があったよな。じゃ、「また」行ってきまあーっすっ！

2015.09.05 Sat

「裕さんちの旦那さん、ご実家が裕福なのかしらねえー、いいわねえー、一日ぶらぶら・・・、お昼寝したり・・・」「なんか、競馬か競輪で食べているって噂よおー」「そういえば、たまに、夜、薄いサングラスして出掛ける姿を見掛けるわね」「なんか、夜のお仕事?」「分からないわ」

馬鹿馬鹿っ、あたしは早朝に起きて、一仕事して、帰りにスーパーで買い物して、午前十時に帰宅して、朝寝? 昼寝? 二度寝? をして朝食のような昼食を取ってブログって居る。うで、また、出掛けるのだ。仕事を、社会的な仕事をして居るのだっ! 勤務時間がへんてこりんだけなわけ。

ところで、久しぶりに日本の新聞を斜め読みした。なんちゅうの? 一面のコラムみたいの読んだ。文章が下手糞だし、最後の結論が説教みたいで終わっている。私の感想、私のお気に入りブロガーさんたちの文章力洞察力、このコラムニストよりずっとずっと上だ。それと、「出る杭」を見付けて伸ばす教育だってっ! 日本は出る杭を叩く傾向が強い。集団行動をし易い。同調、足並みを揃えるのが美德。だから、欧米と比べて若者の起業が物凄く少ない。因みに一位はフランス。

わっ、私が日本を出た三十五年前も同じような記事が沢山あったぞ。なんも変わっていないではないか。第一、子供たちの中の「出る杭」を先生が見付けて「伸ばす」。「出る杭を叩かない風潮を作る」。だんだん私はイライラしてくる。その、「個性を伸ばす」、これは大昔から言っている。別に個性のないやつを伸ばす必要はないし、第一、個性のないやつなんているのかしら? それと、「出る杭系」は叩いたってへこまんのだ。私もそのひとりだろうな。それから、「凹む杭」だってあるぞ。

出る杭、出ない杭、凹む杭、こういう諸々で社会はバランスを取っている。個性的な人、無個性な人、わっ、これの方が個性的じゃない? まあ、うな、そんなに複雑に考えなくてもいいのじゃないの。そんな、つまり、たとえば、無理矢理ジャズピアニストにする、なあーんて無理だ。逆に、もう、サハラ砂漠のど真ん中のピアノに這ってでもにじり寄るピアノ馬鹿もいる。こりゃー、ほっとくしかないけれど・・・、水と食料と駱駝ぐらいは持たせてあげようね、だって楽だ。僕はビールと赤ワインも・・・。

2015.09.07 Mon

「わんとうこっきん」という腕の筋肉。調べたのである。名称を知らなかった。右手でいうと肘から下の右側の筋肉。諸々の腕の旋回機能を司る筋肉。

この筋肉をカミサンが傷めたのが半年前ぐらいだった。自分で髪も洗えない家事もできない湯沸しを持ち上げられない……。医者に通い、マッサージを行い、名前分らないけれど、自然の石膏みたいのを腕に巻き、サポーターをし、クリームを塗り……。「わあー、一生治らないのかしら？」とかなりめげていた。原因は、同じ動作からくる筋肉過労。安静にしていれば治ること。とはいえ右手である。安静にといても限界がある。少し回復し掛ける。植木鉢を持ち上げて、また、悪化する。これの繰り返し。毎日毎日その話になる。当然である。本人にはかなりしんどい状況なのだ。しかし、旦那の私とすれば、病気とも違うし、原因が分かっているし、安静にする以外にないしと、心配する状況とも違うから、「うん、しんどいけれど、少しずつ回復すると思うよ。本人の筋肉の痛みは手伝えないもんなあー」と、可哀想だけれど、やや、のんびり口調であった。そして、カミサンのそれは回復したのである。

一週間ほど前に、やや重たいスーツケースを三つ持った。翌日から右手の「わんとうこっきん」に軽い痛み。筋肉痛だろうと思っていた。ピアノの練習をする。ブロックコードはあまり腕を捻らないから痛みはない。右手の早弾きソロ。痛いっ！ ブロックコードだけにする。まっ、明日は治るだろうと思っていた。翌日、悪化。ビールジョッキといっても小さいガラスの薄い軽いものが持てなくなった。カミサンと同じ状態になった。

「あなた、なんぼ夫婦といっても、あたしの真似しなくたって」

「おまえがうつしたんじゃないのぉー」

「あらっ、そうかもしれないわね。これであたしの痛みが、よおーーく理解できるでしょ？」

「はははははあー、うん、よおーーく理解した。他人事ではなくなったっ！」

「お互い古いものFuruimono(ここだけ、なぜか日本語なのだ)ねえー、親愛なる同士君っ！」

「はははははあー、こりゃー、夫婦愛だねえー、ったく。老夫婦愛かな？」

と、ワイングラスを持ち上げようとして、「いてっ！」。

2015.09.08 Tue

早朝、夜の仕事六日目。最終日。睡眠不足でよれている。とはいえ、私は昼寝が出来ない性質。働き者体質だから、一旦起きると一日せかせか。酒が飲めない状態なので、ピアノを触っていない。変な論理？ 素面で練習も本番も出来ないのだ。わっ、来週コンサートなのだ。

「イケメン」、最初に聞いた頃、「行け行け男」のことだと思っていた。なんのことなの？ 半分眠っているような状態でいると、くだらない連想。イケメン＝池で溺れている男、畏敬する男、ラーメンの一種、いけ好かない奴、胃痙攣の男・・・、そして馬鹿のことをジャズメンという。邪頭面と書く。「アラフォー」もなんのことか分からなかった。あら？ もう、四十なのおーーという意味のように聞こえた。アラサーは粗さと聞こえる。アラフィフ、アラシー、アラセブ、アラエイ、アラナイ、アラハン、高齢化社会だからどこまで行くのかしら？ 五十六歳がじいちゃんなのか若いのか？ 分からない。ソニー・ロリンズが昨日で八十五歳。

今朝、早朝五時ぐらいに高速十五号を走っていた。パリが近付いてくる。クリシーの手前にセーヌを渡る大きな橋。ゆっくりと左にカーブしている。この橋の上からパリの街が映画の書割のように見える。こんなプラモデルみたいなところに二百万人以上が暮らしているのだなあーとか、五時だというのに、もう、結構な車が走っている。なんか金鉱に群がるシロアリみてえーだな。俺もその一匹かよおーとか、ライトアップされたパリが廃墟に見えたり、巨大な墓地に見えたり、車を運転しながら思索と脳内詩作。

ずっと、ジャズの専用局を聴いている。いろいろなピアニストの曲を聴く。当たり前だけれど、この一流どころばかりなのだけれど、皆、全然違う。技巧派、そんなに上手くないけれどソウルで聴かせる人、格好いい和音を連発する人・・・、諸々の諸々。技巧が先走っている系は、やはり、自信と自意識とプライドがむんむんしていて、やや、うざい。それと、私はモード系、つまり、マイルス・デイビス系列、ないしフリージャズ、こちらはジョン・コルトレーン、この二つがやはり好きであることが自分で分かった。まあ、マイルスは別格だ。あの哀愁のあるトランペットは彼にしか出来ない。超絶技巧派ではないけれど、素晴らしいの一言。コルトレーンは初期の頃は、あんま良くない。ぎこちないし、今一つ自分の音になっていない。しかし、ある一線を越えた後の彼の演奏は超絶的である。技術的以上に、そのエモーションは圧倒的。それから、初期の頃のビル・エバンスはやはりモダンジャズピアノの原型。ハービー・ハンコックはブルーノート系の最高峰。キース・ジャレットは自信自己顕示プライドの塊ではあるけれど、彼の技術以上に、そのスピードとスイング感はダントツ。結局、自分のピアノがなんなのか良く分かるのである。私は、彼らのいいところを摘み食いしつつ、イサオ節を構築してきたことが分かる。技術レベルは比較対象にならないぐらいに低いけれど、明らかにイサオ節というものがある。まあ、とりあえず十分ということにしよう。それと、なんか、私は「メロディーラインを残した

フリージャズおよびなんとなくお笑いの要素を含んだ演奏および存在感」、おっ、癒し系フリージャズ？

2015.09.09 Wed

昔、わだひろしとマヒナスターズというバンドがあった。「マヒナ」、ミュージシャン用語。＝「暇な」である。私のブロ愚に長期に渡りお付き合い頂いている希少、貴重、世界指定絶滅寸前読者様方は、すでにイサオ節に脳を犯されているからピンときちゃうのだ。ミュージシャン用語＝和音の転回形の日本語版。

今日から、また、突然、暇。忙しいのと暇が交互に来る。いい感じだ。いきなりミュージック脳に戻る。来週、コンサートだから助かる。

ところで、「プロ」とはなんぞや？ と考える。世間一般では、「それでお金を稼ぐ人」となっている。まあ、十分に稼いでいるのかは別として、ひとつの見解ではある。そうなると、バン・ゴッホはプロではなかったことになっちゃう。ほらあー、変じゃん。とすると、その人の入れ込み方、内容、エスプリ、深み、技量とか、やっぱ、お金の問題ではないということになる。まあ、世間様が決めるのだろう。

でね、プロのブロガーというのがいるけれど、ブログ自体というより、その広告で稼いでいる人。正確にはプロ広告人ということだね。ブログ記事だけで稼ぐ人は皆無のはずだ。でも、私の見解では、プロのブロガー、その広告収入という意味ではなく、その文章力、内容、洞察力・・・、そういうものを総合して、いる。どこに？ 私のブログの右下に。

ところで、また、「ところで」だけれど、私および私の周りのミュージシャンで演奏活動だけで食っているのは、沖師匠とアラン・シルバぐらいである。皆、別に仕事を持っている。音楽の先生が当然にして多い。以前の私のように日系企業の営業課長、こういうのは稀だ。もう少し、今の私のように融通の利く仕事をしている。皆、プロなのだけれど、「十分な収入のないプロ」なのだ。私も含めて、皆、無料では演奏しない。もちろん、何かの主旨でギャラをご寄付というケースはあるけれど、それは、我々の懐にお金が入らないだけで、無料とは違う。

うん、やはり、皆、趣味でやっているわけではないからねえー。でも、自称アマチュアで凄い演奏をする人もいる。でも、ご本人が趣味と言い張るのだから、それはそれでよし。

じゃ、プロとアマの違いは？ あっははははあー、自分で、「はい、私はプロです」と言い張って責任を取れるのか取れないのか、まあ、これだけね。世間様にお金を要求しているから、芸術レベルの問題ではなく、社会問題になる。そのお金に見合っているのかという払う側の判断が来るから・・・。「ばあーーろーー、金返せえー、芋おー、ピアノの掃除から始めろおー、蓋の開け方からやり直せえー、楽屋の雑巾掛け、お茶汲みから始

めろおーー」とか言われるのである。

でも、世間様で結構大量にお金を稼いでいるアイドル歌手なあーーんていう人たち。まあ、プロのミュージシャンではなく、プロのアイドルだから、もちろん、結構。でも、時々、「あたしいーー、アーティストだからあーー」なんていう漬垂れ娘がいたりする。まあ、ジャズメンのオシメの取替えをやってから言いたまえ、そういうことは・・・。

自分で自分の事を「芸術家」なあーーんて言う。恐ろしいっ！ 芸術の恐ろしさを知らないから、と申し上げる。半端じゃないよおー、それは。私は、「へえ、旦那、あたしゃー、ジャズのピアノ弾きです」としか言えない。でも、結構多いのだ、こういう人たち。絵描きのアトリエ解放展なあーーんていうのをたまに見に行く。私は元現代美術家。その目に耐えられる人たちはほんの一部に過ぎない。自分の才能に見切りを付けた私の目に耐えられない作品なんぞ、粗大ゴミ。音は、まだ、場所取らんから、まだ、マシだ。

## 解き放たれた指さんたち

---

2015.09.10 Thu

いやあー、十日間ぐらい忙しい日が続き、昨日から暇。昨日も今日も実にお天気がいい。あっは、私の心のお天気も快晴。以前の月給取りの頃は、延々と忙しかった。ピアノとの二束の草鞋も超ハードだった。やはり、チャンジーになったから、あまり無理は利かない。もう少しゆったりと二束の草鞋をしないと倒れてしまう。まあ、新しい仕事は忙しい時はハードなんだけれど、どばっとオフになる。ハードワークとお休みいーーが交互に来るから、お休みいーーの時は、ピアノ三昧でよろしいのだ。

快晴の夏の終わりの一日。十日振りにピアノを弾いた。やはり、指のスピードが遅くなっているし、弾き慣れた曲を間違えたり、高々十日の空白でこうなる。もう、空手家のように毎日毎日切磋琢磨していないといけない。ピアノ馬鹿でないと、やっぱ難しいだろう、こういうのはね。しかし、この指さんたちの嬉しそうなことっ！ もう、私のそれではない感じさえる。草原に放たれた子犬君たちという感じいーー。じゃれあい走り捲くり・・・、ぴよんぴよん・・・。

どうして、私はこんなにピアノに嵌ったのだろう。物凄い遠回りをして辿り着いた。今でも、内の母は「イサオを音大に行かせれば良かった」と嘆いている。といっても当時はいろいろと事情があり、音大に行く、問題外であった。後戻りはできない。たとえば、私が国立音大のピアノ科卒だったとする。もしかすると、今、私はピアノを弾いていないのでは？ とも思う。少なくとも、現在のイサオ節はなかったはずだ。もう少し「まとも」になっていたはずである。あれ？  
私はピアノ教室を嫌で止めたのだ、自分の意思で。

と、押し付けられるとすぐ騒ぐ体質。こうなると、独学自己流の道以外にはなかったのだ。いもおーーん、それで。

考えたら、内の息子、娘、勉強？ 自分で必要と思うのならどうぞ。ピアノ止めたい？ どうぞ。でも、一生ピアノ弾けないけどいいのね？ やっぱ、続ける。あっそ。ピアノの先生が厳し過ぎる？ ポップスを弾きたい？ 自分で先生にそういいなさい。ショパンは嫌だって。すべて、私は強制しない。そう意図的に意識的な放任主義なのだ。ものの考え方、世界の見方が自由になって欲しい。それ以外、子供たちに求めるものはない。と、まあ、結果的には、私が望んだ通りになったから、えぶりしんぐおーけー、なのだ。ジャズメンの子供たちはこうじゃなくっちゃねえー。

2015.09.11 Fri

私の最初のブログ記事の日付は、「9月12日2012年」、でも、書いたのは「11日」だったはずだ。そして、本記事の記事番号918。かなりの数の記事を没にしているから、ほとんど、毎日書いているわけだ。正真正銘のブロガーだな、こりゃー。まあ、書くのは好きだし、楽しいし、それと、自分の「その時」の位置を自己検証している感じ。ミュージシャンだから、音でも思考しているのだけれど、音思考だけしていると、社会的パッパラパーになり易いから、ブログってバランスを取っているのだろう。

長期に渡りお付き合い頂いている方々、私の更新を鼓舞して下さるお気に入りブロガーさんたち、それと、なんとなく増えている新規にご訪問頂いている方々、謹んで御礼申し上げます。

追記として

被災地の大雨洪水。これ以上被害が拡大しないことを祈るばかりです。

2015.09.12 Sat

四年前の記憶が脳内を過る。心が沈む。私は出張でグルノーブルにいた。iPhoneを盗まれた日だ。その出発から日く付きだった。同僚のクリストフとTGVに乗り込んだ矢先に会社から電話が入る。作業は明後日になったと。しかし、もう、乗っている。一日、出張先でオフになるという珍しい状態になった。これが予兆だったし、実際、この稀な状況は震災のためであることが後日分かる。

幸いにして、癒し系のクリストフと一緒にいる。実に優しい男だ、彼は。翌日、雨。高所恐怖症の私が、なぜかグルノーブルの岸壁の上の牢獄をロープウェイで訪ねるということをしている。たぶん、クリストフがいたからなのか、なにかの予兆を感じたのか分からない。

そして、夜、中華レストランでiPhoneを盗まれる。物を盗まれるのは、フランスに来たばかりの頃の新品の自転車、一番安いとはいえ、ロードレーサー以来である。不思議なのだ。しかも、我々が普段泊まらないような薄汚いホテルに泊まる。なにかの展示会のせいでグルノーブル市内のホテルは満杯だった。

そして、iPhoneを盗まれて消沈している私が、薄汚いホテルのテレビで見たもの。津波の映像だった。

震源地が私の弟の住む辺りに近い。会社からメール。「ご実家大丈夫ですか?」。四年前の記憶と重なる。インターネットを開く。「宮城県高崎市」。弟の住むところだ。弟に被害はなかったことは確認できた。

しかし、この「泣きっ面に蜂」。天災の制御は我々にはできないけれど……。また、記憶が蘇る。

ブログを書く気力が突然消滅する。

## 私のピアノ

---

2015.09.13 Sun

これを書いているのは、9月12日2015年である。私は丸い時計と日付が好きなのである。自分の軌跡、位置が分かり易い。

おっとっ！ 最近気が付いたのだけれど、私のブログへの訪問がどんどん減少している。まあ、つまらないのだろう。私の書くものは。と卑下感ゼロで思うのである。私のピアノと一緒にのだ。で、もそもそとするのか？ 全然、しない。

なんか、一瞬、この記事のタイトルを「五十代の生き方」にしようかしら？ とも思った。えっえっえっ、なんでえー？ 結局、私自身が自分の年齢を認知していないところがある。どうして？ ジャズメンだからである。私の師匠連は74歳と69歳。内の親父は84歳。私が敬愛する母方の伯父さんが88歳。私の親父の兄貴が91歳。内のカミサンの伯母が89歳。こないだ行ったら、娘とペンキ塗りをしていた。

こうなると「56歳の若僧」は、ピアノに邁進する以外にはない。

あれっ？ なんか書きたいことと違うな？

そう、私のピアノ、さっき、来週のコンサートをシュミレートしながら弾いてみた。テクニックが飽和状態である。自分では納得していないという謙虚とも違う気持ちが湧いて来るけれど、客観的に、十分過ぎるとも思った。このまま行くと、「ジャズのそもそものエッセンス」がなくなるという自己診断も脳内を過る。

こういう、自己診断ではあるけれど、こういうレベルに達していることは、唯一やるべきことは、「皆様にお聴かせする」のみ。なのである。

と、ベルリンツアーと日本ツアーを具体化する方向へ、と、思う。

もう、いいだろう、大ピアニスト養成ギブスは。

そう、「ピアニスト裕イサオ」の看板に見合っている技術が身に付いたわけだ。元々の「自分のスタイル」に磨きが掛けられた。

人生論だねえー。

## 雨

---

2015.09.14 Mon

今日は2015年9月13日日曜日。昨日から、こちらイル・ド・フランス地方はずっと雨である。

昨日、カミサンとハイパーマルシェへ買い物に行った。マルシェの入り口のロータリーが浸水していた。今回の豪雨で被災された方々のことを思う。出来る限り早く復興して欲しいと思う。

先日のモンペリエの豪雨、数分で水深二メートルに達したとニュースで伝えられていた。川と陸地の境目がなくなっている。車が流れていく。鉄砲水の恐ろしさを実感したばかりである。

私の処女出版、詩小説「水の記憶」。この本が最初で最後の出版となった。1996年である。私の中の「水」への恐怖を綴った自伝小説であった。幼少期から、私は水が怖かった。プールも駄目であった。海の波に至っては、あちらの世界に吸い込まれる恐怖が全身を襲う。この恐怖からの解放の物語でもあったかも知れない。

金子光晴の詩の中に、しばしば、世界を飲み込む洪水のイメージが現れる。天災のイメージではなく、金子さんの中の甘美な夢想のひとつだったのだろう。私の中にもそれはある。

しかし、21年前のオワーズ川の大洪水。甘美な夢想は粉々に砕け散った。大量の水の体積。本当に恐ろしかった。車ごと飲み込まれそうになった時の恐怖は今以て忘れられない。

関東から東北へ掛けて、四年前の大津波、今回の大洪水。次から次へと大きな水の塊がやってくる。被災地が更なる被災を受ける。現地の方々の心の被災を思うと気持ちが沈む。

2015.09.15 Tue

なんとなくブログリング力が減速してきた。諸々の要素があるのだろう。

まあ、職業作家じゃあるまいし、うな、無理をして書く必要もない。繁忙期と閑散期が交互に来る新しい仕事に付いたこともあるし、その合間にピアノのことを考えているから、やや、ブログリングスペースが減っては来ている。考えてみたら、私はブログのあまりいい読者ではないのだからねえー。第一、本読まないし新聞も読まない。ものを読まないのだ。若い頃にアホのように読んだ逆噴射？ 一日三冊ぐらい読んでいた。自分で小説を書き始めた辺りから、本をほとんど読まなくなった。そして、チャンジーになった現在、もう、傲慢なのか不遜なのか他人の意見とが必要なくなってしまった。年長の方のそれも年少の方のそれも・・・、なんか必要がない感じになっちゃった。自分が正しいとかいうことではなくて、まあ、いろいろあっていいんじゃない、という感じ。偏屈とも違うんだけど・・・。脳内が晴れ渡っちゃっているという感じかしらねえー。

音楽もほとんど聴かない。最近は車の中でジャズを聴くようにはなったけれど、それだけ。でも、かなり勉強になっている。あーー、なるほどねえー、そう来るのかあーーとか、うっ上手いねえー、この人とか、上手過ぎだねえーとか、なんとなくぶつぶつ脳内独り言。で、ふむふむ、と自分の演奏を聴いてみる。正直、率直に悪くねえーじゃんっ！ と思っちゃう。裕センセの「サマータイム」とか、じえんじえん色気がないのだけれど、灼熱の夏の太陽みたいな感じで原曲の思惑と真逆の演奏しているところが、やはり、アホという感じでいかしていると自分で思う。

なんか人生自体が自己流みたいな雰囲気だねえー、ったく。

わけ分かんねえーって！

## 演奏の不思議

---

2015.09.17 Thu

一昨日、十五日は我々トリオの定期コンサートだった。ホームクラブのバビロ。考えたら、このトリオでの演奏は三ヶ月振りぐらい。

私。十八日からの新しい仕事の繁忙期が脳内で蠢いていて、なんか乗らない。オリビア。彼女の教える音楽学校の入学式からコントラバスを担いで飛んできた。真師匠。夏のバカンス明け第一コンサート。今一つ、皆のテンションが上がらない。お客さん、疎ら。常連は一人。幸いドイツ人観光客ご一行がたまたま通り掛かり聴いてくれた。

私。当然、気持ちがハイにならないから、コンサート前の中華レストランで赤ワインをちびかぶした。それでも乗らない。弾きながら他所事を考えたりしている。こういう時もたまにはある。

終了後、真師匠の眉間に皺。

「イサオ君、君、酔い過ぎっ！」。酒にという意味ではなく、自己陶醉し過ぎの意味。「それとさあー、なんかさあー、俺さあー、日本人がね、日本の童謡弾くっていうの、なんか嫌いなんだよなあー」。そのコケットリーが嫌だという意味。「イサオ君っ、観光客多かったけどさあー、君、サービスし過ぎっ！」と言われてしまった。

やはり、師匠のおっしゃることは真摯に聞かなければならない。「一理あるなあー」と思いつつ、打ち上げ。

不思議なのは、私自身は自己陶醉から懸け離れた心理状態だったのにそのように聴こえた。今、その動画を聴き返しながらこれを書いているのだけれど、わっ、かなりハードな演奏をしている。ちょっと、ガイキチ(きちがい)になり掛けている部分も多々ある。弾いている本人が上の空なのに指さんたちがフルパワーで動いている。なんなんだ？

ドイツ人のご一行、かなり仰け反っていたのである。我々メンバーの名前を控えていたぞ。

ふむ、コケットリーとサービス精神。うーん、そういう営業マン体質は、やっぱあるんだろうなあー。真師匠のように反骨の人という孤高感が漂わないのだ私は……。治らんかもしれん。沖師匠にも何度か言われたのである。根がお笑い系？

普通、インプロとかフリージャズの演奏は、複雑な不協和音に徹し抜くというスタンス。理解できんやつがアホだという論理で押し通すのであるが、私は自分自身で疲れちゃうからバラード弾

いたり、ド下手スタンダード、日本の童謡とか弾いてしまう。うーーん、次回は孤高の演奏と  
いうのをやってみようかしら？ 一応、トライしてみよう。

## 応援者たち

---

2015.09.19 Sat

うーん、先日のコンサートをもう一度聴いている。終了後、「今一感」が漂っていたのだ。聴き返したら、相当に凄い演奏だと本人が思うのだから本当だ。

ところで、私のもやもやを分析してみると……。オリビアは私より十八歳年少。真師匠は十三歳年長。あれ？ 年齢の問題ではないのだけれど、オリビアにとっては私および真師匠の感想は、相当に重要なはずだ。特に私はバンドマスターなのだから、相当に重要。しかも、彼女は真面目な人だ。

昨晚、布団の中で「情熱大陸西内まりや」の触りの部分を見た。彼女も真面目人間。途中で泣き出した。「モデル、歌手、女優、どれも完璧にできない。でも、スケジュールが許さない。でも、応援してくれている人たちのことを思うと、精一杯やらないと……。体形維持さえできていないのにモデル……」。「すべてが悪循環です」。

本当に真面目で素敵な人である。

でね、我々も真面目人間だし情熱大陸族。でも、「応援してくださる方々」、これが本当に少ない。この辺が痺れる原因なのかも知れない。ステージ上のミュージシャンの数が客席のそれより多い、なァーんてことがしばしば。これでは気持ちが持たない。「粗大ゴミかよおーん、俺っ！」と拗ねる。

と、勝手に書いているけれど、応援されたいのであれば、応援もしなければならない。後者をあまり本気でやっていない私のような者が、何様なの？ と自分で思う。しかし、(お客様)疎らの道もあまり長く歩んでいると茨の道になってしまう。

わっ、新しい仕事？ こっちは売れっ子。どうしてこうなるの？ ほどほどでいい方が、お客様ぐわっ。

ヤノピを くんなまし 我疎らの道を 歩む後姿 字余り

と、真剣な眼差しのオリビアに俺、「えっ、今一感？ うなことねえー、後で聴いてみいー、たぶん、すげえー演奏になつとると思う。やりなれないことをやったから、そんな感じなんじゃない？ 心配するな、俺が応援している」。

## ジャーマネ募集？

---

2015.09.20 Sun

「ジャーマネ」、芸能人も最近良く使うからご存知の方、多いと思う。「マネージャー」。

うーん、マバラ(疎ら)の道なあー、イバラ(茨)じゃね？ とも正直思う。バンドマスターとしての責任もあるだろう。バンマスがうんざり状態では、メンバーはどうするの？ とも思う。

しかも、このバンマス、わたくしはピアノのために会社、安定した老後、悠々自適、そこそこのステータス、および、そこそこの収入、まっ、一応「中流」ちゅうものをすべて投げ捨てて、ピアノちゃん三昧おやじと成り果てている「のに」、これじゃー、理解あるカミサンだって首が傾ぐ。妾だの浮気よりはいいのかもしれないけれど、ある意味、うなもん以上にヤバイんじゃない？ わたくしのピアノは？

元泣く子も黙る凄腕営業マンだったと自分で言っているから本当だ。しかし、「自分の営業」はからっきし駄目。元お坊ちゃまだからだ。駄目なのだよ、お品があり過ぎて……。がつがつでけんだ。「ボロは着てても心は錦糸」なのだ。勝ち負けとかまったく興味がないし、学歴だのお勤め先だの、乗っている車だの、住んでいる家だの、年収だの……。どうせ果ては棺桶なんだから、一番安いので十分だし、そっ、バン・ゴッホのお墓、家の近所なんだけれど、もう、素敵なのだ、あまりに。あれでいいし、あのようにになりたい、わたくしは。

しかし、ギャラの高い安いはいいにしても、お客様が疎らは、こっち、および、メンバーの心意気、その熱い気持ちに水差し。

まあ、いつもそうではないのだけれど……。第一、ピアノがないところがほとんどなのだ、こっちは。俺のローランドと真師匠のドラムスとオリビアのコントラバスを持っていかないといけない。これは老体には渋い。

じゃ、お客様が大勢いらっしゃる企画しかやらない。まあ、ひとつの意見ではある。そうになると、それに見合った仕事は、はい、年三回。以上となる。これでは「現役感」がおかしくなるから、やはり、ちびちびとはやる。しかし、疎ら……。

わっ、ジャーマネやってくれる人いないかしら？ 文句は一切言いません、頂いた仕事は的確にこなします？

と言いつつ、まっ、今の感じでもいいのだよ、待ってろっ！ ベルリンと日本のフリージャズ狂っ！ シーラ・カンスと呼ばれても、わたくしは折れない。馬鹿っじゃね。

おっ、もしかすると日本ブログ村ジャズ部門の方も読んでくれているかも？

お互い、渋いよねえ——、ったく。不ケーキ、一緒に食べよっ！

## 中傷クレーム

---

2015.09.21 Mon

あっは、忙しいのにブログは結構、更新している。

三日前と今日、私のピアノと新しい仕事で、クレームというのか中傷というのか、そういう事態があった。私には、非常に珍しいのだ、こういうの。詳しい内容は書かないけれど、その仕事へ対する正当なクレームは、ピアノにしても、新しい仕事にしても私は真摯に受け止めるし、ケースによっては陳謝しに行く。しかし、今回の二件は、なんというのかなあー、誹謗中傷。これは、私にはオフィシャルなクレームとはならない。「いいがかり」とか「喧嘩を売る」みたいな感じである。そして、私はどちらへもノーコメントと判断した。

あのね、私が書きたいことは、どうして他人を誹謗したり中傷したりするのだろう、ということ。

これはだれでも出来るし、だれしもがされる。でも、それをする人の心理が分からない。新しい仕事のことは諸々の弊害が出るから書かないけれど、私のピアノ。いもだ、くだらん、ド下手だっ！ なんとでも言える。私自身、そう思う時がある。しかし、私のブログの総タイトルを読めばお分かりの通り、ピアノは私の全存在なのである。仮に「いもくだどへた」であっても。五十過ぎて会社まで辞めたおやじピアニストへ向けて、赤の他人が「いもくだどへた」と言う。コンサート会場で面と向かって言われるのは、これは良いのだ。私だって、出方がある。しかし、面識も何もない方から・・・。

正直、暇なの？ とも思うし、あんたピアノやってるの？ とも思うし、どっちでもいいのだけれど、面白いのは、ちゃんと聴いてくれているところが、なんとも泣けてしまう。あれっ？ ぼろくそ書こうと思っていたのに・・・。

「あなたの全ブログ記事を拝読致し、率直に、なんてくだらいの、と思いました」、なあー——んて言われたら、ありゃりゃ、誹謗中傷なの？ 一番大切な読者様なんじゃね？ 書いている内に、じえんじえん結論が変わった。わっ、私のピアノをマジで聴いてくれた数少ない貴重なお客様なんじゃねえーの？ しかしね、赤の他人にももの書く時のマナーは守って下さい。「てめえー」みたいな乗りの文体は私は文体自身が失礼だと思いますよ。じゃ、自分であなたの言いたいことを下に変換してやるぜっての？

「裕イサオ様 初めまして。丸丸と申すものです。この度、貴ピアノを拝聴致しました。率直に、なんて酷いの、と思いました。あなたもプロを名乗るのであれば、尚一層のご努力、および、ピアノは私だ、などと言う暴言は撤回なさって頂きたく。自己陶醉の域を出ていないと私は判断

致します。このレベルで入場料をお取りになる。こういう方々が、音楽のレベル、総合的なレベルを低下させていると申し上げたいのです。どうかお許し下さい。音楽の未来を考えるわたくしと致しましては、一筆したためたく思いました」

プロコフィエフ音楽院校長 シスタコビッチ・ヨハン・シュトラウス

と、どうせ私にメッセージ書くのであれば、こういうレベルで頂戴な。私の自己批判の方が、あなたのものより、ずっと、高尚だし、本当なんじゃねえーのか？ 私は、絶対に他人の誹謗中傷なんぞはしない。そんな立派な人間じゃないからである。まず、そういうことを止めるだけでも、人間力はパワーアップするし、ずっと、豊かになるよ。とりわけ、一生懸命な人間を批判する。最低と申し上げるし、二百年早いよ、な。

## ショートショート「競争者」

---

2015.09.23 Wed

俺は、ある仕事で、一旗揚げた。つまり大金が入った。

俺は得意になってポルシェでモナコのカジノへやってきた。気持ちはジェームズ・ボンドである。少しして、隣にフェラーリが止まった。運転している野郎は、ふん、ポルシェ、貧乏臭いという目で俺を見た。その上から目線の野郎の隣に、ランボルギーニが止まった。まったく、同じシナリオの再現である。

その隣に、運転手付きのロールスロイスが止まる。ご夫人が下りてくる。ちら、と、「我々を見る」、その目付きに「成金」と、しっかり書いてあった。その隣に、世界に六台しかないブガッティが止まった。六億円の車である。

その隣に、スズキスイフトが止まる。中から裕イサオが出てくる。

その隣に、スズキアルトに乗ったビル・ゲイツが止まる。

「ハイ、イサオおー、へい」

「ハイ、ビルっ、ハウアアューウー？」

一体、だれが競争に勝ったのか？ それは、あなたの判断である。

因みに、作者の判断では、勝ちビルで、その次は、なっなんとっ！ 南東っ！ 裕センセだ。

## 方向指示器

---

2015.09.24 Thu

以前にも書いたのだけれど、フランス人の車の運転のマナーの酷さは、世界トップクラスである。

まず、フランスは右からの追い越しは禁止。これを守っている人は皆無に近い。車線のない通りが多い上に右から左から追い越してくる。人、自転車、オートバイ、バスとこの無法地帯で激戦を重ねる。とりわけ、オートバイの無謀振りは素晴らしいの一言である。これにさらに歩行者の赤信号無視が加わるから、一瞬、信号が赤なのか青なのか状況判断ができなくなる。

まあ、このジャングル状態は直りはしない。しかし、この状態でさらに方向指示器を出さない人が物凄く多い。私の感覚では七割ぐらいの人が出さない。ジョーク好きの息子に言わせれば、「パパ、どうせ使わないのならオプションにすればいいのにね」だって。

方向指示器を出さないまま、右から左折、その逆もしかり。危ないことこの上ない。

フランス人の皆様方へ。個人主義？ うん、それは分かっている。しかし、方向指示器は他人へ対する合図。道はあなたのものではないから、自分の行く方向は他人へ示して下さい。貸切で走っている。自分一人で走っている。なんとかしてくれって！ この自分だけ運転している感は見事ではあるが、危険なのだ、すこぶる。

いきなり、まったく違うことを書く。昨日、「競争者」というショートショートを書いた。「競争車」に掛けたつもり。この金持ち同士の張り合いというのがどうなっているのか分からない。年収三千万の金持ちの横に三億が来て、その隣に三十億が来る。もし、お金で人格プライドを支えているという設定をすると、こういう状況はどうなるのだ？ フランスのお笑いに、浜辺で寝そべるホームレスに、隣で寝そべる億万長者が説教をするというのがある。「君も、大金持ちになれば、こうして僕のように一日寝そべってられるんだ」。

結局、世界はメビウスの輪。

さっ、ピアノの練習しよおーっつと。

ほほほ、なんかね、モナコのカジノにスズキアルトワークスなあーっつて車で乗り付ける方が、なんか粋な感じがする。中からさらに大金持ちのさらに大金持ちなんかが出てくると、さらに粋かしら？ さらに、ばっかり出てくるな。長くなるけれど、私の通っていた学校の校長先生の実際のエピソード。

パリの超高級ホテルに、アメリカの一人である大金持ちを迎えに行った。ロビーに「それらしい人」が見当たらない。ふっと、車の方を振り返ると、ホームレスらしき男が後席に座っている。あっ、拙い、外に出さなければと思い車に向かう。その時、ホテルのドアマンが、その後席の男に深々とお辞儀をしている。あっ、彼か？ 車から追い出していたら、超やばかったんだよな、だって。アロハにバミューダにビーチサンダル、さすがの俺も気付かなかったよ。因みに、この方は大変な紳士だったそうです。粋な方である。

## FreeJazzってなに？

---

2015.09.25 Fri

十五年前ぐらいに我々の溜まり場的ライブハウスがあった。今は隣人問題で閉鎖。このライブハウスはオーナーの意向が実にクリアー。そう、即興およびフリージャズのみ。「商業的音楽？」と彼が判断したら、絶対に出演できない。私は常連として扱って頂いた。なんどか、彼に注意された。「イサオ、内ではスタンダードだのメロディーは一切止めて欲しい」と。私はむっとした。だって、フリーなんだろ？ 私がなにを弾こうが構わんというスタンスなんじゃねえーの？ と思ったのだ。すれすれセーフだったのは、私は自己流でしかスタンダードやメロディーラインをやらないから、パスだったのであろう。

彼の心意気には大変な敬意を表していることは、初めにお断りしておく。

「フリージャズの定義」は山下洋輔のエッセイの中に出てくる。「なにをやってもいい音楽、ただし、フライパン、鍋釜がステージに飛んできて自分で責任を取る音楽」と、私なりに要約してしまう。じゃ、私が枯葉だのサマータイムを弾いたって構わないのである。

音楽の一つの方向性。もしかすると、人間の生き方とかに相当関係して来るのかも知れない。「無調性」という概念がある。

調性がないから、メンバーとのコンセンサスも、無関係の関係という哲学的な位置になる。そして、時流からも無関係になる。

私は取り立ててジャズという音楽に固執してはいない。ただ、虐げられたマイナーな人たちが苦しい生活の中から作り上げてきた、私はそういうソウルフルな音に惹かれるのである。正直、心の叫び、音楽の本質の一つと理解している。踊りでもいい。叫びである必要もない。なんか、心奥から出てくるものが音楽だと解釈しているから、作法とかマナー的なものは受け付けない。と、そういう人間も受け付けない。私は、自分のスタイルのある方以外とは、お付き合いしたくない。つまらんからだ。

そう、フリージャズとは、ジャズを取っ払っても構いはしない。「フリーであること」、以上なのだ。一番、これが難しい。たぶん、かなり哲学的な領域に入ってくるし、それを実生活でやることは至難であろう。

なあ——んちゃってえ——！ ってもよ、俺はマジだぜってのっ！

まあ、諸君、裕センセの「難しい会話」ちゅう曲、聴いて頂戴。この記事を理解する一助にはな

るべえー。

## 訪問履歴

---

2015.09.26 Sat

FC2ブロガーさんたちは、ご存知の通り、「訪問履歴」という機能がある。私は「履歴を残さない」設定をしているのだけれど、昨日、正確には9月24日のみ「履歴を残す」ことにした。

私のブログをご訪問頂いている貴重、希少なブロガーさんの記事は、私は必ず拝読して居ります。ありがとうございます。そして、素晴らしいブロガーさんたちがいらっしゃる。私のブロ愚とは雲泥の差である。私はお礼のコメントを入れようとしたのだけれど、コメント欄がないブロガーさんが多く、あらあー、ふむ、訪問履歴を残させて頂いて、拝読してますよおーということを間接的にお知らせしようとしてみた。

私は結構、毎日のように書き捲くっているのだけれど、あまり、ブログのいい読者ではない。すいません。時間的余裕があまりないことと、私はパソコン自体もあまり好きではない。長時間インターネットということもないので、ある程度、拝読させて頂くブログには限りが出る。でも、ご訪問頂いたブロガーさんの記事は必ず拝読致します。

繰り返し御礼申し上げます。

## ショートショート「富豪ジャズマン」

---

2015.09.27 Sun

いきなり、俺は富豪。なんか知らんけれど、ユーチューブに黙々とアップしていた動画のひとつが、大ヒットしたのだ。ぶっちゃけ、印税だけで三億円ぐらいなのだ。いきなり、こういう大金が入ってくると……。

まあ、たまに、パリのホテルでも泊ってみっかぁー、となった。友人連が、億万長者らしくと煩い。場末のイビスホテルとかを予約しようとしたら、いきなり、妻のマミが、ギャ、と言うから、うんじゃ、どこ？ マミはもじもじしながらもきっぱり、「ブラザ・アテネ」と言った。一泊十八万円。ユーロで言われても日本円換算でも、まぁーたく、ピンとこない。なんとなく、「一般庶民の月収」のような気がする脳内でひそひそ。

で、マミと、そこに泊まることにした。

「おいっ、マミ、支度はできたの？」

「うん、ばっちり」

「じゃ、行こうぜっ、その、なんだっけ、アテナムラザだっけ？」

「ギャ、なに、その格好おーー！」

「えっ、なんか拙いの？」

「あのおー、パリのおーー、モンテエーニュ通りでえーー、パリでえーー、一番、ハイソなあーー、ホテルでえーー」

「じゃかしいーっ！ 俺はハイソおじさんなのかよおー、ばぁーたれっ、ジャズメンだっでの」

「でも、拙いの、その格好では」

「あれっあれ？ 浴衣じゃ拙いの？ 正装じゃん」

「げっ、本気なわけ？」

「だって、暑いじゃんかよおーー」

という人悶着の後、裕センセは愛車スズキスイフトDDISに乗り込む。

「えっえっえっ、これで行くわけ？ マジいーっ！」

「おいっ、マミ、じゃかぁーしいねえー、お前、今晚はサッポロラーメンで五目焼きそば食べようねえ」

マミちゃんの談話

「だめだこりゃ——」

## 心地良い疲れ

---

2015.09.29 Tue

本日は、9月29日2015年、快晴、20℃、絵葉書のような青空という陳腐な比喻通りなんだけれど、まったく、人間の比喻の陳腐さなんぞを受け付けない青空、つまり、地球の表面がばっちり目に映るわけである。と、やや、凝り性系の文章から始まる。

でね、一日おきの仕事、しかも、その一日が二日分。休んでいるのか、ずっと仕事をしているのか一日が48時間になったのか、曜日さえ分からない。

仕事、青空、睡眠不足……。なんのインスピレーションも沸いてこないというヤバイ状態。ピアノ、練習はしているけれど、上の青空。たんなる、指の運動なのだ。ヤバイ。料理、大好きなそれも、なんか、めどう。といつつ、今晚は、ムール貝の白ワイン蒸し。熱々のイタリアンスパゲッティバター和え。これにパセリをばさばさ。美味しいのだ。を作る。これ書いたら。でね、日本国ではどうなのかしら？ こっちではムール貝の臭い消しにセロリの薄切りを入れる、玉ネギと一緒に……。

わっ、新しい仕事を始めて半年が経った。私の憶測通り軌道に乗った。忙しい。でも、いい感じ。

と、睡魔君との戦いっ！ 睡魔せえーんっ！ どうだっ、見事なオジギャグっ！

## 「無調性」という音楽

---

2015.10.01 Thu

なんとなく、この記事は長くなるだろう。忙しいのにブログは更新し続けている。そっ、予約投稿システムのお陰。で、久しぶりに3日間オフになった。まとまった時間ができた。から、昨晚は熟睡。カミサンも娘も仕事。私は一人。木曜日という平日に旦那がプラプラ。芸術家しているのである。カミサンがいないとプラプラしているのか？ おほおー、私はフランスの旦那である。ベットメイキング、風呂、トイレ掃除、台所の片付け。エビフライの仕込み、ムール貝の味噌汁を作る、米をとぐと、一日中、家事。好きなのだよ、主夫が。いいんじゃないの、根暗の旦那が一日中家事をして、有能な女性が社会で活躍する。いいのだ、これで。

で、10月1日も超快晴。一人だから風呂場の扉を開けたまま風呂。真南から日光。天国である。右腕の「わんこうこっきん」を痛めているからモミモミ。

風呂から出て、「玉割りゲーム」。それからピアノの練習。次のコンサートのコンセプトを作らないといけない。「無調性音楽」、久しぶりにこれで行こうと考える。佐藤真師匠のドラミングが超絶的になるはずなのだ。

「無調性」？ 社会人として「これ」は拙い。他人との調性こそが社会であるからだ。もちろん、音楽上も他のミュージシャンとのコンセンサスは調性である。これを、一切やらない。無法地帯である。

と言いつつ、「無調性音楽の正しいやり方」と言うメソッドが、たぶん、パリ音大にはあるはずだ。そこ出身の連中のインプロ、皆、良く似ている。ここが、私の嫌いなところなのだ。「自分の音」であるべきなのだ。無調性であっても・・・。「自分の音」があるのかないのか、私は収入はさておき、ここが「プロの境目」と考える。「自分の芸」でもいい。

その、お若いのっ、何でもかんでもマニュアル化するなっのっ！

「無調性」「天邪鬼」「反社会」、こういうものは、そうとうの気概がないとでけんのである。

沖至師匠の会話。

「なあ、イサオ。絶対に合わせるな。つーても、人間、なんか、どこかで合う。だから、音楽では無視しろ。でも、どこかで、クロスする。アラン(シルバ)ち行くとね。二枚のレコードを同時に掛けている。バッハと歌謡曲とかな。でも、不思議なんだけれど、調性も違う、リズムも違う、まったく異質の音が、聴いている内にね、なんだか、合って聴こえてくる。人間は出鱈目ができ

ないんだろうな。だから、お前もバンバン弾き巻くっていい」。

と、こういう師匠を持っているということは、そうとうに凄いんだろうな。

マニュアル読んでさ、「天邪鬼」なあ——んていう若僧が出そうな気がするけれど、阿部薫の音楽、聴いてみろって！ と、チャンジ—臭い記事？ ふん、そうだと思うよ。うちの親父の世代からしたら56歳の若僧なのだよ、俺もな。

でね、時代は変われど「気骨」「気概」のある奴は、「いつの時代もいる」、ということになる。じゃ、この記事は「無時間ブログ」として読んでね。わっ、いきなり、恐竜っ！

## 変曲

---

2015.10.02 Fri

今、コルトレーンの演奏でジャズ屋には有名な曲「マイ・フェイバリット・シングス」を編曲ではなくて変曲している。どうして「変」なのかといえば、「イサオ節」にアレンジしているからである。まあ、私は変な、変態的、変人的アレンジャーなんだろう。

メロディーがとても綺麗。とはいえ、我々には「気が狂ったようなコルトレーンの演奏」が脳インプットされているし、マッコイの素晴らしいピアノがある、から、うかうかとは人前ではできない。とマジ人間の私は、ずっと考えているけれど、十年ぐらい考えているのだけれど、「自分の音」にならん、とコンサートでは、一度も弾いていない。

他のミュージシャンがどうなのか、私には分からないけれど「生煮え」みたいな演奏は、私は絶対にしない。とりわけ、名曲と呼ばれるものは「イサオ節の迷曲」でなければ、絶対に演奏しないのである。

うん、私はド下手ピアニストであるから、こそ、そうじゃないといかんのである。おっ、なんかジャズピアノの上島竜兵さん？ 私は大ファンだし、真師匠の若い頃に良く似ているのだ、見てくれが・・・。

ふむ、なんかね、急に「この曲」が「自分の音」になり始めている。不思議だ。その内、ユーチューブにアップしようかしら？

でね、同時進行で「無調性音楽」の研究。そう、来年辺り、クリスチャン・バッサールとミニ日本ツアーを考えているから、その探りなのである。ふうーむ、正直、うちの子供たちがミュージシャンでなくて、ホッ。半分、やっぱ、ガイキチ(きちがい)の世界だねえー。

## 五十代の生き様

---

2015.10.06 Tue

昨日まで多忙。予約投稿記事の在庫も期限切れで、今、パソコンを見たら更新途切れ。今日だけオフ。むらむらと執筆。急にマジ記事を書くのだ。

でね、「五十代の生き方」というタイトルにしようかな、とも思ったけれど、カテゴリーの名前だし、人生指南みたいな感じになるから止め。私の五十代の生き様がどうなのか私には皆自分からない。

でね、五十三の時に、二十四年間勤めた会社を自主退職した。フランスの定年は六十二歳に二年延びたから、後、九年を残して辞めた。某日系企業の営業統括というジャズメンとは懸け離れたタイトルだったのだ。これに苦しくなった。「趣味でピアノ」、このスタンスであれば、定年まで持ったであろう。でも、そうじゃないから「限界値」を超えた。以上。

会社を辞める前、「定年後は」、むふふ、ピアノピアノピアノでジャズオンリー。うで、ついでに、馬鹿小説書いて、未完の美術作品をちょぼちょぼと作って……。と思っていた。しかし、おっ、九年後によおー、「その元気」があんのかよおー、俺っ？

内のカミサン、ばらしちゃうけれど「ゲイジュツカ」でいらっしやる。「もう、私たちの芸術家生命も、後、十年ね」と、その頃、言っていたから、私も、やっ、やばいなあー、定年後、ピアノ三昧にするにはレベルがよおー、やばぐねえ？ 羽毛おー、次へ向かう、つまり、定年後のクリエイティブライフを送る最後のチャンスというかあー、最後通牒かよおー、この残りの九年がよっ！」

と、辞めたのだ。

正解だった。この退社後のレベルアップ、これが、私の余生のハッピービーちゃんの布石になっていることを確信した。

新しい仕事は、超絶的に順調、定年もない。ジャズで食えなければ、ずっと出来る。プロライセンスの重みは凄い。

おっ、高齢化社会へ向けて「裕イサオの生き様」は、一石を投じる？

おっ、来年辺りよ、日本ツアーすっかもしんねえーからよ、そんな時は、よろすぐな。

2015.10.09 Fri

私が仕事で乗っている車。メルセデスベンツ黒Sクラス、日本円換算で1300万円。私の自家用車というか娘の車を共有している。スズキスイフト黒DDIS。日本円換算中古車130万円。前者は年収30,000,000円ぐらいないと買えない。後者は300万円ぐらいだろう。色だけ同じである。

メルセデスベンツSクラス、異論はない。素晴らしい車だ。でも、私個人は、まったく欲しいと思わない。仮に年収30,000,000円でも欲しいとは思わない。お金持ちからすれば、世界の一流品を知らない戯けた一流貧ということになるかも知れない。まあ、一流品を知っている方がいいことはいい。あれ？ そういう意味では、毎日乗っているから、よく知っていることにはなるな。

因みに、私のホームクラブ「バビロ」はモンマルトルの丘の麓にあるのだけれど、ここにスズキスイフト、ベースのヨラムの車はなんと初代スイフト。オリビアはシトロエンC1フランスで一番小さい車の一台。そういえば、ベースのケント・カーター、おんぼろのフィアットのバンだったな。うーん、これは様になっている。今度試しに、ベンツで行ってみるか？ なんか、すべてのジャズの雰囲気、その一台で吹き飛んでしまう。

昔の会社の上司が、「君、おじさんの魅力は厚いお財布だよ」と言っていた。仮に、そのおじさんがベンツに乗っていると。スズキスイフトに乗った薄いお財布の裕センセとどちらがもてるか？ きっぱりと、裕センセの方なのだ。なんで？ ミュージシャンだからなのだ。本当にこの仕事は世界で一番もてる。

あれ？ どうしてベンツを欲しいと思わないか？ そう、運転していて全然楽しくないのだ。

なにもかもちゃちでシンプルなスイフトのハンドリング、ライトスポーツである。燃費も超絶的にいいし、なにしろこのフットワークが楽しいのだ。こういう車でフランスの田舎道。うっひよひよひよおーである。

車は運転して楽しい方が楽しい。あら、ダブっている。人生、生きてて楽しい方が楽しいのじゃないか。あ、この口調は久保の、あ、兄貴だ(返礼)。と、結局、お金は、あんまりないのだジャズメンには。

## ショートショート「午前1時18分」

---

2015.10.10 Sat

目覚時計が鳴らなかった。ふっと目を覚ました。時計の針は、午前3時。正確には、たぶん、えーとえーと、午前3時2分18秒ぐらいだったような・・・、早く、次を書けっ！ 描写長げえーって！

昨日というのか当日というのか社長との会話が脳裏を過る。夜霧よおー、夜霧よおー、バシッ！

「裕さんはね、僕が三十年間探し続けてきた、逸材、東洋の真珠、僕の顧客を引き継げる唯一の人、ハンサム、スマートな対応、楽しい会話・・・。やっと見つけたのだっ！ 裕さん階級っ！ なあーんちゃってえー。僕は群馬、群を抜く馬鹿ということなのだよ。はっはっはあー」。という真剣な会話があった。「でだ、明日というのか今晚というのか、朝早くて申し訳ないのだが、当社の三十年来の重要顧客の取締役が来る、わっ、これこそ、裕さんに対応願いたい。粗相があったら、当社なんぞ、吹っ飛んでしまうから、よろしく」。

AF293、羽田発。CDG2E到着時間午前4時30分。旅行関係者は皆知っている。新人が行かねばならないのだ。このフライト。ついでに、予定到着時刻より早く着くのである。一時間ぐらい。と、プロであれば、通常は午前3時には空港にいなければいけないフライトなのである。少なくとも3時半には・・・。私の家からの距離を考えれば、午前2時には起床していなければならない。

「ゲッ！ 寝坊っ！ やっ、やばあー、マイエアポートサイト、到着予定、午前4時14分。ふむ、セーフかな？ いやいや、フランジリアン環状線の工事による閉鎖、突然到着時刻が早まる。十分じゃん、早くせねば」。ここに関しては正夢。ついでに、社長の会話部分も、本当なのだ。なんちゅう会社なの？

「ゲッ、スラックスどこ？ おい、玉枝、起きろっ、ごめんな、やばいのだ。スラックス。えっ、そこ。ごめん、あった。ありゃ、右はいいけど、左、ジーンズ？ えっ、膝が抜けているから合体した？ おしゃれ？ やばぐね、その発想。おい、太郎、悪い悪い、父ちゃん、やばいわけ、着替えている間に・・・、ゲッ、なに、その地球儀みたいな髪型。それはいいけど、早く、サイト見てっ！ えっ、スマホの画面がトランプのカードになってる？ うな馬鹿なっ！ いいから、探してくれっ！ えっ、駄目？ トランプしか出てこない。やっ、やばいなあー、このズボンも相当やばいよなあー、おしゃれなジーンズというコンセプトなら分かるけれど、逆は超やばい気がする。遅刻よりはマッチモアベター・・・」。

と、冷や汗を流しながら起きたのが午前1時18分。十分に間に合う時刻。

で、当日。ジェームズの笑いを笑っていた裕センセ。社長、泣きながら、サン・マロから「ご苦労だった。完璧いーーーーっ！」と電話をくれた。

## ピアノパラドックス

---

2015.10.11 Sun

考えてみたら、私はどちらかという「無調性」が嫌いなような気がする。音楽のそれも含めて、人間関係でも「無調性」はあまり好きでないところか、元営業マンだから、マ逆。「他人との調性に奔走していた」ことになる。

そして、私の「この営業マン体質」を、沖至、佐藤真、両師匠に、それとなく指摘される。「コケットリーは止めろ」と。

うーーむ、孤高の音楽「フリージャズ」。そうだろう、音楽の名前に「フリー」が入っている。超絶的なジャンル名である。

この解釈が難しい。

しかし、である。前回のコンサートでの反省点がいくつかある。

私は謙虚とも違うのだけれど、私のユニット名を「裕イサオトリオ」とはしていない。もちろん、師匠の一人がメンバーの中にいる。それも、ある。しかし、バンドマスターはだれ？ この疑問は残る。しばしば、真師匠に、それとなく指摘される。こういう謙虚は、ミュージシャンの世界では、逆失礼にあたる。しかし……。うーーむ、こういう迷いがいかんのである。

そう、まず、「裕イサオトリオ」とするべきであろう。そして、その日のコンサートのコンセプトをバンドマスターとして、はっきりとしないといけない。営業マン時代、こういう迷い、同じ迷いがあった。

そう、たぶん、本邦初公開になるはずだ、来週の火曜日は。

一切のメロディー、調性を私は弾かない。そのための練習なんぞ、ない。といつつ、逆説的な方法が一つある。

私が自分で作ったメソッド「ドラゴンへの道」。音階は1 2。長調短調を入れると2 4。その各音階の私のメソッドパターンが5 0。掛け算すると、1, 2 0 0通りのコードパターン。これを欠伸びながら弾ける訓練を始めたのである。こういう訓練の果てに、とんでもない音が現れるのかも知れない。

だぁーら、ピアノも人生も同じ。そう、どンドン型の勉強をする、覚える、そして、ぶち切

れる。そこに、「あなた」という「固有名詞」が現れる。私はジェントルサディストなのだけれど、そう、自分に対してサデック。分かるかちら、こういうパラドックス？ あっ、「メビウス王 久保はつじ」という記事、下書き保存されているのだ。わっ！

## メビウスの輪「久保(はつじ)兄貴」

---

2015.10.13 Tue

三日前ぐらいに、私が敬愛するブロガー「久保(はつじ)兄貴頌」的記事を「酔った勢いで」書いた。読み返してみたら、全国に百万読者と言われる兄貴のブログを、私ごときがなんちゃらかんちゃら分析したところで、もう、うなもお——ん知っとるわいっ！ となってしまうので、今、削除した。そう、兄貴の脳構造はメビウスの輪、クラインの壺であるところが、圧倒的な面白さの源流なのだと言われ、ようやく、要約した。

私は世田谷の兄貴の家を訪問した。「久保はつじ」と書かれた表札の横の呼び鈴を鳴らした。中から兄貴の声。「おっ、裕ちゃん、入って入って」。私は引き戸を開けた。玄関に入ったつもりだったが、そこは庭であった。もう一度、庭側から引き戸を見ると、こちらにも「久保はつじ」という表札。

マルセル・デュシャンのニューヨークのアパートに、寝室の入り口が二つあったらしいけれど、扉が真ん中に一枚しかなかった。一つを閉めると、もう一つの寝室の扉は開いたままになるのである。本人はスペースの問題と素っ気ないが、意味深である。

私は近所の「久保医院」へ脳の調子を見てもらいに出向いた。医院の中に入ると、受付がある。その受付に白衣を着た男性。受付の前の椅子に座る。あれこれ質問。「ふむ、馬鹿に効く薬はないんだけど、そうだなあー、気休めにカバの骨のエキス、太平薬品コカババーナを処方致そう」と言われた。隣の薬局で薬をもらい二千三百円を支払う。その時、看護婦が「はあ——い、次の方あ——い」と、私に声を掛けたので、診療室と書かれた扉を開けた。中に入る。そこは出口だった。ということは受付の男性が久保先生だったの？

因みに、その医院の壁に飾ってあったもの。壁に足を付けた待合室用の椅子が三脚。ふう——む、作品と見るべきか？ それと、逆さになったミレーの落穂拾い。しかし、その逆さの複製に、「レミー、ちぼおろいひ」と書いてあったから、どうして、逆さと私が断定したのか、私自身にも曖昧である。

今を時めく現代美術家、裕伊茶夫の最新作。「移動美術館」が話題になっているらしい。マルセル・デュシャンは美術館にオブジェを持ち込み物議を醸した。裕は任意に選択された場所に巨大な白い箱、彼が「移動美術館」と呼ぶ箱を設置というのか被せてしまうのである。当然にして、美術館の内部には、そこに元々あったものが展示されている状態になる。任意に選ばれた場所であるから、場末の屋台のラーメン屋が美術館の中で営業しているという、やや、倒錯した事態も起こる。サラリーマンが美術館の中の屋台で上司の愚痴を零し、泥酔しているということもあるのだ。

## チョンボのマンボ

---

2015.10.20 Tue

「チョンボ1」会社の車をぶつける。ゆっくりとバックする。後方探知機が鳴らない。なんとなく、ワーゲンカラベルのバックドアがなにかにあたる。バンパーの後方探知機が感知しない上方に鉄の手摺。社長にお詫び、始末書メール。電話。「わっはははあー、裕さん、真面目な人だねえー、止まっている時にぶつけられたとか嘘付くやつばかりなんだよ、この業界。おまけに、自分で直しますとくるもんなあー、その人間性がいいねえー」と褒められた。

「チョンボ2」突然の寒波。疲れて帰宅。カミサンも娘も仕事で不在。セントラルヒーティングのスイッチを入れる。あっ、水道開けるの忘れたと思い、蛇口を捻る。さっ、風呂でも……。電気配線の漏電防止のため、電気メーターが突然オフ。あれ？ 半地下室に下りる。水浸し。疲労困憊しながら、水掻き一時間。カミサンへドチョンボをしたと話。「あっ、あなた、セントラルヒーティングでしょ？ えっ、蛇口を十分間開けっ放し？ 風呂に入ろうとした？ チョンボをしない理科系のあなたが？ 相当、疲れてんじゃないの？」「はい、ごめんなさい」。蛇口は水圧の調整用だから、調整が終わったら閉めるのである。

「チョンボ3」ドゥゴール空港敷地内の新しい巨大ショッピングセンター。一度、中華レストランへ行った。お客様到着前にゆっくりと食事の予定。車を止める。エレベーターで上がる。前回きた時、直ぐ右にあった中華レストランがない。入り口が違うらしい。センター内を探す。あまりに巨大。見付からない。フライト到着時間が少しずつ迫ってくる。諦める。エレベーターで下りる。入ったところと違うらしい。車が見当たらない。記憶を探る。B055だった。ない、その番号。車を探す。見当たらない。フライト到着時間が少しずつ迫ってくる。プロドライバーが自分の車をどこに止めたか分からない＝解雇である。これからナイトラン。200キロ先の町へ。冷や汗。一度センター内に戻り、彷徨った経路を逆に歩く。フライト到着時間……。ない。車が見付からない。パーキングの地図を凝視する。パーキングが1から5まである。すべて、巨大。どのパーキングか記憶にない。もう一度理科系脳で分析する。Bがあるのは幸いにして1と5。入り口近くだったから、1であろう。あった。フライト到着時間の十分前にターミナルへ。マックでマックチキンを大慌てで食べる。深夜十二時。ナイトランは終わる。ホテルのカウンターでビール。寝ることにする。空腹で眠れない内に朝。お客様をアポイント先へ。念入りに場所は調べてある。ナビもセットした。着く。倉庫らしきものはない。墓石屋だけ。墓穴を掘るとはこのことである。私は道に迷った。お客様が場所を知っている同僚に電話。十五分遅れで到着。重要な商談であれば、私は解雇であった。お客様へ丁寧にお詫び。「裕さん、真面目な方ですね。言い訳をしない真摯な態度に打たれました」「いくらプロでも社名の書いていない倉庫は見付けられないでしょう」。なぜか私の好感度が上がってしまった。

「チョンボのマンボ」風呂に入る。耳の中を洗ったのか記憶にないことが増えた。結局、毎々、

二度洗っているような気がする。先日、社長とオジギャグ合戦を携帯でしていた。「あれ？ もしもし・・・、裕さん」「あれえー、すいません、携帯、ホテルに忘れてきたかなあー」「エッエッエッ？」「背広の中も、助手席にもないんですよおー」「エッエッエッ、アル中ハイマーは俺だけで十分。裕さんまで・・・？ 俺もさ、眼鏡探すのに眼鏡掛けて、うで、眼鏡探したりすんだよ」「わっ、止めて下さいっ！ 社長、還暦過ぎてますからねえー」「他人事みたいに言ってるけど、今、俺と電話してんだよって！ 携帯、もつとるはずだろって！」「えっ、あっ、やっ、やばあー。はははははあー、冗談ですよ、さっきの・・・、はっはははははははあー」。結構、マジで脳内冷や汗。

どうも、裕センセ、お疲れのようで。大丈夫？ 今晚のコンサート？ あとは、へめらも。

## 裕イサオトリオ誕生

---

2015.10.21 Wed

私のユニットを「裕イサオトリオ」だと思っている方が大半だったはず。実際はそうではなかった。私は「そう」は呼んでいなかったのだ。しかし、昨晚のコンサートでなにかが吹っ切れた。そう、「裕イサオトリオ」の誕生。

バンドマスター、および、その日の演奏のコンセプトをだれが決めるのか？ 曖昧なのはいかなるのではないかと考え直した。昨晚は、きっぱりと私が決めた。オリビアと真師匠、「予めなんか決めるとこけるから、好きにやろうよ」との返事。「いや、今晚はね、久しぶりなんだけれど、沖(至)師匠の飴鞭で覚えてきたジャズメソッドを一切使わない。つまり、調性なし、メロディーなし、スタンダードもなし。空間とエモーションとスイング、以上で行く。たぶん、真師匠のドラムスが前面に出るはずなのだ」と私は言った。

なぜか、昨晚はプロの連中ばかりであった。なおさら、コケットリーはいらんのだ。

そして、演奏が始まった。三十五分。あまりに凝縮していたので、もう、これで止めと思ったのだけれど、お客様、「えっ、もう、終わり？」「おっし、じゃ、十分間追加」、結局、十五分。計五十分の演奏。

もう、明らかに、私、オリビア、真師匠が三位一体の合体ロボと化した。なんか、大リーグボール養成ギブスを皆外したという感じ。そう、私が皆にギブスを嵌めていたのだ。私自身が「それ」を外したから、伸び伸びと三位一体化したのである。そして、裕イサオトリオの誕生でもあった。

追記 現在、ビデオの編集中です。なんどでも聴けるハイパワーの無調性即興音楽になったと自負しています。近日中にアップ予定ですので、是非是非、ご視聴の程・・・。それと、さっき、誤って本文なしの記事をアップしてしまいました。パソコンチョンボのマンボでした。わっ。

## 新たなる出発

---

2015.10.21 Wed

なんか稚拙なタイトルにしてしまったけれど、私は上機嫌なのだ。いい年こいたおっさんであるわたくし。しかし、げっ、ミュージッちゃんであるから、もう、生きている間は前進系となる。

今、昨晚のコンサートを聴きながら、この記事を書き始めた。やはり、佐藤真師匠の超絶的なドラミングが前面に出ている。素晴らしいのだ。これに、オリビアが絡む。私は後方支援。

「無調性即興音楽」、別に私が発明したものではない。先人の歴史の積み重ねのひとつである。

どうして、私が上機嫌なのか？ 新しいものを作り出しているとは、もちろん、言わない。けれど、その積み重ねの「一枚」になるのか？ という大きな疑問がある。そして、今回は、なった、はずである。佐藤真師匠は、ずっと、それをしてきた人だ。私の名前を敢えて冠したユニット。師匠の歴史が羽ばたいている。これこそ、バンドマスターの仕事なのだ。そして、オリビアにとっては、新たなる出発になったはずだ。

即興音楽、インプロ、フリージャズ・・・？ なに、それ？ という方々が多いとは思う。しかし、我々の音楽をやはり聴いて欲しいと思う。我々は手弁当で、これを築き上げてきたし、現在進行中なのだ。訳が分からない分、どこかに「人間」の本質が現れていると考える。

## 練習という退屈

---

2015.10.23 Fri

まあ、人生自体が退屈という見方もある。それはさておき、ミュージシャンは当然にしてメイン楽器の練習はする。努力？ というかぁー・・・。

先日のコンサートを諸々、分析している。我々トリオの音楽のベクトルは決まった。「無調性即興音楽」。考えてみたら、元はといえば、私は「これ」しかできなかった。「これ」が逆にできなくなったわけは、テクニックの堆積とお客様へ聴かせようという思惑。たとえば、コンサート前に、ある程度のシナリオを考える。お客様の層を見る。シナリオを咄嗟に変える、などということをやっていた。

こういうことをしながら謙虚？ぶって、「裕イサオトリオ」とは名乗っていなかった。これは逆に諸々の弊害をもたらした。

名乗っていないのに「私の思惑が仲間の足枷になっていた」のである。逆に「私が前面に出ている」のだ。つまり、もう、鬱陶しいぐらいに「裕イサオトリオ」だったのである。

そして、その堆積したテクニックと思惑をすべて捨ててみたら・・・。実にすっきりとした三位一体と化した。だから、私は逆に「裕イサオトリオ」と名乗ることにした。バンドマスターの責任を理解したのだ。仲間に足枷手枷のエセ謙虚。そういうものはいらんのだ。「裕イサオ」が前面に出てこないから、「我々の音楽」になった。うーん、俺って、やっぱ、自我の塊なの？  
ちっとも悟らないのだ裕センセは。

そして、不思議ではないのだけれど、無駄な音が当然にしてなくなるのだ。

こういう音楽の練習法はないから、私は、その練習の本質、退屈そのものの繰り返しをやることにしたのだ。この退屈と練習の堆積が、なにか自分でも分からない新しい自分の可能性を開くことを私は良く知っている。と、若い人たちへのメッセージいーん！ なんちゅー、鬱陶しいことは、俺はしない。退屈の海で溺れちゃううーん、なァーんていう贅沢も現代はあるけれど、俺は耐えられんのだからして、延々と退屈な練習をするのだ。

## ハート(トに濁音なし)ボイルド「雨の中の一匹狼」

---

2015.10.24 Sat

「使用前」

コードネーム、イサオ。職業、スナイパー。32歳。身長182cm。体重80kg。

精悍な風貌のセクシーガイ。鋼のようなという陳腐描写そのものの筋肉。笑顔ひとつで女の子コロっ。

作者注 女は、もっとしたたか。

イサオは隠れ蓑として、パリでリムジーンドライバーをしている。先日、億万長者のパーティーへ億万長者の奥様をお送りした。バックミラーの中の奥様の目が、イサオの眉間の辺りをずっと追うように見ている。うっとりとしていたのだ。小雨の中、パーティー会場に着く。イサオはパリの道を熟知している。最短距離で到着する。奥様の目が「いやぁーん、もう、着いちゃったの、無粋ね、あなたっ！」という目付き。鋼のような肉体のイサオが素早く黒のベンツSから下りる。さっと、傘を差し出しながら、奥様の乗る方の扉を開ける。「奥様、ごゆっくり」。「あっ、ありがとお、あなた、夕食は？ 適当に？ 駄目よ、ちゃんと食べなきゃ！ 9時半ぐらいには出てくるわ、はい、これ、夕食代」。500ユーロ札である。「奥様、ありがとうございます。9時には車に戻って居ります」。奥様、何度も未練がましくイサオの方を振り返る。

「使用后」

コードネーム、伊茶夫。職業、フリージャズピアニスト。56歳。身長173cm。体重57kg。

昔、ハンサムだったような気もするようないような風貌。優しい感じは漂っている。ウインク一つで女の子コロっ、なぁーんてはならないけれど、ミュージシャンだから、口説く前にピアノで口説き捲くっている。あれっ？ つまり、もてもて。

伊茶夫は隠れ蓑としてパリでリムジーンドライバーをしているというか、結局、ピアノで十分稼げないから、そうになっている。

先日、億万長者の奥様をパーティー会場へ。

「運転手さん、寒いわねえー」「はい」「いきなりねえー」「そうですね」「参っちゃうわ」「はい」「あら、もう、着いちゃったの？ 化粧する時間もないわねえー」「申し訳ございません」「いいのよ、あぁーん、運転上手いし、よぉーく、道知っているから」「謝っていい

のか、ちょっと、詰まりますねえー」「あらっ、ああーた、面白いのね、本当は？」「奥様、うなこたあー、ないです、ごゆっくり」「夕飯は？」「えっ、博多ラーメンでも・・・」「はい、ラーメン代」。20ユーロ。「恐縮です。ありがとうございます」。

伊茶夫、どしゃぶりの雨の中、サッポロラーメン2へ向かう。スラックスがびしょびしょ。ほんの一瞬、56歳、家業を継がなかったこと、海外へ、美術家の活動を止めたこと、どしゃぶり、億万長者、パーティー、着飾った人たち、傘、ラーメン・・・。もし、俺が、親父の敷いたレールに乗っていれば、今、俺の車の後席に俺が座っていた、と思った。ほんの一瞬、マジで「みじめ」とも思ったけれど、翌日、そのイメージをピアノで弾いてみた。

わっ、これで、いいのだっ！ やはり、坂田明の名言。「勝負とは勝ち負けではない」。メビウスの輪。これこそ、究極っ！ と思うのである。

2015.10.26 Mon

ちょっと、仕事が暇になった。で、超簡単音楽教室ブログを「酔った勢いで」書くことにした。尻が滅裂にならないようにはする、つもり。

はい、「音楽で調性」と呼ばれるものは、音階の根音。ハ長調では、「ハ＝ド＝C」、根音のことを「ルート」と呼びます。このルート音の三和音をトニックコードと言います。そして、音楽の基礎、文章で言う「起承転結」をトニックコード、その次に、キラッとした三和音のサブドミナントコードが来ます。ハ長調では「ファ」の音です。その次に、やや、不安定なような感じのドミナントコード、「ソ」の四和音。G7と呼ばれます。こいつは、トニックへ戻ろうとする機能があります。人間の聴覚的心理上、なんか、元に戻る感じの音に聴こえるのです。まあ、「本妻」「浮気」「ごたごた」「本妻」、まるで、これだっ！ えっ？ 「ごたごた」の次のコードが「家庭崩壊」。これは、とりわけ、ジャズメンに非常に多いコード進行と申し上げる、けれど、あたしは、やっ、そういうのは・・・。

はい、音階は12あるのですが、長調と短調と各音階に二つあるので、計24になります。移動ド法というやり方で、ピアノを弾いてみるすることができます。ドの鍵盤の右斜め上の黒鍵をドとしてもいいのです。長調と短調は、それぞれの音の間の度数で決まります。白鍵盤のドとレの間は一度ですが、ここ、注意。ミとファの間は半音なのです。

では、ジャズメンがなにをしているのか？

ハ長調という「調性」の曲があるとします。起承転結はドファソドとなります。しかし、偏屈なジャズメンは、トニック、サブドミナント、ドミナントの代理コードを多用するため音が超複雑。しばしば、半音上の調性へ転調ということをやります。これを文章化してみます。

裕イサオ作曲「私の名前」

基本 私の名前は裕イサオです この調性をドと言うことに致します

編曲 俺 名前 裕イサオ 調性はドのまま

えっ、俺っ？ 名前はあーー、裕、裕イサオ このリズムをシンコペーションと言います プラス余計な文のことを装飾音と呼びます でね、俺、裕、イサオちゅーもんやあー、文句あんの？ と、装飾音を入れても調性であるドは変わっていません

しかし、この「本来の調性であるド＝社会人的人間関係」、これを無視してしまうと、どうなるのか？ 諸々のテクニックがあります。

テク1 根音をのべつ幕なし変える技法 全体的な調性は消滅 社会的には禁治産者 これに、長調短調代理コードを孔雀の羽のように入れると、もう、豪華絢爛禁治産者

テク2 トニック、サブドミナント、ドミナント、トニック、つまり、起承転結無視 私 裕 名前のタワシ コード進行無視すると意味不明になります 元の調整「私の名前」がどこどこ？  
しかし、まだ、各和音＝単語の意味はあります

テク3 あもり つまろ ややつ 単語自体の元の音 本来なら、ド、ファ、ソ これ自体が無意味 和音＝単語として、そもそも成り立っていない 元の調性も皆無

裕イサオトリオの演奏を以下文章化してみる。スイングスイング。

裕ピアノ まみむめもおーの ふんだりいーけったりいーのたくあん ばあーろおー せけんは なんせ べんとうおー

オリビアベース せれらごん けすくせって なんとるちいーやっやっやっ

真師匠ドラムス ばあーたれっ おれにソロさせんなあー 伊沙子っ、ほっ、行け行けっ オリビア わっ

と、こうなる。

2015.10.27 Tue

ピアノを階段に例えると、全部で八十八段。白と黒の階段が混ざっています。それぞれの階段と階段の間は、半音と呼ばれます。

八十八の階段の間は、すべて半音で等間隔です。通常、調性、たぶん、これを音階と言い換えてもいいのですが、スタート地点を決めます。仮に階段の真ん中のドをスタート地点とすると、まず、私とオリビアが並びます。ドラムスの真師匠には調性がないので、階段の外にて待機します。

で、ドから階段をどう上るのかによって、長調と単調が決定されます。でも、ジャズ屋はまぜこぜにしてしまう。そして、途中からスタート地点を一段上にしてしまったりする。これを転調と言います。

音楽の重要な要素の一つに、メロディーがありますが、これは、予め階段の上る位置を決めるということになります。しかし、基本的にフリージャズにはメロディーはありません。そして、スタート地点も決めない。そうすると、スタート地点=調性=音階も消滅してしまいます。もう、どこからどのように上っても構いませえーんという上り方。三人のハーモニーも消滅。

しかし、エモーション、パワー、シンコペーション、リズムと他にも音楽の要素は沢山あるので、諸々のものが三位一体となる。

ところで、私はフリージャズメンとすると、スタンダード、日本の童謡、メロディーラインのある曲をかなり弾く方。私が、これをすると、当然にしてオリビアのスタート地点も私が強制的に決めていることに結果なる。そして、イサオ節のリズムを真師匠のドラムスが追走するとなる。言い方を変えると私のピアノが階段の上り方を二人に設定していることになる。これは一つのやり方ではあるけれど、これをすべて取っ払うと、それぞれが主導権を握っている。とりわけ、元々、調性のないドラムスという楽器が前面に出てくる。

音楽の中心をリズムに置いた演奏とも言える。昔、営業マンの時に、ご主人がジャズピアノ、奥様クラシックピアノというお客様がいらしたのだけれど、奥様が「ピアノを打楽器のように弾く人、大嫌い」とおっしゃった。もちろん、私がピアノ弾きであることをご存じなく。私の脳内で、「えっえっえっ、それって、ずばり、俺じゃん」と思っていた。

猫とか犬が階段を上ると、少し、裕センスの上り方に似ているのではという説得力のある推論が

現れるけれど、なんのなんの、俺の方が上手いぜっ！ と勝手に断定するのである。出鱈目？  
そういうご意見もあるけれど……。野蛮人？ クロマニヨン？ まあ、そういうご意見も……。反社会人、禁治産者、きちがい……。はい、普通、階段は足で一步ずつ。でも、裕センセは寝転がったり、滑り台にしちゃったり……。スタート地点がないということはゴールもないということ。わっ、フリージャズメンってエンドレスっ！ 幸いにして、実生活でのゴールはあるから、うまあー、そこがゴールということになる。

沖師匠の言葉「なあ、イサオ、フリージャズなんちゅう暗い音楽さ、実生活がさ、明るくないとできねえーよなあー。(阿部)薫なんかさ、実生活まで暗いから、あーなっちゃったんだよ」。阿部薫、二十九歳の時に睡眠薬二十九錠を飲み事故(となっている)死。沖師匠がデビューさせたミュージシャンの一人。私の先輩にあたる。エンドレスの迷宮に疲れちゃったんだろうな、たぶん。エンドレス的過労にはお笑いが一番。

2015.10.28 Wed

「裕センセ、簡単に無調性即興音楽をする方法は？」

「そうねえー、ピアノに頭突きとか肘打ち、これでいいわ」

「あれっ？　なんでおねえー言葉なんですか？」

「あーた、性別には男と女とホモレズバイだけじゃないのよおー、両性具有という、もう少し高尚なジャンルもあるの。分かるかちら？　でね、今日のブログの調性をおねえーにしたのよ」

「両性具有？　バイじゃないんすか、それ？」

「ばあーたれっ、バイじゃないのよ。アンドロジヌスよ。そうねえー、ある意味、セックスレスなんじゃない、それって。あたいたちは動物なんだけれど、繁殖活動から離脱するとセックスレス、つまり、動物じゃなくなるのよ、理知の人になるのよおー、理知、お分かり？」

「立地条件のことすか？」

「あーた、あたいのインタビュー、百年早いわ」

「すっ、すいませんっ！」

「あーた、煙草止めたの？」

「えっ？」

「でね、あたいは既製品がだめなの、幼少期から。あと、ブランドも駄目ねえー。あら、やばいかしら、こういうことに触れて？」

「えっ、読者一桁ブログに炎上なんかないっすよ」

「あらっ、あーた、はっきり言うわねえー。じゃ、エンジョイね。つまりねえー、あたいは、政治宗教金融ルイビトン、こういうの駄目なの。だって、ブランドはあたしでしょ？　自己中、自意識過剰？　ばあーたれっ、そうじゃないのよ。自意識を通り過ぎたということなの。一種のアニズムみたいな感じい——、なのね。巨石にね、お祈りする感じね。あらっ、ピアノって墓石に似てないかしら？　あらもお——、やあ——ねえ——、あとし、毎日、墓石にお祈りしている訳？」

「裕センセ、生と性と聖と静と世と正と政と精と清の狭間に、死を内包していることが、その本質を際立たせるということなんじゃないですか？」

「げっ、いきなり、そういう凄いフレーズっ！」

## ベルサイユ宮殿とフランス革命

---

2015.10.30 Fri

なんか週末仕事をし、平日は暇というシフト。昨日、カミサンも休みななので、なんとなくお出掛け。

私の家からベルサイユまで、車で約五十分。ふむ、プティトリアノンとグラントリアノンとマリー・アントワネットの田舎屋。内部見学していないよな、となった。だば、ベルサイユのショッピングセンターをぶらつき、食事、見学すんべえー。

ベルサイユのショッピングセンター、私の家の近くのそれと中のお店はほとんど同じなのだけれど、内部がシック。うろついている人もシック。やはり、「高級住宅地」ベルサイユのそれっていう感じ。私の家の近くは庶民的な雰囲気だから、全然違う。

ベルサイユ宮殿近くのレストランは高いばかりで、どうせ美味しくないはずだから、ベルサイユの庶民的界隈のトルコ料理へ。上手かった。

さて、ベルサイユ宮殿の生活にお疲れだったマリー・アントワネットのなんちゅうの？ 自宅？  
みたいなプティトリアノン。住居とすれば立派ではあるけれど、宮殿本体と比べれば質素。寝室なんか結構狭い。窓からの景色は素晴らしいけれど……。それから、田舎屋。小さな村を人工的に作ってしまったわけだから、なんか一種のディズニーランド。余程、宮殿の生活にお疲れだった？

それから、グラントリアノン。こっちは、ベルサイユの迎賓館だったから壮大。

ベルサイユ宮殿、広大な庭、そして、今回訪ねたところ。それから、帰り道、ベルサイユへ水を運んでいたマルリーの機械の設置場所と水道橋。ルイ十四世、ルーブル宮殿があるのに、これを作らせて、同時にパリのアンバリッドも……。

一体、総経費はいくらだったのかしら？ 宮殿内部では、パーティーだの音楽会だのゲームと、楽しく盛り上がっていた。

宮殿の外では、擦り切れたモンペ、あわひえの生活。ジャズピアノだのコンサートだのブログなんかは、宮殿内の方ね。当時はなかったけれど……。

宮殿の前身の建設が1624年。全館の完成が1770年。そして、フランス革命が1789年。

明らかにベルサイユ宮殿が、フランス革命を導いたのだ。でも、その宮殿が、現在は庶民へ莫大なお金を運んできている。お金の水道橋みたいに。それからそれから、フランス革命の後、擦り切れたモンペ、あわひえを食べながらフリージャズ、コンサート、ブログを書いているおやじが出現したのだ。

## 文学賞選評を読んだ

---

2015.10.31 Sat

日本で、もっとも高名な文学賞の選評を三分の二ぐらい、昨晚、寝しなに読んだ。

十名ぐらいの高名な作家たちである。年齢が、まず、気になった。一番若い人が私と同じ年である。ふむ、と思う。名を成したベテラン勢の選評。これが、まず、違和感。

読み進む内に……。たとえなのだけれど、「具象絵画の選評」に似ている感じがした。たとえなんだけれど、筆遣い、色の配合、テーマ……。みたいな。現在、2015年である。この年号と、具象絵画の選評。超絶、違和感。いや、具象絵画「のみ」との選定ではない、から、余計に凄まじい違和感。

下読み部隊が三千作ぐらいの中から、六編を選んでいる。この最初のフィルターのクオリティーが疑問。三千作ぐらいの中の六編にも、先生方は疑問符、辛辣な批評。下読みのフィルターから漏れた作品を読んできたい気がしてしょうがないのだ。

ふむ、この乗りで賞を決めると、サドバドール・ダリになる、受賞は。以下、下読み段階で撥ねられる人たちを列記してみる。理由は書かない。

ヘンリ・ミラー 阿部薫 レイモン・ルッセル アルフレッド・ジャリ マルセル・デュシャン  
吉岡実 ジョン・ケージ 深沢七郎 沼正三 稲垣夕  
ルホ・・・・・・・・・・・・・・・・

久保はつじ 裕イサオ・・・・・・・・・・・・・・・・

レイモン・ケノーは、ドゥマゴ賞を受賞している。パリのカフェ、ドゥマゴに屯す文士たちが自分たちで作った賞である。これを、授与されている。賞は、自分で作っちゃった方が良いのである。

ところで、元現代美術家の目で文学賞の選評を読むと、先記の通り「具象絵画の選評」である。とっくの昔に美術史の中では終焉している概念。具象、抽象、コンセプチュアル、オブジェ、ビデオ、パフォーマンス……。ある意味、美術の世界は無形の哲学世界へ、ずっと前から突入している。のに、日本の高名な文学賞の選評が、このレベルでは、レイモン・ルッセルという天才は浮かばれない。それと、日本ではフリージャズ系の書き手が町田康以外に現れない。ヘンリ・ミラー、セリーヌ、ブイコフスキー、アンリ・ギベー……。うーん、閉塞しているなあー、日本文学。

私のお気に入りブロガーさんたちへ、こそ、私は文学賞をお送りしたいと、本当に思う。

良い物は自分で選ぶのがベストということだ。まあ、裕センセには、特別な賞を差し上げよう。  
哀川賞だっ！ 文句あんのかってっ！

2015.11.04 Wed

いやあー、忙しかったあー。アルコールゼロなんちゅうの三十年ぶり。睡眠、二時間半。眠い眠い。といつつ、這ってパソコンへ。その前に眠りながらピアノ。凄まじい演奏。確実に一流だった。眠り狂四郎じゃ。

でね、「白夜」というタイトルにして、本文なしとしようと思った。でも、こういう発想は出尽くしているから、止めたのだけれど、意外と、その発想自体を発想しない人の方が多い気がする。荷物の発送だけ。確実にご存知どころか、凄まじい発想をする師匠は、支障がなければ久保の兄貴である。おっ、つぶらの背中に巨大飲み、間違えた、蚤。はい、あれは、裕イサオでした。私は返信変心変身が出来るのです。昔、仮面ライダーもやってみました。嘘。「仮面の告白」じゃなくて、仮面ライダーが泣きながら、その仕事の辛さを語るのが「それ」で、たぶん、三島由紀夫を超えるはずである。

でね、この愚記事のカテを「文学」とした訳は、先日の記事にある。「日本ではフリージャズ系の書き手が町田康しかいない」と書いたからである。ちょっと、待ちいー。彼はパンク歌手だ。俺はフリージャズ。この胡散臭い感じはそっくりだし、かれより、2mmぐらい、俺の方がハンサム。

うだば、フリージャズ作家のサッカー選手と日本で閉塞する「小説蚊」へ向けてのメッセージとしようと思うのだ。この糸のほぐれは、久保の兄貴しか知らない。

思い知るのだった、読者諸氏。フリージャズライティングの凄みをっ！

あれっ、あっ、そうそう、うちの娘も息子もよく寝る。若い人はよく寝る。当然にして数学上は棺桶が遠いからである。で、じっちゃんばーちゃんは逆に寝ない。残り時間がねえーから。でね、俺、逆なのだ。昔は寝ないで美術作品を作っていた。じっちゃんになったら、眠いのである。

分析してみる。通常の数式では・・・

若い＝棺桶が遠い＝ぐっすり

じっちゃん＝棺桶が近い＝寝ない

という訳ではないのは医学的には知っているけれど、その、詩的なのかは知らんけれど、たとえ、ね。

生の最中の人たちはよく眠り、そうではない人は眠らなくなる。パラドックス人間もいるのだ。生き急いでいる人は眠らない。死に急いでいる人はよく眠る。そして、後者は死の恐怖から解放されている。作者注 パラドックスはさらに逆です。

俺もよおー、後者だから、睡眠二時間半は止めてっ！

おっ、誤解？ 俺は、別に急いではないわけ。「その恐怖」がなくなった。楽チンだ。

あれっ、読み返すと、逆のことをいいたかったような気もする。でも、ヘンリ・ミラーが「北回帰線」を書いている最中の名言。

「俺は、一切、俺の書いたものを推敲しない」

これぐらいの気骨はいる「文学」と名乗るには、な。どうも、私は「作法」というものに怒りを感じる系、なのである。むちゃくちゃ、そうじゃないと、若い人たちは、どうすればいいわけ？  
二十歳で余生だよ、よせいやいっ！

2015.11.05 Thu

昨晩は熟睡。十時間寝た。明朝は午前五時起きで帰宅が、たぶん、午前一時というハードな日だから、眠れる時に寝ておかないと・・・で、昨日の夕方一時間半ぐらいピアノを弾いた。超絶眠い。ビール、ワインと飲みながら。こういう雑念ゼロ次元で演奏すると、自分でも仰け反るような凄いものになる。裕イサオなんちゅう固有名詞が吹っ飛び、指さんたちが久しぶりに野に放たれた子犬君状態。この子犬君たちの元気に飼い主が仰け反るのである。とはいえ、眠り狂四郎も、日頃の切磋琢磨君がないとでけんから、アホのように練習をする以外に方途はないのだ。

私の父方のおじいちゃんは八十六歳で亡くなった。あれっ？ 私の現在の年齢を一すると三十年。ふーん、もし、私とその年齢まで生存すると、「残り時間」が三十年。「しかない」と思うのか「げっ、なっ、なげえー」と思うのか？ 五十六歳で上昇は、まっ、医学的にはない。衰退のみ。まっ、気持ちは上昇していてもいいけれど、肉体は、仮にそうでも反比例。

最近、カミサンとお墓の話をよくする。どこ、どういう・・・という基本的な疑問が沸いて来る。で、私、カミサン、意見が一致している。場所、それとバン・ゴッホみたいな超シンプル。で、私は、「もう、購入していつでも入れるようにしておこう」と思っているのだけれど、カミサンが六十五歳の時にしようという。うーん、私的には、今から、自分の墓参りをしたいのだけれど・・・。花飾って。隣の人がね、「ご親族の方ですか？ このお墓？」「えっ、あっ、これ？ 俺の」なあーんて素敵っ！ いつでもね、ムーミンじゃね、ユーミンじゃね、永眠できる。こういうの逆パワー現象が起きるから、なんのなんのおー、まだまだ、ピアノのレベルがあー、などと、がんばっちゃったりするのだ。それとね、自分のお墓見て、「いい奴だったよなあー、彼は」なんて感慨に耽る。素敵いーん！

その「ガッツリ」(コピーライト、サクライ君)生きようなあーんていう気はない。ぶっちゃけ、クリエイション脳は終焉している。芸術家生命は終わっている。「元」そうだったとなっている。二十代後半の自分の写真を先日見た。美術作品の大作「不燃性の木」を作っている頃の。目付きが「狼目」。現在は「兎目」または「好々爺目」。だめだあーこりゃ、と本当に思った。いいのだよ、重力には逆らわない方針なのだ。このフレーズのコピーライトは蝶姉さん。

まっ、仮に三十年間あるとする。健康体だったとする。なにをやるのか？ 無理も上昇もしない。いつバツッと途切れてもいい。はい、その一。ピアノのレベルアップ。三流と二流の間ぐらいだから、これは十分に可能だし、未知数も相当ある。ふーん、小説第十一作目の執筆。近頃、「フリージャズ流北回歸線みたいな訳の分からない小説のような詩のようなエッセイのようなもの」を書いてみたい気がしているのだ。おっ、もしかすると「このブログ自体がそれ」なのかも知れない気もする。それと、未完の美術作品の制作。新作はもう脳が駄目に

なっているから、未完の作品の制作。絶頂期の設計図郡が保管されているのだ。それとおー、ミニ私設文化センターを作りたいしいー、自宅に音楽スタジオ作りたいしいー……。わっ、三十年じゃ、足りねえーっ！

しゃーわせ(コピーライト、久保の兄貴)なおやじだねえー、裕ちゃんは。貧乏暇なしの王道と呼んでくれたまえっ！

2015.11.06 Fri

えー、この度、パリの郊外在住の大変著名な無名ピアニスト、裕イサオ氏が審査員長を務める日本ブログ村エッセイ部門のブロガーさんたちへ、というか、彼のお気に入りブロガーさんたちへ、ブログ賞を……。独断ではございますが、偏見はない。私は、こう見えても、ブランドは私だというぐらいだから、「見る目の感度と精度はアインシュタイン」と申し上げておく。と、裕センセはきっぱりとおっしゃっておられるのである。

「メビウス賞」久保はつじ氏

えー、日本国百七十万の読者諸氏に異論はないであろう。この突出した才能、日本国を代表するブロガーであることを、わたくしは信じてやまないのである。久保はつじ氏に、まず、巨大将棋をお送り致す。駒一つの重量が23キロ。将棋と筋トレが同時にできるから、ブロぐる時間の確保が容易になる。それから、すでにパリ市長の承諾は得ておるのだが、バンドーム広場のナポレオンの銅像を久保氏のそれと取り替えることになった。それから、粗品ではあるが、飲み助蚤人形を差し上げる。それと、クラインの久保という壺。ねえ、裕ちゃん、これってさあー、いくらクライン？ これクライン。という高尚な会話が推察できるのだ。

「エッセスト賞」蝶姉さん

老いを見詰める鋭い記事郡を君たちは読みたまえ。うーーんと毎々うなっておる、あたしゃー。うーーん、あたしの世代って、脳と肉体のバランスが医学的におかしくなっているから、その狭間で揺れる蝶ブログが誕生するのである。姉さんへは、自己プログラミングできる姉さんそっくりのロボットを謹んで進呈、ありゃ、謹呈って一語と一緒じゃん。でだ、このロボットは、整理とか孫守りとかプログラミングすると、全部、やってくれるから、ブログ三昧の時間ができる、はずだ。

「素敵な詩的賞」サクライ君

この日常を、キラリと非日常に代えてしまう魔術師サクライ君。ニュートラルな詩人目線にわたくしは癒されるのだ。毒々しい感じのわたくしには、その毒素を清涼水に代えてくれるのである。サクライ君へは7ヘクタールのバルコニーを進呈致す。鉢の渦に巻かれてジャングル大帝になっても、わしゃ、知らん。ただ、問題は、お宅の建物から、建物よりでかいバルコニーが横にバァーーンと出ているから、金魚迷惑ではあるが、まっ、サクライ君次第だ。

「スイスイユーモア賞」系姉さん

まず、目、お大事に。早期の復帰を指折り数えて待っておる。指、本当に折っちゃったらピアノは弾けないから暗喩、比喩、寓話？ なんていうのでしたっけ？ 系姉さんへは、翡翠の指輪を進呈致す。どうして？ あのおー、姉さん、これ、翡翠っす。それと、マッターホーンの実物大

の書割。自宅の正面に飾って頂くと、待ったなしのマッターホーン。なんか、羽振りがいいでしょ。それと、タゲールが発明した初めてのカメラ。姉さんなら、絶対に凄い写真撮るよ。

「お茶山龍之介べい賞」裕イサオ氏

えー、審査員長と致しまして、えー、あたしだけ、なんもないのも切ないから、勝手も知らずに勝手に付けました。あんたの勝手っ！

## デュシャンの子供たち

---

2015.11.07 Sat

昨日、私がドライバーとしてハードな一日を送っている時、フランスで唯一のフリースジャズのプロデューサーのジュリアンが、10月20日の我々のコンサートの彼自身の録音を送ってきてくれた。色々と音のバランスを調整後だから、そのままCD化できる。オリビアのベースが凄い。ベースは現場ではよく聴こえているけれど、録音すると逆になる。さすがプロの録音である。バランス調整が完璧だ。

「デュシャンの子供たち」と呼ばれる一群の芸術家たちがいる。ティンゲリーとかアンディー・ウォホールとか……。とはいえ、デュシャン自身のインタビューを私なりに要約してしまうと、「私が彼らの原基と呼ばれることは光栄ですが、私がやってきたことと彼らがやっていることはまったく違う。私は、芸術でお金を儲けようとは考えていなかったし、大量の作品を作ることも慎重に避けてきました。第一、私は公に芸術家だったことは一度もないのです」。

マルセル・デュシャン ピカソと同じ時代を生きてきた。二十世紀の美術史を根底から変えた人物。しかし、彼の生き方のせいなのだろう、相変わらず、「美術史を変えた最も著名な無名芸術家」である。この歴史のスタンスは素晴らしい。というか、もう少し、美術の歴史を我々は知るべき、とまでは言わないけれど……。ルーブル、オルセー、素晴らしい。しかし、なぜにポンピドゥーへ行かない？ 二十世紀の傑作が、これほど多いところはないのだ。私のパリの中心は、ポンピドゥーセンターなのだ。印象派でストップでは美術は語れない。

デュシャンの最もすぐれた作品は、「その人生の時間の使い方」とインサイダーでは有名な話がある。

作品の制作放棄 三十三歳

ニューヨークで図書館勤務 フランス語の先生

チェス三昧の日々を送る フランスのチャンピオンにまでなっている

六十歳と推測される 秘密のアトリエで、密かに作品が作り始められた

八十一歳 友人との昼食後、自宅で倒れ、そのまま亡くなった

彼には、ピカソのようなガツガツ感がまるでない。そして、ピカソが二十世紀の天才と呼ばれている。

本当の美術史は、そうではないのである。五十六歳になった一人のデュシャンの子供たちがいる。たぶん、彼のコンセプトを一番理解している、もしかすると、唯一に近い男なのかも知れない。チェスがピアノに変わった。それだけだ。彼の真意と自負は、たぶん、この初志貫徹の力から

くる。そういう意味で、彼は、芸術家と呼ばれてもいいのかも知れない。

## 「ノベンバー・ステップス」返礼に代えて

---

2015.11.08 Sun

このタイトル、括弧付けにしたのは、武満徹の代表作の名前であるから。でね、この記事の原案をピアノを弾きながら色々考えた。

「ようこそ、ヨジレマイオス国へ」、それから、「吸血鬼ブロガー、裕伊沙子」、それから、「11月の春」。1 フリージャズ文体 2 お笑いおねえー文体 3 しっとり、純文学。で、すべて、脳内で却下したのだ。

うん、あのね、その、ですね、ファン心理というのかしら？ 心の内奥で、お気に入りブロガーさんたちを、裕イサオ、ヨジレマイオス国へ巻き添えにしちゃいかん、という年相応の分別がある。でも、そこがファン心理なのだ。やっぱ、お気に入りについてはお話をしたくなる。

なんで、吸血鬼？ おっほほほほおー、そっ、良質なブログの血を吸って、おっほほほほほおー、あたいのブログの肥やしにしているのだわ。血を吸われた方はどうなるの？ おっほほほほほおー、いいのよ、他人なんてえー、あたいだけ若蛙。自己中も極めると哲学になるのよおー、おっほほほほおー。

私は、肩幅の広い息子の後姿を見ながら枯葉の中を歩いていた。その横に、息子と腕を組んで歩く私の家内がいた。私は、その恋人のような、二人の後姿を見ながら、いいもおー、僕には、ブッ、ブログ仲間がいるもおー、と呟いていた。

ブログ、これは、とても面白い媒体である。その書き手の人となり、これほど、見事に出るものはないとも思うのである。妬み、炎上、中傷、悪口、どこに行った、なにを食べた……。この℃素人集団の渦の中で、芸能人のそれなんか、酷い。宣伝宣伝、以上。異常である。物を書くことは、自分、他人、自分の人生、所在地の確認という磁石機能がある。

私は、ブロガークオリティーの目利きと自認してしまいたい。記事の後ろ側の人生と人の厚み。これが受賞ポイントと謹んで申し上げる。

わっ、すいませんえー、巻き添えっ！ もう、しませえー、と、いいつつ、する。だって、俺の名前は、牧ゾエ。

兄貴 筋色の将棋 蝶姉さん 自己プログラミングロボ 朱実ちゃん サクライ君 7ヘクタールバルコニー

系姉さんは、目の手術でブログ読んでないけど、マッターホーンの実物大書割り

さっき、送った。えっ、兄貴、銅像はいらない？ 駄目駄目っ、はい、どうぞっ！  
オジーギャグる。

皆さん、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

2015.11.10 Tue

私は以前にも書いたけれど、私のブログからは想像し難いとは思うのだけれど、慢性的鬱の傾向がある。根暗なのかも知れない。だからこそ、パラドックスパワーで元気にブログを書き、ピアノを弾く。とはいえ、枯葉を踏みしめながら11月の、変な単語だけれど、暖秋の日差しの中を歩いていると、砂嵐のような寂寥感にしばしば襲われる。

会社を辞したこと。つまり、社会的な地位、安定した生活を自分で放棄したこと。それによる「老後の不安」のようなもの。自意識、自尊心の在り処が、すべてピアノに集約してしまったこと。体力の衰え、目力の衰え、負けん気の衰え……。諸々の志が砂上の楼閣、蟻地獄の中へ。

そして、すべての存在がピアノに集約している、集約させたのに、相変わらず「売れないジャズピアニスト」のままである。

先日、志村けんさんの番組をユーチューブで見えていたら、三十代半ばの中堅コンビが出ていた。ネタを書いていない方の言い分が実に面白かった。「僕ら、今年で十五年目なんですよ。二人とも三十五歳。十五年やって冠番組一つ持っていない。相変わらずライブで地方巡業の毎日。こういう芸人が五十になった時に、声を掛けてくれるテレビ局は、間違いなく皆無だと思います。志村さんとかたけしさんとか、ほんの一握りの人しか生き残れない。そして、残った人たちは、僕らの年ぐらいの時には大ブレイクしている。今、僕は株の勉強を始めたのですよ」。相方が本気で怒っていた。「おまえ一、ネタ書いている俺の身にもなってみろよお一、寂しいこといなよお一、だから、もっと、がんばろうよお一。ふざけんじゃねえ一、お前、番組終わったらマジ、ぶんなぐったるっ！」「がんばります？ 俺は我々の現実を客観的に見ているだけだ」「もう、止めろっ、収録中に、そんな話は止めろっ！」。

延々とブレイクしない芸人。挫けて別の仕事に就く者。大ブレイクの後、消えて行く芸人たち。唯一の番組は「あの人は今」である。この心境は、私にとっては当然にして他人事ではない。

でも……。詩人たちのことを考える。誰一人、ブレイクなんかしない。ベストセラーなんていうものにも無縁である。でも、彼らは書くことを止めない。いや、ランボーのように見切りを付ける者も稀にいる。考えてみたら、私が美術に見切りを付けたこともランボーと同じレベルであったとは言わないけれど、一つの共通項ではある。もしかすると、その理由も同質のものだったのかも知れない。一つの頂点に達したという実感が私の中にあった。究めた後の繰り返し、「宴の後」のような作品制作に耐えられなかったし、意味があるとは思えなかったからである。

筑摩書房に勤務しながら、暗黒詩を書き続けた吉岡実のことを考えるし、七十代で「エロ爺さん

」として変なブレイクをした金子光晴のことを考えたりもする。

「フリージャズ」が「芸能(テレビ的な)」なのか良く分からない。「芸術」なの？ 良く分からない。前者であれば「売れない」のは拙い。後者であれば、売れようが売れまいが頂点を極めるまで続けるしか方途がない。私のピアノのレベルは頂点へはほど遠い。カフカの城に迷い込んだのと同じである。でも、そもそも、フリージャズでブレイクする、七十年代以降は前例がない。全員売れないことをやっている。

そうになると、詩人たちとまったく一緒にインサイダーの評価しかなくなる。でも、この閉塞感に違和感を覚える。たとえば、私とてインサイダーの間では名前を知られている。しかし、インサイドの目しかないという違和感。その閉塞感を溶解させるために、私はブログを書いているのでは、とも、思う。もっと、多くの人へフリージャズというこの究極的非商業音楽を聴いて欲しいと切に願う。私および仲間たちのためにも。もう少し、アウトサイドへ拡散した方がいいと思うのだ。なんなら、お笑いトークショウの合間に演奏、お笑いフリージャズの立ち上げ、結構、私は真面目にこれを考えている。吉幾三のフリージャズ版？

2015.11.11 Wed

今年のフランスは、実にお天気がいい。十一月だというのに快晴の暖かい日が続いている。

先日、ディナートランスファーというサービスをしたのだけれど、待機中、午後九時。車内の温度計の表示が、なんと二十四度。もちろん、外気温度である。十一月のパリである。異常な温度。

暖秋、こんな単語あるのかしら？ 新しい仕事も順調。裕イサオトリオの方向性もクリアーと何一つ悩みや迷いが無い。のに、である。なんだか知らないけれど、鬱君が楽屋で登場の機会を伺っている気配を感じる。そういやあー、もう、随分、登場していない。どうしてなのか？ 自己診察を試してみる。

私は、社会的な地位とか財力とか、そういうものを得た人たちへの憧れも嫉妬もまったくない。取り立てて、お付き合いをしたい気もなければ、避ける気持ちもない。とはいえ、フリージャズメンがそういうハイソの人々にお会いする機会は、実際にはあまりない。でも、私は要人専用ドライバーという仕事に就いたから、当然にして車の後席に乗っている方々は、普段、お付き合いの機会がない人々である。これは別に構わないけれど、否応なしに、そのコントラストが鮮明になる。貧乏、社会的地位ゼロ・・・。

高級レストラン。私の乗るベントゥSクラス。私は高級レストランの裏側の薄暗い小道で待機する。どうせ、ゆっくりと食事を摂れないのであればお弁当にしようと思い、自分で鰯フライ弁当を作った。鰯フライ、ご飯、海苔、梅干。この自己愛弁当は実に美味かった。ベントゥの中で鰯弁当・・・。一瞬、この私の姿をドキュメンタリーとして撮影したら・・・、と思った。NHK人間シ

リーズ？ なんでもいいのだけれど、これを映像で見たら、なんか、哀愁とかみじめとか、そんな感じになっちゃうの？ と脳内にてやや寂寥感。

こういう時、人間もターミネーターも自己修復をしようとする。僕はねえー、こう見えても、元某日系企業の偉いさんだったのだぞっ！ 自主退職している私とすると、なんか自負の支えには弱い。僕はねえー、こう見えてもジャズピアニストなのだっ！ でもなあー、レベルがねえー。やっ、やばいっ！ こうなると自己修復ができないし、ピアノは私だっ、とまで言っているから辻褄が合わないし、第一、そのピアノのために、結果、こうなっているから、ますます、論理矛盾である。

楽屋の鬱君が、おっおっ、出番かしらあーと盛り上がっている気配。

なんのなんのと、先日のコンサートのプロの録音の方をヘッドホーン、大音量で全編聴いちまったっ！

腰が抜け、目が垂れ、鼻水を流しながらも、至福の表情で眠りに付く裕センセがいた。フランス唯一のフリージャズプロデューサーのジュリアンと同席していたオーストリアの高名なサクソ奏者。この二人に、コンサート終了後、絶賛されたことを思い出した。サクソ奏者からは共演の申し出まで受けた。なんか、完全燃焼後だから、こちらは上の空。後で聴き返してみたら、自分でぶち飛んだのである。もしかして、一流に迫っているの、俺？ なあ———んて思ったから、いいのだ、これで。と自己修復は無事に終了。鬱君、じゃ、また。出番ねえーよって。

## 土の道

---

2015.11.12 Thu

私の住まいは、パリから北西に三十五キロ。ピサロが住んでいた町である。

私の住まいのある通りは、この人口三万人の小さな町の富裕層が住んでいる通りである。その中の、私は浮遊層なのだ。

昔の絵葉書。1900年初頭なのだろう、私の住む通りの写真がある。左右の家は同じだ。その真ん中の道が土のそれだ。

三ヶ月前ぐらいから、大規模な配水管工事をしている。最後の仕上げなのだろう。昨日、すべてのアスファルトが削られた。

土の道が、突然、出現したのである。

隣人達が写真を撮っていた。「ピサロの世界に戻ったね」「我々が子供の頃は、道って土だったね」「懐かしい風景だね、土の道、車のない通り」・・・。

私には、初心とか初期化とか、なんか、その風景が、そんな風に見えた。迷いはいない、とも、思った。